

2026年度

シラバス

看護学研究科

[博士前期課程]

- ・ 研究者養成コース
- ・ 高度実践者養成コース（助産学領域）
- ・ 高度実践者養成コース（診療看護師（NP）
プライマリ・ケア領域）

[博士後期課程]



島根県立大学
出雲キャンパス

目 次

学年暦

I. 学年別スケジュール

博士前期課程

1. 1年次生	1
2. 2年次生	2

博士後期課程

3. 1年次生	3
4. 2年次生	5
5. 3年次生	7

II. 開講授業科目・修了要件

博士前期課程	9
1. 研究者養成コース	9
2. 高度実践者養成コース 助産学領域	10
3. 高度実践者養成コース 診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域	11
博士後期課程	12

III. 授業科目の概要・シラバス

博士前期課程	13
1. 研究者養成コース	13
2. 高度実践者養成コース 助産学領域	35
3. 高度実践者養成コース 診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域	61
博士後期課程	91

IV. 教職員名簿

V. オフィスアワー

VI. フィールドワークの手引き	109
------------------------	-----

10月	28						1				3		4
	5						8	善学期前編指示 不備申し立:10月1日~10月7日 研究科委員会			10	合同検討会	11
	12						15				17		18
	19						22	■研究計画審査④ AM委員会			24		25
	26						29	☆準備審査AM委員会			31		1
11月	2						5				7		8
	9						12				14	合同検討会	15
	16						19				21		22
	23						26	研究科委員会(臨時) 11:00 入試合否判定			28		29
12月	30						3	研究科委員会			5		6
	7						10				12	合同検討会	13
	14						17	■研究計画審査⑤ AM委員会			19		20
	21						24	☆本審査AM委員会			26		27
1月	28						31				2		3
	4						7				9		10
	11						14	OM論文公開発表会 AM			16		17
	18						21	OM論文最終審査AM審査委員会			23		24
	25						28	☆論文最終審査AM公開発表会			30		31
2月	1						4	研究科委員会(入試合否判定、秋修了判定)			6		7
	8						11				13	合同検討会	14
	15						18	■研究計画審査⑥ AM委員会			20		21
	22						25			27		28	
	1						4			5		6	7
3月	8						11				13	合同検討会	14
	15						18				20		21
	22						25			26		27	28
	1						4			5		6	7
	8						11				13	合同検討会	14
	15						18				20		21
	22						25			26		27	28
	29						31						

※ 全ての提出べ切時刻は原則として12:00とする。

I. 学年別スケジュール

2026年度 看護学研究科博士前期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)

M1用

月 日	曜日	事項		研究指導内容と各種提出書類	備考
		研究者養成コース	高度実践者養成コース		
4	土	入学式 オリエンテーション、交流会、履修登録		履修登録 研究テーマ届(様式第M2号)、指導 教員希望届(様式第M1号) 提出締 切	指導教員と相談して学務課まで提出 すること
4	7	春学期授業開始			
	10	特別研究 合同検討会① (M2:研究計画、研究経過)		M2の発表を聴講し、研究の進め方 をイメージする	
	15	健康診断			職場で受けている者はその提出に代 えてよい
6	12	特別研究 合同検討会② (M2:研究計画、研究経過)		M2の発表を聴講し、研究の進め方 をイメージする	
	13・14	土日 つわぶき祭			
6	月	研究倫理審査についてオリエンテーション		オリエンテーション受講後、早めに eAPRIN受講	詳細は別途連絡
7	18	土 (仮)地元創成看護学特論 I フィールド学習 事前学習			
	22	水 博士論文公開発表会(春学期修了生)		D3の博士論文公開発表聴講	M1・D1・D2はD3の発表会の補助。 受付、マイク、タイムキーパーなど役割 分担し担当する。 担当教員に参加した感想を報告す る。
8	2・3	日月 (仮)地元創成看護学特論 I フィールド学習		フィールド学習のテーマに沿って計 画を立案・実施し、課題解決に向けた 提案をまとめ、レポート提出する。	フィールドワークに出かけ、レポート を提出する
	5	水 修士論文公開発表会(春学期修了生)		M2の修士論文公開発表聴講	M1・D1・D2はM2の発表会の補助。 受付、マイク、タイムキーパーなど役割 分担し担当する。 担当教員に参加した感想を報告す る。
	16	日 地元創成看護学特論 I フィールド学習 まとめ			
	29	土 大学院看護学研究科A日程入試			入館制限の可能性あり
9	24	木 学位授与式(春学期修了生)			
	30	水 春学期成績開示			
10	1	木 秋学期授業開始 春学期成績不服申し立て～10月7日まで			
	9	金 特別研究 合同検討会③ (M1:研究計画、M2:経過報告)		M1は、研究計画について発表し、他 領域の学生・教員と意見交換する M2の研究経過報告を聴講し、研究 の進め方をイメージする	
11	21	土 大学院看護学研究科B日程入試			入館制限の可能性あり
12	11	金 特別研究 合同検討会④(M1:研究計画)		両コースのM1は研究計画について 発表し、他領域の学生・教員と意見交 換する	
1	13	水 修士論文公開発表会		M2の修士論文公開発表聴講	M1・D1・D2はM2の発表会の補助。 受付、マイク、タイムキーパーなど役割 分担し担当する。 担当教員に参加した感想を報告す る。
	26	火 学位論文題目届(仮) 提出締切		特別研究 I で取り組んできた研究計 画書作成を踏まえて、学位論文題目 届(仮)を(様式第M3号)を提出する 高度実践者養成コースの学生も学位 論文題目届(仮)を(様式第M3号)を 提出する	
	27	水 博士論文公開発表会		D3の博士論文公開発表聴講	M1・D1・D2はM2の発表会の補助。 受付、マイク、タイムキーパーなど役割 分担し担当する。 担当教員に参加した感想を報告す る。
	30	土 大学院看護学研究科C日程入試			入館制限の可能性あり
2	12	金 特別研究 合同検討会⑤ (M1:研究計画)		両コースのM1は研究計画について 発表し、他領域の学生・教員と意見交 換する	
3	11	木 学位授与式			学位授与式

※各種提出物の学務課への提出時刻は、原則として12:00とします。

2026年度 看護学研究科博士前期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)

M2用

月	日	曜日	事項		研究指導内容と各種提出書類	備考
			研究者養成コース	高度実践者養成コース		
1	4	水	秋学期成績開示 秋学期成績不服申し立て～4月4日まで			
4	7	土	入学式・履修登録(変更時のみ)		履修登録の確認メールが学務課より届く(3月中旬～下旬)。入学時の履修計画から変更がある場合には、指導教員と相談の上、4/4までにメールを返信すること	
	10	火	春学期授業開始			
	13	金	特別研究 合同検討会① (M2:研究計画、研究経過)			
	15	水	健康診断			
5	12	火	●論文題目届(本)(春学期修了生)			12:00厳守
6	12	金	特別研究 合同検討会②(M2:研究計画、研究経過)			
	13・14	土日	つわぶき祭			
7	14	火	●論文審査願(春学期修了生)		【提出書類】 ①学位論文審査申請書1部(様式第M4号) ②修士・課題論文3部(フラットファイルに綴じてファイル表紙に学籍番号、氏名を記入) ③論文表紙及び要旨データ(PDFをメール送付) ④学位論文題目届(本)(様式第M3号)	12:00厳守
	22	水	博士論文公開発表会(春学期修了生)		D3の博士論文公開発表聴講	
8	5	水	●修士(課題)論文公開発表会(春学期修了生)		配布資料、発表原稿など担当教員の指示に従い準備する	
	19	水	●修士(課題)論文最終試験			詳細は別途連絡
	25	火	●修士(課題)論文最終論文提出		【提出書類】 ①最終修士(課題)論文3部(フラットファイルに綴じてファイル表紙に学籍番号、氏名を記入)	12:00厳守
	29	土	大学院看護学研究科A日程入試			入館制限の可能性あり
	31	月	●修了判定			
9	8	火	●保存用修士(課題)論文提出締切		【提出書類】 ①論文の中身のみ(論文一式を1部とし必要部数を紙で提出)製本用 ②論文表紙のWordデータ(メール送付) 【必要部数について】 1部は必ず製本すること(図書館寄贈用)。その他部数は指導教員と相談して決めること。(製本代:1冊4,730円程度)	12:00厳守
	24	木	学位授与式(春学期修了生)			
	30	水	春学期成績開示			
10	1	木	秋学期授業開始 春学期成績不服申し立て～10月7日まで			
	9	金	特別研究 合同検討会③(M1:研究計画、M2:経過報告)			
11	10	火	○学位論文題目届(本)提出締切		【提出書類】 学位論文題目届(本)(様式第M3号)	12:00厳守
	21	土	大学院看護学研究科B日程入試			入館制限の可能性あり
12	11	金	特別研究 合同検討会④(M1:研究計画)		両コースのM1は研究計画について発表し、他領域の学生・教員と意見交換する	
1	5	火	○修士(課題)論文提出締切		【提出書類】 ①学位論文審査申請書1部(様式第M4号) ②修士・課題論文3部(フラットファイルに綴じてファイル表紙に学籍番号、氏名を記入) ③論文表紙及び要旨データ(PDFをメール送付) ④学位論文題目届(本)(様式第M3号)	12:00厳守
	13	水	○修士論文公開発表会		配布資料、発表原稿など担当教員の指示に従い準備する	
	20	水	○修士(課題)論文最終試験			詳細は別途連絡
	26	火	○最終修士(課題)論文提出締切		【提出書類】 ①最終修士(課題)論文3部(フラットファイルに綴じてファイル表紙に学籍番号、氏名を記入)	12:00厳守
	27	水	博士論文公開発表会		D3の博士論文公開発表聴講	
	30	土	大学院看護学研究科C日程入試			入館制限の可能性あり
2	3	水	○修了判定			
	9	火	○保存用修士(課題)論文提出締切		【提出書類】 ①論文の中身のみ(論文一式を1部とし必要部数を紙で提出)製本用 ②論文表紙のWordデータ(メール送付) 【必要部数について】 1部は必ず製本すること(図書館寄贈用)。その他部数は指導教員と相談して決めること。(製本代:1冊4,730円程度)	
3	11	木	学位授与式			学位授与式

※各種提出物の学務課への提出時刻は、原則として12:00とします。●:春学期修了スケジュール ○:秋学期修了スケジュール

2026年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)

D1用

月	日	曜日	事項	研究指導内容と各種提出書類	備考
4	4	土	入学式、オリエンテーション、交流会、履修登録	【提出書類】 指導教員希望届(様式第D1号) 研究テーマ届(様式第D2号)	
	7	火	春学期授業開始		
	15	水	健康診断		職場で受けている者はその提出に代えてよい
5	8	金	後期特別研究 合同検討会① (D2:経過報告、D3:まとめ)	D2、D3の発表を聴講し意見交換する	
	26	火	研究計画審査願提出期限②	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
6	13・14	土日	つわぶき祭		
	17	水	研究計画審査②		詳細は別途連絡
7	6	月	研究倫理審査についてオリエンテーション	研究倫理審査申請をしたことのない者は、オリエンテーション受講後、早めにeAPRIN受講	詳細は別途連絡
	10	金	後期特別研究 合同検討会② (D2:経過報告、D3:まとめ)		
	21	火	研究計画審査願提出期限③	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
	22	水	博士論文公開発表会	D3の博士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
8	5	水	修士論文公開発表会	M2の博士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
	19	水	研究計画審査③		詳細は別途連絡
	29	土	大学院看護学研究科A日程入試		入館制限の可能性あり
9	11	金	後期特別研究 合同検討会③(D3:まとめ)	D3の経過報告を聴講し、意見交換する	
	24	木	学位授与式(春学期修了生)		
	29	火	研究計画審査願提出期限④	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
	30	水	春学期成績開示		
10	1	木	秋学期授業開始 春学期成績不服申し立て～10月7日まで		
	21	水	研究計画審査④		詳細は別途連絡
11	13	金	後期特別研究 合同検討会④(D1:研究計画①)	D1で可能な者は研究計画書を発表し、意見交換する	
	21	土	大学院看護学研究科B日程入試		入館制限の可能性あり
	24	火	研究計画審査願提出期限⑤	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守

2026年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)

D1用

月 日	曜日	事項	研究指導内容と各種提出書類	備考
12 16	水	研究計画審査⑤		詳細は別途連絡
13	水	修士論文公開発表会	M2の修士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
1 26	火	研究計画審査願提出期限⑥	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
27	水	博士論文公開発表会	D3の修士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
30	土	大学院看護学研究科C日程入試		入館制限の可能性あり
2 17	水	研究計画審査⑥		詳細は別途連絡
11	木	学位授与式		
12	金	後期特別研究 合同検討会⑤(D1:研究計画、D2経過報告)		
3 23	火	研究計画審査願提出期限①	【提出書類】 研究計画審査審査願(様式第D5号) 研究計画書4部 データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) 学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	

※各種提出物の学務課への提出時刻は、原則として12:00とします。

2026年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)

2026年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)				D2用	
月	日	曜日	事項	研究指導内容と各種提出書類	備考
3	24	火	研究計画審査願提出期限①	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	
			研究倫理審査申請	研究倫理審査を受けるために、以下の書類を提出する。 ①研究倫理審査申請書 ②研究計画審査に合格した研究計画書(データ収集する際の依頼文書、同意書、質問紙等含む)、③データ収集許可書(必要時)	提出期限、提出書類の詳細は管理課職員に確認
4	1	水	秋学期成績開示 秋学期成績不服申し立て～4月4日まで		
	4	土	入学式、履修登録(変更時のみ)	履修登録の確認メールが学務課より届く(3月中旬～下旬)。入学時の履修計画から変更がある場合には、指導教員と相談の上、4/4までにメールを返信すること	
	7	火	春学期授業開始		
	15	水	研究計画審査①		詳細は別途連絡
	15	水	健康診断		職場で受けている者はその提出に代えてよい
5	8	金	後期特別研究 合同検討会① (D2:経過報告、D3:まとめ)	D2、D3の発表を聴講し意見交換する	
	26	火	研究計画審査願提出期限②	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
6	13・14	土日	つわぶき祭		
	17	水	研究計画審査②		詳細は別途連絡
7	10	金	後期特別研究 合同検討会② (D2:経過報告、D3:まとめ)		
	21	火	研究計画審査願提出期限③	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
	22	水	博士論文公開発表会	D3の博士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
8	5	水	修士論文公開発表会	M2の博士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
	19	水	研究計画審査③		詳細は別途連絡
	29	土	大学院看護学研究科A日程入試		入館制限の可能性あり
9	11	金	後期特別研究 合同検討会③(D3:まとめ)	D3の経過報告を聴講し、意見交換する	
	24	木	学位授与式(春学期修了生)		
	29	火	研究計画審査願提出期限④	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	
	30	水	春学期成績開示		不服申し立て～10月7日まで
10	1	木	秋学期授業開始 春学期成績不服申し立て～10月7日まで		
	21	水	研究計画審査④		詳細は別途連絡
11	13	金	後期特別研究 合同検討会④ (D1:研究計画①)	D1で可能な者は研究計画書を発表し、意見交換する	
	21	土	大学院看護学研究科B日程入試		入館制限の可能性あり
	24	火	研究計画審査願提出期限⑤	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守

2026年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)

2026年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)				D2用	
月	日	曜日	事項	研究指導内容と各種提出書類	備考
12	16	水	研究計画審査⑤		詳細は別途連絡
1	13	水	修士論文公開発表会	M2の修士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
	26	火	研究計画審査願提出期限⑥	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
	27	水	博士論文公開発表会	D3の修士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
	30	土	大学院看護学研究科C日程入試		入館制限の可能性あり
2	17	水	研究計画審査⑥		詳細は別途連絡
3	11	木	学位授与式		
	12	金	後期特別研究 合同検討会⑤(D1:研究計画、D2経過報告)		
	23	火	★博士論文予備審査申請	【提出書類】 ①博士論文予備審査願(様式第D6号) ②博士論文4部(フラットファイルに綴じて、ファイルの表紙に学籍番号、氏名を記載) ③参考論文(該当する論文がある場合) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
	23	火	研究計画審査願提出期限①	【提出書類】 ①研究計画審査審査願(様式第D5号) ②研究計画書4部 ③データ収集許可書(様式第D9号)(必要に応じて) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守

※各種提出物の学務課への提出時刻は、原則として12:00とします。 ★:春学期修了スケジュール

※研究計画審査は年6回行われます。進捗状況に応じて申請してください。

2026 度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)

D3用

月 日	曜日	事項	研究指導内容と各種提出書類	備考
3 24	火	★博士論文予備審査申請	【提出書類】 ①博士論文予備審査願(様式第D6号) ②博士論文4部(フラットファイルに綴じて、ファイルの表紙に学籍番号、氏名を記載) ③参考論文(該当する論文がある場合) ④学位論文題目届(仮)(様式第D3号)	12:00厳守
4 1	水	秋学期成績開示 秋学期成績不服申し立て～4月4日まで		
4 4	土	入学式		
4 7	火	春学期授業開始		
4 15	水	健康診断		職場で受けている者はその提出に代えてよい
4 22	水	★博士論文予備審査		詳細は別途連絡
5 8	金	後期特別研究 合同検討会① (D2:経過報告、D3:まとめ)	D2・D3の発表を聴講し、意見交換する	
5 26	火	★博士論文審査願	【提出書類】 ①博士論文審査願(様式第D7号) ②博士論文4部(フラットファイルに綴じて、ファイルの表紙に学籍番号、氏名を記載) ③参考論文(該当する論文がある場合) ④学位論文題目届(本)(様式第D3号)	12:00厳守
6 13・14	土日	つわぶき祭		
6 24	水	★博士論文審査		詳細は別途連絡
7 10	金	後期特別研究 合同検討会② (D2:経過報告、D3:まとめ)	D2・D3の発表を聴講し、意見交換する	
7 14	火	★博士論文審査最終論文提出期限	【提出書類】 ①博士論文4部(フラットファイルに綴じて、ファイルの表紙に学籍番号、氏名を記載) ②参考論文(該当する論文がある場合) ③論文表紙及び抄録データ(PDFをメール送付) ④学位論文題目届(本)(様式第D3号)	12:00厳守
7 22	水	★博士論文公开发表会	配布資料、発表原稿など担当教員の指示に従い準備する	
8 5	水	修士論文公开发表会	M2の博士論文公开发表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
8 5	水	★博士論文合否判定		
8 18	火	★保存用論文提出期限	【提出書類】 ①論文の中身のみ(論文一式を1部とし必要部数を紙で提出)製本用 ②論文表紙のWordデータ(メール送付) ③博士論文要旨PDFデータ(USBにて提出) ④博士論文PDFデータ(USBにて提出) 【必要部数について】 1部は必ず製本すること(図書館寄贈用)。その他部数は指導教員と相談して決めること。(製本代:1冊13,000円程度)	12:00厳守
8 29	土	大学院看護学研究科A日程入試		入館制限の可能性あり
8 31	月	★修了判定		
9 11	金	後期特別研究 合同検討会③(D3:まとめ)	D3の経過報告を聴講し、意見交換する	
9 24	木	学位授与式(春学期修了生)		
9 29	火	☆博士論文予備審査申請	【提出書類】 ①博士論文予備審査願(様式第D6号) ②博士論文4部(フラットファイルに綴じて、ファイルの表紙に学籍番号、氏名を記載) ③参考論文(該当する論文がある場合) ④学位論文題目届(本)(様式第D3号)	12:00厳守
9 30	水	春学期成績開示		不服申し立て～10月7日まで

2026 度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール(学生教職員共通)

D3用

10	1	木	秋学期授業開始 春学期成績不服申し立て～10月7日まで		
	28	水	☆博士論文予備審査		詳細は別途連絡
	13	金	後期特別研究 合同検討会④ (D1:研究計画①)	D1で可能な者は研究計画書を発表し、意見交換する	
	21	土	大学院看護学研究科B日程入試		入館制限の可能性あり
11	24	火	☆博士論文審査願提出期限	【提出書類】 ①博士論文審査願(様式第D7号) ②博士論文4部(フラットファイルに綴じて、ファイルの表紙に学籍番号、氏名を記載) ③参考論文(該当する論文がある場合) ④学位論文題目届(本)(様式第D3号)	12:00厳守
12	23	水	☆博士論文審査		詳細は別途連絡
1	19	火	☆博士論文審査最終論文提出期限	【提出書類】 ①博士論文4部(フラットファイルに綴じて、ファイルの表紙に学籍番号、氏名を記載) ②参考論文(該当する論文がある場合) ③論文表紙及び抄録データ(PDFをメール送付) ④学位論文題目届(本)(様式第D3号)	12:00厳守
	27	水	☆博士論文公開発表会(最終試験)	配布資料、発表原稿など担当教員の指示に従い準備する	詳細は別途連絡
	30	土	大学院看護学研究科C日程入試		入館制限の可能性あり
2	3	水	☆博士論文合否判定及び修了判定		
	9	火	☆保存用博士論文提出期限	【提出書類】 ①論文の中身のみ(論文一式を1部とし必要部数を紙で提出)製本用 ②論文表紙のWordデータ(メール送付) ③博士論文要旨PDFデータ(USBにて提出) ④博士論文PDFデータ(USBにて提出) 【必要部数について】 1部は必ず製本すること(図書館寄贈用)。その他部数は指導教員と相談して決めること。(製本代:1冊13,000円程度)	12:00厳守
3	11	木	学位記授与式		製本された論文を受取

※各種提出物の学務課への提出時刻は、原則として12:00とします。

※予備審査及び本審査は年2回行われます。進捗状況に応じて申請してください。★:春学期修了スケジュール ☆:秋学期修了スケジュール

Ⅱ. 開講授業科目・修了要件

大学院看護学研究科博士前期課程
研究者養成コース開講授業科目について

科目区分	授業科目の名称		開講年次	単位数	
				必修	選択
基盤科目	看護理論		1春		2
	看護倫理特論		1秋	2	
	コンサルテーション論		1秋		2
	看護研究方法論Ⅰ(量的研究)		1春		2*
	看護研究方法論Ⅱ(質的研究)		1春	2	
	地元創成看護学特論Ⅰ		1春	2	
	保健医療福祉政策論Ⅰ		1秋		2
	健康栄養特論Ⅰ		1秋		2
	データサイエンス論		1春		2*
	疫学・保健統計学特論		1秋		2*
専門科目	専攻領域	精神看護学特論Ⅰ	1春		2
		精神看護学特論Ⅱ	1秋		2
		成人・老年看護学特論Ⅰ	1春		2
		成人・老年看護学特論Ⅱ	1秋		2
		地域看護学特論Ⅰ	1春		2
		地域看護学特論Ⅱ	1秋		2
		母性・小児看護学特論Ⅰ	1春		2
		母性・小児看護学特論Ⅱ	1秋		2
		看護教育学特論Ⅰ	1春		2
		看護教育学特論Ⅱ	1秋		2
		健康データサイエンス特論Ⅰ	1春		2
		健康データサイエンス特論Ⅱ	1秋		2
		専門演習	1秋	2	
	研究	特別研究Ⅰ	1通	2	
		特別研究Ⅱ	2通	8	
修了要件及び履修方法					
<p>・本課程研究科に2年以上在学すること。</p> <p>・指導教員指導の下に修士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>・履修方法</p> <p>①基盤科目から6科目12単位以上 (必修3科目6単位と選択必修1科目「看護研究方法論Ⅰ」2単位を含む。ただし、健康データサイエンス領域を専攻する者は、必修3科目6単位と選択必修2科目「データサイエンス論」「疫学・保健統計学特論」4単位を含む)</p> <p>②専門科目から6科目18単位以上(必修科目3科目12単位を含む) 合計30単位以上を修得すること。</p>					

修了に必要な単位数

区分	配当単位数	修了要件単位数		
		必修	選択	計
基盤科目	20	6	6	12
専門科目	36	12	6	18
合計	56	18	12	30

高度実践者養成コース助産学領域開講授業科目

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数	
			必修	選択
基盤科目	看護理論	1春		2
	看護倫理特論	1秋	2	
	コンサルテーション論	1秋		2
	看護研究方法論Ⅰ	1春	2	
	看護研究方法論Ⅱ	1春	2	
	地元創成看護学特論Ⅰ	1春	2	
	保健医療福祉政策論Ⅰ	1秋		2
	健康栄養特論Ⅰ	1秋	2	
	データサイエンス論	1春		2
	疫学・保健統計学特論	1秋		2
専門科目	精神看護学特論Ⅰ	1春		2
	成人・老年看護学特論Ⅰ	1春		2
	地域看護学特論Ⅰ	1春	2	
	看護教育学特論Ⅰ	1春		2
	看護教育学特論Ⅱ	1秋		2
	母性・小児看護学特論Ⅰ	1春	2	
	母性・小児看護学特論Ⅱ	1秋	2	
	専門演習	1秋		2
	助産学特論Ⅰ(概論)	1春	2	
	助産学特論Ⅱ(女性の解剖と機能・薬理)	1春	2	
	助産学特論Ⅲ(母子・家族の心理と社会)	1春	2	
	助産診断技術学演習Ⅰ(妊婦の助産診断とケア)	1通	3	
	助産診断技術学演習Ⅱ(産婦の助産診断とケア)	1通	3	
	助産診断技術学演習Ⅲ(褥婦・新生児の助産診断とケア)	1秋	2	
	助産診断技術学演習Ⅳ(ハイリスク妊産褥婦・新生児の診断技術)	1秋	1	
	助産診断技術学演習Ⅴ(フィジカルイグザミネーション)	1秋	2	
	助産診断技術学演習Ⅵ(ヘルスプロモーション方法論)	2春	2	
	助産診断技術学演習Ⅶ(次世代育成支援)	2春	1	
	助産管理	2秋	2	
	助産学実習Ⅰ(正常症例助産ケア実習)	1秋	11	
助産学実習Ⅱ(異常症例助産ケア実習)	2春	2		
助産学実習Ⅲ(助産ケア統合実習)	2春	2		
研究	課題研究	1~2通	4	
修了要件及び履修方法				
・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に修士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 ①基盤科目から6科目12単位以上(必修科目5科目10単位を含む) ②専門科目から19科目49単位以上(必修科目18科目47単位を含む) 合計61単位以上を修得すること。				

修了に必要な単位数

区分	配当単位数	修了要件単位数		
		必修	選択	計
基盤科目	20	10	2	12
専門科目	57	47	2	49
合計	77	57	4	61

高度実践者養成コース診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数	
			必修	選択
基盤科目	看護理論	1 春		2
	看護倫理特論	1 秋	2	
	コンサルテーション論	1 秋		2
	看護研究方法論Ⅰ	1 春	2	
	看護研究方法論Ⅱ	1 春	2	
	地元創成看護学特論Ⅰ	1 春	2	
	保健医療福祉政策論Ⅰ	1 秋	2	
	健康栄養特論Ⅰ	1 秋		2
	データサイエンス論	1 春		2
	疫学・保健統計学特論	1 秋		2
	小計（10科目）	—	10	10
専門科目	プライマリ・ケア看護学特論	1 秋	2	
	精神看護学特論Ⅰ	1 春		2
	成人・老年看護学特論Ⅰ	1 春		2
	地域看護学特論Ⅰ	1 春		2
	母性・小児看護学特論Ⅰ	1 春		2
	看護教育学特論Ⅰ	1 春		2
	NP論	1 春	2	
	統合医療安全・特定行為実践特論	1 春	1	
	統合臨床病態生理学・疾病特論	1 春	2	
	フィジカルアセスメント特論Ⅰ	1 春	1	
	フィジカルアセスメント特論Ⅱ	1 秋	1	
	臨床推論	1 春	1	
	臨床薬理学特論Ⅰ	1 春	1	
	臨床薬理学特論Ⅱ	2 春	1	
	特定行為共通科目統合演習	1 春	1	
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅰ	2 春	1	
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅱ	2 春	1	
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅲ	2 春	1	
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅳ	2 春	2	
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅴ	2 春	2	
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅵ	2 春	1	
	NP活動見学実習	1 春	1	
	プライマリ・ケア看護学実習	2 秋	14	
	プライマリ・ケア看護学探求セミナー	2 秋	1	
	研究 課題研究	1～2通	4	
小計（25科目）		41	10	
合計		51	20	
修了要件及び履修方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に修士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <ul style="list-style-type: none"> ①基盤科目から6科目12単位以上（必修科目5科目10単位を含む） ②専門科目から22科目45単位以上（必修科目20科目41単位を含む） <p style="margin-left: 40px;">合計57単位以上を修得すること。</p>				

修了に必要な単位数

区分	配当単位数	修了要件単位数		
		必修	選択	計
基盤科目	20	10	2	12
専門科目	51	41	4	45
合計	71	51	6	57

大学院看護学研究科博士後期課程開講授業科目

科目区分		開講年次	単位数	
			必修	選択
基盤科目	看護研究特論Ⅰ	1春	2	
	看護研究特論Ⅱ	1春	2	
	看護教育学研究	2春	2	
	地元創成看護学特論Ⅱ	1春		2
	保健医療福祉政策論Ⅱ	2春		2
	健康栄養特論Ⅱ	2春		2
専門科目	看護教育学特論Ⅲ	1通		2
	精神看護学特論Ⅲ	1通		2
	成人・老年看護学特論Ⅲ	1通		2
	地域看護学特論Ⅲ	1通		2
	母性・小児看護学特論Ⅲ	1通		2
科研项目	後期特別研究	1・2・3通	6	

修了要件及び履修方法

- ・本課程研究科に3年以上在学すること。
- ・指導教員の指導下に博士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。
- ・履修方法
 - ①基盤科目から5科目10単位以上(必修科目3科目6単位を含む)
 - ②専門科目から1科目2単位以上
 - ③研究科目から1科目6単位
 合計18単位以上を修得すること。

修了に必要な単位数

区分	配当単位数	修了要件単位数		
		必修	選択	計
基盤科目	12	6	4	10
専門科目	10		2	2
研究科目	6	6		6
合計	28	12	6	18

Ⅲ . 授 業 科 目 の 概 要 ・ シ ラ バ ス

博 士 前 期 課 程
研究者養成コース

博士前期課程 研究者養成コース

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		担当教員		
			必修	選択	職名	氏名	
基盤科目	看護理論	1春		2	教授	岡安 誠子	
	看護倫理特論	1秋	2		准教授	高橋 梢子	
					非常勤講師	安藤 泰至	
	コンサルテーション論	1秋		2	教授	大森 眞澄	
	看護研究方法論Ⅰ(量的研究)	1春		2*	教授	川瀬 淑子	
					教授	高橋 恵美子	
	看護研究方法論Ⅱ(質的研究)	1春	2		教授	大森 眞澄	
					准教授	佐藤 美紀子	
	地元創成看護学特論Ⅰ	1春	2		准教授	小川 智子	
	保健医療福祉政策論Ⅰ	1秋		2	講師	祝原 あゆみ	
	健康栄養特論Ⅰ	1秋		2	非常勤講師	谷村 綾子	
非常勤講師					澤 幸子		
データサイエンス論	1春		2*	非常勤講師	江崎 剛史		
疫学・保健統計学特論	1秋		2*	非常勤講師	大城 等		
小計(10科目)		—	6	14	—	—	
専門科目	専攻領域	精神看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	大森 眞澄
		精神看護学特論Ⅱ	1秋		2	教授	大森 眞澄
						非常勤講師	石橋 照子
		成人・老年看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	奥山 真由美
						教授	大塚 美樹
						准教授	佐藤 美紀子
		成人・老年看護学特論Ⅱ	1秋		2	教授	大塚 美樹
						教授	奥山 真由美
						准教授	佐藤 美紀子
		地域看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	小田 美紀子
		地域看護学特論Ⅱ	1秋		2	教授	山口 扶弥
		母性・小児看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	高橋 恵美子
						教授	井上 千晶
						准教授	中谷 陽子
母性・小児看護学特論Ⅱ	1秋		2	教授	井上 千晶		
				教授	高橋 恵美子		
				准教授	中谷 陽子		
				非常勤講師	荒木 もも子		
				非常勤講師	矢田 昭子		

科目 区分	授業科目の名称		開講 年次	単位数		担当教員			
				必修	選択	職名	氏名		
専門 科目	専攻 領域	看護教育学特論Ⅰ	1春		2	教授	岡安 誠子		
						教授	川瀬 淑子		
						准教授	高橋 梢子		
		看護教育学特論Ⅱ	1秋		2	教授	川瀬 淑子		
						准教授	高橋 梢子		
						准教授	平井 由佳		
		健康データサイエンス特論Ⅰ	1春		2	准教授	小川 智子		
	教授					山下 一也			
	健康データサイエンス特論Ⅱ	1秋		2	准教授	小川 智子			
					教授	山下 一也			
	専門演習	1秋		2		主副指導教員			
	小計(13科目)				2	24	-		
	研究	特別研究Ⅰ	1通		2		主副指導教員		
特別研究Ⅱ		2通		8		主副指導教員			
小計(2科目)				10	0	-			
合計(25科目)						18	38	-	

修 了 要 件 及 び 履 修 方 法

- ・本課程研究科に2年以上在学すること。
- ・指導教員指導の下に修士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。
- ・履修方法
 - ①基盤科目から6科目12単位以上
(必修3科目6単位と選択必修1科目「看護研究方法論Ⅰ」2単位を含む。ただし、健康データサイエンス領域を専攻する者は、必修3科目6単位と選択必修2科目「データサイエンス論」「疫学・保健統計学特論」4単位を含む)
 - ②専門科目から6科目18単位以上(必修科目3科目12単位を含む)
合計30単位以上を修得すること。

授業科目の概要（看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	看護理論	看護実践の基盤となる看護理論、看護モデル等を取り上げ、理論と看護現象との関係について分析し、看護実践への活用について探究する。具体的には、看護実践の基盤となる主要な諸理論の形成と体系化の歴史の変遷と発展の過程を学修し、諸理論が看護の臨床現場で遭遇する現象や看護実践にどのように活用されているのかを考察する。看護の諸理論の批判的な吟味をとおして、看護実践の質を向上させていくために理論を活用して探究することを試みる。	
	看護倫理特論	医療倫理および看護倫理の歴史的発展、看護実践の場で発生する倫理的課題に対応するために、基盤となる諸理論・諸概念を理解する。また、看護領域で直面する倫理的問題を孕む話題を多角的に学ぶ。さらに、倫理的問題をもつ事例を通して、倫理的判断の方法を理解し、看護師がどのような倫理判断を行う必要があるのかを探究する。	
	コンサルテーション論	コンサルテーションに必要な知識や技術について学習を深め、看護職のみならず、あらゆる職種と相互に支え合いながら、自己および組織の課題を分析し、行動変容のプロセスを支援する能力を育成する。大学院生が体験した事例を検討することで、看護の質の向上に寄与するコンサルテーションの理論と実践を統合し、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行う基盤となる能力を探究する。	
	看護研究方法論Ⅰ：量的研究	研究デザインのうち量的研究の知識を深め、科学的視点から看護研究を看護実践に活用する知識を修得する。基本的な量的研究の特徴と方法、看護研究を遂行する上で遵守すべき研究倫理について理解し、妥当性・信頼性の高い研究プロセスの基本概要について学修する。既存の量的研究の文献クリティークを通して看護研究に必要な視点や批判的思考を磨き、研究計画書の作成に必要な基礎的な視点や知識を修得する。	
	看護研究方法論Ⅱ：質的研究	科学的探索における看護研究の意義を踏まえ、文献検索、代表的な質的研究デザイン及びその特徴、質的データの分析方法、質的研究における倫理的配慮、研究成果のまとめ方、研究計画書の作成について教授し、質的研究に関する基礎的知識および看護職としての専門知識・技術の向上や開発を図るための基本的姿勢を修得できるようにする。	
	地元創成看護学特論Ⅰ	島根県内の中山間地や離島をフィールドとして、「地元」創成看護を意識した学習活動を展開する。学生の関心に従い、健康レベルや関わる対象、地域の特性や健康課題を踏まえて、フィールドを決定する。学生が主体的に計画・展開・まとめを行い、関係者に発信する。	
	保健医療福祉政策論Ⅰ	保健福祉支援政策及び障害特性を考慮した社会適応理論について学修し、地域包括ケアを目指して保健・医療・福祉の連携・統合について探求する。具体的には、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために、保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識や地域医療におけるネットワークの現状を探索的に学び、地域包括ケアについて探求する。	
	健康栄養特論Ⅰ	様々な健康レベルの人々を対象とした食生活・栄養に関する専門知識や最新情報を理解し、看護職として果たすべき役割を探求する。具体的には、生活習慣病の一次予防を主要テーマとした食生活・栄養に関して、医療・介護・予防等に必要となる栄養実践に関わる専門知識や最新情報を得る。また、住民のライフステージや健康レベルから栄養に関する問題点を的確に捉え、解決に向けた方策について探求する。	
	データサイエンス論	現代社会におけるデータサイエンスの重要性とその価値を認識し、データの種類、収集から解析方法および活用方法の一連を理解する。データサイエンスにおける倫理や情報セキュリティを理解し、正しいデータ管理についても学修するとともに、近年関心が高まっているAIの仕組みを理解し、生成AIを活用した課題解決の可能性についても探究する。	
疫学・保健統計学特論	人間集団の健康事象と様々に影響する要因を分析、介入、評価する手法を理解する。記述疫学や横断研究、コホート研究と疫学研究方法のほか、分布や代表値といったデータ要約、相関と回帰などの統計解析の基礎から、推定や検定などの統計解析の手法の応用まで実データを用いた演習を中心に学修する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻領域 専門科目	精神看護学特論Ⅰ	精神看護の実践の基盤となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高めると共に、実践の場で出会う主な疾患とその治療法、看護ケアを行うためのアセスメント方法について探求する。また、精神科医療における主な治療を理解し、治療的アプローチの根拠と技法を修得し、さらに身体的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について探求する。	
	精神看護学特論Ⅱ	精神保健福祉の歴史の変遷を踏まえた精神保健福祉制度と体制について学び、精神保健福祉と精神医療の今日的課題と今後の展望について探求する。また、社会資源としての関係法規を理解する。 その上で、精神科リハビリテーションからリカバリーまで精神障がいを持つ人の支援に関する諸理論を理解し、精神障がいを持つ人の退院促進と地域生活促進に向けた支援を探求する。	
	成人・老年看護学特論Ⅰ	成人期または老年期にある患者と家族の状況を理解するために必要な中範囲理論や国際生活機能分類International Classification of Functioning Disability and Health などの主要な理論や概念、モデルについて理解し、看護実践への活用を探究する。	
	成人・老年看護学特論Ⅱ	成人期または老年期にある患者と家族の現状と看護実践における課題、意思決定支援などを概観する。そして、成人期または老年期にある患者と家族の看護実践における課題の解決方法について理解する。また、看護実践における課題と課題の解決方法に関する知見を基盤に、事例を通して看護実践への応用を探究する。	
	地域看護学特論Ⅰ	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解し、地域の特性を把握・分析をもとに、健康課題の解決にむけて、社会支援と政策開発、コミュニティ開発を探究する。具体的には、安全・安心な出産や子育て、児童・高齢者の虐待防止、生涯現役等について学修し、地域特性を活かした自助・互助・共助・互助による地域づくりと地域のエンパワメントなどポピュレーションアプローチについて探求する。	
	地域看護学特論Ⅱ	地域保健医療に関するわが国の現状と課題を探求し、地域に根ざした保健医療を展開する理論と方法を探究することによって、地域保健医療のリーダーとして、人々の生活実態に即した課題解決できる力を高める。具体的には、地域保健医療に関する諸外国とわが国の現状、がんを中心とした生活習慣病や認知症予防、自死防止、介護予防に係わる保健活動など、ハイリスクアプローチについて探究する。	
	母性・小児看護学特論Ⅰ	胎児期から老年期にわたるライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題と主要な理論および概念を学修する。母性看護ならびに小児看護に関するアセスメント・診断能力を高めるために理論や評価尺度を用いて看護研究から導かれる科学的根拠を理解し、ウィメンズヘルス・マタニティヘルスへの支援、女性や子どもとその家族への看護実践の活用方法を探究する。女性ならびに子どもの健康の維持増進と疾病の予防さらに健康課題の解決に向けた看護職の役割について探究する。	
	母性・小児看護学特論Ⅱ	胎児期から老年期にわたるライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題と多様な社会背景を含む影響要因について学修する。母性看護ならびに小児看護に関するアセスメント・診断能力・実践力を高めるための看護研究から導かれる科学的根拠を理解し、ウィメンズヘルス・マタニティヘルスへの支援、地域における女性と家族・子どもの安寧な暮らしを支援するためのヘルスアセスメントと科学的根拠に基づいた看護方法を探究する。	
看護教育学特論Ⅰ	看護基礎教育、臨床で教育の役割を担う看護者が、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また医療提供体制の変化に伴い、より自律して判断し実践できる看護職の養成のニーズに応じていくために看護教育の課題を検討し、問題解決に向け考察する。具体的には、看護教育の歴史の変遷を学修し、今日の看護教育の問題点や課題について考察する。また、教育活動の展開を支える理論を学修し、教育活動を展開する能力を育成する。さらに、社会的ニーズを踏まえた看護教育のあり方を検討する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻領域 専門科目	看護教育学特論Ⅱ	教育方法論及び学習理論を活用しながら、看護実践力の向上につながる看護基礎教育および継続教育において教育方法や教材の開発を探究する。学生参画型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法について探究する。具体的には、看護教育の特徴とその評価法、教授－学習過程の構造、学生参画型授業とその教授法について学修し、自己教育力の育成とその評価法について探究する。また、シミュレーション学習の授業設計、評価について学修する。	
	健康データサイエンス特論Ⅰ	ヘルスケア分野においてデータ分析が重要視される社会的背景を理解し、ICTの進展によって蓄積される健康情報を集約して活用するための知識や技術について学修する。地域保健分野におけるデータ利活用の目的や、オープンアクセスにより入手可能なデータ、データ分析によるヘルスケアの促進について探求する。また、健康をサポートするIT技術の活用についても探究する。	
	健康データサイエンス特論Ⅱ	保健医療で扱うデータを統計的解析手法に基づき分析し、健康づくりや保健医療のシステム構築、保健医療政策につなげている先駆的な事例をもとに、自身や自身の所属する組織（機関）が直面している健康課題の解決につながるヘルスサービスおよびシステムを提案し、保健医療政策を立案する。	
	専門演習	選択した領域において看護実践能力を高めるために、演習場所（地域・在宅・行政機関・教育機関、福祉施設・医療施設等）、学習目標ならびに学習方法を学生自ら設定し、フィールドワークを展開する。基盤科目で学修した諸理論や介入方法、評価尺度等を駆使し、担当教員の指導のもと演習場所においてアセスメントと看護介入・評価を実践する。フィールドワークと討議により、学生が選択した分野における看護実践能力（アセスメント能力、介入ならびに評価能力）を修得する。	
	特別研究Ⅰ	各専門領域をはじめ既習内容を基盤として、選択した看護領域の対象理解や援助に関わる現象を扱った文献クリティークを行い、その看護領域の課題について考察を深め、研究課題を明確にする。計画にした研究課題から、研究デザインや研究方法を吟味し、研究計画書を作成し特別研究Ⅱにつなげる。	
	特別研究Ⅱ	選択した看護領域における看護学の発展を目指して、特別研究Ⅰにおいて立案した研究計画に沿って実施・分析し、指導教官の指導を受けながら修士論文を作成する。テーマ、目的、研究方法に一貫性を持たせて、研究全体を企画、実施する能力を身につける。研究課題に関連したフィールドで実際に手順に沿って研究を実施、遂行する。また、研究対象フィールドとの調整を図りながら質の良い適切なデータ収集し、データを適切な方法で分析する。研究の一連のプロセスを論文としてまとめる。	
	研究		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護倫理特論	学期	秋学期
担当教員	○高橋梢子、非常勤講師 安藤泰至	選択/必修	必修
科目コード	17070001	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の概要	医療現場において起こっている倫理的な問題・葛藤について、看護職としての考え、判断、対応を明らかにし、看護専門職に求められる倫理的問題への対応について探究する。看護倫理の諸概念、問題解決のためのツールについて、課題とし、課題発表および意見交換という授業の形態を取る。		
到達目標とDPとの関連	<p>① 看護倫理とは何かを説明できる。DP1</p> <p>② 看護職の倫理綱領の意味を説明できる。DP1</p> <p>③ 倫理的な看護実践の基盤となる諸理論・諸概念を説明できる。DP1</p> <p>④ 死生の諸問題に対する基礎的知識について理解し、看護専門職に求められる役割を探究できる。DP1</p> <p>⑤ 倫理的問題の解決のためのアプローチを実践できる。DP1</p>		
授業計画	回数	内容	担当
	1	授業ガイダンス、看護倫理とは、看護倫理の歴史、責任と専門職	高橋
	2	課題作成	高橋
	3	医療と倫理—その関係の多面性—	安藤
	4	安楽死・尊厳死	安藤
	5	課題1、2 徳の倫理、ケアの倫理	高橋
	6	課題3、4 原則の倫理、	高橋
	7	課題5、6 道徳的苦悩、道徳的レジリエンス	高橋
	8	課題7、8 看護職の倫理綱領	高橋
	9	課題9、10 看護職の倫理綱領	高橋
	10	課題11、12 看護職の倫理綱領	高橋
	11	課題13 事例検討	高橋
	12	課題14 事例検討	高橋
	13	課題15 事例検討	高橋
	14	課題16 事例検討	高橋
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	<p>事前学修：ガイダンス時に課題を提示する。担当課題をまとめた上で授業に参加する。</p> <p>事後学修：毎回、学びの提出を課す。</p>		
テキスト	小西恵子編 (2021)、看護学テキストNICE 看護倫理 (改訂第3版) よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂。		
参考文献	宮坂道夫、(2018)、系統看護学講座 別巻 看護倫理、医学書院		
評価方法	小西恵子、(2018)、看護倫理を考える言葉、日本看護協会出版会		
その他	授業への参加度、課題への取組 100% 授業はオンライン形式とする。 演習では担当学生が発表を行い、参加者間のディスカッションを通して、理解を深める。 順序は入れ替わる可能性がある。第1回授業時に案内する。		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護理論	学期	春学期
担当教員	教授 岡安誠子	選択/必修	選択
科目コード	17070000	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の概要	授業の目的は、看護実践の基盤となる看護理論の意義について理解し、代表的な看護理論を取り上げ、理論と看護現象との関係について理解し、看護実践や看護研究への活用を探究する。		
到達目標とDPとの関連	<p>① 看護の基盤となる理論の位置づけや歴史の変遷と発展の過程を学修する。DP1</p> <p>② 諸理論は看護現象や看護実践にどのように活用し得るのか考察する。DP1</p> <p>③ 看護実践や看護研究への諸理論の適用の実践について議論する。DP1・DP4</p>		
授業計画	回数	内容	担当
	1	【講義】 ガイダンス	岡安
	2	【講義】 看護理論とは・歴史的發展過程	岡安
	3	【講義】 看護理論の分析と評価	岡安
	4	【講義】 看護理論の看護実践への適応 (看護場面等の分析)	岡安
	5	【演習】 看護理論の看護実践への適応の実践	岡安
	6	【演習】 看護理論の概要と実践への適応プレゼン・ディスカッション (1)	岡安
	7	【演習】 看護理論の概要と実践への適応プレゼン・ディスカッション (2)	岡安
	8	【演習】 看護理論の概要と実践への適応プレゼン・ディスカッション (3)	岡安
	9	【演習】 看護理論の概要と実践への適応プレゼン・ディスカッション (4)	岡安
	10	【演習】 看護理論の概要と実践への適応プレゼン・ディスカッション (5)	岡安
	11	【演習】 看護理論の概要と実践への適応プレゼン・ディスカッション (6)	岡安
	12	【講義】 看護理論の看護研究への適応 (サブストラクシオン他)	岡安
	13	【演習】 看護理論の看護研究への適応の実践	岡安
	14	【演習】 看護理論の看護研究への適応の実践・まとめ	岡安
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	・プレゼンテーションを担当する看護理論については、テキスト以外の書籍や論文などの文献も参照し、理解を深めて説明できるようにしてください。		
テキスト	筒井真優美 (2025)、看護理論家の業績と理論評価 第3版、医学書院		
参考文献	授業内で、適宜提示する。		
評価方法	プレゼンテーション50%、ディスカッションへの貢献度50%を総合して評価する。		
その他	・原則、授業は「遠隔授業」とする。		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究方法論 I：量的研究	学期	春学期
担当教員	○教授 川瀬 敬子 教授 高橋 恵美子	選択/必修	選択
科目コード	I7070013	授業形態	講義・演習
		単位数	2

到達目標と DP の関連	<p>《目的》 研究デザインのうち量的研究の特徴、種類、方法、倫理的配慮の知識を深め、科学的視点から看護研究の看護実践への活用、量的研究計画書の作成に必要な基礎的な知識を修得する。</p> <p>《目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的研究の特徴と意義、種類、研究プロセスを理解できる。DP4 2. リサーチエッセンスに忠じた、適切な研究方法を選択することができる。DP4 3. 量的研究における標本抽出、データ収集、測定や統計分析、結果の示し方を説明できる。DP4 4. DP4 5. 量的研究を用いた看護研究論文をクリティックし、議論することができる。DP4 6. 量的研究における倫理的配慮の重要性と具体的な方法について説明できる。DP4 7. 量的研究における看護研究計画書立案に必要な内容を説明できる。DP4
回数	内容
1	看護における量的研究の特徴と意義、量的研究デザインの種類と特徴 (川瀬)
2	プロセス (1)：文献レビューとクリティック、研究課題の設定 (川瀬)
3	プロセス (2)：量的研究における課題設定と研究枠組み、仮説の設定 (川瀬)
4	方法 (1)：量的研究における厳密性、標本抽出とサンプルサイズ、検出力分析 (川瀬)
5	方法 (2)：測定の信頼性と妥当性、データ収集方法 (川瀬)
6	方法 (3)：量的研究における研究倫理と倫理的配慮 (川瀬)
7	分析 (1)：記述統計とデータの種類の種類、統計分析の基本 (高橋)
8	分析 (2)：差を決定するための検定 (高橋)
9	分析 (3)：関係性を検討するための検定 (高橋)
10	分析 (4)：結果の示し方と読み方 (高橋)
11	量的研究における研究計画書の基本 (高橋)
12	文献クリティック (1)：学生プレゼンテーション (川瀬)
13	文献クリティック (2)：学生プレゼンテーション (高橋)
14	文献クリティック (3)：学生プレゼンテーション (高橋・川瀬)
講義のために必要な自己学修 (事前・事後学修)	<p>事前学修：量的研究に関する原著論文を1つ選び文献クリティックを行う。</p> <p>事後学修：各単元の講義をふまえ、量的研究計画書の作成に必要な基礎的な知識を整理する。</p>
テキスト	指定しない
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • D.F.ポリーット&C.T.ベック、監訳：近藤潤子、看護研究 原理と方法、医学書院 • バーンズ&グループ、監訳：黒田優子他、看護研究入門、エルゼビアジャパン • アメリカ心理学会、訳：前田樹海他、APA 論文作成マニュアル、医学書院

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	コンサルテーション論	学期	秋学期
担当教員	教授 大森真澄	選択/必修	選択
科目コード	I7070004	授業形態	講義
		単位数	2
授業の概要	<p>医療・看護の専門性が高まる中、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なネットワークを構築していくことが重要である。コンサルテーションに必要な知識や技術について学習を深め、看護職のみならず、あらゆる職種と相互に支え合いながら、自己および組織の課題に直面し、問題解決に向かい、行動を変容のプロセスを支援する能力を育成する。大学院生が体験した事例を分析・検討し、最終的には、看護実践に関する相談・支援活動および専門職種間の協働・連携の調整者として、組織または個人を多角的にアセスメントし、看護の質の向上に寄与するコンサルテーションの理論と実践方法を学び、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行う基礎となる能力を探究する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コンサルテーションのモデルとタイプについて説明できる。DP-① 2) 自身のコンサルテーション事例について述べる事ができる。DP-② 3) コンサルテーションのスキルを活用した面接を展開できる。DP-④ 		
到達目標と DP との関連	内容	担当	
回数			
1	コンサルテーションの定義、特性、目的、意義、職業倫理と契約	大森	
2	コンサルテーションの4つのモデルとその特徴	大森	
3	コンサルテーションのプロセス、技法、評価	大森	
4	コンサルティとコンサルタントの関係と面接	大森	
5	リエゾン精神看護とコンサルタントに必要な能力 (リエゾン看護師招致講義)	齋藤	
6	組織のストレスとコンサルテーション	大森	
7	看護職のストレスの特徴、メンタルヘルスに関する理論とコンサルテーション	大森	
8	コンサルテーション事例の検討 (1) 一院生によるコンサルテーションの事例発表 (リエゾン看護師招致講義)	大森・齋藤	
9	コンサルテーション事例の検討 (2) 一院生によるコンサルテーションの事例発表	大森	
10	コンサルテーション事例の検討 (3) 一院生によるコンサルテーションの事例発表 (リエゾン看護師招致講義)	大森・齋藤	
11	コンサルテーション事例の検討 (4) 一院生によるコンサルテーションの事例発表	大森	
12	個人へのコンサルテーションの実践 (ロールプレイ)	大森	
13	個人へのコンサルテーションの実践 (ロールプレイ)	大森	
14	グループコンサルテーションの実践 (グループワーク)	大森	
講義のために必要な自己学修 (事前・事後学修)	<p>各回の事前配布した資料を読み、ディスカッションできるように考えをまとめる (各1時間)</p> <p>9回、10回のコンサルテーション事例の検討にあたって、自身が体験した事例を提示した書式にそってまとめる (6時間)</p> <p>組織のストレスとコンサルテーションの中から、1章を選びプレゼンテーションする (6時間)</p> <p>①E.H.シャイン著、稲葉元吉、尾川丈一訳(2016)：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと、白桃書房。</p> <p>②土居健郎著 (2007)：新訂 方法としての面接 臨床家のために 医学書院</p> <p>③アンソニー・オブホルツァー、ヴェガ・サジェ、ロバート編、武井麻子監訳 (2014)：組織のストレスとコンサルテーション、金剛出版。</p> <p>①宇佐美しおり、野末恵香編集 (2014)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会版会。</p> <p>②山本和郎 (2000)：危機介入とコンサルテーション、ミネルヴァ書房。</p> <p>[レポート] 60% (具体的事例を分析し、考察したレポート)</p> <p>[授業態度] 40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)</p> <p>ディスカッション自体がコンサルテーションのスキルを磨くトレーニングでもある。</p> <p>積極的に参加して、これまでの自らの実践経験を振り返る。</p>		
テキスト			
参考文献			
評価方法			
その他			

	<ul style="list-style-type: none"> 編著：牧本清子・山川みやえ、よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会
評価方法	課題（ブレゼンテーション：40%、資料30%）、授業での取り組み（質疑応答：30%）で評価する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、授業は、遠隔授業で行う。 学生の発表、参加者間のディスカッションを通して、理解を深める。

科目区分	基礎科目		対象学年	1
授業科目	看護研究方法論Ⅱ：質的研究		学期	春学期
担当教員	○教授 大森 眞澄 准教授 佐藤 美紀子	選択/必修	単位数	必修
科目コード	I7070014	授業形態	単位数	2

授業の概要	本科目では、臨床および教育現場における疑問や問題について研究倫理を遵守し、科学的に解明・検証していくために必要となる妥当性・信頼性の高い質的研究方法および論文作成に関する基本的知識を学ぶ。		
到達目標とDPとの関連	【目標】 1) 看護研究の目的・意義について説明できる。DP-① 2) 質的研究の特徴および研究プロセスについて説明できる。DP-④ 3) 質的研究の種類や概念、データの収集および質的な分析方法について説明できる。DP-④ 5) 質的な看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的な方法について説明できる。DP-①④ 6) 質的研究における成果のまとめ方について発表できる。DP-④ 7) 具体的に質的な看護研究計画立案に向けた検討ができる。DP-④		
回数	内容	担当	
1	看護研究の概説、質的研究の概観	大森	
2	文献クリティック	佐藤	
3	看護研究における倫理：質的研究における倫理的配慮の特徴	大森	
4	質的研究論文の文献クリティックの実際：演習	佐藤	
5	質的研究における研究計画書について	大森	
6	質的研究の種類と特徴 (1) M-GTA (学生発表)	佐藤 大森	
7	質的研究の種類と特徴 (2) CTA (学生発表)	大森 佐藤	
8	質的研究の種類と特徴 (3) 内容分析 (学生発表)	佐藤 大森	
9	質的研究の種類と特徴 (4) 現象学 (学生発表)	大森 佐藤	
10	質的研究の種類と特徴 (5) エスノグラフィ (学生発表)	佐藤 大森	
11	質的データの収集 (1)	大森 佐藤	
12	質的データの収集 (2)	大森 佐藤	
13	データのコーディングと質的帰納的分析の実際 (1)	大森 佐藤	
14	データのコーディングと質的帰納的分析の実際 (2)	大森 佐藤	
講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)	提示した文献のクリティックを行い資料を作成する (3時間) 研究方法を1つ選び、その手法の特徴と方法について説明するための資料を作成する (3時間) 研究方法を1つ選び、学会誌からその手法を用いた原著論文を選定する (3時間) 質的データを分析して、カテゴリを抽出する (6時間)		
テキスト	1) ホロウエイ+ウイラー 野口美和子監訳 (2019)、ナースのための質的帰納的分析の入門 研究方法から論文作成まで 第2版、医学書院 2) グレック美鈴、麻原きよみ、横山美江編著 (2016)、よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして (第2版)、医歯薬出版。 3) 山川みやえ、牧本清子編著 (2020)、研究方法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文クリティック第2版、日本看護協会出版会。 1) 佐藤郁哉 (2017) フィールドワーク 権訂版 書を持って街へ出よう 新曜社 2) 大木秀一 (2013)、文献レビューのきほん-看護研究・看護実践の質を高める、医歯薬出版。 その他、授業内で適宜紹介する		
参考文献	[演習成果物] 60% (質的研究の種類と特徴:20%、クリティックレポート:20%、コーディング:20%) [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッションへの貢献度) [ブレゼンテーション] 10%		
評価方法	レゼンテーションおよびディスカッションを交えて進める。主体的な参加を期待する。		
その他			

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	地元創成看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	准教授：小川智子	選択/必修	必修
科目コード	I7070015	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要	<p>島根県内のフィールドにおいて、そこに暮らす地域住民やフィールドが抱える健康課題に関わる専門職および関係者と関わりながら地域の健康実態を的確に把握し、「地元」を創成する看護について探求する。</p> <p>1. 地域を共通の価値観や帰属意識をもつコミュニティとして捉えることができる。DP①</p> <p>2. Cultural humility 及び Cultural safety について探求できる。DP①</p> <p>3. コミュニティがもつ強みや資源を明らかにできる。DP①</p> <p>4. 健康課題解決につながる組織づくりや対策が提案できる。DP③</p> <p>*DP は研究者養成コースを示す</p>	
到達目標とDPとの関連	<p>回数</p> <p>内容</p> <p>担当</p>	
1-3	<p>事前学習：7月18日(土)①～③時限</p> <p>◇地元創成看護学について</p> <p>◇Community-based participatory research(CBPR)の概要とその進め方</p> <p>◇既存資料から見るフィールドの人々の暮らし</p>	
4-11	<p>フィールド学習：8月2日(日)～8月3日(月)の1泊2日</p> <p>◇Cultural humility 及び Cultural safety を意識した地区踏査(住民や関係者へのインタビュー含)を通して健康問題を抽出する</p> <p>◇コミュニティの強みや資源を明らかにする</p>	小川
12-13	<p>まとめ(課題解決に向けた提案)：8月16日(日)①②時限</p> <p>◇グループワーク</p> <p>テーマ：仮 課題解決につながる健康づくり</p>	
14	<p>報告会：8月16日(日)④時限</p>	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>【事前学修】</p> <p>フィールドがある自治体の人口統計や保健医療福祉に関する計画をホームページの公表資料から積極的に情報収集する</p> <p>【事後学修】</p> <p>事前学習とフィールド学習での体験を結び付け、フィールドで暮らしている人々に必要な看護について考える</p>	
テキスト	指定しない	
参考文献	<p>・地域保健に活かすCBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ、医歯薬出版株式会社、2010.</p> <p>・Methods in Community-Based Participatory Research for Health, Jossey-Bass, 2005.</p> <p>・R. エマソン 他；方法としてのフィールドノート、新曜社、2018</p> <p>・その他適宜紹介する。</p>	
評価方法	<p>以下により、総合的に評価する。提出物や提出締切等については、その都度通知する。</p> <p>事前学習：30%、フィールド学習：40%、報告会・まとめ：30%</p>	
その他	<p>・フィールドの状況により日程が変更になる場合があります。</p> <p>・宿泊費や交通費、食費などのフィールド学習に要する費用は全て自己負担である。</p>	

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	保健医療福祉政策論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	講師 祝原あゆみ	選択/必修	選択
科目コード	I7070010	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>保健医療福祉分野において看護職が果たすべき役割を理解するために、保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深める。</p> <p>また、地域医療におけるネットワークの現状も理解し、実際的にどのようなシステム活用により連携が行われているのか、探索的に学び、地域包括ケアについて理解を深める。</p> <p><到達目標></p> <p>1) 保健医療福祉に関する諸計画を理解し、看護職が果たす役割を述べることができる。</p> <p>2) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と課題を述べるができる。</p> <p>3) 人々の生活を取り巻く社会問題と保健医療福祉制度の課題を理解し、看護職が果たす役割と多職種との協働のあり方を述べるができる。</p> <p><DP との関連 (各目標共通)></p> <p>研究者養成コース DP2・3、高度実践者コース (助産学) DP3、高度実践者コース (NP) DP3・4</p>	
到達目標とDPとの関連	<p>回数</p> <p>内容</p> <p>担当</p>	
1	オリエンテーション・政策形成とPDCAサイクル	祝原
2	保健医療福祉サービスに関わる諸計画	
3	適切に医療を提供するための計画	
4	疾病予防や健康づくりを推進するための計画	
5	福祉を推進するための計画	
6	地域共生社会の構築と看護職の役割	
7	地域包括ケアシステムと多職種の協働 (1)	
8	地域包括ケアシステムと多職種の協働 (2)	
9	地域包括ケアシステムと多職種の協働 (3)	
10	こども政策における看護職の役割 (1)	指定した研修会に参加
11	こども政策における看護職の役割 (2)	
12	災害支援における多職種の協働	祝原
13	少子高齢化と人口減少が進む社会における地域医療政策	
14	島根県における地域医療政策/まとめ	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>・ 初回講義時に、担当するプレゼンテーションのテーマを決めます。テーマの内容が他の受講者に十分説明できるよう、文献等を調べ主体的に準備してください。プレゼン担当者以外の学生も、積極的に意見交換ができるよう、事前学習をして参加してください。</p> <p>・ 授業の中で関連する論文を読み、意見交換を行います。論文クリティクの基本を理解して参加してください。</p>	
テキスト	適宜、資料を配布します。	
参考文献	<p>島根県保健医療計画</p> <p>厚生省指図書臨時増刊「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」</p> <p>必要に応じて紹介するが、基本的には自ら文献検索し、熟読しておくこと。</p>	
評価方法	<p>課題レポート50%、授業態度(授業への取り組み姿勢・ディスカッション・プレゼンテーション)50%によって評価する</p>	
その他	<p>・ 原則として遠隔授業形式で行いますが、内容によっては対面授業を行う場合があります。</p> <p>・ 担当するテーマを決め、プレゼンテーションを行います。</p> <p>・ 各テーマについて参加者同士のディスカッションを行い、理解を深めます。</p>	

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	データサイエンス論	学期	春学期
担当教員	滋賀大学准教授 江崎剛史 (非常勤講師)	選択/必修	選択
科目コード	I7070215	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	現代社会におけるデータサイエンス・AIの重要性とその価値を認識し、データの収集から解析、そして活用方法の一連を理解する。また、データサイエンスにおけるリスクや倫理を理解し、正しいデータ管理能力を身につけることを目指す。	
到達目標とDPとの関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. データサイエンスおよびAIが社会で果たす役割とその背景・将来展望について理解できる。DP② 2. データ倫理、個人情報保護、情報セキュリティの基本原則を理解し、責任あるデータ活用の重要性を説明できる。DP① 3. PPDAC サイクルに基づき、データの収集・整理・可視化・分析・解釈の一連の流れを体系的に理解できる。DP① 4. 統計的手法および統計による手法、AIを含む主要なデータ分析手法の特徴と活用場面を理解する。DP① 5. オープンデータや生成AIを含むデータサイエンス・AI技術を活用し、実社会の問題解決や将来の応用可能性について考察できる。DP②④ <p>*DP は研究者養成コースを示す</p>	
回数	内容	担当
1	データサイエンスの役割と社会的背景、ガイダンス	
2	データ倫理と個人情報保護	
3	情報セキュリティ	
4	データサイエンスのPPDACサイクルと実例	
5	データの種類と主要な記述統計量	
6	データの可視化	
7	オープンデータとデータ収集	江崎
8	解析の方法と必要な技術 (統計的分析)	
9	解析の方法と必要な技術 (統計による手法)	
10	人工知能 (AI)	
11	解析の方法と必要な技術 (AIによる分析)	
12	AI技術の動向と生成AI	
13	生成AIの利活用	
14	データサイエンス・AIの未来・まとめ	
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	<p>【事前学修】 データサイエンスおよびAIが社会でどのように活用されているかについて、新聞・Web記事等を通して概観する。</p> <p>【事後学修】 自身の専門分野や実務においてデータが関わっている場面や、今後データ活用が期待される課題などを整理する。</p>	
テキスト	必要に応じて提示する。	
参考文献	竹村彰彦他 (2021) : データサイエンス入門 第2版, 学術図書出版社 山崎達也 (2020) : データサイエンス概説, 学術図書出版社 福岡真之介 (2022) : AI・データ倫理の教科書, 弘文社	
評価方法	授業態度 (40%)、レポート (60%)	
その他	原則として、授業は遠隔授業にて行います。 レポート課題は2課題予定します。	

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	健康栄養特論 I	学期	秋学期
担当教員	非常勤講師 谷村 綾子、澤 幸子	選択/必修	選択
科目コード	I7070011	授業形態	講義、演習
		単位数	2

授業の概要	妊娠・胎児期の栄養を主要テーマとしつつ、さらにライフステージごとに必要な栄養や、疾病予防に関わる専門知識について取り上げ、対象者の問題点を的確に捉え、解決に向けて栄養に関する必要な考え方を深める。さらに、個々の事例に対応できるようにするために、妊婦への栄養に関する指導についての実践的な講義・演習も行う。	
到達目標とDPとの関連	<ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養の概念と意義について、根拠をもって説明することができる。(助産DP1) 2) 栄養・食生活と健康との関連について説明することができる。(助産DP1) 3) ライフステージを通じて適切な栄養管理を行うことの意義を理解することができる。(助産DP2) 4) ライフステージを通じた栄養管理・食育の意義を理解することができる。(助産DP1、助産DP2) 5) 栄養に関する指導についての実践的な知識・技術を習得することができる。(助産DP2) 	
回数	内容	担当
1	栄養とは、栄養素について、情報の見極め方	谷村
2	食事摂取基準、日本人の食生活の現状と課題	谷村
3	栄養評価、個人の評価	谷村
4	食事バランスガイド	谷村
5	妊婦、産褥期、胎児期の栄養	谷村
6	小児期の栄養1 授乳期 (新生児期～乳児期)	谷村
7	小児期の栄養2 離乳期 (乳児期～幼児期)	谷村
8	小児期の栄養3 幼児食 (幼児期)、学童期、思春期	谷村
9	高齢期の栄養	谷村
10	在宅における栄養ケア、災害時の栄養・食生活支援	澤
11	生活習慣病と栄養 (妊娠糖尿病等を含む)	谷村
12	歯の疾患と予防	谷村
13	栄養カウンセリングの基本的技法 (演習)	澤
14	妊産婦における栄養カウンセリングの実践 (演習)	澤
	試験	
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	<p>事前学修：演習では前もって関連資料を読み込んでおく。</p> <p>事後学修：習った内容を復習しておくこと。質問があれば感想欄に記載する。</p> <p>また、課題等を行うことがある。</p>	
テキスト	必要に応じて資料を配布する。	
参考文献	日本人の食事摂取基準 (2025年版) 国民健康・栄養調査 授乳・離乳の支援ガイド (2019年改訂版) その他、有戸や学会のガイドラインを用いる	
評価方法	[試験] 70%、[演習] 20%、[受講態度 (授業への取り組み姿勢等)] 10%	
その他	授業実施方法：講義は原則として遠隔 (リアルタイムカメラオンデマンド) で行う。演習は対面で行う。 実施期間：9月後半から開始し、12月中に終了する	

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	疫学・保健統計学特論	学期	秋学期
担当教員	非常勤講師 大城 等	選択/必修	選択
科目コード	I7070216	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要
人間集団の健康事象と様々な影響する要因を、分析から介入、評価する手法を理解する。調査および実験から得られたデータの意味を正しく理解する能力を習得する。

- 到達目標とDPとの関連
1. 疫学の基本概念および主要な研究デザイン（記述疫学、観察研究、介入研究）を理解し、健康事象の分布や要因を科学的に捉えることができる。(DP①)
 2. 危険因子の指標、偏りや交絡、スクリーニング指標などを理解し、疫学研究結果を適切に解釈・評価できる。(DP①)
 3. 保健医療分野のデータを対象に、記述統計から多変量解析・生存時間解析までの統計解析手法を理解し、Excel や SPSS を用いて実践的に分析・考察できる。(DP②③)

回数	内容	担当
1	疫学の定義と基礎	大城
2	疫学研究方法	
3	記述疫学、症例対照研究、コホート研究、介入研究	
4	危険因子の指標	
5	曝露と疾病、相対危険・相対危険・寄与危険・人口寄与危険割合など	
6	偏りと交絡	
7	スクリーニング	
8	感度・特異度・陽性反応的中度、ROC 曲線	
9	統計解析の基礎 1 データの要約 (代表値・分布・散布度)	
10	統計解析の基礎 2 相関と回帰	
11	統計解析手法 1 推定 (平均、割合、相関係数、回帰直線)、信頼区間	
12	統計解析手法 2 検定 (パラメトリックおよびノンパラメトリック検定、多重比較)	
13	統計解析手法 3 多変量解析 (重回帰・多重ロジスティック回帰分析・判別分析等)	
14	統計解析手法 4 時系列解析、生存時間解析、生命表	
15	EXCEL および SPSS を用いた架空データ演習	

講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)

【事前学習】
各講義で示している用語の意味を調べておくことよ

【事後学習】
毎回の講義を録音するので、資料とあわせて復習するとよい

必要に応じて提示する。

テキスト
IBM SPSS Statistics 27 Core System ユーザーズ・ガイド
(https://www.ibm.com/docs/en/SSLVMB.27.0.0/pdf/ja/IBM.SPSS.Statistics.Core_System_User_Guide.pdf)

参考文献
受講態度 50%、課題・演習レポート 50%

評価方法
集中講義による対面講義を実施する。
受講者の理解状況により、内容を変更しながら行う

その他

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	教授 大森重登	選択/必修	選択
科目コード	I7070102	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要
精神看護の実践の基礎となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。実践の場で出会う主な疾患とその治療法、看護ケアを行うためのアセスメント方法について探求する。
精神科医療における主な治療を理解するとともに看護師の役割を探求し、治療的アプローチの根拠と技法を習得する。
精神的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について探求する。

- 到達目標とDPとの関連
1. 精神を病む対象に必要な看護ケアを行うためのアセスメントができる。DP-①
 2. 精神科医療における主な治療を理解し、治療的アプローチの根拠と技法を実践できる。DP-①
 3. 精神的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について述べる事ができる。DP-②

回数	内容	担当
1	生物-心理-社会モデルを使った生物学的・心理学的・社会的側面からの対象理解	大森
2	精神力動論の理解と看護への適用	大森
3	自我発達理論の理解と看護への適用	大森
4	精神科臨床におけるセルフケア理論の活用	大森
5	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (統合失調症)	大森
6	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (感情障害)	大森
7	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (不安障害・PTSD)	大森
8	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (アディクション)	大森
9	精神科における主な治療と課題	大森
10	理論と実践の統合：対象関係論	大森
11	理論と実践の統合：精神分析	大森
12	理論と実践の統合：集団療法	大森
13	理論と実践の統合：認知行動療法	大森
14	事例検討-対象理解と自己理解	大森

講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)

主な精神疾患を 2 つ取り上げ、治療・看護・看職・教育的アプローチについてまとめることができる (6 時間)
自身が関わった事例をまとめる (6 時間)

テキスト
ルイス・アロン/著 横井公一/監訳：こころの出会いー精神分析家としての専門技能を習得するー、金剛出版
松木邦裕：対象関係論的心理学入門、金剛出版

参考文献
B. J. Sadock & V. A. Sadock (2005/2015). 井上合一(監訳). カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 (第3版). メディカル・サイエンス・インテンションナル.
笠井博登(編). 2020. 講座精神疾患の臨床 統合失調症. 中山書店.
神庭直信(編). 2020. 講座精神疾患の臨床 気分障害. 中山書店.

評価方法
【レポート・学習成果物】 60% (レポートフォリオに蓄積された学習成果物)
【受講態度】 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)
【プレゼンテーション】 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)

その他
課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	成人・老年看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 奥山真由美 教授 大谷美樹 准教授 佐藤美紀子	選択/必修	選択
科目コード	I7070154	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の概要	成人期または老年期にある患者と家族の状況を理解するために必要な主要な理論や概念、モデルについて理解し、事例を通して看護実践への活用を探究する。		
到達目標とDPとの関連	1. 成人期または老年期にある患者と家族の状況を理解するために必要な主要な理論や概念、モデルについて理解できる。(DP1) 2. 学修した理論や概念、モデルについて看護実践への活用を探究できる。(DP1、4)		
回数	内容	担当	
1	生涯発達理論、エンパワメント、ストレングスモデル	奥山	
2	生涯発達理論、エンパワメント、ストレングスモデル；活用事例	奥山	
3	セルフオート理論	奥山	
4	セルフオート理論；活用事例	奥山	
5	セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡	佐藤	
6	セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡；活用事例	佐藤	
7	健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル	佐藤	
8	健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル；活用事例	佐藤	
9	ストレス・コーピング理論	大谷	
10	ストレス・コーピング理論；活用事例	大谷	
11	危機理論	大谷	
12	危機理論；活用事例	大谷	
13	家族アセスメントモデル、家族システム理論	奥山	
14	家族アセスメントモデル、家族システム理論；活用事例、まとめ	奥山	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	【事前学修】 課題に関する事例を選定し、資料を作成し、プレゼンテーションの準備をすること。 【事後学修】 学習内容の復習を行い、看護実践への活用を探究すること。		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、メチカルフレンド社 授業の中で、適宜紹介する		
評価方法	課題（プレゼンテーション：40%、資料30%）、授業での取り組み（質疑応答：30%）		
その他	質問がある場合は、学内電子メールで連絡をいただければ即時設定します。		

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論Ⅱ	学期	秋学期
担当教員	○教授 大森真澄 非常勤講師 石橋照子	選択/必修	選択
科目コード	I7070103	授業形態	授業
		単位数	2

授業の概要	精神保健福祉の歴史の変遷を踏まえ、精神保健福祉制度と体制について学び、社会資源としての関係法を理解する。さらに、精神保健福祉と精神医療の今日的課題と今後の展望について探求する。精神科リハビリテーションからリカバリーまで精神障害を持つ人の支援に関する諸理論を理解し、精神障害を持つ人の退院促進と地域生活促進に向けた支援を探究する。		
到達目標とDPとの関連	1. 精神保健福祉に関する社会資源を関係法規と結びつけて述べることができる。DP-① 2. 精神障害者のリハビリテーションに必要な理論や概念を説明することができる。DP-② 3. 精神障害者の退院促進と地域生活促進に向けた支援を考案できる。DP-②		
回数	内容	担当	
1	オリエンテーション 学習内容と課題・目標の設定	大森	
2	精神保健福祉の制度と体制の変遷	大森	
3	精神保健福祉に関する法律と今後の課題	大森	
4	精神保健福祉及び精神医療における最近のトピックス	大森	
5	社会資源としての関係法規（障害者総合支援法、障害者の雇用促進に関する法律など）	大森	
6	精神科リハビリテーションの方法と展開	大森	
7	エンパワメント理論の活用	石橋	
8	ストレングスモデルの活用	石橋	
9	リカバリーの概念と実践	石橋	
10	精神障害を持つ人の訪問看護	石橋	
11	精神障害を持つ人の就労支援	石橋	
12	これまでに学んだ方法を用いて、具体的な事例検討し包括的アセスメントと援助の方向性をまとめ考察する。	大森	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	精神科リハビリテーションに必要な概念をまとめ資料を作成する（6時間） 具体的な事例を用いて、退院支援の提案をまとめる（6時間）		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	・リバーマン著『精神科リハビリテーション』：R. P. リバーマン編 安西信雄・池淵恵美（監訳）、創 造出版、2005 ・精神保健福祉白書 2018/2019～多様性と包括性の構築：精神保健福祉白書編集委員会、中央法 規出版、2018 ・ICF（国際生活機能分類）の理解と活用 一人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとら えるか；上田敏、萌文社、2005 ・これからの保健医療福祉行政論：星且二・麻原きよみ編集、日本看護協会出版会、2022 ・ストレングスモデルリカバリー志向の精神保健福祉サービス；チャールズ・A. ラップ、リチャード・ J. ゴスチャヤ（著）、田中 英樹（監訳）、金剛出版、2014 ・リカバリー—希望をもたらすエンパワメントモデル；カタナ・ブラウン、坂本明子、金剛出版、2012 〔レポート・学習成果物〕60%（ポートフォリオに蓄積された学習成果物） 〔受講態度〕30%（授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容） 〔プレゼンテーション〕10%（学習課題に合ったプレゼンテーション）		
評価方法	レポート・学習成果物 60%（ポートフォリオに蓄積された学習成果物） 〔受講態度〕30%（授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容） 〔プレゼンテーション〕10%（学習課題に合ったプレゼンテーション）		
その他			

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	成人・老年看護学特論II	学期	秋季学期
担当教員	○教授 大谷達樹 教授 奥山真由美 准教授 佐藤美紀子	選択/必修	選択
科目コード	I7070155	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の概要
成人期または老年期にある患者と家族の現状、看護実践における課題と課題の解決方法について理解し、事例または研究を通して看護実践への応用を探究する。

- 到達目標とDPとの関連
1. 成人期または老年期にある患者と家族の現状、看護実践における課題と課題の解決方法が理解できる (DP1・3)。
 2. 看護実践における課題と課題の解決方法に関する知見を基盤に、事例または研究を通して看護実践への応用を探究できる。(DP1、3、4)。

回数	内容	担当
1	治療における看護の現状と課題	大谷
2	療養における看護の現状と課題	大谷
3	緩和ケアの現状と課題	大谷
4	エンド・オブ・ライフケアの現状と課題	大谷
5	意思決定支援の現状と課題	大谷
6	慢性疾患患者・家族の療養生活の現状と課題	佐藤
7	慢性疾患セルフマネジメントプログラム	佐藤
8	セルフマネジメントスキルを高める看護実践：事例	佐藤
9	セルフマネジメントスキルを高める看護実践：事例	佐藤
10	老年症候群（脱水症・低栄養）を有する患者に対する看護の現状と課題	奥山
11	老年症候群（フレイル・運動器症候群）を有する患者に対する看護の現状と課題	奥山
12	老年症候群（MCI・認知症）を有する患者の看護の現状と課題	奥山
13	高齢者のリスクマネジメントに関する看護の現状と課題：転倒・転落、せん妄	奥山
14	第1～13回全体の意見交換、まとめ	大谷

【事前学修】
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)
課題に関する事例または先行研究を選定し、資料を作成し、プレゼンテーションの準備をすること。

【事後学修】
学習内容の復習を行い、看護実践への応用を探究すること。

特に指定しない

テキスト
・牧本清子他、研究手法別のチェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティイーク、日本看護協会出版会

参考文献
授業の中で、適宜紹介する

評価方法
課題（プレゼンテーション：40%、資料30%）、授業での取り組み（質疑応答：30%）

その他
質問がある場合は、学内電子メールで連絡をいただければ対応いたします。

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	地域看護学特論I	学期	春季学期
担当教員	教授：小田美紀子	選択/必修	選択
科目コード	I7070156	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要
ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解し、地域の特性を把握・分析をもとに、生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発、コミュニティ開発を探究する。

- 到達目標とDPとの関連
1. ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解できる (DP1・3)。
 2. 我が国の地域特性の把握・分析をもとに、健康課題が説明できる (DP3)。
 3. 出産や育児を取り巻く健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる (DP2・3)。
 4. 成人や高齢者の健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる (DP2・3)。
 5. 健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発が探究できる (DP1・3)。

回数	内容	担当
1	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念	小田
2	社会の変化と健康課題	小田
3	出産や育児を取り巻く健康課題からみた健康課題と保健施策の変遷	小田
4	母子保健行政の体系	小田
5	地域母子（親子）保健活動の実際	小田
6	学校保健行政の構造と性教育	小田
7	子育て支援による虐待や事故予防とヘルスプロモーション	小田
8	親子保健活動におけるアプローチ*	小田
9	成人・高齢者保健に関する保健行政の体系	小田
10	介護保険制度と地域包括ケアシステム	小田
11	成人・高齢者保健におけるアプローチ*	小田
12	生涯の健康づくりに関するポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ	小田
13	生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発**	小田
14	まとめ・筆記試験	小田

【事前学修】
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)
・毎回、授業内容に関する事前学修を行うこと。
・※印のある回については、プレゼンテーションの準備を行うこと。

【事後学修】
・授業内容の復習を行い、看護の実践や自己の研究課題の探究を行うこと。

テキスト
必要に応じて提示する。

参考文献
[コミュニティ アズ パートナー] 編集：リサ・バース T. アーダー/リズ・ゴッイク・マリアン、医学書院
[地域づくり型保健活動のすすめ] 著：岩永俊博、医学書院
[実践ヘルスプロモーション] 著：ロリス W. グリン/マンフレ W. 加伊、医学書院
[地域看護活動とヘルスプロモーション＜全4巻＞DVD] 監修：佐々木明子、他、丸善出版
[純・地域看護活動とヘルスプロモーション＜全4巻＞DVD] 監修：佐々木明子、他、丸善出版
[国民衛生の動向] 最新版、厚生労働統計協会
その他、必要に応じて紹介する。

評価方法
筆記試験 50%、授業への取り組み姿勢やプレゼンテーション* (資料含む) 50%で評価する。

その他
・この科目は、原則としてリモートで開講する。

<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型学習 PBL (Project-Based Learning) を意識して授業を展開するため、受講者の自主性・自律性を重んじ、課題の解決をねらいとする。 ・自らの生活や健康観を見つめなおし、個人・家族・組織・集団・地域それぞれの視点で、ポピュレーションアプローチの視点から健康づくりを探究するとともに、地域特性と自助・互助・共助・公助による地域づくりとエンパワメントを関連づけて捉えてほしい。

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	地域看護学特論Ⅱ	学期	秋学期
担当教員	○教授 山口秋弥	選択/必修	選択
科目コード	I7070157	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>地域保健医療に関するわが国の現状と課題を探索し、地域に根ざした保健医療を展開する理論と方法を探究することによって、地域保健医療のリーダーとして、人々の生活実態に即した課題解決できる力を高める。具体的には、地域保健医療に関する諸外国とわが国の現状、がんを中心とした生活習慣病や認知症予防、自死防止、介護予防に係わる保健活動など、ハイリスクアプローチについて探究する。</p> <p>【授業の目的】 我が国における地域保健医療に関する現状と課題を理解し、地域特性に根差した保健医療および、人々の生活実態に即した保健・看護活動を展開する理論と方法を探索する。</p> <p>【授業の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国における地域保健医療に関する現状と課題を理解できる。 DP1 2. 地域特性に根差した保健・医療を展開する理論と方法について探求できる。 DP2 3. 地域に暮らす人々の生活実態に即した課題解決方法について探求できる。 DP2 		
到達目標とDPとの関連			
回数	内容		担当
1	オリエンテーション 健康行動の主な理論・概要		山口
2	健康行動の主な理論・概要		山口
3	社会環境の変化に伴う健康問題と要因		山口
4	健康に影響を及ぼす要因		山口
5	人口動態・静態と地域保健の概要		山口
6	地域保健・医療・福祉に関する現状と課題の探求 母子保健		山口
7	地域保健・医療・福祉に関する現状と課題の探求 母子保健		山口
8	保健・医療・福祉に関する現状と課題の探求 生活習慣病		山口
9	保健・医療・福祉に関する現状と課題の探求 生活習慣病		山口
10	地域保健・医療・福祉に関する現状と課題の探求 高齢者		山口
11	地域保健・医療・福祉に関する現状と課題の探求 高齢者		山口
12	地域保健・医療・福祉に関する現状と課題の探求 在宅療養者		山口
13	地域保健・医療・福祉に関する現状と課題の探求 在宅療養者		山口
14	まとめ		山口
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	<p>事前：各回のテーマに関連する関連文献等を確認し、論点を整理して受講する。 事後：講義内容に関する文献を精査し、理論と地域課題を研究的視点で再構築する。</p>		
テキスト	必要に応じて提示する		
参考文献	必要に応じて提示する		
評価方法	<p>以下の内容から総合的に評価する。</p> <p>① 課題 (資料30%、プレゼンテーション40%) 毎回授業への取組み (姿勢、討議30%)</p>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実施方法は、原則遠隔授業とする。受講者の状況等によっては、変更する場合があるが、事前に確認しながら進めていく。 ・課題の自己学習とプレゼンテーションを行い、ディスカッションにより理解を深める。 		

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	母性・小児看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 高橋恵美子 教授 井上千晶 准教授 中谷陽子	選択/必修	選択
科目コード	17070158	授業形態	講義、演習

(*) 別表2：基礎助産学

授業の概要	<p>《目的》</p> <p>ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題を理解し、女性と子どもの健康維持・増進、疾病の予防さらに健康課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた看護実践の活用方法、看護職の役割について探究する。</p> <p>1. ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題を理解できる。 (助産DPI、2 研究者コースDPI、2)</p> <p>2. 母性看護学ならびに小児看護学の対象となる人々の健康の維持・増進、疾病の予防、健康課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた看護実践の活用や健康課題解決に向けた看護職の役割を探究できる。 (助産DPI、2、3 研究者コースDPI、2、3)</p>																																													
到達目標とDPとの関連																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>女性のライフサイクルにおける発達と健康課題、理論、研究の動向</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>女性の健康課題と支援 (1)：ヘルスポモーションとリプロダクティブヘルス/ライツ</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>女性の健康課題と支援 (2)：セクシュアリティとジェンダー</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>女性の健康課題と支援 (3)：思春期・青年期</td> <td>中谷</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>女性の健康課題と支援 (4)：プレコンセプション</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>女性の健康課題と支援 (5)：マタニティヘルス</td> <td>中谷</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>女性の健康課題と支援 (6)：更年期・老年期</td> <td>中谷</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>女性の健康課題と支援 (7)：メンタルヘルス</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>女性の健康課題と支援 (8)：周産期の死、グリーフケア</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これからの母性看護に向けた看護職の役割と課題：クリティーク (プレゼンテーション)</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>子どもの発達過程と発達課題、理論、研究の動向</td> <td>高橋</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>子どもの健康課題と支援 (1)：乳児期・幼児期</td> <td>高橋</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>子どもの健康課題と支援 (2)：学童期・病児、障がい児への支援</td> <td>高橋</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これからの小児看護に向けた看護職の役割と課題：クリティーク (プレゼンテーション)</td> <td>高橋</td> </tr> </tbody> </table> <p>事前：10について初回講義内で課題を提示します。12-13は子どもの発達過程について、事前に復習し まとめておいてください。 事後：授業内での質問応答やディスカッションでの学びについて、授業後に整理し学習を深めること。</p>	回数	内容		1	女性のライフサイクルにおける発達と健康課題、理論、研究の動向	井上	2	女性の健康課題と支援 (1)：ヘルスポモーションとリプロダクティブヘルス/ライツ	井上	3	女性の健康課題と支援 (2)：セクシュアリティとジェンダー	井上	4	女性の健康課題と支援 (3)：思春期・青年期	中谷	5	女性の健康課題と支援 (4)：プレコンセプション	井上	6	女性の健康課題と支援 (5)：マタニティヘルス	中谷	7	女性の健康課題と支援 (6)：更年期・老年期	中谷	8	女性の健康課題と支援 (7)：メンタルヘルス	井上	9	女性の健康課題と支援 (8)：周産期の死、グリーフケア	井上	10	これからの母性看護に向けた看護職の役割と課題：クリティーク (プレゼンテーション)	全員	11	子どもの発達過程と発達課題、理論、研究の動向	高橋	12	子どもの健康課題と支援 (1)：乳児期・幼児期	高橋	13	子どもの健康課題と支援 (2)：学童期・病児、障がい児への支援	高橋	14	これからの小児看護に向けた看護職の役割と課題：クリティーク (プレゼンテーション)	高橋
回数	内容																																													
1	女性のライフサイクルにおける発達と健康課題、理論、研究の動向	井上																																												
2	女性の健康課題と支援 (1)：ヘルスポモーションとリプロダクティブヘルス/ライツ	井上																																												
3	女性の健康課題と支援 (2)：セクシュアリティとジェンダー	井上																																												
4	女性の健康課題と支援 (3)：思春期・青年期	中谷																																												
5	女性の健康課題と支援 (4)：プレコンセプション	井上																																												
6	女性の健康課題と支援 (5)：マタニティヘルス	中谷																																												
7	女性の健康課題と支援 (6)：更年期・老年期	中谷																																												
8	女性の健康課題と支援 (7)：メンタルヘルス	井上																																												
9	女性の健康課題と支援 (8)：周産期の死、グリーフケア	井上																																												
10	これからの母性看護に向けた看護職の役割と課題：クリティーク (プレゼンテーション)	全員																																												
11	子どもの発達過程と発達課題、理論、研究の動向	高橋																																												
12	子どもの健康課題と支援 (1)：乳児期・幼児期	高橋																																												
13	子どもの健康課題と支援 (2)：学童期・病児、障がい児への支援	高橋																																												
14	これからの小児看護に向けた看護職の役割と課題：クリティーク (プレゼンテーション)	高橋																																												
テキスト	指定なし																																													
参考文献	<p>日本産婦人科学会・日本産婦人科医会 (2023), 産婦人科診療ガイドライン産科編 2023 岡明 (2020), 小児の医療倫理 ケーススタディ, メディカルサイエンスインタナーナショナル 二宮啓子, 今野美紀編集, 小児看護学Ⅰ, 南江堂 (2025)</p>																																													

奈良間美保代表, 系統看護学講座 小児看護学 [1], 医学書院 (2024)
課題・成果物 (プレゼンテーション: 60%), 授業態度 40% (取り組み姿勢・ディスカッション参加)
その他

科目分類	専門科目	対象学年	1	
授業科目	母性・小児看護学特論II	学期	秋学期	
担当教員	○井上千晶、高橋恵美子、中谷陽子、非常勤講師 荒木もも子 矢田昭子	選択/必修	選択	
科目コード	I7070159 授業形態 講義・演習	単位数	2	
(※) 別表2：基礎助産学				
授業の概要	ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題と多様な社会背景をも影響要因について理解する。ウィメンズヘルス・マタニティヘルスへの支援、地域における女性と家族・子どもの安寧な暮らしを支援するためのヘルスアセスメントと科学的根拠に基づいた看護方法を探究する。			
到達目標とDPとの関連	1. ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題と多様な影響要因を理解できる。研究者コースDP1、2、助産DP1、2 2. 地域における女性と家族・子どもの安寧な暮らしを支援するためのヘルスアセスメントと科学的根拠に基づいた看護方法を探究できる。研究者コースDP1、2、3 助産DP1、DP2、DP3			
授業の内容	回数	内容	担当	
	1	女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：ドメスティックバイオレンス(DV)・性暴力等 (招致講義)	井上	
	2-3	女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：骨盤底機能の回復 [招致講義：理学療法士 山本美由子氏・山本健太氏]	井上	
	4-5	女性と子ども・家族の健康と暮らしの支援：女性の生活習慣病	中谷	
	6-7	女性と子ども・家族の健康と暮らしの支援：虐待・特別な支援を必要とする親子・児童虐待防止研修 (出雲市共同事業) の講義に振り替える場合あり	高橋	
	8	女性と子ども・家族の健康と暮らしの支援：在日外国人女性の健康課題	高橋	
	9	女性と子ども・家族の健康と暮らしの支援：災害時における母子の看護	中谷	
	10-12	女性と子ども・家族の医療ケア：出生前診断を受ける女性と家族への看護 *島根大学大学院医学系研究科助産学コースと合同演習*	荒木	
	13	女性と子ども・家族の医療ケア：島根県医療的ケア児支援センターの取り組みと課題	矢田	
	14	女性と子ども・家族への医療ケア：女性と子ども・家族の安寧な暮らしを支援する看護方法とは	井上	
	講義のために必要な自己学習(事前・事後)	事前：10-12 は講義前に事前課題を提示します。各回のテーマについて情報収集を行うこと。14 はこれまでの講義を踏まえて各自意見をまとめておくこと。 事後：6-7、10-13 講義後はリフレクションシートにて学習内容と課題を整理すること。講義内では質問・発言し学習を深めてください。		
	テキスト	特に指定しない		
	参考文献	適宜文献・図書を紹介する。 共同通信社社会部編「わが子よ―出生前診断、生殖医療、生みの親、育ての親」、現代書館:2014。 関沢明彦編著「周産期遺伝カウンセリングマニュアル 改訂4版」、中外医学社 関沢明彦 編著「生殖医療遺伝カウンセリングマニュアル」、中外医学社 中込さとこ、基礎から学ぶ遺伝看護学「継承性」と「多様性」の看護学、羊土社		

	田原卓浩総編集、移行期医療 子どもから成人への架け橋を支える、中山出版、2015。 木村真実、長谷川泰編集、多様な生活環境にある子どもへの対応―障害・不登校・生活困窮・児童虐待・外国人など―、新日本法規、2022。 [レポート・学習成果物] 60% [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) [プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)
評価方法	
その他	

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 岡安誠子 教授 川瀬波子 准教授 高橋梢子	選択/必修	選択
科目コード	17070115	授業形態	講義・演習
授業の概要	看護基礎教育、臨床で教育の役割を担う看護者が、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また医療従事体制の変化に伴い、より自律して判断し実践できる看護職の養成のニーズに応えていくために看護教育の課題を検討し、問題解決に向け考察する。		
到達目標とDPとの関連	① 看護教育の歴史的変遷を学び、今日の看護教育の問題点や課題について考察できる。DP1 ② 教育活動の展開を支える理論等の学修を活かし、教育活動をデザインできる。DP1		
回数	内容	担当	
1	【講義】 ガイダンス・看護教育学の意義と目的	岡安	
2	【講義】 看護教育制度（看護基礎教育・卒後教育）と関連法規	岡安	
3	【講義】 カリキュラム開発	岡安	
4	【演習】 授業展開・教授活動に活用される理論 (1) プレゼンテーション	岡安	
5	【演習】 授業展開・教授活動に活用される理論 (2) プレゼンテーション	岡安	
6	【講義】 継続教育における現状と課題	岡安	
7	【講義】 インストラクショナル・デザイン理論 (1)	岡安	
8	【講義】 インストラクショナル・デザイン理論 (2)	岡安	
9	【講義・演習】 アクティブ・ラーニング	川瀬	
10	【講義・演習】 ワークショップ・デザイン	高橋	
11	【演習】 授業デザイン (オリエンテーション)：準備	岡安・川瀬・高橋	
12	【演習】 授業デザイン：実施 [集中]	岡安・川瀬・高橋	
13	【演習】 授業デザイン：実施 [集中]	岡安・川瀬・高橋	
14	【演習】 成果発表・リフレクション [集中]	岡安・川瀬・高橋	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	・積極的に参考文献などを活用し学習してください。 ・学習した知識を自己の学習経験あるいは理職等での教育活動と結びつけて知識の統合を図り、活用できる知識へと変容させるよう心がけてください。		
テキスト	適宜、授業内で提示する。		
参考文献	Diane M. Billings, Judith A. Halstead, 佐々木 幾美, 奥宮 睦子, 小林 美子監訳 (2021)：看護を教 授すること 原著第6版 大学教員のためのガイド、医歯薬出版 杉森みどり, 舟島なをみ (2024)：看護教育学 第8版、医学書院 グレッグ美鈴, 池西悦子 (2024)：看護教育学 第3版、南江堂 適宜、授業内で紹介する。		
評価方法	【レポート】30% (最終レポート：その他に概要を記載) 【演習の成果】30% (第11回～第14回の授業デザイン・ワークショップ) 【プレゼンテーション】30% (第4回、第5回のプレゼンテーション) 【授業への参加】10% (授業へのコメント、問題発見および解決への努力への行動) ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法 (資料) 等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。		
その他	・授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 ・原則、授業は「遠隔授業」とするが、授業デザイン・ワークショップは対面授業とする。		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論Ⅱ	学期	秋学期
担当教員	○教授 川瀬波子 准教授 高橋梢子 准教授 平井由佳	選択/必修	選択
科目コード	17070116	授業形態	講義
授業の概要	[目的] 教育方法論及び学習理論を活用しながら、看護実践力の向上につながる看護基礎教育および継続教育において教育方法や教材の開発を探究する。シミュレーション等、学生参加型授業の開発およびヒューマン・ネットワーク、省察を通して実践的な教育力の向上について探究する。 [目標] ① 看護教育の特徴とその評価法、教授—学習過程の構造、学生参加型授業とその教授法について説明できる。DP1 ② 自己教育力の育成とその評価法について探究し、意見を述べるができる。DP1 ③ シミュレーションの授業設計や評価を学修し、具体的な方法について検討できる。DP1 ④ 専門職としての倫理観、臨床判断能力を含めた看護教育上の課題を明らかにし、教育的方策について考察できる。DP1		
回数	内容	担当者	
1	【講義】 ガイダンス・看護教育における方法論	川瀬	
2	【講義】 実習教育法	平井	
3	【講義】 協同学習法	高橋	
4	【演習】 教育における対話と省察 (1) [集中]	高橋・川瀬・平井	
5	【演習】 教育における対話と省察 (2) [集中]	高橋・川瀬・平井	
6	【演習】 教育における対話と省察 (3) [集中]	高橋・川瀬・平井	
7	【演習】 教育における対話と省察 (4) [集中]	高橋・川瀬・平井	
8	【講義】 シミュレーション教育 (1) 構造と理論・シナリオ設計と教育技法	川瀬	
9	【講義】 シミュレーション教育 (2) 評価とフィードバック・学習環境のデザイン	川瀬	
10	【演習】 シミュレーション教育 (3) シミュレーション教育設計の実際 [集中]	川瀬・高橋・平井	
11	【演習】 シミュレーション教育 (4) シミュレーション教育設計の発表 [集中]	川瀬・高橋・平井	
12	【演習】 シミュレーション教育 (5) シミュレーション教育設計の評価 [集中]	川瀬・高橋・平井	
13	【講義】 自己教育力の育成とその評価法 (1)	川瀬	
14	【演習】 自己教育力の育成とその評価法 (2)	川瀬	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	【事前学修】 ・各単元の授業内容を事前に参考文献等を活用し予習しておく。 【事後学修】 ・講義時に示された課題を実施する。		
テキスト	適宜、授業内で紹介する。		
参考文献	Diane M. Billings, Judith A. Halstead, 佐々木 幾美, 奥宮 睦子, 小林 美子監訳 (2021)：看護を教 授すること 原著第6版 大学教員のためのガイド、医歯薬出版 杉森みどり, 舟島なをみ (2021)：看護教育学第7版、医学書院		

安酸史子 (2015) : 経験型実習教育 看護師をばくむ理論と実践, 医学書院 阿部幸恵 (2013) : 臨床実践力を育てる! 看護のためのシミュレーション教育, 医学書院	
評価方法	<p>[レポート] 50% (最終レポート; その他に概要記載)</p> <p>[プレゼンテーション] 30% (第10回~第12回のシミュレーション教育設計のプレゼンテーション)</p> <p>[授業への参加度] 20% (授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力への行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 何れも、課題設定の明確さ、選択した方法 (資料) 等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。 • 第14回は、履修生を中心とした「自己教育力」に関する抄読発表を行う。 • 授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 • 原則、授業は「遠隔授業」とする。
その他	

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	健康データサイエンス特論 I	学期	春学期
担当教員	准教授 小川智子 教授 山下一也	選択/必修	選択
科目コード	17070217	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>ヘルスケア分野におけるデータ分析が重要視される背景を理解し、ICT の進展によって蓄積される健康情報を集約して活用するための知識や技術を修得する。</p> <p>1. データ分析が重視される社会的・科学的背景を理解し、健康寿命の延伸に向けた科学的アプローチについて理解できる。DP④</p> <p>2. 多様なデータの種類と特徴を理解し、倫理的配慮の必要性について考察できる。DP①</p> <p>3. 保健統計情報や公開データを活用し、目的に応じて効果的に活用する視点や身につける。DP④</p> <p>4. ソフトウェアを用いたデータ分析を実践し、ヘルスケアの課題解決や施策立案への応用について考察できる。DP④</p> <p>* DP は研究者養成コースを示す</p>	
到達目標と DP との関連		
回数	内容	担当
1	ガイダンス・社会的背景	小川
2	地域保健分野におけるデータ活用の目的	小川
3	ヘルスデータの種類と分析・倫理	小川
4	データが活用できる Web サイト	招致講義 谷口栄作氏 (島根県健康福祉医療統括局)
5	島根県の保健統計情報の見方とその活用	
6	ヘルスデータ分析に用いるソフトウェア (excel・SPSS 等)	小川
7	レセプト情報を活用したデータヘルスの推進	山下
8		
9	身近なリアルデータの意味とその活用 (課題有)	小川
10		
11	健康をサポートする IT 技術の基礎知識	
12	コミュニケーション領域での IT の技術	招致講義 小村清浩氏 (株式会社 e-Gnd CEO)
13	システム領域での IT の技術	
14	働き方領域での IT の技術	
授業計画		
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>【事前学修】自身の専門分野で公開されている保健統計情報を調べる</p> <p>【事後学修】講義を通してデータの重要性と限界について考察する</p>	
テキスト	必要に応じて配布する	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • Ruth Ezzioni 他著岩崎学他訳 (2023) ヘルスデータサイエンス 健康科学のための統計解析, 共立出版社 • 岩本康志他 (2016) 健康政策の経済分析 レセプトデータによる評価と提言, 東京大学出版会 	
評価方法	レポート・演習での課題 60%, 受講態度 40%	
その他	授業は、遠隔授業または対面授業にて行います。	

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	健康データサイエンス特論II	学期	秋学期
担当教員	准教授 小川智子 教授 山下一也	選択/必修	選択
科目コード	I7070218	授業形態	講義(集中)
		単位数	2

授業の概要	<p>保健医療で扱うデータを統計的解析手法に基づき活用して成果をあげている先駆的な事例をもとに、効果かつ効果的なヘルスサービスの発案や保健医療政策を立案する。</p> <p>③</p> <p>1. 先駆的な事例をもとに多様な健康課題をデータと疫学的手法を用いて分析する意義が理解できる。DP</p> <p>2. 疫学的手法に基づくデータ分析を通して、健康課題の構造や背景要因を説明し、課題解決に向けた取り組みが提案できる。DP①③</p> <p>3. 実際のデータを用いた分析を専門的・社会的観点から議論し、自らの分析や提案を深めることができるとDP④</p>		
到達目標とDPとの関連	* DP は研究者養成コースを示す		
授業計画	回数	内容	担当
	1	ガイダンス	小川
	2		小川・山下
	3	【健康行動に関する先駆的な事例】ヘルス分野における諸問題をデータを用いて疫学的手法で分析し、課題解決につなげた先駆的な事例をもとにディスカッション①②	
	4		
	5		
	6		小川・山下
	7	【保健医療システム構築に関する先駆的な取り組み】ヘルス分野における諸問題をデータを用いて疫学的手法で分析し、課題解決につなげた先駆的な事例をもとにディスカッション①②	
	8		
	9		
	10	【保健医療政策に関する先駆的な取り組み】ヘルス分野における諸問題をデータを用いて疫学的手法で分析し、課題解決につなげた先駆的な事例をもとにディスカッション①②	
	11		
	12		
	13	国民データや健診データをもとに院生が明らかにした健康課題のプレゼンテーションに対する助言や指導	招致講義 谷口栄作氏他 (島根県健康福祉部)
14			
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>【事前学修】先駆的な事例や取り組みの文獻を検索して講義に臨む。</p> <p>【事後学修】自身の研究や実践に応用できる点を見つけて言語化する。</p>		
テキスト	必要に応じて提示する		
参考文献	厚生労働省 (2017) : 事例に学ぶ効果的なデータヘルス実践 https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12401000-Hokenkyoku-Soumuka/0000170829.pdf 病院 (2021) : データヘルスで変わる病院		
評価方法	課題 (プレゼンテーション含) 70%、受講態度 30%		
その他	対面形式での集中講義で実施する。		

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	専門演習	学期	秋学期
担当教員	○主指導教員、副指導教員	選択/必修	必修
科目コード	I7070160	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要	<p>選択した領域において看護実践能力を高めるために、演習場所(地域・在宅・行政機関・教育機関、福祉施設・医療施設等)、学習目標ならびに学習方法を学生自ら設定し、フィールドワークを展開する。基礎科目で学修した諸理論や介入方法、評価尺度等を駆使し、担当教員の指導のもと演習場所においてアセスメントと看護介入・評価を実施する。フィールドワークと討議により、学生が選択した分野における看護実践能力(アセスメント能力、介入ならびに評価能力)を修得する。</p> <p>《目的》</p> <p>選択した領域の看護実践能力を高めるために、学習目標ならびに学習方法を学生自ら設定し、フィールドワークを展開する。</p> <p>《目標》</p> <p>1. 選択した領域の看護実践能力を高めるために、関心のある学習目標とそれを達成するためのフィールド学習が計画できる。</p> <p>2. フィールドワークと討議により、学生が選択した分野における看護実践能力(アセスメント能力、介入ならびに評価能力)を修得できる。</p>		
到達目標とDPとの関連	DP1, DP2 DP2, DP3		
授業計画	回数	内容	担当
	1	学習目標の検討	
	2	フィールドワークの計画立案	
	3		
	4	フィールドワークの計画に基づく実践	
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	分析	
	10		
	11	分析結果の考察	
	12		
	13	実践の報告	
14	リフレクションと課題の明確化		
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>事前：①選択した領域の文獻等を事前に読み、学修目標とフィールドワークの方向性を事前に整理しておく。②フィールドワーク先や対象の情報等を事前に調べ、計画立案に必要な知識を準備しておく。</p> <p>事後：①フィールドワークの内容を整理し、文獻と照らし合わせて、分析・考察を深める。</p> <p>②授業での検討内容をもとに、自身の実践を振り返り、次回に向けて計画や学修目標を見直す。</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	以下の内容から総合的に評価する。[演習計画書]20% [実践報告]50% [取組み]30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッションの適切さ)		

その他 この科目は、各学生の特別研究ならびに課題研究の主指導教員と副指導教員が担当する。

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	特別研究 I	学期	通年
担当教員	○主研究指導教員、副研究指導教員	選択/必修	必修
科目コード	I7070213 授業形態 演習	単位数	2
授業の概要	<p>選択した分野の特論 I・II で学んだことを踏まえ研究課題を明確にし、看護研究方法論 I・II の学びを参考に適切な研究方法を選定し、研究計画書を作成できる。</p> <p>1.文献クリティックにより、研究課題を明確化し、説明できる (DP1)。 2.研究課題に対する、適切な研究デザインならびに研究方法が選択でき、データ収集や分析方法について検討できる (DP1、2、3) 3.研究倫理審査を受けることができる (DP1、2、3)</p>		
到達目標と DP との関連	<p>回数 内容</p> <p>1 研究課題の探索</p> <p>2 文献クリティック</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6 研究課題の明確化と概念枠組みの作成</p> <p>7 研究デザインならびに研究方法の選択</p> <p>8</p> <p>9 データ収集と分析方法の検討</p> <p>10</p> <p>11 研究計画書の作成と研究倫理審査</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p>		
授業の内容			
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>この科目は、各学生の主研究指導教員と副研究指導教員が研究指導を担当する。 また、学生により進度は異なり、指導教員に報告・相談しながら主体的に取り組むこと。</p>		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。		
評価方法	<p>以下の内容から総合的に評価する。 [取 組 み]40% (課題探究への取り組み姿勢、ディスカッションの適切さ) [研究計画書]60%</p>		
その他			

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	特別研究Ⅱ	学期	通年
担当教員	○主研究指導教員、副研究指導教員	選択/必修	必修
科目コード	17070214 授業形態 演習	単位数	8
授業の概要	特別研究Ⅰで作成し倫理審査委員会で承認された研究計画書に基づき、研究を実施し、修士論文が作成できる。		
到達目標とDPとの関連	<p>1.研究計画書に基づき、データ収集することができる (DP4)。</p> <p>2.収集したデータの分析から結果に基づき考察し、修士論文をまとめることができる (DP4)。</p> <p>3.修士論文公開発表会において修士論文を口頭発表することができる (DP4)。</p>		
	回数	内容	
	1	研究計画書に基づきデータ収集する	
	2		
	3	収集したデータを分析する	
	4		
	5	合同検討会において成果を発表し課題についてディスカッションする	
	6	データ収集・分析・解釈の適切性を評価する	
	7	結果、考察、結論の論述を行い、修士論文をまとめる	
	8		
	9		
	10		
	11		
	12	修士論文公開発表会において修士論文を口頭発表する	
	13	修士論文公開発表会および学位論文審査で指摘された事項を検討、修正する	
	14	修士論文の完成	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	この科目は、各学生の主研究指導教員と副研究指導教員が研究指導を担当する。 また、学生により進度は異なり、指導教員に報告・相談しながら主体的に取り組むこと。		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。		
評価方法	修士論文審査基準に沿って評価する。		
その他			

博士前期課程

高度実践者養成コース

助産学領域

博士前期課程 高度実践者養成コース助産学領域

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
基盤科目	看護理論	1春		2	教授	岡安 誠子
	看護倫理特論	1秋	2		准教授	高橋 梢子
					非常勤講師	安藤 泰至
	コンサルテーション論	1秋		2	教授	大森 眞澄
	看護研究方法論Ⅰ	1春	2		教授	川瀬 淑子
					教授	高橋 恵美子
	看護研究方法論Ⅱ	1春	2		教授	大森 眞澄
					准教授	佐藤 美紀子
	地元創成看護学特論Ⅰ	1春	2		准教授	小川 智子
	保健医療福祉政策論Ⅰ	1秋		2	講師	祝原 あゆみ
	健康栄養特論Ⅰ	1秋	2		非常勤講師	谷村 綾子
					非常勤講師	澤 幸子
データサイエンス論	1春		2	非常勤講師	江崎 剛史	
疫学・保健統計学特論	1秋		2	非常勤講師	大城 等	
小計(10科目)	—	10	10	—		
専門科目	精神看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	大森 眞澄
	成人・老年看護学特論Ⅰ	1春	2		教授	奥山 真由美
					教授	大塚 美樹
					准教授	佐藤 美紀子
	地域看護学特論Ⅰ	1春	2		教授	小田 美紀子
	看護教育学特論Ⅰ	1春	2		教授	岡安 誠子
					教授	川瀬 淑子
					准教授	高橋 梢子
	看護教育学特論Ⅱ	1秋	2		教授	川瀬 淑子
					准教授	高橋 梢子
					准教授	平井 由佳
	母性・小児看護学特論Ⅰ	1春	2		教授	高橋 恵美子
					教授	井上 千晶
					准教授	中谷 陽子
	母性・小児看護学特論Ⅱ	1秋	2		教授	井上 千晶
					教授	高橋 恵美子
					准教授	中谷 陽子
非常勤講師					荒木 もも子	
非常勤講師					矢田 昭子	
専門演習	1秋		2	主副指導教員		
助産学特論Ⅰ(概論)	1春	2		教授	井上 千晶	
				非常勤講師	京 哲	
				非常勤講師	金崎 春彦	
				非常勤講師	勝部 愛子	
				非常勤講師	高村 浩美	
				非常勤講師	荒木 もも子	
助産学特論Ⅱ(女性の解剖と機能・薬理)	1春	2		教授	井上 千晶	
				非常勤講師	橋本 龍樹	
				非常勤講師	岩成 治	
				非常勤講師	西村 信弘	
				非常勤講師	百留 美樹	
				非常勤講師	吾郷真子	
				非常勤講師	山本 慧	

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
専門科目	助産学特論Ⅲ (母子・家族の心理と社会)	1春	2		非常勤講師	橋本 由里
					非常勤講師	藤原 映久
					非常勤講師	挾間 玄以
	助産診断技術学演習Ⅰ (妊婦の助産診断とケア)	1通	3		講師	永井 真寿美
					教授	井上 千晶
	助産診断技術学演習Ⅱ (産婦の助産診断とケア)	1通	3		准教授	中谷 陽子
					講師	永井 真寿美
	助産診断技術学演習Ⅲ (褥婦・新生児の助産診断とケア)	1秋	2		教授	井上 千晶
					非常勤講師	尾原 千尋
	助産診断技術学演習Ⅳ (ハイリスク妊産褥婦・新生児の診断技術)	1秋	1		教授	井上 千晶
					非常勤講師	岩成 治
					非常勤講師	吾郷真子
					非常勤講師	山本 慧
					非常勤講師	遠藤 智弘
	助産診断技術学演習Ⅴ (フィジカルイグザミネーション)	1秋	2		講師	永井 真寿美
					教授	井上 千晶
					准教授	中谷 陽子
					非常勤講師	山上 育子
	助産診断技術学演習Ⅵ (ヘルスプロモーション方法論)	2春	2		准教授	中谷 陽子
	助産診断技術学演習Ⅶ(次世代育成支援)	2春	1		教授	井上 千晶
助産管理	2秋	2		准教授	中谷 陽子	
				非常勤講師	山中 智恵	
				非常勤講師	比良 静代	
助産学実習Ⅰ(正常症例助産ケア実習)	1秋	11		教授	井上 千晶	
				准教授	中谷 陽子	
				講師	永井 真寿美	
助産学実習Ⅱ(異常症例助産ケア実習)	2春	2		講師	永井 真寿美	
				教授	井上 千晶	
助産学実習Ⅲ(助産ケア統合実習)	2春	2		准教授	中谷 陽子	
				教授	井上 千晶	
				講師	永井 真寿美	
研究	課題研究	1~2通	4		主副指導教員	
小計(23科目)		-	47	10	-	
合計(33科目)		-	57	20	-	
修了要件及び履修方法						
<p>・本課程研究科に2年以上在学すること。</p> <p>・指導教員の指導下に課題論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>・履修方法</p> <p>①基盤科目から6科目12単位以上(必修科目5科目10単位を含む)</p> <p>②専門科目から19科目49単位以上(必修科目18科目47単位を含む)</p> <p>合計61単位以上を修得すること。</p>						

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護理論	学期	春学期
担当教員	教授 岡安誠子	選択/必修	選択
科目コード	I7070000	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の目的は、看護実践の基礎となる看護理論の意義について理解し、代表的な看護理論を取り上げ、理論と看護現象との関係について理解し、看護実践や看護研究への活用を探究する。

授業の概要	① 看護の基礎となる理論の位置づけや歴史の変遷と発展の過程を学ぶ。DP1 ② 諸理論は看護現象や看護実践にどのように活用し得るのかを考察する。DP1 ③ 看護実践や看護研究への諸理論の適用の実践について議論する。DP1・DP4	
到達目標とDPとの関連		
回数	内容	担当
1	【講義】 ガイダンス	岡安
2	【講義】 看護理論とは、歴史的發展過程	岡安
3	【講義】 看護理論の分析と評価	岡安
4	【講義】 看護理論の看護実践への適応 [看護場面等の分析]	岡安
5	【演習】 看護理論の看護実践への適応の実践	岡安
6	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (1))	岡安
7	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (2))	岡安
8	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (3))	岡安
9	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (4))	岡安
10	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (5))	岡安
11	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (6))	岡安
12	【講義】 看護理論の看護研究への適応 [サブストラクシオン他]	岡安
13	【演習】 看護理論の看護研究への適応の実践	岡安
14	【演習】 看護理論の看護研究への適応の実践・まとめ	岡安

講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)のために必要な自己学修(事前・事後学修)

テキスト	筒井真徳美 (2025) : 看護理論家の業績と理論評価 第3版、医学書院
参考文献	授業内で、適宜提示する。
評価方法	ブレゼンテーション50%、ディスカッションへの貢献度50%を総合して評価する。
その他	・原則、授業は「遠隔授業」とする。

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護倫理特論	学期	秋学期
担当教員	○高橋梢子、非常勤講師 安藤泰至	選択/必修	必修
科目コード	I7070001	授業形態	講義・演習
		単位数	2

医療現場において起こっている倫理的な問題・葛藤について、看護職はどのように考え、判断、対応したらいのか、看護専門職に求められる倫理的問題への対応について探究する。看護倫理の諸概念、問題解決のためのツールについて、課題とし、課題発表および意見交換という授業の形態を取る。

授業の概要	① 看護倫理とは何かを説明できる。DP1 ② 看護職の倫理綱領の意味を説明できる。DP1 ③ 倫理的な看護実践の基礎となる諸理論・諸概念を説明できる。DP1 ④ 死生の諸問題に対する基礎的知識について理解し、看護専門職に求められる役割を探究できる。DP1 ⑤ 倫理的問題の解決のためのアプローチを実践できる。DP1	
到達目標とDPとの関連		
回数	内容	担当
1	授業ガイダンス、看護倫理とは、看護倫理の歴史、責任と専門職	高橋
2	課題作成	高橋
3	医療と倫理—その関係の多面性—	安藤
4	安楽死・尊厳死	安藤
5	課題1、2 徳の倫理、ケアの倫理	高橋
6	課題3、4 原則の倫理、	高橋
7	課題5、6 道徳的苦悩、道徳的レジリエンス	高橋
8	課題7、8 看護職の倫理綱領	高橋
9	課題9、10 看護職の倫理綱領	高橋
10	課題11、12 看護職の倫理綱領	高橋
11	課題13 事例検討	高橋
12	課題14 事例検討	高橋
13	課題15 事例検討	高橋
14	課題16 事例検討	高橋

事前学修：ガイダンス時に課題を提示する。担当課題をまとめた上で授業に参加する。
事後学修：毎回、学びの提出を課す。

テキスト	小西恵美子編 (2021) . 看護学テキストNICE 看護倫理 (改訂第3版) よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂。
参考文献	宮坂道夫 (2018) . 系統看護学講座 別巻 看護倫理、医学書院 小西恵美子 (2018) . 看護倫理を考える言葉、日本看護協会出版会
評価方法	授業への参加度、課題への取組 100%
その他	授業はオンライン形式とする。 演習では担当学生が発表を行い、参加者間のディスカッションを通して、理解を深める。 順序は入れ替わる可能性がある。第1回授業中に案内する。

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	コンサルテーション論	学期	秋学期
担当教員	教授 大森眞澄	選択/必修	選択
科目コード	I707004	授業形態	講義
	医療、看護の専門性が高まる中、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、総合的で柔軟なネットワークを構築していくことが重要である。コンサルテーションに必要な知識や技術について学習を深め、看護職のみならず、あらゆる職種と相互に支え合いながら、自己および組織の課題に直面し、問題解決に向かい、行動を変容のプロセスを支援する能力を育成する。大森が体験した事例を分析・検討し、最終的には、看護実践に関する相談・支援活動および専門職間協働・連携の調整者として、組織または個人を多角的にアセスメントし、看護の質の向上に寄与するコンサルテーションの理論と実践方法を学び、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行う基盤となる能力を探究する。	単位数	2
授業の概要	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コンサルテーションのモデルとタイプについて説明できる。DP-① 2) 自身のコンサルテーション事例について述べることができる。DP-② 3) コンサルテーションのスキルを活用した面接を展開できる。DP-④ 		
到達目標とDPとの関連	内容	担当	
	回数		
	1 コンサルテーションの定義、特性、目的、意義、職業倫理と契約	大森	
	2 コンサルテーションの4つのモデルとその特徴	大森	
	3 コンサルテーションのプロセス、技法、評価	大森	
	4 コンサルティとコンサルタントの関係と面接	大森	
	5 リエゾン精神看護とコンサルタントに必要な能力 (リエゾン看護師招致講義)	齋藤	
	6 組織のストレスとコンサルテーション	大森	
	7 看護職のストレスの特徴、メンタルヘルスに関する理論とコンサルテーション	大森	
	8 コンサルテーション事例の検討 (1) 一院生によるコンサルテーションの事例発表 (リエゾン看護師招致講義)	大森・齋藤	
	9 コンサルテーション事例の検討 (2) 一院生によるコンサルテーションの事例発表	大森	
	10 コンサルテーション事例の検討 (3) 一院生によるコンサルテーションの事例発表 (リエゾン看護師招致講義)	大森・齋藤	
	11 コンサルテーション事例の検討 (4) 一院生によるコンサルテーションの事例発表	大森	
	12 個人へのコンサルテーションの実践 (ロールプレイ)	大森	
	13 個人へのコンサルテーションの実践 (ロールプレイ)	大森	
	14 グループコンサルテーションの実践 (グループワーク)	大森	
授業のために必要な自己学習 (事前・事後学習)	<p>講義のために各回の事前に配布した資料を読み、ディスカッションできるように考えをまとめる (各1時間)</p> <p>9回、10回のコンサルテーション事例の検討にあたって、自身が体験した事例を提示した書式にそってまとめる (6時間)</p> <p>組織のストレスとコンサルテーションの中から、1章を選びプレゼンテーションする (6時間)</p> <p>①E.H. ジャイン著、稲葉元吉、尾川丈一訳(2016)：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと、白桃書房。</p> <p>②土居健郎著 (2007)：新訂 方法としての面接 臨床家のために 医学書院</p> <p>③アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ロバーツ編、武井麻子監訳 (2014)：組織のストレスとコンサルテーション、金剛出版。</p>		
テキスト	<p>①宇佐美しおり、野末聖香編集 (2014)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会。</p> <p>②山本和郎 (2000)：危機介入とコンサルテーション、ミネルヴァ書房。</p> <p>[レポート] 60% (具体的事例を分析し、考察したレポート)</p> <p>[授業態度] 40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)</p>		
参考文献	<p>ディスカッション自体がコンサルテーションのスキルを磨くトレーニングでもある。積極的に参加して、これまでの自らの実践経験を振り返る。</p>		
評価方法			
その他			

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究方法論Ⅰ：量的研究	学期	春学期
担当教員	○教授 川瀬 淑子 教授 高橋 恵美子	選択/必修	必修
科目コード	I7070013	授業形態	講義・演習
		単位数	2

到達目標とDPとの関連	内容	
	回数	
	1 看護における量的研究の特徴と意義、量的研究デザインの種類と特徴 (川瀬)	(川瀬)
	2 プロセス (1)：文献レビューとクリティック、研究課題の設定 (川瀬)	(川瀬)
	3 プロセス (2)：量的研究における課題設定と研究枠組み、仮説の設定 (川瀬)	(川瀬)
	4 方法 (1)：量的研究における厳密性、標本抽出とサンプルサイズ、検出力分析 (川瀬)	(川瀬)
	5 方法 (2)：測定信頼性と妥当性、データ収集方法 (川瀬)	(川瀬)
	6 方法 (3)：量的研究における研究倫理と倫理的配慮 (川瀬)	(川瀬)
	7 分析 (1)：記述統計とデータの種類の種類、統計分析の基本 (高橋)	(高橋)
	8 分析 (2)：差を決定するための検定 (高橋)	(高橋)
	9 分析 (3)：関係性を検討するための検定 (高橋)	(高橋)
	10 分析 (4)：結果の示し方と読み方 (高橋)	(高橋)
	11 量的研究における研究計画書の基本 (高橋)	(高橋)
	12 文献クリティック (1)：学生プレゼンテーション (川瀬)	(川瀬)
	13 文献クリティック (2)：学生プレゼンテーション (高橋)	(高橋)
	14 文献クリティック (3)：学生プレゼンテーション (高橋・川瀬)	(高橋・川瀬)
授業計画	<p>事前学習：量的研究に関する原著論文を1つ選び文献クリティックを行う。</p> <p>事後学習：各単元の講義をふまえて、量的研究計画書の作成に必要な基礎的な知識を整理する。</p>	
事前・事後学習 (事前・事後学習)	<p>講義のために必要な自己学習</p>	
テキスト	指定しない	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • D.P.ボリット&C.T.ベック、監訳：近藤潤子、看護研究 原理と方法、医学書院 • バーンズ&グループ、監訳：黒田優子他、看護研究入門、エルゼビアジャパン • アメリカ心理学会、訳：前田樹海他、APA 論文作成マニュアル、医学書院 	

<ul style="list-style-type: none"> ・編著：牧本清子・山川みやえ、よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会
課題（プレゼンテーション：40%、資料30%）、授業での取り組み（質疑応答：30%）で評価する。
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、授業は、遠隔授業で行う。 ・学生の発表、参加者間のディスカッションを通して、理解を深める。
その他

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究方法論Ⅱ：質的研究	学期	春学期
担当教員	○教授 大森 眞澄 准教授 佐藤 美紀子	選択/必修	必修
科目コード	I7070014	授業形態	単位数
		講義	2

授業の概要	本科目では、臨床および教育現場における疑問や問題について研究倫理を遵守し、科学的に解明・検証していくために必要となる妥当性・信頼性の高い質的研究方法および論文作成に関する基本的知識を学ぶ。		
到達目標とDPとの関連	【目標】 1) 看護研究の目的・意義について説明できる。DP-① 2) 質的研究の特徴および研究プロセスについて説明できる。DP-④ 3) 質的研究の種類や概念、データの収集および質的分析方法について説明できる。DP-④ 5) 質的な看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的な方法について説明できる。DP-①④ 6) 質的研究における成果のまとめ方について発表できる。DP-④ 7) 具体的に質的な看護研究計画立案に向けた検討ができる。DP-④		
	回数	内容	担当
授業計画	1	看護研究の概説、質的研究の概観	大森
	2	文献クリティック	佐藤
	3	看護研究における倫理：質的研究における倫理的配慮の特徴	大森
	4	質的研究論文の文献クリティックの実際：演習	佐藤
	5	質的研究における研究計画書について	大森
	6	質的研究の種類と特徴 (1) M-GTA (学生発表)	佐藤 大森
	7	質的研究の種類と特徴 (2) CTA (学生発表)	大森 佐藤
	8	質的研究の種類と特徴 (3) 内容分析 (学生発表)	佐藤 大森
	9	質的研究の種類と特徴 (4) 現象学 (学生発表)	大森 佐藤
	10	質的研究の種類と特徴 (5) エスノグラフィ (学生発表)	佐藤 大森
	11	質的データの収集 (1)	大森 佐藤
	12	質的データの収集 (2)	大森 佐藤
	13	データのコーディングと質的帰納的分析の実際 (1)	大森 佐藤
	14	データのコーディングと質的帰納的分析の実際 (2)	大森 佐藤
講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)	提示した文献のクリティックを行い資料を作成する (3時間) 研究方法を1つ選び、その手法の特徴と方法について説明するための資料を作成する (3時間) 研究方法を1つ選び、学会誌からその手法を用いた原著論文を選定する (3時間) 質的データを分析して、カテゴリを抽出する (6時間)		
テキスト	1) ホロウェイ+ウィラー 野口美和子監訳 (2019)、ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで 第2版、医学書院 2) グレック美鈴、麻原きよみ、横山美江編著 (2016)、よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエッセイパートをめざして (第2版)、医歯薬出版 3) 山川みやえ、牧本清子編著 (2020)、研究方法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文クリティック第2版、日本看護協会出版会。		
参考文献	1) 佐藤郁哉 (2017) フィールドワーク増訂版 書を持って街へ出よう 新曜社 2) 大木秀一 (2013)、文献レビューのきほん-看護研究・看護実践の質を高める、医歯薬出版。その他、授業内で適宜紹介する		
評価方法	【演習成果物】60% (質的研究の種類と特徴：20%、クリティックレポート：20%、コーディング：20%) 【受講態度】30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッションへの貢献度) 【プレゼンテーション】10%		
その他	レゼンテーションおよびディスカッションを交えて進める。主体的な参加を期待する。		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	地元創成看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	准教授：小川帽子	選択/必修	必修
科目コード	I7070015	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要	<p>島根県内のフィールドにおいて、そこに暮らす地域住民やフィールドが抱える健康課題に関する専門職および関係者と関わりながら地域の健康実態を的確に把握し、「地元」を創成する看護について探求する。</p> <p>1. 地域を共通の価値観や帰属意識をもつコミュニティとして捉えることができる。DP①</p> <p>2. Cultural humility 及び Cultural safety について探求できる。DP①</p> <p>3. コミュニティがもつ強みや資源を明らかにできる。DP①</p> <p>4. 健康課題解決につながる組織づくりや対策が提案できる。DP③</p> <p>*DPは研究者養成コースを示す</p>		
到達目標とDPとの関連	<p>回数</p> <p>内容</p> <p>担当</p>		
1-3	<p>事前学習：7月18日(土)①～③時限</p> <p>◇地元創成看護学について</p> <p>◇Community-based participatory research(CBPR)の概要とその進め方</p> <p>◇既存資料から見るフィールドの人々の暮らし</p>		
4-11	<p>フィールド学習：8月2日(日)～8月3日(月)の1泊2日</p> <p>◇Cultural humility 及び Cultural safety を意識した地区調査(住民や関係者へのインタビュー(含))を通して健康問題を抽出する</p> <p>◇コミュニティの強みや資源を明らかにする</p>	小川	
12-13	<p>まとめ(課題解決に向けた提案)：8月16日(日)①②時限</p> <p>◇グループワーク</p> <p>テーマ：仮)課題解決につながる健康づくり</p>		
14	<p>報告会：8月16日(日)④時限</p>		
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	<p>【事前学修】</p> <p>フィールドがある自治体の人口統計や保健医療福祉に関する計画をホームページの公表資料から積極的に情報収集する</p> <p>【事後学修】</p> <p>事前学習とフィールド学習での体験を結び付け、フィールドで暮らしている人々に必要な看護について考える</p>		
テキスト	<p>指定しない</p> <p>・地域保健に活かすCBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ、医薬品出版株式会社、2010.</p> <p>・Methods in Community-Based Participatory Research for Health, Jossey-Bass, 2005.</p> <p>・R. エマーソン 他；方法としてのフィールドノート、新曜社、2018</p> <p>・その他適宜紹介する。</p>		
参考文献	<p>以下により、総合的に評価する。提出物や提出締切等については、その都度通知する。</p> <p>事前学習：30%、フィールド学習：40%、報告会：まとめ：30%</p> <p>・フィールドの状況により日程が変更になる場合があります。</p> <p>・宿泊費や交通費、食費などのフィールド学習に要する費用は全て自己負担である。</p>		
評価方法			
その他			

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	保健医療福祉政策論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	講師 祝原あゆみ	選択/必修	選択
科目コード	I7070010	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>保健医療福祉分野において看護職が果たすべき役割を理解するために、保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深める。</p> <p>また、地域医療におけるネットワークの現状も理解し、実務的にどのようなシステム活用により連携が行われているのか、探索的に学び、地域包括ケアについて理解を深める。</p> <p><到達目標></p> <p>1) 保健医療福祉に関する諸計画を理解し、看護職が果たす役割を述べることができる。</p> <p>2) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と課題を述べるができる。</p> <p>3) 人々の生活を取り巻く社会問題と保健医療福祉制度の課題を理解し、看護職が果たす役割と多職種との協働のあり方を述べるができる。</p> <p><DPとの関連(各目標共通)></p> <p>研究者養成コースDP2・3、高度実践者コース(DP3、高度実践者コース(NP)DP3・4)</p>		
到達目標とDPとの関連	<p>回数</p> <p>内容</p> <p>担当</p>		
1	オリエンテーション・政策形成とPDCAサイクル		祝原
2	保健医療福祉サービスに関わる諸計画		
3	適切に医療を提供するための計画		
4	疾病予防や健康づくりを推進するための計画		
5	福祉を推進するための計画		
6	地域共生社会の構築と看護職の役割		
7	地域包括ケアシステムと多職種の協働(1)		
8	地域包括ケアシステムと多職種の協働(2)		
9	地域包括ケアシステムと多職種の協働(3)		
10	こども政策における看護職の役割(1)		指定した研修会に参加
11	こども政策における看護職の役割(2)		
12	災害支援における多職種の協働		祝原
13	少子高齢化と人口減少が進む社会における地域医療政策		
14	島根県における地域医療政策/まとめ		
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	<p>・ 初回講義時に、担当するプレゼンテーションのテーマを決めます。テーマの内容が他の受講者に十分説明できるよう、文献等を調べ主体的に準備してください。プレゼン担当者以外の学生も、積極的に意見交換ができるよう、事前学習をして参加してください。</p> <p>・ 授業の中で関連する論文を読み、意見交換を行います。論文クリティックの基本を理解して参加してください。</p>		
テキスト	<p>適宜、資料を配布します。</p>		
参考文献	<p>島根県保健医療計画</p> <p>厚生省指図臨時増刊「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」</p> <p>必要に応じて紹介するが、基本的には自ら文献検索し、熟読しておくこと。</p>		
評価方法	<p>課題レポート50%、授業態度(授業への取り組み姿勢・ディスカッション・プレゼンテーション)50%によって評価する</p>		
その他	<p>・ 原則として遠隔授業形式で行いますが、内容によっては対面授業を行う場合があります。</p> <p>・ 担当するテーマを決め、プレゼンテーションを行います。</p> <p>・ 各テーマについて参加者同士のディスカッションを行い、理解を深めます。</p>		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	健康栄養特論 I	学期	秋学期
担当教員	非常勤講師 谷村 綾子、澤 幸子	選択/必修	必修
科目コード	I7070011	授業形態	講義、演習
		単位数	2
授業の概要	<p>妊娠期・胎児期の栄養を主要テーマとしつつ、さらにライフステージごとに必要な栄養や、疾病予防に関わる専門知識について取り上げ、対象者の問題点を的確に捉え、解決に向けて栄養に関する必要な考え方を深める。さらに、個々の事例に対応できるようにするために、妊婦への栄養に関する指導についての実践的な講義・演習も行う。</p> <p>1) 栄養の概念と意義について、根拠をもって説明することができる。(助産 DP1) 2) 栄養・食生活と健康との関連について説明することができる。(助産 DP1) 3) ライフステージを通じて適切な栄養管理を行うことの意義を理解することができる。(助産 DP2) 4) ライフステージを通じて適切な栄養管理・食育の意義を理解することができる。(助産 DP1、助産 DP2) 5) 栄養に関する指導についての実践的な知識・技術を習得することができる。(助産 DP2)</p>		
到達目標と DP との関連	<p>回数</p> <p>内容</p> <p>担当</p>		
	1	栄養とは、栄養素について、情報の見極め方	谷村
	2	食事摂取基準、日本人の食生活の現状と課題	谷村
	3	栄養評価、個人の評価	谷村
	4	食事バランスガイド	谷村
	5	妊婦、産褥期、胎児期の栄養	谷村
	6	小児期の栄養 1 授乳期(新生児期～乳児期)	谷村
	7	小児期の栄養 2 離乳期(乳児期～幼児期)	谷村
	8	小児期の栄養 3 幼児食(幼児期)、学童期、思春期	谷村
	9	高齢期の栄養	谷村
	10	在宅における栄養ケア、災害時の栄養・食生活支援	澤
	11	生活習慣病と栄養(妊娠糖尿病等を含む)	谷村
	12	歯の疾患と予防	谷村
	13	栄養カウンセリングの基本的技法(演習)	澤
	14	妊娠期における栄養カウンセリングの実際(演習)	澤
		試験	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>事前学修：演習では前もって関連資料を読み込んでおく。 事後学修：習った内容を復習しておくこと。質問があれば感想欄に記載する。 また、課題等を行うことがある。</p>		
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布する。</p>		
参考文献	<p>日本人の食事摂取基準(2025年版) 国民健康・栄養調査 授乳・離乳の支援ガイド(2019年改訂版) その他、省庁や学会のガイドラインを用いる 【試験】70%、【演習】20%、【受講態度(授業への取り組み姿勢等)】10%</p>		
評価方法	<p>授業実施方法：講義は原則として遠隔(リアルタイムかオンデマンド)で行う。演習は対面で行う。 実施期間：9月後半から開始し、12月中に終了</p>		
その他			

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	データサイエンス論	学期	春学期
担当教員	滋賀大学准教授 江崎剛史(非常勤講師)	選択/必修	選択
科目コード	I7070215	授業形態	講義
		単位数	2
授業の概要	<p>現代社会におけるデータサイエンス・AIの重要性とその価値を認識し、データの収集から解析、そして活用方法の一連を理解する。また、データサイエンスにおけるリスクや倫理を理解し、正しいデータ管理能力を身に付けることを目指す。</p> <p>1. データサイエンスおよびAIが社会で果たす役割とその背景・将来展望について理解できる。DP② 2. データ倫理、個人情報保護、情報セキュリティの基本原則を理解し、責任あるデータ活用の重要性を説明できる。DP① 3. PPDACサイクルに基づき、データの収集・整理・可視化・分析・解釈の一連の流れを体系的に理解できる。DP① 4. 統計的手法および統計によらない手法、AIを含む主要なデータ分析手法の特徴と活用場面を理解する。DP① 5. オープンデータや生成AIを含むデータサイエンス・AI技術を活用し、実社会の課題解決や将来の応用可能性について考察できる。DP②④</p> <p>*DPは研究者養成コースを示す</p>		
到達目標と DP との関連	<p>回数</p> <p>内容</p> <p>担当</p>		
	1	データサイエンスの役割と社会的背景、ガイダンス	
	2	データ倫理と個人情報保護	
	3	情報セキュリティ	
	4	データサイエンスのPPDACサイクルと実例	
	5	データの種類と主要な記述統計量	
	6	データの可視化	
	7	オープンデータとデータ収集	江崎
	8	解析の方法と必要な技術(統計的分析)	
	9	解析の方法と必要な技術(統計によらない手法)	
	10	人工知能(AI)	
	11	解析の方法と必要な技術(AIによる分析)	
	12	AI技術の動向と生成AI	
	13	生成AIの活用	
	14	データサイエンス・AIの未来・まとめ	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>【事前学修】 データサイエンスおよびAIが社会でどのように活用されているかについて、新聞・Web記事を通して概観する。 【事後学修】 自身の専門分野や実務においてデータが関わっている場面や、今後データ活用が期待される課題などを整理する。</p> <p>必要に応じて提示する。</p>		
テキスト	<p>竹村彰通他(2021)：データサイエンス入門 第2版、学術図書出版社 山崎達也(2020)：データサイエンス概説、学術図書出版社 福岡真之介(2022)：AI・データ倫理の教科書、弘文社</p>		
参考文献	<p>授業態度(40%)、レポート(60%)</p>		
評価方法	<p>原則として、授業は遠隔授業にて行います。 レポート課題は2課題予定します。</p>		
その他			

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	疫学・保健統計学特論	学期	秋学期
担当教員	非常勤講師 大城 等	選択/必修	選択
科目コード	I7070216	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	人間集団の健康事象と様々な影響する要因を、分析から介入、評価する手法を理解する。調査および実験から得られたデータの意味を正しく理解する能力を習得する。	
到達目標とDPとの関連	1. 疫学の基本概念および主要な研究デザイン(記述疫学、観察研究、介入研究)を理解し、健康事象の分布や要因を科学的に捉えることができる。(DP①) 2. 危険因子の指標、偏りや交絡、スクリーニング指標などを理解し、疫学研究結果を適切に解釈・評価できる。(DP①) 3. 保健医療分野のデータを対象に、記述統計から多変量解析・生存時間解析までの統計解析手法を理解し、Excel や SPSS を用いて実践的に分析・考察できる。(DP①③)	
回数	内容	担当
1	疫学の定義と基礎	
2		
3	疫学研究方法 記述疫学、症例対照研究、コホート研究、介入研究	
4	危険因子の指標 曝露と疾病、相対危険、相対危険・奇与危険・人口奇与危険割合など)	
5	偏りと交絡	
6	スクリーニング 感度・特異度・陽性反応的中度、ROC 曲線	
7	統計解析の基礎 1 データの要約(代表値・分布・散布度)	大城
8	統計解析の基礎 2 相関と回帰	
9	統計解析手法 1 推定(平均、割合、相関係数、回帰直線)、信頼区間	
10	統計解析手法 2 検定(パラメトリックおよびノンパラメトリック検定、多重比較)	
11	統計解析手法 3 多変量解析(重回帰・多重ロジスティック回帰分析・判別分析等)	
12	統計解析手法 4 時系列解析、生存時間解析、生命表	
13	EXCEL および SPSS を用いた架空データ演習	
14		

講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)	【事前学習】 各講義で示している用語の意味を調べておくことよ 【事後学習】 毎回の講義を録音するので、資料とあわせて復習するとよい 必要に応じて提示する。
テキスト	IBM SPSS Statistics 27 Core System ユーザーズ・ガイド (https://www.ibm.com/docs/en/SSLVMB_27.0.0/pdf/ja/IBM_SPSS_Statistics_Core_System_User_Guide.pdf)
参考文献	受講態度 50%、課題・演習レポート 50%
評価方法	集中講義による対面講義を実施する。 受講者の理解状況により、内容を変更しながら行う
その他	

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	教授 大森貴澄	選択/必修	選択
科目コード	I7070102	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	精神看護の実践の基礎となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。実践の場で出会う主な疾患とその治療法、看護ケアを行うためのアセスメント方法について探求する。 精神科医療における主な治療を理解するとともに看護師の役割を探求し、治療的アプローチの根拠と技法を習得する。 精神的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について探求する。	
到達目標とDPとの関連	目標 1. 精神を病む対象に必要な看護ケアを行うためのアセスメントができる。DP-① 2. 精神科医療における主な治療を理解し、治療的アプローチの根拠と技法を実践できる。DP-① 3. 精神的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について述べる。DP-②	
回数	内容	担当
1	生物-心理-社会モデルを使った生物学的・心理学的・社会的側面からの対象理解	大森
2	精神力動論の理解と看護への適用	大森
3	自我発達理論の理解と看護への適用	大森
4	精神科臨床におけるセルフケア理論の活用	大森
5	精神障がい者のリカバリーと看護実践(統合失調症)	大森
6	精神障がい者のリカバリーと看護実践(感情障害)	大森
7	精神障がい者のリカバリーと看護実践(不安障害・PTSD)	大森
8	精神障がい者のリカバリーと看護実践(アディクション)	大森
9	精神科における主な治療と課題	大森
10	理論と実践の統合：対関係論	大森
11	理論と実践の統合：精神分析	大森
12	理論と実践の統合：集団療法	大森
13	理論と実践の統合：認知行動療法	大森
14	事例検討-対象理解と自己理解	大森

講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)

主な精神疾患を2つ取り上げ、治療・看護・教育的アプローチについてまとめることができる(6時間)自身が関わった事例をまとめる(6時間)

ルイス・アロン/著 横井公一/監訳：こころの出会いー精神分析家としての専門技能を習得するー。金剛出版
松本邦裕：対関係論的心理学療法入門。金剛出版
B. J. Sadock & V. A. Sadock (2005/2015). 井上令一(監訳). カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 (第3版). メディカル・サイエンス・インターナショナル.
笠井清登(編). 2020. 講座精神疾患の臨床 統合失調症. 中山書店.
神庭重信(編). 2020. 講座精神疾患の臨床 気分障害. 中山書店.
[レポート・学習成果物] 60% (レポートオリオに蓄積された学習成果物)
[受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)
[プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)

課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	成人・老年看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 奥山真由美 教授 大谷美樹 准教授 佐藤美紀子	選択/必修	選択
科目コード	I7070154	授業形態	講義・演習

授業の概要	成人期または老年期にある患者と家族の状況を理解するために必要な主要な理論や概念、モデルについて理解し、事例を通して看護実践への活用を探究する。																																													
到達目標とDPとの関連	1. 成人期または老年期にある患者と家族の状況を理解するために必要な主要な理論や概念、モデルについて理解できる。(DP1) 2. 学修した理論や概念、モデルについて看護実践への活用を探究できる。(DP1、4)																																													
授業計画	<table border="1"> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>担当</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>生涯発達理論、エンパワメント、ストレンギスモデル</td> <td>奥山</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生涯発達理論、エンパワメント、ストレンギスモデル；活用事例</td> <td>奥山</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ノンフォート理論</td> <td>奥山</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ノンフォート理論；活用事例</td> <td>奥山</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡；活用事例</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル；活用事例</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ストレス・コーピング理論</td> <td>大谷</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ストレス・コーピング理論；活用事例</td> <td>大谷</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>危機理論</td> <td>大谷</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>危機理論；活用事例</td> <td>大谷</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>家族アセスメントモデル、家族システム理論</td> <td>奥山</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>家族アセスメントモデル、家族システム理論；活用事例、まとめ</td> <td>奥山</td> </tr> </table> <p>【事前学修】 課題に関する事例を選定し、資料を作成し、プレゼンテーションの準備をすること。</p> <p>【事後学修】 学習内容の復習を行い、看護実践への活用を探究すること。 特に指定しない</p>	回数	内容	担当	1	生涯発達理論、エンパワメント、ストレンギスモデル	奥山	2	生涯発達理論、エンパワメント、ストレンギスモデル；活用事例	奥山	3	ノンフォート理論	奥山	4	ノンフォート理論；活用事例	奥山	5	セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡	佐藤	6	セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡；活用事例	佐藤	7	健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル	佐藤	8	健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル；活用事例	佐藤	9	ストレス・コーピング理論	大谷	10	ストレス・コーピング理論；活用事例	大谷	11	危機理論	大谷	12	危機理論；活用事例	大谷	13	家族アセスメントモデル、家族システム理論	奥山	14	家族アセスメントモデル、家族システム理論；活用事例、まとめ	奥山
回数	内容	担当																																												
1	生涯発達理論、エンパワメント、ストレンギスモデル	奥山																																												
2	生涯発達理論、エンパワメント、ストレンギスモデル；活用事例	奥山																																												
3	ノンフォート理論	奥山																																												
4	ノンフォート理論；活用事例	奥山																																												
5	セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡	佐藤																																												
6	セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡；活用事例	佐藤																																												
7	健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル	佐藤																																												
8	健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル；活用事例	佐藤																																												
9	ストレス・コーピング理論	大谷																																												
10	ストレス・コーピング理論；活用事例	大谷																																												
11	危機理論	大谷																																												
12	危機理論；活用事例	大谷																																												
13	家族アセスメントモデル、家族システム理論	奥山																																												
14	家族アセスメントモデル、家族システム理論；活用事例、まとめ	奥山																																												
テキスト	野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社																																													
参考文献	授業の中で、適宜紹介する																																													
評価方法	課題（プレゼンテーション：40%、資料30%）、授業での取り組み（質疑応答：30%）																																													
その他	質問がある場合は、学内電子メールで連絡をいただければ随時設定します。																																													

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	地域看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	教授：小田美紀子	選択/必修	必修
科目コード	I7070156	授業形態	演習

授業の概要	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解し、地域の特性を把握・分析をもとに、生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発、コミュニティ開発を探究する。																																													
到達目標とDPとの関連	1. ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解できる (DP1・3)。 2. 我が国の地域特性の把握・分析をもとに、健康課題が説明できる (DP3)。 3. 出産や育児を取り巻く健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる (DP2・3)。 4. 成人や高齢者の健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる (DP2・3)。 5. 健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発が探究できる (DP1・3)。																																													
授業計画	<table border="1"> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>担当</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会の変化と健康課題</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>出産や育児を取り巻く健康統計からみられた健康課題と保健施策の変遷</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>母子保健行政の体系</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>地域母子（親子）保健活動の実際</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学校保健行政の構造と性教育</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>子育て支援による虐待や事故予防とヘルスプロモーション</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親子保健活動におけるアプローチ*</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>成人・高齢者保健に関する保健行政の体系</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>介護保険制度と地域包括ケアシステム</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>成人・高齢者保健におけるアプローチ*</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>生涯の健康づくりにおけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発*</td> <td>小田</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ・筆記試験</td> <td>小田</td> </tr> </table> <p>【事前学修】 講義のために必要な自己学修(事前・事後学修) ・毎回、授業内容に関する事前学修を行うこと。 ・※印のある回については、プレゼンテーションの準備を行うこと。</p> <p>【事後学修】 ・授業内容の復習を行い、看護の英検や自己の研究課題の探究を行うこと。 ・必要に応じて提示する。</p>	回数	内容	担当	1	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念	小田	2	社会の変化と健康課題	小田	3	出産や育児を取り巻く健康統計からみられた健康課題と保健施策の変遷	小田	4	母子保健行政の体系	小田	5	地域母子（親子）保健活動の実際	小田	6	学校保健行政の構造と性教育	小田	7	子育て支援による虐待や事故予防とヘルスプロモーション	小田	8	親子保健活動におけるアプローチ*	小田	9	成人・高齢者保健に関する保健行政の体系	小田	10	介護保険制度と地域包括ケアシステム	小田	11	成人・高齢者保健におけるアプローチ*	小田	12	生涯の健康づくりにおけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ	小田	13	生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発*	小田	14	まとめ・筆記試験	小田
回数	内容	担当																																												
1	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念	小田																																												
2	社会の変化と健康課題	小田																																												
3	出産や育児を取り巻く健康統計からみられた健康課題と保健施策の変遷	小田																																												
4	母子保健行政の体系	小田																																												
5	地域母子（親子）保健活動の実際	小田																																												
6	学校保健行政の構造と性教育	小田																																												
7	子育て支援による虐待や事故予防とヘルスプロモーション	小田																																												
8	親子保健活動におけるアプローチ*	小田																																												
9	成人・高齢者保健に関する保健行政の体系	小田																																												
10	介護保険制度と地域包括ケアシステム	小田																																												
11	成人・高齢者保健におけるアプローチ*	小田																																												
12	生涯の健康づくりにおけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ	小田																																												
13	生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発*	小田																																												
14	まとめ・筆記試験	小田																																												
テキスト	必要に応じて提示する。																																													
参考文献	[コミュニティ アズ パートナード] 編集：エリザベス T. カンダー/ケイト デイス・マフアンカ、医学書院 [地域づくり型保健活動のすすめ] 著：岩永俊博、医学書院 [実践ヘルスプロモーション] 著：ロリス W. グリン/ヤンセル W. 加伊、医学書院 [地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修：佐々木明子、他、丸善出版 [続・地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修：佐々木明子、他、丸善出版 [国民衛生の動向] 最新版、厚生労働統計協会 その他、必要に応じて紹介する。																																													
評価方法	筆記試験 50%、授業への取り組み姿勢やプレゼンテーション* (資料含む) 50%で評価する。																																													
その他	・この科目は、原則としてリモートで開講する。																																													

・課題解決型学習 PBL (Project-Based Learning) を意識して授業を展開するため、受講者の自主性・自律性を重んじ、課題の解決をねらいとする。
 ・自らの生活や健康観を見つめなおし、個人・家族・集団・組織・地域それぞれの視点で、ポピュレーションアプローチの視点から健康づくりを探索するとともに、地域特性と自助・互助・共助・公助による地域づくりとエンパワーメントを関連づけて捉えてほしい。

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論 I	学期	春学期
担当教員	○教授 岡安誠子 教授 川瀬順子 准教授 高橋梢子	選択/必修	選択
科目コード	I7070115 授業形態 講義・演習	単位数	2

授業の概要	看護基礎教育、臨床で教育の役割を担う看護者が、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また医療提供体制の変化に伴い、より自律して判断し実践できる看護職の養成のニーズに応えていくために看護教育の課題を検討し、問題解決に向け考察する。		
到達目標と DP との関連	① 看護教育の歴史の変遷を学修し、今日の看護教育の問題点や課題について考察できる。DP1 ② 教育活動の展開を支える理論等の学修を活かし、教育活動をデザインできる。DP1		
回数	内容	担当	
1	【講義】 ガイダンス・看護教育学の意義と目的	岡安	
2	【講義】 看護教育制度（看護基礎教育・卒後教育）と関連法規	岡安	
3	【講義】 カリキュラム開発	岡安	
4	【演習】 授業展開・教授活動に活用される理論 (1) プレゼンテーション	岡安	
5	【演習】 授業展開・教授活動に活用される理論 (2) プレゼンテーション	岡安	
6	【講義】 継続教育における現状と課題	岡安	
7	【講義】 インストラクショナル・デザイン理論 (1)	岡安	
8	【講義】 インストラクショナル・デザイン理論 (2)	岡安	
9	【講義・演習】 アクティブ・ラーニング	川瀬	
10	【講義・演習】 ワークショップ・デザイン	高橋	
11	【演習】 授業デザイン (オリエンテーション)：準備	岡安・川瀬・高橋	
12	【演習】 授業デザイン：実施 (集中)	岡安・川瀬・高橋	
13	【演習】 授業デザイン：実施 (集中)	岡安・川瀬・高橋	
14	【演習】 成果発表・リフレクション (集中)	岡安・川瀬・高橋	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に参考文献などを引用し学習してください。 ・学習した知識を自己の学習経験あるいは現職等での教育活動と結び付けて知識の統合化を図り、活用できる知識へと変容させるよう心がけてください。 		
テキスト	適宜、授業内で提示する。		
参考文献	Diane M. Billings, Judith A. Halstead, 佐々木 幾美, 奥宮 晴子, 小林 美子監訳 (2021)：看護を教 授すること 原著第6版 大学教員のためのガイド, 医歯薬出版 杉森みどり, 舟島なをみ (2024)：看護教育学 第8版, 医学書院 グレック美鈴, 池西悦子 (2024)：看護教育学 第3版, 南江堂 適宜、授業内で紹介する。		
評価方法	[レポート] 30% (最終レポート：その他に概要を記載) [演習の成果] 30% (第11回～第14回の授業デザイン・ワークショップ) [プレゼンテーション] 30% (第4回、第5回のプレゼンテーション) [授業への参加] 10% (授業へのコメント、問題発見および解決への努力への行動) ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法 (資料) 等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。		
その他	・授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000 字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 ・原則、授業は「遠隔授業」とするが、授業デザイン・ワークショップは対面授業とする。		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論Ⅱ	学期	秋学期
担当教員	○教授 川瀬敏子 准教授 高橋栞子 准教授 平井由佳	選択/必修	選択
科目コード	17070116 授業形態 講義	単位数	2
授業の概要	<p>【目的】 教育方法論及び学習理論を活用しながら、看護実践力の向上につながる看護基礎教育および継続教育において教育方法や教材の開発を探究する。シミュレーション等、学生参画型授業の開発およびコーディネート、省察を通して実践的な教育力の向上について探究する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護教育の特徴とその評価法、教授-学習過程の構造、学生参画型授業とその教授法について説明できる。DP1 自己教育力の育成とその評価法について探究し、意見を述べることができる。DP1 シミュレーションの授業設計や評価を学修し、具体的な方法について検討できる。DP1 専門職としての倫理観、臨床判断能力を含めた看護教育上の課題を明らかにし、教育的方策について考察できる。DP1 		
	回数	内容	担当者
授業の内容	1	【講義】 ガイダンス・看護教育における方法論	川瀬
	2	【講義】 実習教育法	平井
	3	【講義】 協同学習法	高橋
	4	【演習】 教育における対話と省察 (1) [集中]	高橋・川瀬・平井
	5	【演習】 教育における対話と省察 (2) [集中]	高橋・川瀬・平井
	6	【演習】 教育における対話と省察 (3) [集中]	高橋・川瀬・平井
	7	【演習】 教育における対話と省察 (4) [集中]	高橋・川瀬・平井
	8	【講義】 シミュレーション教育 (1) 構造と理論・シナリオ設計と教育技法	川瀬
	9	【講義】 シミュレーション教育 (2) 評価とフィードバック・学習環境のデザイン	川瀬
	10	【演習】 シミュレーション教育 (3) シミュレーション教育設計の実際 [集中]	川瀬・高橋・平井
	11	【演習】 シミュレーション教育 (4) シミュレーション教育設計の発表 [集中]	川瀬・高橋・平井
	12	【演習】 シミュレーション教育 (5) シミュレーション教育設計の評価 [集中]	川瀬・高橋・平井
	13	【講義】 自己教育力の育成とその評価法 (1)	川瀬
	14	【演習】 自己教育力の育成とその評価法 (2)	川瀬
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元の授業内容を事前に参考文献等を活用し予習しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義時に示された課題を実施する。 		
テキスト	適宜、授業内で紹介する。		
参考文献	Diane M. Billings, Judith A. Halstead, 佐々木 幾美, 奥宮 暁子, 小林 美子監訳 (2021) : 看護を教 授すること 原著第6版 大学教員のためのガイド, 医歯薬出版 杉森みどり, 舟島なをみ (2021) : 看護教育学第7版, 医学書院		

	安酸史子 (2015) : 経験型実習教育 看護師をはぐくむ理論と実践, 医学書院 阿部幸恵 (2013) : 臨床実践力を育てる! 看護のためのシミュレーション教育, 医学書院
評価方法	[レポート] 50% (最終レポート: その他に概要記載) [プレゼンテーション] 30% (第10回~第12回のシミュレーション教育設計のプレゼンテーション) [授業への参加度] 20% (授業へのコメント、問題発見および解決への努力への行動) ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法(資料)等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。 ・第14回は、履修生を中心とした「自己教育力」に関する抄読発表を行う。 ・授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 ・原則、授業は「遠隔授業」とする。
その他	

奈良門美依代表、系統看護学講座 小児看護学 (1), 医学書院 (2024)
評価方法 課題・成果物 (ブレゼンテーション: 60%), 授業態度 40% (取り組み姿勢・ディスカッション参加)
その他

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	母性・小児看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	○教授 高橋恵子 教授 井上千晶 准教授 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	17070158	授業形態	単位数 2

(*) 別表 2: 基礎助産学

授業の概要	<p>《目的》 ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題を理解し、女性と子どもの健康維持・増進、疾病の予防さらに健康課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた看護実践の活用方法、看護職の役割について探究する。</p> <p>1. ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題を理解できる。 (助産 DPI、2 研究者コース DPI、2)</p> <p>2. 母性看護学ならびに小児看護学の対象となる人々の健康の維持・増進、疾病の予防、健康課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた看護実践の活用や健康課題解決に向けた看護職の役割を探究できる。 (助産 DPI、2、3 研究者コース DPI、2、3)</p>	
到達目標と DP との関連		
回数	内容	
1	女性のライフサイクルにおける発達と健康課題、理論、研究の動向	井上
2	女性の健康課題と支援 (1): ヘルスポモーションとリプロダクティブヘルルス/ライオン	井上
3	女性の健康課題と支援 (2): セクシュアリティとジェンダー	井上
4	女性の健康課題と支援 (3): 思春期・青年期	中谷
5	女性の健康課題と支援 (4): プレコンセプション	井上
6	女性の健康課題と支援 (5): マタニティヘルス	中谷
7	女性の健康課題と支援 (6): 更年期・老年期	中谷
8	女性の健康課題と支援 (7): メンタルヘルス	井上
9	女性の健康課題と支援 (8): 周産期の死、グリーフケア	井上
10	これからの母性看護に向けた看護職の役割と課題; クリテイク (ブレゼンテーション)	全員
11	子どもの発達過程と発達課題、理論、研究の動向	高橋
12	子どもの健康課題と支援 (1): 乳児期・幼児期	高橋
13	子どもの健康課題と支援 (2): 学童期・病児・障がい児への支援	高橋
14	これからの小児看護に向けた看護職の役割と課題; クリテイク (ブレゼンテーション)	高橋
講義のため に必要 な自己 学習 (事前・事後)	<p>事前: 10 について初回講義内で課題を提示します。12-13 は子どもの発達過程について、事前に復習し まておいてください。</p> <p>事後: 授業内での質問応答やディスカッションでの学びについて、授業後に整理し学習を深めること。</p>	
テキスト	指定なし	
参考文献	<p>日本産婦人科学会・日本産婦人科医学会 (2023), 産婦人科診療ガイドライン産科編 2023</p> <p>岡明 (2020), 小児の医療倫理 ケーススタディ, メディカルサイエンスインターナショナル</p> <p>二宮啓子, 今野美紀編集, 小児看護学 I, 南江堂 (2025)</p>	

科目分類	専門科目	対象学年	1	
授業科目	母性・小児看護学特論II	学期	秋学期	
担当教員	○井上千晶、高橋恵美子、中谷陽子、非常勤講師 荒木もも子 矢田昭子	選択/必修	必修	
科目コード	I7070159	授業形態	講義・演習 単位数	
			2	
授業の概要	<p>(※) 別表2：基礎助産学</p> <p>ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題と多様な社会背景を含む影響要因について理解する。ワイメンズヘルス・マタニティヘルスへの支援、地域における女性と家族・子どもの安寧な暮らしを支援するためのヘルスケアシステムと科学的根拠に基づいた看護方法を探究する。</p>			
到達目標とDPとの関連	<p>1. ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題と多様な影響要因を理解できる。研究者コースDP1、2、助産DP1、2</p> <p>2. 地域における女性と家族・子どもの安寧な暮らしを支援するためのヘルスケアシステムと科学的根拠に基づいた看護方法を探究できる。研究者コースDP1、2、3助産DP1、DP2、DP3</p>			
授業の内容	回数	内容	担当	
	1	女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：ドメスティックバイオレンス(DV)・性暴力等 (招致講義)	井上	
	2-3	女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：骨盤底機能の回復 招致講義；理学療法士 山本美由氏・山本健太氏	井上	
	4-5	女性と子ども・家族の健康と暮らしの支援：女性の生活習慣病	中谷	
	6-7	女性と子ども・家族の健康と暮らしの支援：虐待・特別な支援を必要とする親子・児童虐待防止研修（出雲市共同事業）の講座に振り替える場合あり	高橋	
	8	女性と子ども・家族の健康と暮らしの支援：在日外国人女性の健康課題	高橋	
	9	女性と子ども・家族の健康と暮らしの支援：災害時における母子の看護	中谷	
	10-12	女性と子ども・家族の健康ケア：出生前診断を受ける女性と家族への看護 * 島根大学大学院医学系研究科助産学コースと合同演習*	荒木	
	13	女性と子ども・家族の健康ケア：島根県医療的ケア児支援センターの取り組みと課題	矢田	
	14	女性と子ども・家族への健康ケア：女性と子ども・家族の安寧な暮らしを支援する看護方法とは	井上	
	講義のために必要な自己学習(事前・事後)	<p>事前：10-12 は講義前に事前課題を提示します。各回のテーマについて情報収集を行うこと。14 はこれまでの講義を踏まえて各自意見をまとめておくこと。</p> <p>事後：6-7、10-13 講義後はリフレクションシートにて学習内容と課題を整理すること。講義内では質問・発言し学習を深めてください。</p>		
	テキスト	特に指定しない		
	参考文献	<p>適宜文献・図書を紹介する。</p> <p>共同通信(信)社社会部編、「わが子よ―出生前診断、生体医療、生みの親、育ての親」、現代書館2014。</p> <p>関沢明彦編著、周産期遺伝カウンセリングマニュアル 改訂4版、中外医学社</p> <p>関沢明彦 編著、生体医療遺伝カウンセリングマニュアル、中外医学社</p> <p>中込さとこ、基礎から学ぶ遺伝看護学「継承性」と「多様性」の看護学、羊土社</p>		

	<p>田原卓浩総編集 移行期医療 子どもから成人への架け橋を支える。中山出版、2015。</p> <p>木村真実、長谷川泰編集、多様な生活環境にある子どもへの対応―障害・不登校・生活困窮・児童虐待・外国人など―、新日本法規、2022。</p>
評価方法	<p>[レポート・学習成果物] 60%</p> <p>[受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)</p> <p>[プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)</p>
その他	

その他	この科目は、各学生の特別研究ならびに課題研究の主旨指導教員と副指導教員が担当する。
-----	---

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	専門演習	学期	秋学期
担当教員	○主指導教員、副指導教員	選択/必修	選択
科目コード	I7070160	授業形態	演習
		単位数	2
授業の概要	<p>選択した領域において看護実践能力を高めるために、演習場所（地域・在宅・行政機関・教育機関・福祉施設・医療施設等）、学習目標ならびに学習方法を学生自ら設定し、フィールドワークを展開する。福祉施設・医療施設等）、学習目標ならびに学習方法を学生自ら設定し、フィールドワークを展開する。基礎科目で学修した諸理論や介入方法、評価尺度等を駆使し、担当教員の指導のもと演習場所においてアセスメントと看護介入、評価を実践する。フィールドワークと評議により、学生が選択した分野における看護実践能力（アセスメント能力、介入ならびに評価能力）を修得する。</p>		
到達目標とDPとの関連	<p>《目的》 選択した領域の看護実践能力を高めるために、学習目標ならびに学習方法を学生自ら設定し、フィールドワークを展開する。</p> <p>《目標》 1. 選択した領域の看護実践能力を高めるために、関心のある学習目標とそれを達成するためのフィールド学習が計画できる。 2. フィールドワークと評議により、学生が選択した分野における看護実践能力（アセスメント能力、介入ならびに評価能力）を修得できる。</p>		
授業計画	回数	内容	担当
	1	学習目標の検討	
	2	フィールドワークの計画立案	
	3		
	4	フィールドワークの計画に基づく実践	
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	分析	
	10		
	11	分析結果の考察	
	12		
	13	実践の報告	
	14	リフレクションと課題の明確化	
講義のために必要な自己学修(事前・事後)	<p>事前：①選択した領域の文献等を事前に読み、学修目標とフィールドワークの方向性を事前に整理しておく。②フィールドワーク先や対象の情報を事前に調べ、計画立案に必要な知識を準備しておく。 事後：①フィールドワークの内容を整理し、文献と照らし合わせて、分析・考察を深める。 ②授業での検討内容をもとに、自身の実践を振り返り、次回に向けて計画や学修目標を見直す。</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	<p>以下の内容から総合的に評価する。[演習計画書]20% [実践報告]50% [取組み]30%（毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッションの適切さ）</p>		

助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版 助産業務ガイドライン 2024 日本助産学会出版 日本産婦人科学会 日本産婦人科医会編集・監修 産婦人科診療ガイドライン・産科編 2023 日本産婦人科学会事務局
評価方法 レポート 80%、質疑・プレゼンテーション 20%
その他 ・授業実施方法：対面授業（ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える）

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産学特論Ⅰ（概論）	学期	春
担当教員	○井上千晶 非常勤講師：京哲、金崎春彦、勝部愛子、荒木もも子、高村浩美、 間奈々美	選択/必修	必修
科目コード	I7070121	授業形態	講義
		単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

授業の概要	女性の生涯を通じた性と生殖を支援するために助産の基本概念および意義、助産学を支える基礎理論、助産師の活動とその役割、女性のライフサイクルを通じた性と生殖における健康課題、身体的・心理的特徴について理解する。また助産ケアに関連する性と生殖に関する現状および倫理的課題について考察することができる。	
到達目標とDPとの関連	1) 助産・助産師の歴史と変遷から、助産師の役割や意義を理解することができる。DP2 2) 女性のライフサイクルにおける健康課題と助産ケアを理解することができる。DP1、DP3 3) 離島・中山間地域における助産師の役割や、地域貢献について理解することができる。DP2、DP3 4) 生殖医療における倫理的課題を理解することができる。DP1、DP3	
授業の内容	回数 内容 担当者	
1	助産における基本概念、意義、助産・助産師の定義	井上
2	助産・助産師の歴史と変遷	井上
3	統計からみた母子保健活動	井上
4	助産診断	井上
5	助産学を支える理論	井上
6	女性のライフサイクルにおける健康と助産ケア	井上
7	離島の周産期医療の現状と課題	高村
8	離島における助産師のやりがいと地域貢献	高村
9	中山間地域の周産期医療の現状と助産師の役割	間
10	地域周産期医療の課題と女性の健康課題	京
11	生殖医療における倫理的課題	金崎
12-13	出生前診断の実際と助産師へ求められる役割	荒木
14	不妊に悩むカップルへの助産ケア	勝部
講義のために必要な自己学習(事前・事後)	事前にテキストの該当箇所を確認、情報収集を行うこと。7-14講義後はリフレクシオンシートにて学習内容と課題を整理すること。講義内では質問・発言し学習を深めてください。	
テキスト	助産学特論Ⅰ 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 助産学特論Ⅴ 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院 看護六法 新日本法規	
参考文献	新版 助産師業務要覧Ⅰ 基礎編 第4版 日本看護協会出版会 新版 助産師業務要覧Ⅱ 実践編 第4版 日本看護協会出版会 新版 助産師業務要覧Ⅲ アドバンス編 第4版 日本看護協会出版会	

科目分類	助産学実践科目	対象学年	1
授業科目	助産学特論Ⅱ (女性の解剖と機能・薬理)	学期	春学期
担当教員	非常勤講師 橋本龍樹 岩成治 西村 信弘 百留美樹 吾郷真子 山本慧	選択/必修	必修
科目コード	I7070122	授業形態	講義
		単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

助産実践の基礎的・科学的基盤となる、女性の解剖・生理、妊娠・出産が生体に及ぼす影響、ヒトの発生と先天異常、妊娠と胎盤の機能、周産期に関連した薬理・免疫等に関する基礎的知識を修得する。

- 到達目標とDPとの関連
- 1) 女性の身体および女性生殖器官の解剖と機能を理解し、妊娠・出産が生体に及ぼす影響について理解することができる。DP1、DP2
- 2) ヒトの発生、先天異常、胎児期生活がその後に及ぼす影響について理解することができる。DP1、DP2
- 3) 周産期における薬剤の影響と観察項目を理解することができる。DP1、DP2

回数	内容	担当者
1	女性の解剖と機能Ⅰ・女性の解剖と機能Ⅱ (解剖見学 校外実習 *鳥根大学大学院医学系研究科助産学コースと合同*)	橋本
2	ヒトの発生過程 初期発生	橋本
3	ヒトの発生過程 心血管系・呼吸器系・消化器系・体腔	橋本
4	ヒトの発生過程 泌尿生殖器系・中枢神経系	橋本
5	妊娠の維持・胎盤機能	岩成
6	妊娠経過と形態機能	岩成
7	妊婦と薬剤 妊娠の時期と催奇形性	西村
8	分娩と薬剤 分娩誘発剤や帝王切開時、和痛分娩の麻酔薬の薬理作用と投与時の注意事項	西村
9	母乳と薬剤 薬剤の母乳への影響、母親の服用が新生児に与える影響	西村
10	妊娠中、授乳婦への薬剤使用に関するカウンセリング	西村
11	解剖学的な乳房の構造、産褥期の乳房の特徴	百留
12	乳がんの病態生理、診断方法、治療方法、検査方法、治療方法	百留
13-14	新生児・乳児の解剖生理と免疫	吾郷・山本

講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)

事前：各回のテーマに関連する教科書や参考文献を事前に読み、基本的な概念や影響を把握しておくとともに、授業で理解を深めたい点や疑問点を整理しておくこと。1・5は講義内で事前課題を示す。解剖見学にあたっては事前に詳細な説明を行う

事後：授業内容を再確認し理解を定着させること。リフレクションシートを作成し提出すること。特に指定しない

テキスト

参考文献	ラングマン人体発生学第7版 訳 トマス・W・サトラー、医学書院 カラール図解 人体発生学講義ノート (第2版) 塩田浩平 金芳堂 グレイ解剖学 訳 塩田浩平他、エルゼビア・ジャパン 薬剤の母乳への移行 改定第4版 菅原和信他、南山堂 薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳改定第3版、伊藤真由他、南山堂 図表でわかる無痛分娩ブラクテイスガイド-改訂第2版、村越毅 メジカルビュー社
評価方法	レポート100%
その他	・授業実施方法：対面授業 (ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える)

科目区分	助産学実践科目	対象学年	1
授業科目	助産学特論III (母子・家族の心理と社会)	学期	春学期
担当教員	准教授 橋本由里 非常勤講師 藤原映久 扶間玄以	選択/必修	必修
科目コード	I7070123	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	発達心理学の側面から、家族の形成プロセスや親子関係に関する諸理論を理解する。発達心理学の視点から母子を取り巻く現代社会の課題と子どもの発達、子どもの発達の遅れや発達障害がい児を理解し、子どもの健やかな発達を支援する方法を理解する。 また、周産期のメンタルヘルスの意義や妊娠・出産を契機に精神を病む母親の病態を理解し、兆候の早期発見と早期支援のための医療や多職種連携について理解する。
到達目標とDPとの関連	目標 1) ライフサイクルとメンタルヘルスにおける諸問題と周産期のメンタルヘルスの意義について理解することができる。(助産DP1, 2, 3) 2) 家族形成のプロセスにおける親子関係、母子関係等を発達心理学の視点から理解することができる。(助産DP1, 3, 4)
授業計画	回数 内容 担当 1 乳児期の親子関係 (1) 愛着形成、愛着障害 橋本 2 乳児期の親子関係 (2) 信頼関係、虐待 橋本 3 女性のライフサイクルとメンタルヘルス (1) 思春期・青年期における諸問題 橋本 4 女性のライフサイクルとメンタルヘルス (2) 成人期初期・中期における諸問題 橋本 5 女性のライフサイクルとメンタルヘルス (3) 更年期・老年期における諸問題 橋本 6 母子関係 (1) 母子相互作用 橋本 7 母子関係 (2) 母子を取り巻く社会 橋本 8 家族関係 父子関係、兄弟関係、祖父母との関係 橋本 9 論文講読 (1) 橋本 10 論文講読 (2) 橋本 11 子どものしつけと体罰 藤原 12 虐待予防を目的とした保護者支援の実践 藤原 13 精神障がいへの対応、鑑別 周産期のメンタルヘルスの意義 扶間 14 妊娠・産後の不適応状態と兆候 精神科医療との多職種連携 扶間 【事前学修】 参考書等で授業に関連する内容を事前に調べておくこと。 【事後学修】 講義時に示された課題を行う。また講義資料をもとに学習内容の復習を行うこと。
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	必要に応じて適宜資料を配布する。
テキスト	助産学講座4 母子の心理社会学、医学書院 虐待予防のための子育て支援プログラム：市町村等ですぐ実施できる実践マニュアル 藤原映久 岩崎学術出版社 授業への参加態度、レポート等で総合的に評価する。
参考文献	
評価方法	
その他	・授業実施方法：対面授業 (ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える)

科目分類	助産学実践科目	対象学年	1
授業科目	助産学実践演習I (妊婦の助産診断とケア)	学期	通年
担当教員	○永井真寿美 井上千晶	選択/必修	必修
科目コード	I7070124	授業形態	講義・演習
		単位数	3

授業の概要	正常な過程にある妊婦と胎児の生理と正常から逸脱した状態を理解し妊婦期の管理を学ぶ。妊婦とその家族への助産診断・助産ケアに必要な情報について理解し、妊婦期のケアを自律して行うことができるよう、論理的思考を基に基礎的な知識と理論を習得する。正常から逸脱する因子や要因を理解し、予防に向けた援助や助産ケアの実践について考える力を養う。
到達目標とDPとの関連	1) 妊娠の成立と正常な妊娠経過を理解し、正常な経過をたどる妊婦の妊娠管理を理解する。 DP1 2) 妊娠に伴う生理的变化、胎児や胎児付属物について理解し、アセスメントおよび具体的なケア方法、妊婦とその家族のセルフケア能力が高められる支援について理解する。 DP1 3) 模擬事例を用いて妊婦期の助産過程の展開を習得する。 DP1 4) 演習において妊婦初期から継続して関わり、妊婦やその家族への支援について検討し、分娩・産褥を見据えたケアを実践することができる。 DP2 5) 妊婦期における異常や正常からの逸脱について理解し、妊婦とその家族への支援ならびに急変時の対応について理解し、対応について述べるができる。 DP2 6) 妊婦に対する個別指導計画立案の方法について理解し、演習を通して指導のもと実践することができる。 DP2
回数	内容
1	妊婦期のマタニティ診断、妊娠初期の経過診断・健康生活診断、家族形成期にある家族の理解 (家族発達、家族役割、家族機能、家族の健康)
2・3	助産診断過程① 妊娠初期
4	妊娠中期の経過診断・健康生活診断
5・6	助産診断過程② 妊娠中期
7	妊娠後期の経過診断・健康生活診断
8・9	助産診断過程③ 妊娠後期
10	妊婦期のマインナートラブルと個別保健指導
11・12	個別保健指導の実践
13・14	正常な経過経過から逸脱した妊婦の支援、ハイリスク状態にある妊婦と家族への支援と急変時の対応
15~22	産婦人科外来において継続受妊婦の健康診査と保健指導の実施及び評価 1回：妊婦健康診査に関する技術試験 (OSCE) 2回~5回：妊娠初期~中期 6回~8回：妊娠後期
(事前)	産婦人科外来において継続受妊婦の健康診査と保健指導の実施及び評価
(事後)	産婦人科外来において継続受妊婦の健康診査と保健指導の実施及び評価
講義のために必要な自己学修(事前・事後)	・母性看護学の既習の知識・技術は、復習してから授業に臨んでください ・継続受持ち事例の健康診査前と実施後にカンファレンスを行います。積極的にディスカッションに参加し、経過診断・健康生活診断の整理や、助産計画の評価・修正を行ってください ・助産学実習Iにて症例カンファレンスを行います。分娩期の経過診断・健康生活診断や助産計画の立案にむけて、積極的にディスカッションに参加してください

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 実践マタニティ診断 第6版 医学書院 助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 第6版 医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第6版 医学書院 最新産科学 正常編 第23版 文光堂 産婦人科診療ガイドライン産科編2026 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会 エビデンスに基づく助産ガイドライン～妊娠期・分娩期・産褥期2024 学会URL からダウンロード可能： (https://www.jyosan.jp/uploads/files/JAMguide_line_2024_citizens_QA/Jam_guide_line2024.pdf) 今日の助産 改訂第4版 マタニティケアの助産診断・実践過程 南江堂 妊産婦メンタルヘルスケアマニュアル～産後ケアへの取り組みのなかへ 改訂版 日本産婦人科医会 (https://mhfw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/mentalhealrth2021_L_s.pdf) 週知分娩婦産科マニキュアル 第2版 医学書院 フラッシュアップ助産学 助産外来の産科技術 根拠にもとづく診察とセルフケア指導 医学書院 J-CUMS公認産科ベネフィットコーステキスト 産婦人科必修 母体急変時の初期対応 第9版 メディカ出版 母体急変を見抜く 産科エマージェンシー臨床推論 メディカ出版 母子健康手帳
評価方法	ポードフォリオ、演習（記録・実施・評価）から総合的に評価する フィードバックは適宜行う
その他	<ul style="list-style-type: none"> 授業方法：対面授業（ただし状況により遠隔授業となる場合は事前にお知らせします） 助産過程展開のための課題は、授業中に提示します 演習には嘱託教員も対応します 助産ケアに関する文献からエビデンスに基づく助産ケアの理解に努めてください

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学演習Ⅱ（産婦の助産診断とケア）	学期	通年
担当教員	○中谷陽子 永井真寿美	選択/必修	必修
科目コード	I7070161 授業形態 講義・演習	単位数	3
(※)：別表2：助産診断・技術学			
授業の概要	産婦と胎児の生理ならびに正常な分娩経過と正常からの逸脱した状態について理解し、解剖学的視点および論理的思考を基に分娩期の助産診断・ケアの実践能力を養う。産婦の主体的な出産を支援できるように科学的根拠に基づいた分娩介入技術を取得する。分娩期の臨床推論の基本概念を理解し、助産における臨床診断能力と緊急時に対応できる実践技術を取得する。分娩期の母子とその家族に対する助産実践について探求する能力を養い、正常から逸脱した原因や要因を理解し、予防に向けた援助や助産ケアの実践について考える力を養う。		
到達目標とDPとの関連	<ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩開始、分娩進行のメカニズムを理解し、生理的な経過ならびに正常からの逸脱について理解することができる。DP1・2 2) 産婦と胎児の状態について根拠を基に助産診断することができる。DP1・2 3) 分娩介入モデルにて仰臥位分娩・側臥位分娩を含むフリースタイル分娩の介入を実施することができる。DP1・2 4) 分娩期の助産診断について概観事例を通して行うことができ、ケア計画を立案することができる。DP1・2 5) 分娩期の異常に対する処置と対応や予防的支援を理解し、臨床推論をもとに急変時の対応を演習にて実施することができる。DP1・2 		
回数	内容	担当者	
1	ガイダンス、分娩期の助産診断 分娩開始の予知と分娩開始	中谷	
2	分娩進行に伴う産婦と胎児の健康状態の助産診断とケア①（講義・演習） ：入院の診断から分娩第1期（前半）	中谷	
3-4	基本となる分娩介入技術1（講義・演習） ：分娩に向けた準備と早期母子接触	中谷	
5	分娩に向けた準備 技術確認試験①	中谷	
6	分娩進行に伴う産婦と胎児の健康状態の助産診断とケア②（講義・演習） ：分娩第1期（後半）から分娩第3期	中谷	
7-8	基本となる分娩介入技術2（講義・演習） ：仰臥位分娩、側臥位分娩	中谷	
9	分娩進行に伴う産婦と胎児の健康状態の助産診断とケア③（講義・演習） ：分娩後2時間までの助産ケア	中谷	
10	分娩進行に伴う正常経過逸脱の予測と予防的ケア ：分娩3要素の異常と予防、分娩促進ケア	中谷	
11-12	間接介入の意義と正常分娩直後のアタッチメント形成への支援 出生直後の早期新生児の助産診断とケア	中谷	

13	分娩介助 技術確認試験②	中谷 永井
14	硬膜外麻酔分娩と助産ケア	中谷
15	産科出血・産科異常に対する助産診断と緊急時・搬送時の支援と対応	中谷
16	産科における急変時対応と臨床推論	中谷
17-19	正常分娩事例・異常分娩事例での助産過程 (ロールプレイ)	全員
20	正常経過からの逸脱・異常時の産婦への肯定的な出産体験への支援	中谷
21	仰臥位分娩に関する技術試験 (OSCE)	全員
講義のために に必要 自己学習 (事前・事後)	<p>事前：3-4 までに滅菌操作 (滅菌物の取り扱い、滅菌手袋の着脱、滅菌ガウンの着脱)、導尿の技術について練習してください。</p> <p>事後：講義での学びについて、講義後に整理し学習を深めてください。 演習を重ね、分娩介助技術を研鑽してください。</p>	
テキスト	<p>助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院 実践マタニティ診断 医学書院 産婦人科診療ガイドライン産科編 2026 日本産婦人科学会・日本産婦人科医会</p>	
参考文献	<p>アセスメント力を磨く助産師のためのフィジカルガイダンス 第2版 医学書院 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版 DVD で学ぶ開業助産師の「わざ」 フリースタイル分娩介助 医歯薬出版株式会社 女性の骨盤 メディカルプラス 新訂第2版 写真でわかる助産技術アトラス 中根直子・馬目裕子監修 インターメディアカ 今日の助産 改訂第4版 北川真理子・内山和美編集 生田克夫医学監修 南江堂 産婦人科必修 母体急変時の初期対応 第3版 メディカ出版 産科エマージェンシー臨床推論 メディカ出版 プリンシプル産科婦人科学2 産科編 メジカルビュー社 硬膜外無痛分娩 安全に行うために 南江堂 無痛分娩パーフェクトガイド：助産師&産科・麻酔科専門医が教える必須知識知識とアセスメント (ペリネイタルケア2023 年夏季増刊) メディカ出版 エビデンスに基づく助産ガイドライン・妊娠期・分娩期・産褥期 - 2024 日本助産学会 筆記試験 40% 技術試験①・②・OSCE 40% 演習 20%：ミニマムリクワイアメンツ (分娩期の診断とケアの項目) を基準とする</p>	
評価方法	助産ケアに関する文献からエビデンスに基づき助産ケアの理解に努めてください。周産期救急における研修 (ALSO プロバイダーコース等) について随時案内する。	
その他	※嘱託教員と一緒にを行います。	

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学演習Ⅲ (褥婦・新生児の助産診断とケア)	学期	秋学期
担当教員	○井上千晶 非常勤講師：尾原千尋	選択/必修	必修
科目コード	17070126 授業形態 演習	単位数	2
授業概要	<p>(※)：別表2：助産診断・技術学</p> <p>産褥期にある母子の正常な経過と正常から逸脱した状態を理解し、科学的根拠に基づいた助産診断過程を実践するために予防を含めた助産ケアの実践について必要な知識と技術を修得する。また出産後に新しい家族関係を築いていく過程とそれを阻害する要因について理解し、新しい家族を形成する過程が円滑に進むための支援について学ぶ。</p> <p>1) 正常な産褥経過と正常から逸脱状態について理解することができる。DP1、2 2) 産褥期と新生児期について根拠を基に助産課程を展開し、模擬事例をもとに産褥期・新生児期の到達目標と助産診断、ケアプランを立案することができる。DP1、2 3) 正常からの逸脱、特別な支援が必要な症例、緊急時の対応について理解し、予防的な支援を含め検討し述べることができる。DP1、2 4) 母乳育児に関する基本的な知識と技術を理解し、実施できる。DP1、2</p>		
回数	内容	担当者	
1	産褥期の生理的変化と対象理解 (開始前テストを行う)	井上	
2	褥婦のアセスメントと健康課題	井上	
3	産褥期の助産ケア①身体的回復への助産ケア	井上	
4	産褥期の助産ケア②母乳育児への援助	井上	
5-6	産褥期の助産ケア③母乳育児への援助：入院中から地域での生活における乳房ケア、授乳支援 (招致講義)	井上	
7	母子相互作用と促進する助産ケア	井上	
8	正常から逸脱・産科的異常のある褥婦への支援と急変時の対応	井上	
9-10	特別な支援を必要とする褥婦・家族の現状と支援：メンタルヘルス	尾原	
10	新生児の適応と生理	井上	
11	新生児への助産ケア	井上	
12	褥婦事例の助産診断過程①	井上	
13	褥婦事例の助産診断過程②	井上	
14	褥婦事例の助産診断過程③新しい家族を形成するための助産ケア・指導案実施	井上	
講義のために 必要 自己学習 (事前・事後学修)	<p>母性看護学で学んだ産褥・新生児期の生理的変化を復習しておく。開始前に確認テストを行う。技術では褥婦の観察、新生児の観察・沐浴は各自で行えるようトレーニングしておくこと。 事前：各回に関連するテキスト及び参考資料、手技等の動画を確認しておくこと。 事前・事後課題は講義中で示す。各自授業内容の振り返りと要点整理を行うこと。</p>		
テキスト	<p>助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 医学書院 新生児学入門, 第5版, 医学書院 実践マタニティ診断 医学書院 産婦人科診療ガイドライン産科編 2026</p>		

母子健康手帳 (母性看護学の教科書 概論・各論：新たに購入する必要なし)	
アセスメント力を磨く助産師のためのフイジカルイグザミネーション、医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、医学書院 写真で見る母性看護技術アドバンス、インターメディアカ 写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法 前川喜平他 南山堂 助産師のための産後ケアガイド2023 日本助産師会 産後ケアガイド改訂特別委員会 助産業務ガイドライン2024 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版 医学書院 病気がみえる Vol.110 産科、メディックメディア 最新産科学 正常編、文光堂 最新産科学 異常編、文光堂	
参考文献	
評価方法	筆記試験 70% 演習および指導案・レポート 30%
その他	・授業実施方法：対面授業（ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える）

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学演習Ⅳ（ハイリスク妊産婦・新生児の診断技術）	学期	秋学期
担当教員	非常勤講師 岩成治 吾郷真子 山本慧 遠藤智弘 原百子	選修/必修	必修
科目コード	17070127 授業形態 演習	単位数	1
授業概要	（※）別表2：助産診断・技術学 ハイリスクの妊産婦及び新生児の病態生理と治療、その支援について理解し、高度な周産期母子医療に対応した実践能力を修得する。		
到達目標とDPとの関連	1) ハイリスクの妊産婦・胎児、新生児の病態と生理について理解できる。DP1 2) MFICU・NICU・GCUにおけるハイリスクへのケアの実際、家族支援と多職種連携について理解し、助産師としての役割について考えることができる。DP1、DP2、DP3		
授業計画	回数 内容	担当教員	
	1-3 ハイリスク妊婦と胎児の病態と生理	岩成	
	4-5 ハイリスク産婦と胎児の病態と生理	岩成	
	6-8 ハイリスク産婦の病態と生理	岩成	
	9-10 ハイリスク新生児の病態と生理	吾郷・山本	
	11-12 NICU・GCUにおけるハイリスク新生児のケアと家族支援	遠藤	
	13 周産期母子医療センターにおけるハイリスク妊婦のケアと多職種連携	原	
	14 MFICUの役割と機能、ハイリスク妊婦のケアと多職種連携	原	
テキスト	必要に応じて適宜資料を配布する。		
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	事前：各回のテーマに関連する教科書や参考文献を事前に読み、基本的な概念や影響を把握しておくとともに、授業で理解を深めたい点や疑問点を整理しておくこと。1-8は事前課題を別途示す。 事後：授業内容を再確認し理解を定着させること。9-14はリフレクションシートを作成し提出すること。		
参考文献	小林康江 第7巻ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会 我部山キヨ子 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院 我部山キヨ子 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院 日本新生児生育医学会 新生児学テキスト メディカ出版 森恵美 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 江藤宏美 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 佐々木くみ子 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会		
評価方法	定期試験 50% (妊産婦・胎児 20%、新生児 30%) 事前・事後レポート 50%		
その他	・授業実施方法：対面授業（ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える） 事前学習をして授業に挑むこと。		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産診断技術演習V (フィジカルイグザミネーション)	学期	秋学期
担当教員	○永井真寿美 井上千晶 中谷陽子 非常勤 山上育子	選択/必修	必修
科目コード	17070128	授業形態	演習
		単位数	2

(※)：別表2：助産診断・技術学

授業の概要	助産師として妊産婦ならびに新生児のフィジカルイグザミネーション技術を習得し、基礎的な評価能力を養う。主観的データと客観的データから対象を論理的にアセスメントし、その援助や助産ケアを実践できる力を養う。
到達目標とDPとの関連	<p>1) フィジカルイグザミネーションについて理解し、シミュレーターにて実施することができる。 DP1</p> <p>2) 計測等から得た情報をアセスメントすることができる。 DP1</p> <p>3) 外陰部の解剖を理解し、シミュレーターを用いて会陰縫合を実施することができる。 DP2</p> <p>4) 模擬事例においてシミュレーターを用いて新生児蘇生法を実施することができる (NCPR A コース取得)。 DP2</p> <p>5) 家族計画の目的・内容について理解し、家族計画指導を演習にて行うことができる。 DP2</p>

回数	内容	担当教員
1	ガイダンス・問診技術、妊娠期のフィジカルイグザミネーション	永井
2	超音波診断の基礎知識と画像診断	山上
3	演習 (超音波診断)	山上
4	婦人科検診、会陰裂傷、会陰切開と会陰縫合	山上
5	演習 (会陰縫合)	山上
6	分娩期のフィジカルイグザミネーション	中谷
7	胎心拍モニタリング	中谷
8	産褥期のフィジカルイグザミネーション	井上
9-12	新生児蘇生法 (NCPR: A コース)	井上・中谷
13・14	家族計画の実際と個別指導	井上
15	技術試験	永井・井上・中谷

講義のために必要な自己学習 (事前・事後)	<p>(事前)</p> <p>テキストにて授業に関連する内容を事前に調べておく。特に、NCPR 受講前にはテキストを熟読する (事後)</p> <p>演習を重ね、助産技術を研鑽してください</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント力を磨く 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 医学書院 日本版救急蘇生ガイドライン 2025 に基づく新生児蘇生法テキスト第5版 NEDICAL VIEW
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 週別別妊婦健診マニュアル 第2版 医学書院 正常がわかる胎児超音波検査 文光堂
評価方法	技術試験 70% (フィジカルイグザミネーション)、演習 30%
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法：対面授業 (ただし状況により遠隔授業となる場合は事前にお知らせします) ・助産ケアに関する文献からエビデンスに基づく助産ケアの理解に努めてください

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産診断技術演習VI (ヘルスプロモーション方法論)	学期	春学期
担当教員	中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	17070129	授業形態	演習
		単位数	2

(※)：別表2：助産診断・技術学

授業の概要	地域における母子とその家族を含む人々のライフサイクルに応じたヘルスプロモーションを理解し、対象のニーズやライフスタイルに応じた健康教育を企画・運営・実施・評価する実践能力を養う。中医学や機能性医学などの代替療法を理解しヘルスプロモーションの運営について探求する。
到達目標とDPとの関連	<p>1) ライフサイクルに応じたヘルスプロモーションについて理解できる。 DP2・3</p> <p>2) 代替療法の目的・意義を理解し、実践にむけて検討できる。 DP2</p> <p>3) ライフサイクルに応じたヘルスプロモーションを理解し、運営について探求できる。 DP1・2・3</p> <p>4) 地域における母子とその家族へ集団指導を企画し、実施・評価できる。 DP1・2・3</p>
回数	内容
1	ヘルスプロモーションとヘルスリテラシー
2	学童期・思春期・青年期のヘルスプロモーション
3	産褥期のヘルスプロモーション
4-5	女性とパートナーに対するヘルスプロモーション
6	代替療法：食事療法、アロマセラピー
7-9	地域における母子とその家族への支援の実際 (助産師訪問同行)
10	健康教育の方法
11-12	集団指導の実践に向けた取り組み
13-14	集団指導の実践と評価
講義のために必要な自己学習 (事前・事後)	<p>事前：日ごころから地域での実践の場に積極的に参加してください。</p> <p>事後：講義での学びについて、授業後に整理し学習を深めてください。</p>
テキスト	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 堀内成子・片岡歌恵子：助産学講座5 助産診断・技術学I 医学書院 福田洋他：ヘルスリテラシー：健康教育の新しいキーワード 大修館書店 近藤尚己：健康格差対策の進め方 効果をもたらす5つの視点 医学書院
評価方法	実践レポート 20% 集団指導 80%
その他	※嘱託教員と一緒に実施します。

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産管理	学期	秋学期
担当教員	○中谷陽子 非常勤講師 竹田美也子 山中智恵 比良静代	選択/必修	必修
科目コード	I7070130	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の概要 授業者の概要 到達目標とDPとの関連	(※) 別表2：助産管理 母子保健医療福祉の動向を踏まえた、助産師の実務的な業務管理について概観できる。活動する場（医療施設・助産所など）による助産管理の特徴・法的根拠などについて理解する。また、助産業務に関わる業務上の倫理と助産師の義務と責任を基盤に、安全で質の高い助産実践が自律して行えるよう基本的な知識を修得し、これからの助産管理について考えることができる。		
	1) 助産師および助産業務に関わる法律と助産師の法的責任について理解することができる。DP1・2		
	2) 地域、医療機関での助産師の役割と活動と多職種との連携について理解することができる。DP2・3		
	3) 総合病院や助産所等における助産管理を理解し、マネジメントを含めた助産管理について考えることができる。DP1・2・3		
	4) 助産師のキャリアプランについて理解でき、自身のキャリアプランについて検討することができる。		
	回数	内容	担当者
	1	助産業務・助産管理の概念	中谷
	2	助産師および助産業務に関わる法と責任①：助産師の業務に関わる関係法規	中谷
	3	助産師および助産業務に関わる法と責任②：女性と子どもの支援に関わる関係法規	中谷
	4	助産師の法的義務	中谷
	5	快適な妊娠出産のためのガイドライン	中谷
	6	判例に見る助産師の法的責任	中谷
	7	周産期母子医療センターにおける医療事故とリスクマネージメント	竹田
	8	院内助産・助産師外来における助産管理	山中
9	災害時の助産管理・助産師活動	中谷	
10	地域における助産師の役割と実践活動	比良	
11	助産所における助産管理	比良	
12	助産業務ガイドラインとマネジメント	比良	
13	周産期医療における連携・協働	比良	
14	助産師としての将来ビジョン 助産師のキャリアプランとクリニカルラダ	中谷	
講義のため に必要な自 己学習（事 前・事後）	事前：テキストの該当箇所を読んで事前学習をして授業に臨んでください。 2-4の前には助産師および助産業務に関わる法律について学習してください。 事後：講義での学びについて、授業後に整理し学習を深めてください。		

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産診断技術演習Ⅶ（次世代育成支援）	学期	春学期
担当教員	○井上千晶	選択/必修	必修
科目コード	I7070153	授業形態	演習
		単位数	1

授業の概要 到達目標とDPとの関連	(※)：別表2：地域母子保健 母子保健制度や母子保健施策の動向を理解し、地域における助産師の役割を考察し、次世代育成支援について理解する。胎児期から産後4か月までの継続症例や島根県立大学内に併設している子育て支援センターにおいて乳幼児の発育発達を学び、地域における子どもとその家族を対象とした次世代育成支援について考察を深める。思春期・青年期への性教育、家庭訪問を通じた子育て支援、産後うつや児童虐待等の支援や子どもの健康課題を理解した健康教育など地域における助産活動を自立して提供できる能力を修得する。		
	1) 母子に関する制度や施策を理解し、地域における助産師の役割を探索することができる。DP2・3		
	2) 乳幼児の健康診査を実施し、発育発達状態をアセスメントすることができる。DP1、3		
	3) 子どもの発達段階や健康課題を理解し、助産師として次世代育成への支援を探索することができる。DP2		
	4) 対象に応じた健康教育の企画し、実施・評価することができる。DP1、3		
	回数	内容	
	1	母子に関する制度と施策の動向	
	2	子育て包括支援の現状と課題	
	3-5	乳幼児の健康診査と助産ケア：乳幼児の健康診査の実施	
	6-9	乳幼児の健康教育の実践と評価	
	10	子どもの成長発達と健康課題	
	11	世界の性教育の動向と日本における次世代育成への展望	
	12-13	次世代育成に向けた健康教育の実践	
	14	次世代の健康対策とリプロダクティブヘルス（ディスカッション）	
講義のために 必要な自己学 修（事前・事後 学習）	各回の事前事後課題の内容と提出日時については講義開始日に詳細に説明する。 事前に行動計画や指導案を作成の上教員指導に基づき修正し、目的を明確に行動すること。事後には速やかに報告し必要時評価を受けること。		
テキスト	乳幼児健康診断マニュアル 第7版 医学書院		
参考文献	助産学講義9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 助産師のための産後ケアガイド2023 日本助産師会 産後ケアガイド改訂特別委員会		
評価方法	実践レポート30% 健康教育の実践（企画・実施・評価）70%		
その他	日頃から子育て支援センターなど地域での実践の場に参加してください。		

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座10 助産管理 第6版 医学書院 ・助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 第6版 医学書院 ・助産業務ガイドライン2024 日本助産師会出版会
参考文献	<p>新版 助産師業務要覧 第4版 [I 基礎編] 2026年版 日本看護協会出版会</p> <p>新版 助産師業務要覧 第4版 [II 実践編] 2026年版 日本看護協会出版会</p> <p>新版 助産師業務要覧 第4版 [III アドバンス編] 2026年版 日本看護協会出版会</p> <p>助産師基礎教育テキスト 2025年版 第3巻 助産サービスマネジメント 日本看護協会出版</p> <p>助産師開業マニュアル2021 一開設・管理・運営 一 日本助産師会出版</p> <p>日本産科婦人科学会 日本産婦人科医学会編集・監修 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2026</p> <p>科学的な根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 金原出版 2014</p> <p>看護六法 新日本法規</p>
評価方法	試験 60% レポート 40%
その他	・授業実施方法：対面授業（ただし状況により遠隔授業となる場合は事前へ伝える）

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産学実習 I (正常産例助産ケア実習)	学期	秋学期
担当教員	○井上千晶 中谷陽子 永井真寿美	選択/必修	必修
科目コード	I7070162 授業形態 実習	単位数	11
(※) 別表2：助産学実習			
授業の概要	<p>正常経過をたどる妊産婦・新生児を対象にこれまで学習した知識と技術を統合して分娩時の助産過程を展開し、助産実践能力を養う。生理的な経過をたどる母子とその家族の個性を踏まえ、対象を継続的・統合的に理解し、助産ケアを実践する能力を養う。産後健診や家庭訪問を通じた産後ケアの実践から助産師としての役割と責任を理解する。また、島根県の離島と中山間地域における周産期医療の現状を理解する。</p>		
到達目標とDPとの関連	<p>1) 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期を継続して受け持ち、個性を理解し助産診断を行うことができる。DP1、2</p> <p>2) 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の助産計画を科学的根拠に基づき、立案・実施・評価することができる。DP1、2</p> <p>3) 退院後の支援について理解し、産後ケアについて検討することができる。DP1、2</p> <p>4) 正常産例における分娩介助を安全に行うことができる。DP1、2</p> <p>5) 症例カンファレンスを通して、情報やケア、今後の支援について共有することができる。DP1、2、3</p> <p>6) 離島・中山間地域における周産期医療の実態について理解し、助産師としての役割について考えることができる。DP2、3</p>		
授業計画	内 容		
	<p>1. 分娩介助実習 実習病院にて分娩目的で入院した産婦を受け持ち、助産診断とケアを展開する。助産計画の立案および助産ケアを行い、安全な出産への対応として概ね10例の分娩介助を行う。多様なニーズに対応した助産技術を習得する。</p> <p>2. 継続事例実習 1 例は妊娠期から受け持ちを開始した継続事例とし、妊娠期から産褥1ヶ月までの母子のアセスメント・助産診断、計画立案を行い、導き出されたケアや保健指導等を臨地実習指導者または教員の指導を受けながら、自立して行う。また分娩介助を行った初産婦1例、経産婦1例は分娩期から産後1か月まで継続して受け持ち、助産診断からケア実践、指導等を行う。また、継続事例において、症例カンファレンスおよび産後ケアを行う。</p> <p>3. 間接介助実習 ベビーキャッチ含む間接介助を3例以上実施する。</p> <p>4. 島根県の離島・中山間地域の産科施設において実習を行い、離島・中山間地域における周産期医療の現状と助産師の役割について学修する。</p>		
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>実習については別途「演習・実習要項」にて詳細なオリエンテーションを行います。記載されている実習目標と求められる技術及び到達度をふまえて、講義の復習や自己学習、技術練習を積み重ねてください。一般的な助産計画については準備しておいてください。</p> <p>★実習前に知識と技術試験を行います。一定の基準に到達していない場合は、分娩介助実習を開始することはできません。</p>		

テキスト	
参考文献	授業等で使用したすべてのテキスト・参考図書
評価方法	実習目標の達成度を定めた評価表に沿って評価を行う（実習記録50%、カンファレンス（記録を含む）30%、実習状況20%）。フィードバックはその都度行う。
その他	

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産学実習Ⅱ（異常症例助産ケア実習）	学期	春学期
担当教員	○永井真寿美 井上千晶	選択/必修	必修
科目コード	I7070132	授業形態	実習
		単位数	2

(※) 別表2：助産学実習

授業の概要	MFICU 及び NICU・GCUにてハイリスク妊産婦および新生児のもつ疾患やリスクならびに治療・ケアについて理解する。身体的側面、心理的側面、社会的側面から統合的に対象を理解する。対象者と家族を理解し助産過程を展開することで、ハイリスク症例に対応できる高度な助産診断能力を養う。またハイリスク妊産婦・新生児とその家族に対して多職種と協働してケアを行う必要性やその方法について理解する。	
到達目標とDPとの関連	<p>1) ハイリスク妊産婦・新生児の病態、治療、管理について理解し、助産診断から助産ケアを指導者または教員の指導のもと実践することができる。</p> <p>2) ハイリスク妊産婦やハイリスク新生児・児の退院に向けた支援など多職種連携の実際について理解し、考察することができる。</p> <p>3) ハイリスク妊産婦や新生児とその家族の心理的・社会面をアセスメントし包括的なケアについて考えることができる。</p> <p>4) ハイリスク母児と家族へのケアについて助産師の役割や倫理的態度について考えることができる。</p>	
授業計画	回数	内容
	実習内容 1.妊産期 産科合併症等でMFICUに入院する妊婦を対象とし、病態と治療、その管理について理解し、それらを考慮し助産ケアを展開し妊婦とその家族へのケアを指導者または教員の助言のもと実践する。	
	1～45	<p>2.分娩期・産褥期 帝王切開分娩、麻酔分娩の妊婦と新生児やハイリスク産婦・褥婦を対象とし、その病態と治療・管理について理解し、対象者の助産ケアを展開し褥婦・新生児とその家族への支援指導者または教員の指導のもと実践する。褥婦のセルフケア能力が高められる支援を指導のものを行う。</p> <p>3.新生児期 NICUまたはGCUに入院する児や低出生体重児の病態と治療、その管理を理解し、助産ケアを展開し児とその家族へのケア実践ならびに養育者のアタッチメント形成やデバイスロップメンタルケア等について助言のもと実践する。</p> <p>4.ハイリスク症例における周産期医療の産科・小児科相互の協力体制や助産師の役割、臨床心理士や地域医療連携室、地域の保健師や助産師などの多職種連携の実際を学ぶ。</p> <p>5.カンファレンス 受け持ち事例に関してのカンファレンスを行い、ケアや今後の方針等の対応を検討する。</p>
講義のために必要な自己学習(事前・事後)		「演習・実習要項」を配布しオリエンテーションを行います。記載されている実習目標と求められる技術及び到達度をふまえ、講義の復習や自己学習、技術練習を行ってください。特に、麻酔分娩の管理と助産ケアについて学習をしておいてください
テキスト		なし
参考文献		・ベリネイタルケア2023年夏季増刊 無痛分娩スーパーフェクトガイド 助産師&産科・麻酔科専門医が教える必須知識とアセスメント メディア出版 ・講義で使用したテキスト等
評価方法		実習目標の達成度により評価を行う。(実習記録50%、実践レポート30%、カンファレンス20%)
その他		

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産学実習Ⅲ（助産ケア統合実習）	（※）別表2：助産学実習	春学期
担当教員	○中谷陽子 井上千晶 永井真寿美	選択/必修	必修
科目コード	I7070133	授業形態	実習
授業の概要	<p>助産所での実習を行うことにより、これまでの知識・技術を統合し、主体的に実習に取り組み、地域に根ざした自律性の高い助産師の熟練した技や活動を学習し、助産診断技術、助産ケア技術を強化する。また、産後ケアや新生児訪問等地域の母子保健活動の実際や、助産所の助産管理について理解し、対象とその家族の特性に合わせた包括的な助産ケアを自律して提供できる能力を学修する。これからの助産師としての社会的役割を果たすために、助産所開業権を踏まえた働き方や責務について考察を深める。</p> <p>1) 助産所における妊産婦・新生児ならびに乳幼児や家族への支援を理解し、助言のもと助産ケアを実践することができる。DP1・3</p> <p>2) 助産所における助産管理の実際、開業助産師の業務範囲、経営管理について理解し説明することができる。DP1・2・3</p> <p>3) 地域の健康課題を捉え、助産活動の展望や改革の可能性や自分自身の役割と責務について考察できる。DP1・2・3・4</p>		
到達目標とDPとの関連	<p>内容</p> <p>ばっこ助産院実習では学生1～2名ずつ助産所に配置する。</p> <p>1. 有床助産所における妊産婦・新生児、地域女性とその家族を対象とした開業助産師が行うケアを理解する：①西江助産師（西江助産院）学内講義 ②ばっこ助産院</p> <p>2. 有床助産所における妊産婦・新生児、地域女性とその家族を対象とした助産ケアに参加し、開業助産師が行うケアを理解する。</p> <p>3. 妊産婦健康診査、分娩介助などの妊産婦とその家族へのケア、産褥・新生児期のケア、家族計画支援、退院後のケアなどを助産師の指導の下に部分的に実践する。</p> <p>4. 助産所と医療機関の連携、助産所の安全管理について助産所管理者から講義を受けるとともに、日々の実習をおおして理解する。</p> <p>5. 助産師が行う事例のカンファレンスに参加し、ケアの実際と評価を学ぶ。</p> <p>6. 地域における助産師と他職者の協働、企画づくり等の場に参加し、地域における助産師の役割を考察する。</p> <p>7. 自分自身の助産活動の展望や改革の可能性について考察しレポートにまとめ学びを深める。</p>		
授業計画	<p>事前：助産管理等関連する講義での学びを整理し、実習に臨んでください。</p> <p>事後：実習での学びから、自分自身の助産活動の展望や改革の可能性について考察し深めてください。</p>		
講義のために必要な自己学習（事前・事後）	<p>講義で使ったテキスト</p>		
テキスト	<p>随時紹介する</p>		
参考文献	<p>実習目標の到達度による評価を行う（実習記録50%、実習への取り組み30%、レポート20%）</p> <p>フィードバックは随時行う。</p>		
評価方法			

その他	<p>自ら考え積極的に助産師とコミュニケーションをとり、開業助産師の高い理念や志を理解するよう努めてください。</p> <p>助産業務理解における質と安心・安全がどのように確保されているのか、助産所での実際の実習をとおして学び取ってください。特に、緊急時や災害時などのように対応するのか多職者や地域との連携について学びを深めてください。</p>
-----	--

科目分類	専門科目	対象学年	1・2
授業科目	課題研究	学期	通年
担当教員	○主指導教員、修士課程専任教員	選択/必修	必修
科目コード	I7070119 授業形態 演習	単位数	4
授業の概要	<p>専門領域の現場で起きている現象を科学的根拠に基づいて分析し、論理的に探究する能力を養う。実践に即したテーマについて研究を行い課題研究にまとめる。論文作成、発表会を通じて成果を論文にまとめる力、プレゼンテーション力を養う。一連の研究過程を通して看護学・助産学の発展や深化に寄与する研究能力を育成する。</p> <p>1) 「基礎科目」「専門科目」の学修を基礎と研究課題を特定し、研究計画書作成、研究倫理審査承認後研究を行うことができる。(助産DP4、診療看護師DP4)</p> <p>2) データ収集・分析し、結論を導き出すプロセスを理解し、実践できる。(助産DP4、診療看護師DP4)</p> <p>3) 中間発表会において研究経過における成果や内容について発表し、問題点、課題解決の方法について検討し、課題研究論文にまとめることができる。(助産DP4、診療看護師DP4)</p> <p>4) 複数の指導教員のもと、論理的思考を習得し、多面的な視点から研究する姿勢を身につけることができる。(助産DP1、2、3、4、診療看護師DP1、2、3、4)</p>		
	回数	内容	
	1～14回	<p>学生により進度は異なるが目安として以下のように取り組む。</p> <p>1. フィールド開拓：専門領域の現場から研究課題を特定し、課題解決のための研究計画を立案し、実施体制を整える。文献レビューを通して研究課題を絞り込み、その背景や研究課題を明らかにする。</p> <p>2. 研究計画の実施：研究倫理審査委員会の承認後研究計画に基づいてデータ収集を行う。</p>	
授業計画	15～28回	<p>3. データ分析の実施：指導教員の指導を継続的に受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高める。</p> <p>4. 分析結果の考察・検討：分析結果を踏まえて考察し、計画発表会の準備をする。計画発表会では研究目的・方法・データ収集・分析結果についてディスカッションを行い、助言指導を受けながら、課題研究論文の作成につなげる。</p> <p>5. 研究論文の作成：計画発表での質疑、指摘等を踏まえながら、一連の研究過程の成果をまとめて課題研究論文を作成する。</p> <p>6. 研究論文の発表：公開発表会で成果を発表する。</p> <p>7. 研究論文の修正・完成：発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。</p>	
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	<p>事前：各回の指導内容に応じて、文献検索・文献レビュー、研究計画の修正、倫理申請準備、データ収集・分析の予習等を行い、次回指導で確認すべき点を整理しておくこと。</p> <p>事後：指導に基づき、必要文献の追加や見直しを行うこと。</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜文献・図書を紹介する		
評価方法	[成果物(研究計画書・論文)] 70% [プレゼンテーション] 20%		

	[プレゼンテーションに対する質疑応答・修正] 10%
	修士論文(課題研究論文)の可否は審査基準に沿って評価する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実施方法：原則、対面形式で行う(ただし、状況に応じて遠隔授業)。 ・本科目は、各学生の主研究指導教員と副研究指導教員が担当する。

博士前期課程

高度実践者養成コース

診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域

高度実践者養成コース診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
基盤科目	看護理論	1 春		2	教授	岡安 誠子
	看護倫理特論	1 秋	2		准教授	高橋 梢子
					非常勤講師	安藤 泰至
	コンサルテーション論	1 秋		2	教授	大森 眞澄
	看護研究方法論Ⅰ	1 春	2		教授	川瀬 淑子
					教授	高橋 恵美子
	看護研究方法論Ⅱ	1 春	2		教授	大森 眞澄
					准教授	佐藤 美紀子
	地元創成看護学特論Ⅰ	1 春	2		准教授	小川 智子
	保健医療福祉政策論Ⅰ	1 秋	2		講師	祝原 あゆみ
	健康栄養特論Ⅰ	1 秋		2	非常勤講師	谷村 綾子
非常勤講師					澤 幸子	
データサイエンス論	1 春		2	非常勤講師	江崎 剛史	
疫学・保健統計学特論	1 秋		2	非常勤講師	大城 等	
小計（10科目）	—	10	10	—		
専門科目	プライマリ・ケア看護学特論	1 秋	2		講師	横山 淳美
					非常勤講師	市原 真穂
					非常勤講師	加藤 節司
					非常勤講師	木村 千尋
					非常勤講師	三浦 靖
					非常勤講師	樋口 秋緒
	精神看護学特論Ⅰ	1 春		2	教授	大森 眞澄
	成人・老年看護学特論Ⅰ	1 春		2	教授	奥山 真由美
					教授	大塚 美樹
					准教授	佐藤 美紀子
	地域看護学特論Ⅰ	1 春		2	教授	小田 美紀子
	母性・小児看護学特論Ⅰ	1 春		2	教授	高橋 恵美子
					教授	井上 千晶
					准教授	中谷 陽子
	看護教育学特論Ⅰ	1 春		2	教授	岡安 誠子
					教授	川瀬 淑子
					准教授	高橋 梢子
	NP論	1 春	2		講師	横山 淳美
					非常勤講師	木村 千尋
					非常勤講師	筑井 菜々子
非常勤講師					竹下 治男	
統合医療安全・特定行為実践特論	1 春	1		放送大学大学院		
統合臨床病態生理学・疾病特論	1 春	2		放送大学大学院		
フィジカルアセスメント特論Ⅰ	1 春	1		放送大学大学院		
フィジカルアセスメント特論Ⅱ	1 秋	1		講師	横山 淳美	
				教授	山下 一也	
				非常勤講師	山崎 啓一	
				非常勤講師	池内 寛記	
臨床推論	1 春	1		放送大学大学院		
臨床薬理学特論Ⅰ	1 春	1		放送大学大学院		
臨床薬理学特論Ⅱ	2 春	1		講師	横山 淳美	
				非常勤講師	矢野 貴久	
				非常勤講師	石原 慎之	
				非常勤講師	遠藤 進一	
				非常勤講師	後藤 貴樹	
				非常勤講師	曾田 重人	
				非常勤講師	玉木 宏樹	
非常勤講師	直良 浩司					

科目 区分	授業科目の名称	開講 年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
専 門 科 目	特定行為共通科目統合演習	1春	1		放送大学大学院	
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅰ	2春	1		講師	横山 淳美
					非常勤講師	磯和 理貴
					非常勤講師	田邊 翔太
					非常勤講師	並河 哲志
					非常勤講師	邊田 健一
					非常勤講師	橋本 圭司
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅱ	2春	1		講師	横山 淳美
					非常勤講師	藤代 浩史
					非常勤講師	吉野 千城
					非常勤講師	西谷 有子
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅲ	2春	1		講師	横山 淳美
					非常勤講師	山崎 啓一
					非常勤講師	池内 寛記
					非常勤講師	宇賀田 圭
					非常勤講師	大谷 裕
プライマリ・ケア看護学演習Ⅳ	2春	2		講師	横山 淳美	
				非常勤講師	辻野 佳雄	
				非常勤講師	西村 恭子	
				非常勤講師	小原 友子	
				非常勤講師	池野屋 慎太郎	
				非常勤講師	東 耕一郎	
プライマリ・ケア看護学演習Ⅴ	2春	2		講師	横山 淳美	
				非常勤講師	中村 嗣	
				非常勤講師	板持 卓弥	
				非常勤講師	妹尾 千賀子	
プライマリ・ケア看護学演習Ⅵ	2春	1		講師	横山 淳美	
				教授	山下 一也	
				非常勤講師	小林 孝文	
NP活動見学実習	1春	1		講師	横山 淳美	
プライマリ・ケア看護学実習	2秋	14		講師	横山 淳美	
プライマリ・ケア看護学探求セミナー	2秋	1		講師	西本 亜希子	
				講師	横山 淳美	
研究 課題研究	1～2通	4		主副指導教員		
小計（25科目）			41	10	-	
合計			51	20	-	
修了要件及び履修方法						
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に課題論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <ul style="list-style-type: none"> ①基盤科目から6科目12単位以上（必修科目5科目10単位を含む） ②専門科目から22科目45単位以上（必修科目20科目41単位を含む） <p style="margin-left: 20px;">合計57単位以上を修得すること。</p>						

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護理論	学期	春学期
担当教員	教授 岡安誠子	選択/必修	選択
科目コード	I7070000	授業形態	講義・演習

授業の概要
 授業の目的は、看護実践の基盤となる看護理論の意義について理解し、代表的な看護理論を取り上げ、理論と看護現象との関係について理解し、看護実践や看護研究への活用を探究する。

- 到達目標とDPとの関連
- ① 看護の基盤となる理論の位置づけや歴史的変遷と発展の過程を学修する。DP1
 - ② 諸理論は看護現象や看護実践にどのように活用し得るのか考察する。DP1
 - ③ 看護実践や看護研究への諸理論の適用の実際について議論する。DP1・DP4

回数	内容	担当
1	【講義】 ガイダンス	岡安
2	【講義】 看護理論とは、歴史的発展過程	岡安
3	【講義】 看護理論の分析と評価	岡安
4	【講義】 看護理論の看護実践への適応 [看護場面等の分析]	岡安
5	【演習】 看護理論の看護実践への適応の実際	岡安
6	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (1))	岡安
7	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (2))	岡安
8	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (3))	岡安
9	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (4))	岡安
10	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (5))	岡安
11	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (6))	岡安
12	【講義】 看護理論の看護研究への適応 (サブストラクシオン他)	岡安
13	【演習】 看護理論の看護研究への適応の実際	岡安
14	【演習】 看護理論の看護研究への適応の実際・まとめ	岡安

講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)

・ブレゼンテーションを担当する看護理論については、テキスト以外の書籍や論文などの文献も参照し、理解を深めて説明できるようにしてください。

テキスト	筒井真優美 (2025) : 看護理論家の業績と理論評価 第3版、医学書院
参考文献	授業内で、適宜提示する。
評価方法	ブレゼンテーション50%、ディスカッションへの貢献度50%を総合して評価する。
その他	・原則、授業は「遠隔授業」とする。

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護倫理特論	学期	秋学期
担当教員	○高橋栞子、非常勤講師 安藤泰至	選択/必修	必修
科目コード	I7070001	授業形態	講義・演習

授業の概要
 医療現場において起こっている倫理的な問題・葛藤について、看護職はどのように考え、判断、対応したらいかが、看護専門職に求められる倫理的な問題への対応について探究する。看護倫理の諸概念、問題解決のためのツールについて、課題とし、課題発表および意見交換という授業の形態を取る。

- 到達目標とDPとの関連
- ① 看護倫理とは何かを説明できる。DP1
 - ② 看護職の倫理綱領の意味を説明できる。DP1
 - ③ 倫理的な看護実践の基盤となる諸理論・諸概念を説明できる。DP1
 - ④ 死生の諸問題に対する基礎的知識について理解し、看護専門職に求められる役割を探究できる。DP1
 - ⑤ 倫理的問題の解決のためのアプローチを実践できる。DP1

回数	内容	担当
1	授業ガイダンス、看護倫理とは、看護倫理の歴史、責任と専門職	高橋
2	課題作成	高橋
3	医療と倫理—その関係の多面性—	安藤
4	安楽死・尊厳死	安藤
5	課題1、2 徳の倫理、ケアの倫理	高橋
6	課題3、4 原則の倫理、	高橋
7	課題5、6 道徳的苦悩、道徳的レジリエンス	高橋
8	課題7、8 看護職の倫理綱領	高橋
9	課題9、10 看護職の倫理綱領	高橋
10	課題11、12 看護職の倫理綱領	高橋
11	課題13 事例検討	高橋
12	課題14 事例検討	高橋
13	課題15 事例検討	高橋
14	課題16 事例検討	高橋

講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)

事前学修：ガイダンス時に課題を提示する。担当課題をまとめた上で授業に参加する。
 事後学修：毎回、学びの提出を課す。

テキスト	小西恵美子編 (2021) : 看護学テキストNICE 看護倫理 (改訂第3版) よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂。
参考文献	宮坂道夫 (2018) : 系統看護学講座 別巻 看護倫理、医学書院 小西恵美子 (2018) : 看護倫理を考える言葉、日本看護協会出版会
評価方法	授業への参加度、課題への取組100%
その他	授業はオンライン形式とする。 演習では担当学生が発表を行い、参加者間のディスカッションを通して、理解を深める。 順序は入れ替わる可能性がある。第1回授業時に案内する。

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	コンサルテーション論	学期	秋学期
担当教員	教授 大森眞澄	選択/必修	選択
科目コード	I707004	授業形態	講義
	医療、看護の専門性が高まる中、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なネットワークを構築していくことが重要である。コンサルテーションに必要な知識や技術について学習を深め、看護職のみならず、あらゆる職種と相互に支え合いながら、自己および組織の課題に直面し、問題解決に向かい、行動を変容のプロセスを支援する能力を育成する。大学院生が体験した事例を分析・検討し、最終的には、看護実践に関する相談・支援活動および専門職種間の協働・連携の調整者として、組織または個人を多角的にアセスメントし、看護の質の向上に寄与するコンサルテーションの理論と実践方法を学び、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行う基盤となる能力を探究する。	単位数	2
到達目標とDPとの関連	<p>【目標】</p> <p>1) コンサルテーションのモデルとタイプについて説明できる。DP-①</p> <p>2) 自身のコンサルテーション事例について述べるができる。DP-②</p> <p>3) コンサルテーションのスキルを活用した面接を展開できる。DP-④</p>	内容	担当
	回数	内容	担当
	1	コンサルテーションの定義、特性、目的、意義、職業倫理と契約	大森
	2	コンサルテーションの4つのモデルとその特徴	大森
	3	コンサルテーションのプロセス、技法、評価	大森
	4	コンサルティとコンサルタントの関係と面接	大森
	5	リエゾン精神看護とコンサルタントに必要な能力 (リエゾン看護師招致講義)	齋藤
	6	組織のストレスとコンサルテーション	大森
	7	看護職のストレスの特徴、メンタルヘルスに関する理論とコンサルテーション	大森
	8	コンサルテーション事例の検討 (1) 一院生によるコンサルテーションの事例発表 (リエゾン看護師招致講義)	大森・齋藤
	9	コンサルテーション事例の検討 (2) 一院生によるコンサルテーションの事例発表	大森
	10	コンサルテーション事例の検討 (3) 一院生によるコンサルテーションの事例発表 (リエゾン看護師招致講義)	大森・齋藤
	11	コンサルテーション事例の検討 (4) 一院生によるコンサルテーションの事例発表	大森
	12	個人へのコンサルテーションの実践 (ロールプレイ)	大森
	13	個人へのコンサルテーションの実践 (ロールプレイ)	大森
	14	グループコンサルテーションの実践 (グループワーク)	大森
講義のために必要な自己学習 (事前・事後学修)	<p>各回の事前配付した資料を読み、ディスカッションできるように考えをまとめる (各1時間)</p> <p>9回、10回のコンサルテーション事例の検討にあたって、自身が体験した気がいかな事例を提示した書式にそってまとめる (6時間)</p> <p>組織のストレスとコンサルテーションの中から、1章を選びプレゼンテーションする (6時間)</p>		
テキスト	<p>①E.H.シャイン著、稲葉元吉、尾川丈一訳(2016)：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと、白桃書房。</p> <p>②土居健郎著 (2007)：新訂 方法としての面接 臨床家のために 医学書院</p> <p>③アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ザジェ・ロバーツ編、武井麻子監訳 (2014)：組織のストレスとコンサルテーション、金剛出版。</p>		
参考文献	①宇佐美しおり、野末聖香編集 (2014)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会。		
評価方法	【レポート】60% (具体的事例を分析し、考察したレポート)		
その他	【授業態度】40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)		
	ディスカッション自体がコンサルテーションのスキルを磨くトレーニングでもある。積極的に参加して、これまでの自らの実践経験を振り返る。		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究方法論Ⅰ：量的研究	学期	春学期
担当教員	○教授 川瀬 淑子 教授 高橋 恵子	選択/必修	必修
科目コード	I7070013	授業形態	講義・演習
到達目標とDPとの関連	<p>《目的》</p> <p>研究デザインのうち量的研究の特徴、種類、方法、倫理的配慮の知識を深め、科学的視点から看護研究の看護実践への活用、量的研究計画書の作成に必要な基礎的な知識を修得する。</p> <p>《目標》</p> <p>1. 量的研究の特徴と意義、種類、研究プロセスを理解できる。DP4</p> <p>2. リサーチエクステンションに応じた、適切な研究方法を選択することができる。DP4</p> <p>3. 量的研究における標本抽出、データ収集、測定や統計分析、結果の示し方を説明できる。DP4</p> <p>4. 量的研究を用いた看護研究論文をクリティックし、議論することができる。DP4</p> <p>5. 量的研究における倫理的配慮の重要性と具体的な方法について説明できる。DP4</p> <p>6. 量的研究における看護研究計画立案に必要な内容を説明できる。DP4</p>		
	回数	内容	
	1	看護における量的研究の特徴と意義、量的研究デザインの種類と特徴	(川瀬)
	2	プロセス (1)：文献レビューとクリティック、研究課題の設定	(川瀬)
	3	プロセス (2)：量的研究における課題設定と研究枠組み、仮説の設定	(川瀬)
	4	方法 (1)：量的研究における厳密性、標本抽出とサンプルサイズ、検出力分析	(川瀬)
	5	方法 (2)：測定の信頼性と妥当性、データ収集方法	(川瀬)
	6	方法 (3)：量的研究における研究倫理と倫理的配慮	(川瀬)
	7	分析 (1)：記述統計とデータの種類、統計分析の基本	(高橋)
	8	分析 (2)：差を決定するための検定	(高橋)
	9	分析 (3)：関係性を検討するための検定	(高橋)
	10	分析 (4)：結果の示し方と読み方	(高橋)
	11	量的研究における研究計画書の基本	(高橋)
	12	文献クリティック (1)：学生プレゼンテーション	(川瀬)
	13	文献クリティック (2)：学生プレゼンテーション	(高橋)
	14	文献クリティック (3)：学生プレゼンテーション	(高橋・川瀬)
講義のために必要な自己学習 (事前・事後学修)	<p>事前学修：量的研究に関する原著論文を1つ選び文献クリティックを行う。</p> <p>事後学修：各単元の講義をふまえて、量的研究計画書の作成に必要な基礎的な知識を整理する。</p>		
テキスト	指定しない		
参考文献	<p>・D.F.ボリット&C.T.ベック、監訳：近藤潤子、看護研究 原理と方法、医学書院</p> <p>・バーンス&グローブ、監訳：黒田優子他、看護研究入門、エルゼビアジャパン</p> <p>・アメリカ心理学会、訳：前田樹海他、APA論文作成マニュアル、医学書院</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> 編著：牧本清子・山川みやえ、よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会
評価方法	課題（ブレゼンテーション：40%、資料30%）、授業での取り組み（質疑応答：30%）で評価する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、授業は、遠隔授業で行う。 学生の発表、参加者間のディスカッションを通して、理解を深める。

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究方法論Ⅱ：質的研究	学期	春学期
担当教員	○教授 大森 眞澄 准教授 佐藤 美紀子	選択/必修	必修
科目コード	I7070014	授業形態	単位数
			2

授業の概要	本科目では、臨床および教育現場における疑問や問題について研究倫理を遵守し、科学的に解明・検証していくために必要となる妥当性・信頼性の高い質的研究方法および論文作成に関する基本的知識を学ぶ。		
到達目標とDPとの関連	[目標] 1) 看護研究の目的・意義について説明できる。DP-① 2) 質的研究の特徴および研究プロセスについて説明できる。DP-④ 3) 質的研究の種類や概略、データの収集および質的な分析方法について説明できる。DP-④ 5) 質的な看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的な方法について説明できる。DP-①④ 6) 質的研究における成果のまとめ方について発表できる。DP-④ 7) 具体的に質的な看護研究計画立案に向けた検討ができる。DP-④		
	回数	内容	担当
	1	看護研究の概説、質的研究の概観	大森
	2	文献クリティック	佐藤
	3	看護研究における倫理：質的研究における倫理的配慮の特徴	大森
	4	質的研究論文の文献クリティックの実践：演習	佐藤
	5	質的研究における研究計画書について	大森
	6	質的研究の種類と特徴 (1) M-GTA (学生発表)	佐藤 大森
	7	質的研究の種類と特徴 (2) GTA (学生発表)	大森 佐藤
	8	質的研究の種類と特徴 (3) 内容分析 (学生発表)	佐藤 大森
	9	質的研究の種類と特徴 (4) 現象学 (学生発表)	大森 佐藤
	10	質的研究の種類と特徴 (5) エスノグラフィ (学生発表)	佐藤 大森
	11	質的データの収集 (1)	大森 佐藤
	12	質的データの収集 (2)	大森 佐藤
	13	データのコーディングと質的帰納的分析の実践 (1)	大森 佐藤
	14	データのコーディングと質的帰納的分析の実践 (2)	大森 佐藤
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	提示した文献のクリティックを行い、資料を作成する (3時間) 研究方法を1つ選び、その手法の特徴と方法について説明するための資料を作成する (3時間) 研究方法を1つ選び、学会誌からその手法を用いた原著論文を選定する (3時間) 質的データを分析して、カテゴリを抽出する (6時間)		
テキスト	1) ホロウェイ+ウイラー 野口美和子監訳 (2019)、ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで 第2版、医学書院 2) グレック美鈴、麻原きよみ、横山美江編著 (2016)、よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして (第2版)、医歯薬出版 3) 山川みやえ、牧本清子編著 (2020)、研究方法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文クリティック第2版、日本看護協会出版会		
参考文献	1) 佐藤郁哉 (2017) フィールドワーク増訂版 書を持って街へ出よう 新曜社 2) 大木秀一 (2013)、文献レビューのきほん-看護研究・看護実践の質を高める、医歯薬出版 その他、授業内で適宜紹介する		
評価方法	[演習成果物] 60% (質的研究の種類と特徴：20%、クリティックレポート：20%、コーディング：20%) [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッションへの貢献度) [ブレゼンテーション] 10%		
その他	レゼンテーションおよびディスカッションを交えて進める。主体的な参加を期待する。		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	地元創成看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	准教授：小川智子	選択/必修	必修
科目コード	I7070015	授業形態	演習
		単位数	2
授業の概要	<p>島根県内のフィールドにおいて、そこに暮らす地域住民やフィールドが抱える健康課題に関わる専門職および関係者と関わりながら地域の健康実態を的確に把握し、「地元」を創成する看護について探求する。</p> <p>1. 地域を共通の価値観や帰属意識をもつコミュニティとして捉えることができる。DP①</p> <p>2. Cultural humility 及び Cultural safety について探求できる。DP①</p> <p>3. コミュニティがもつ強みや資源を明らかにできる。DP①</p> <p>4. 健康課題解決につながる組織づくりや対策が提案できる。DP③</p> <p>*DPは研究者養成コースを示す</p>		
到達目標とDPとの関連	<p>＜到達目標＞</p> <p>1) 保健医療福祉に関する諸計画を理解し、看護職が果たす役割を述べることができる。</p> <p>2) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と課題を述べることができる。</p> <p>3) 人々の生活を取り巻く社会問題と保健医療福祉制度の課題を理解し、看護職が果たす役割と多職種との協働のあり方を述べることができる。</p> <p>＜DPとの関連 (各自目標共通)＞</p> <p>研究者養成コース DP2・3、高度実践者コース (助産学) DP3、高度実践者コース (NP) DP3・4</p>		
回数	内容		
1-3	<p>事前学習：7月18日(土)①～③時限</p> <p>◇地元創成看護学について</p> <p>◇Community-based participatory research(CBPR)の概要とその進め方</p> <p>◇既存資料から見るフィールドの人々の暮らし</p>		
4-11	<p>フィールド学習：8月2日(日)～8月3日(月)の1泊2日</p> <p>◇Cultural humility 及び Cultural safety を意識した地区踏査(住民や関係者へのインタビュー(含))を通して健康問題を抽出する</p> <p>◇コミュニティの強みや資源を明らかにする</p>		
12-13	<p>まとめ(課題解決に向けた提案)：8月16日(日)①②時限</p> <p>◇グループワーク</p> <p>テーマ：仮)課題解決につながる健康づくり</p>		
14	<p>報告会：8月16日(日)④時限</p>		
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>【事前学修】</p> <p>フィールドがある自治体の人口統計や保健医療福祉に関する計画をホームページの公表資料から積極的に情報収集する</p> <p>【事後学修】</p> <p>事前学習とフィールド学習での体験を結び付け、フィールドで暮らしている人々に必要な看護について考える</p>		
テキスト	指定しない		
参考文献	<p>・地域保健と活かすCBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ、医歯薬出版株式会社、2010。</p> <p>・Methods in Community-Based Participatory Research for Health, Jossey-Bass, 2005.</p> <p>・R. エマーズン 他：方法としてのフィールドノート、新曜社、2018</p> <p>・その他適宜紹介する。</p>		
評価方法	以下により、総合的に評価する。提出物や提出締切等については、その都度通知する。		
その他	<p>事前学習：30%、フィールド学習：40%、報告会：まとめ：30%</p> <p>・フィールドの状況により日程が変更になる場合があります。</p> <p>・宿泊費や交通費、食費などのフィールド学習に要する費用は全て自己負担である。</p>		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	保健医療福祉政策論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	講師 祝原あゆみ	選択/必修	必修
科目コード	I7070010	授業形態	講義
		単位数	2
授業の概要	<p>保健医療福祉分野において看護職が果たすべき役割を理解するために、保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深める。</p> <p>また、地域医療におけるネットワークの現状も理解し、実務的にどのようなシステム活用により連携が行われているのか、探索的に学び、地域包括ケアについて理解を深める。</p> <p>＜到達目標＞</p> <p>1) 保健医療福祉に関する諸計画を理解し、看護職が果たす役割を述べることができる。</p> <p>2) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と課題を述べることができる。</p> <p>3) 人々の生活を取り巻く社会問題と保健医療福祉制度の課題を理解し、看護職が果たす役割と多職種との協働のあり方を述べることができる。</p> <p>＜DPとの関連 (各自目標共通)＞</p> <p>研究者養成コース DP2・3、高度実践者コース (助産学) DP3、高度実践者コース (NP) DP3・4</p>		
回数	内容		
1	オリエンテーション・政策形成とPDCAサイクル		
2	保健医療福祉サービスに関わる諸計画		
3	適切に医療を提供するための計画		
4	疾病予防や健康づくりを推進するための計画		
5	福祉を推進するための計画		
6	地域共生社会の構築と看護職の役割		
7	地域包括ケアシステムと多職種の協働(1)		
8	地域包括ケアシステムと多職種の協働(2)		
9	地域包括ケアシステムと多職種の協働(3)		
10	こども政策における看護職の役割(1)		
11	こども政策における看護職の役割(2)		
12	災害支援における多職種の協働		
13	少子高齢化と人口減少が進む社会における地域医療政策		
14	島根県における地域医療政策/まとめ		
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<ul style="list-style-type: none"> 初回講義時に、担当するプレゼンテーションのテーマを決めます。テーマの内容が他の受講者に十分説明できるように、文献等を調べ主体的に準備してください。プレゼン担当者以外の学生も、積極的に意見交換ができるよう、事前学習をして参加してください。 授業の中で関連する論文を読み、意見交換を行います。論文クリティークの基本を理解して参加してください。 		
テキスト	適宜、資料を配布します。		
参考文献	<p>島根県保健医療計画</p> <p>厚生省指図臨時増刊「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」</p> <p>必要に応じて紹介するが、基本的には自ら文献検索し、熟読しておくこと。</p>		
評価方法	課題レポート50%、授業態度(授業への取り組み姿勢・ディスカッション・プレゼンテーション)50%によって評価する		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 原則として遠隔授業形式で行いますが、内容によっては対面授業を行う場合があります。 担当するテーマを決め、プレゼンテーションを行います。 各テーマについて参加者同士のディスカッションを行い、理解を深めます。 		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	データサイエンス論	学期	春学期
担当教員	滋賀大学准教授 江崎剛史 (非常勤講師)	選択/必修	選択
科目コード	I7070215	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	現代社会におけるデータサイエンス・AIの重要性とその価値を認識し、データの収集から解析、そして活用方法の一連を理解する。また、データサイエンスにおけるリスクや倫理を理解し、正しいデータ管理能力を身に付けることを目指す。	
到達目標とDPとの関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. データサイエンスおよびAIが社会で果たす役割とその背景・将来展望について理解できる。DP② 2. データ倫理、個人情報保護、情報セキュリティの基本原理を理解し、責任あるデータ活用の重要性を説明できる。DP① 3. PPDAC サイクルに基づき、データの収集・整理・可視化・分析・解釈の一連の流れを体系的に理解できる。DP① 4. 統計的手法および帰帰による手法、AIを含む主要なデータ分析手法の特徴と活用場面を理解する。DP① 5. オープンデータや生成AIを含むデータサイエンス・AI技術を活用し、実社会の問題解決や将来の応用可能性について考察できる。DP②④ <p>*DP は研究者養成コースを示す</p>	
回数	内容	担当
1	データサイエンスの役割と社会的背景、ガイダンス	
2	データ倫理と個人情報保護	
3	情報セキュリティ	
4	データサイエンスのPPDAC サイクルと実例	
5	データの種類と主要な記述統計量	
6	データの可視化	
7	オープンデータとデータ収集	江崎
8	解析の方法と必要な技術 (統計的分析)	
9	解析の方法と必要な技術 (統計学による手法)	
10	人工知能 (AI)	
11	解析の方法と必要な技術 (AIによる分析)	
12	AI技術の動向と生成AI	
13	生成AIの利活用	
14	データサイエンス・AIの未来・まとめ	
講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)	<p>【事前学習】 データサイエンスおよびAIが社会でどのように活用されているかについて、新聞・Web記事等を通して概観する。</p> <p>【事後学習】 自身の専門分野や実務においてデータが関わっている場面や、今後データ活用が期待される課題などを整理する。</p>	
テキスト	必要に応じて提示する。	
参考文献	竹村彰通他 (2021) : データサイエンス入門 第2版, 学術図書出版社 山崎達也 (2020) : データサイエンス概説, 学術図書出版社 福岡真之介 (2022) : AI・データ倫理の教科書, 弘文社	
評価方法	授業態度 (40%)、レポート (60%)	
その他	原則として、授業は遠隔授業にて行います。 レポート課題は2 課題予定します。	

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	健康栄養特論 I	学期	秋学期
担当教員	非常勤講師 谷村 綾子、澤 幸子	選択/必修	選択
科目コード	I7070011	授業形態	講義、演習
		単位数	2

授業の概要	妊娠期・胎児期の栄養を主要テーマとしつつ、さらにライフステージごとに必要な栄養や、疾病予防に関わる専門知識について取り上げ、対象者の問題点を的確に捉え、解決に向けて栄養に関する必要な考え方を深める。さらに、個々の事例に対応できるようにするために、妊婦への栄養に関する指導についての実践的な講義・演習も行う。	
到達目標とDPとの関連	<ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養の概念と意義について、根拠をもって説明することができる。(助産 DP1) 2) 栄養・食生活と健康との関連について説明することができる。(助産 DP1) 3) ライフステージを通じて適切な栄養管理を行うことの意義を理解することができる。(助産 DP2) 4) ライフステージを通じて適切な栄養管理・食育の意義を理解することができる。(助産 DP1、助産 DP2) 5) 栄養に関する指導についての実践的な知識・技術を習得することができる。(助産 DP2) 	
回数	内容	担当
1	栄養とは、栄養素について、情報の見極め方	谷村
2	食事摂取基準、日本人の食生活の現状と課題	谷村
3	栄養評価、個人の評価	谷村
4	食事バランスガイド	谷村
5	妊婦、産褥期、胎児期の栄養	谷村
6	小児期の栄養 1 授乳期 (新生児期～乳児期)	谷村
7	小児期の栄養 2 離乳期 (乳児期～幼児期)	谷村
8	小児期の栄養 3 幼児食 (幼児期)、学童期、思春期	谷村
9	高齢期の栄養	谷村
10	在宅における栄養ケア、災害時の栄養・食生活支援	澤
11	生活習慣病と栄養 (妊娠糖尿病等を含む)	谷村
12	歯の疾患と予防	谷村
13	栄養カウンセリングの基本的技法 (演習)	澤
14	妊娠期間における栄養カウンセリングの実際 (演習)	澤
	試験	
講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)	<p>事前学習：演習では前もって関連資料を読み込んでおく。</p> <p>事後学習：習った内容を復習しておくこと。質問があれば感想欄に記載する。</p> <p>また、課題等を行うことがある。</p>	
テキスト	必要に応じて資料を配布する。	
参考文献	日本人の食事摂取基準 (2025 年版) 国民健康・栄養調査 授乳・離乳の支援ガイド (2019 年改訂版) その他、省庁や学会のガイドラインを用いる	
評価方法	【試験】 70%、【演習】 20%、【受講態度 (授業への取り組み姿勢等)】 10%	
その他	授業実施方法：講義は原則として遠隔 (リアルタイムかオンデマンド) で行う。演習は対面で行う。 実施期間：9 月後半から開始し、12 月中旬に終了する	

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	疫学・保健統計学特論	学期	秋学期
担当教員	非常勤講師 大城 等	選択/必修	選択
科目コード	I7070216	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	人間集団の健康事象と様々な影響する要因を、分析から介入、評価する手法を理解する。調査および実験から得られたデータの意味を正しく理解する能力を習得する。	
到達目標とDPとの関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学の基本概念および主要な研究デザイン（記述疫学、観察研究、介入研究）を理解し、健康事象の分布や要因を科学的に捉えることができる。(DP①) 2. 危険因子の指標、偏りや交絡、スクリーニング指標などを理解し、疫学研究結果を適切に解釈・評価できる。(DP①) 3. 依従変分析のデータを対象に、記述統計から多変量解析・生存時間解析までの統計解析手法を理解し、ExcelやSPSSを用いて実践的に分析・考察できる。(DP①③) 	
回数	内容	担当
1	疫学の定義と基礎	
2	疫学研究方法	
3	記述疫学、症例対照研究、コホート研究、介入研究	
4	危険因子の指標	曝露と疾病、相対危険・寄与危険・人口寄与危険割合など
5	偏りと交絡	
6	スクリーニング	感度・特異度・陽性反応的中度、ROC曲線
7	統計解析の基礎1	データの要約（代表値・分布・散布度）
8	統計解析の基礎2	相関と回帰
9	統計解析手法1	推定（平均、割合、相関係数、回帰直線）、信頼区間
10	統計解析手法2	検定（パラメトリックおよびノンパラメトリック検定、多群比較）
11	統計解析手法3	多変量解析（重回帰・多重ロジスティック回帰分析・相関分析等）
12	統計解析手法4	時系列解析、生存時間解析、生命表
13	EXCELおよびSPSSを用いた架空データ演習	
14		
講義のために必要な自己学習（事前・事後学習）	<p>【事前学習】各講義で示している用語の意味を調べておくことよ</p> <p>【事後学習】毎回の講義を録音するので、資料とあわせて復習するとよい</p> <p>必要に応じて提示する。</p>	
テキスト	IBM SPSS Statistics 27 Core System ユーザーズ・ガイド (https://www.ibm.com/docs/en/SSLIWB_27.0.0/pdf/ia/IBM_SPSS_Statistics_Core_System_User_Guide.pdf)	
参考文献	受講態度 50%、課題・演習レポート 50%	
評価方法	集中講義による対面講義を実施する。 受講者の理解状況により、内容を変更しながら行う	
その他		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	プライマリ・ケア看護学特論	学期	秋学期
担当教員	○ 講師 横山 淳美 非常勤講師 市原 真穂、加藤 節司、木村 千尋、樋口 秋緒、三浦 靖	選択/必修	必修
科目コード	I7070134	単位数	2 (30時間)
授業の概要	本科目は、プライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) として、在宅・施設、慢性期病棟など多様な療養の場で自律的に実践するために必要な高度な知識・理論・技術を総合的に培うことを目的とする。具体的には、診療看護師 (NP) の能力、役割、責任、多職種協働の方法を修得する。また、ライフサイクルの発達課題から健康を捉え、疾病予防と健康維持に必要な知識と技術を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プライマリ・ケアにおける多職種協働の理論を理解し、実践の場で活用できる。 2. 医療的ケア児 (者) をめぐる医療的・社会的背景を理解し、医療・福祉・行政・教育の協働の必要性を説明できる。 3. 高齢者の健康課題とその看護について説明できる。 4. プライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) の役割や機能及びその展望を説明することができるとができる。 	対応DP DP1・DP3 DP2・DP3 DP1・DP2 DP4	
回数	内容	担当教員	
1	我が国の医療システムとプライマリ・ケア	加藤 節司	
2	プライマリ・ケアにおける多職種協働		
3	プライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) の役割と実践	木村 千尋	
4~10	高度実践看護におけるリーダーシップ：理論と組織管理 ※ 高度実践看護におけるリーダーシップ：コンサルテーション ※ 高度実践看護における医療的ケア児 (者) をめぐる協働 ※ 高度実践看護における倫理的意思決定支援 ※ 高度実践看護における多職種協働：実践と理論 ※ 多大学院との合同授業	横山 淳美 三浦 靖 市原 真穂 樋口 秋緒 濱嶋 夕子 (併致講義)	
11~14	高度実践看護師の役割開発と活動領域の拡大を目指して —PPEPA フレームワークを通じた事例分析演習—： 多大学院との合同授業	野々内 美加 (招致講義) 横山 淳美	
15	診療看護師 (NP) の役割と展望	横山 淳美	
講義のために必要な自己学習（事前・事後学習）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題には、図書館やインターネットを活用し事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。 ・ 課題作成にあたり、積極的に文献検索や情報収集を行うこと。 ・ グループワークに積極的に参加すること。 ・ 各自の予習内容をグループ内で検討し、積極的に内容をとりまとめ発表すること。 		
テキスト	Ann B. Hamric (著), Charlene M. Hanson (著), 中村美鈴 他 監訳 (2025) . 高度実践看護—統合的アプローチ—第3版. へるす出版		
参考文献	・ 日本プライマリ・ケア連合会編：プライマリ・ケア看護学, 南山堂, 2016		
評価方法	授業目標の到達度による評価を行う (授業態度 40%、プレゼンテーション 30%、レポート作成 30%)		
その他	<p>受講のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、原則遠隔授業です。 ・ 本科目は、NP 資格試験受験に必要な科目です。 ・ 本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。 ・ 各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 		

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	教授 大森重登	選択/必修	選択
科目コード	I707102	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	精神看護の実践の基礎となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。実践の場で出会う主な疾患とその治療法、看護ケアを行うためのアセスメント方法について探求する。 精神科医療における主な治療を理解するとともに看護師の役割を探求し、治療的アプローチの根拠と技法を習得する。 精神的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について探求する。	
到達目標とDPとの関連	目標 1. 精神を病む対象に必要な看護ケアを行うためのアセスメントができる。DP-① 2. 精神科医療における主な治療を理解し、治療的アプローチの根拠と技法を実践できる。DP-① 3. 精神的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について述べる。DP-②	
回数	内容	担当
1	生物-心理-社会モデルを使った生物学的・心理学的・社会的側面からの対象理解	大森
2	精神力動論の理解と看護への適用	大森
3	自己発達理論の理解と看護への適用	大森
4	精神科臨床におけるセルフケア理論の活用	大森
5	精神障がい者のリカバリーと看護実践(統合失調症)	大森
6	精神障がい者のリカバリーと看護実践(感情障害)	大森
7	精神障がい者のリカバリーと看護実践(不安障害・PTSD)	大森
8	精神障がい者のリカバリーと看護実践(アディクション)	大森
9	精神科における主な治療と課題	大森
10	理論と実践の統合: 対象関係論	大森
11	理論と実践の統合: 精神分析	大森
12	理論と実践の統合: 集団療法	大森
13	理論と実践の統合: 認知行動療法	大森
14	事例検討-対象理解と自己理解	大森
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	主な精神疾患を2つ取り上げ、治療・看護・教育的アプローチについてまとめることができる(6時間) 自身が関わった事例をまとめる(6時間)	
テキスト	ルイス・アロン/著 横井公一/監訳: ころの出会いー精神分析家としての専門技能を習得するー、金剛出版 松本邦裕/対象関係論的心理療法入門、金剛出版	
参考文献	B. J. Sadock & V. A. Sadock (2005/2015), 井上合一(監修), カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 (第3版), メディカル・サイエンス・インターナショナル, 笠井清登(編), 2020. 講座精神疾患の臨床 統合失調症, 中山書店. 神庭重信(編), 2020. 講座精神疾患の臨床 気分障害, 中山書店. [レポート・学習成果物] 60% (レポートフォーリオに蓄積された学習成果物) [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、デイスカッション内容) [プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)	
評価方法	課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でデイスカッションを行い、理解を深める。	
その他		

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	成人・老年看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 奥山真由美 教授 大谷美樹 准教授 佐藤美紀子	選択/必修	選択
科目コード	I7070154	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の概要	成人期または老年期にある患者と家族の状況を理解するために必要な主要な理論や概念、モデルについて理解し、事例を通して看護実践への活用を探求する。	
到達目標とDPとの関連	1. 成人期または老年期にある患者と家族の状況を理解するために必要な主要な理論や概念、モデルについて理解できる。(DP1) 2. 学修した理論や概念、モデルについて看護実践への活用を探求できる。(DP1, 4)	
回数	内容	担当
1	生涯発達理論、エンパワメント、ストレングスモデル	奥山
2	生涯発達理論、エンパワメント、ストレングスモデル; 活用事例	奥山
3	コンフォート理論	奥山
4	コンフォート理論; 活用事例	奥山
5	セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡	佐藤
6	セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、慢性疾患の病みの軌跡; 活用事例	佐藤
7	健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル	佐藤
8	健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル; 活用事例	佐藤
9	ストレス・コーピング理論	大谷
10	ストレス・コーピング理論; 活用事例	大谷
11	危機理論	大谷
12	危機理論; 活用事例	大谷
13	家族アセスメントモデル、家族システム理論	奥山
14	家族アセスメントモデル、家族システム理論; 活用事例、まとめ	奥山
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	【事前学修】 課題に関する事例を選定し、資料を作成し、プレゼンテーションの準備をすること。 【事後学修】 学習内容の復習を行い、看護実践への活用を探求すること。 特に指定しない	
テキスト	野川道子; 看護実践に活かす中絶理論、メヂカルフレンド社	
参考文献	授業の中で、適宜紹介する	
評価方法	課題(プレゼンテーション: 40%、資料30%)、授業での取り組み(質疑応答: 30%)	
その他	質問がある場合は、学内電子メールで連絡をいただければ時間設定します。	

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	地域看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	教授：小田美紀子	選択/必修	選択
科目コード	I7070156	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解し、地域の特性を把握・分析をもとに、生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発、コミュニティ開発を探究する。		
到達目標とDPとの関連	1.ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解できる (DP1・3)。 2.我が国の地域特性の把握・分析をもとに、健康課題が説明できる (DP3)。 3.出産や育児を取り巻く健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる (DP2・3)。 4.成人や高齢者の健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる (DP2・3)。 5.健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発が探究できる (DP1・3)。		
	回数	内容	担当
授業計画	1	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念	小田
	2	社会の変化と健康課題	小田
	3	出産や育児を取り巻く健康統計からみた健康課題と保健施策の変遷	小田
	4	母子保健行政の体系	小田
	5	地域母子(親子)保健活動の実際	小田
	6	学校保健行政の構造と性教育	小田
	7	子育て支援による虐待や事故予防とヘルスプロモーション	小田
	8	親子保健活動におけるアプローチ*	小田
	9	成人・高齢者保健に関する保健行政の体系	小田
	10	介護保険制度と地域包括ケアシステム	小田
	11	成人・高齢者保健におけるアプローチ*	小田
	12	生涯の健康づくりにおけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ*	小田
	13	生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発*	小田
	14	まとめ、筆記試験	小田
講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)	【事前学習】 ・毎回、授業内容に関する事前学習を行うこと。 ・※印のある回については、プレゼンテーションの準備を行うこと。 【事後学習】 ・授業内容の復習を行い、看護の実践や自己の研究課題の探究を行うこと。 必要に応じて提示する。		
テキスト	[コミュニティ アズ パートナー] 編集：エリザベス T. アダーツ/グザイス・マクアナルド、医学書院 [地域づくり型保健活動のすすめ] 著：岩永俊博、医学書院 [実践ヘルスプロモーション] 著：ロザリス W. グリン/マヤル W. 加イター、医学書院 [地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修：佐々木明子、他、丸善出版 [続・地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修：佐々木明子、他、丸善出版 [国民衛生の動向] 最新版、厚生労働統計協会 その他、必要に応じて紹介する。		
評価方法	筆記試験50%、授業への取り組み姿勢やプレゼンテーション* (資料含む) 50%で評価する。		
その他	この科目は、原則としてリモートで開講する。		

・課題解決型学習 PBL (Project-Based Learning) を意識して授業を展開するため、受講者の自主性・自律性を重んじ、課題の解決をねらいとする。
 ・自らの生活や健康観を見つめなおし、個人・家族・集団・組織・地域それぞれの視点で、ポピュレーションアプローチの視点から健康づくりを探究するとともに、地域特性と自助・互助・共助・公助による地域づくりとエンパワメントを関連づけて捉えてほしい。

奈良間美依代表、系統看護学講座 小児看護学 (1), 医学書院 (2024)
評価方法 課題・成果物 (ブレゼンテーション: 60%), 授業態度 40% (取り組み姿勢・ディスカッション参加)
その他

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	母性・小児看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	○教授 高橋恵美子 教授 井上千晶 准教授 中谷陽子	選択/必修	選択
科目コード	I7070158	授業形態	単位数
		講義、演習	2

(*) 別表 2: 基礎助産学

授業の概要	<p>《目的》 ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題を理解し、女性と子どもの健康維持・増進、疾病の予防ならびに健康課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた看護実践の活用方法、看護職の役割について探究する。</p> <p>1. ライフサイクル全般の女性ならびに成長・発達段階にある子どもと家族の健康課題を理解できる。 (助産 DPI、2 研究者コース DPI、2)</p> <p>2. 母性看護学ならびに小児看護学の対象となる人々の健康の維持・増進、疾病の予防、健康課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた看護実践の活用や健康課題解決に向けた看護職の役割を探究できる。 (助産 DPI、2、3 研究者コース DPI、2、3)</p>																																													
到達目標と DP との関連																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>女性のライフサイクルにおける発達と健康課題、理論、研究の動向</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>女性の健康課題と支援 (1): ヘルスポモーションとリプロダクティブヘルス/ライオン</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>女性の健康課題と支援 (2): セクシュアリティとジェンダー</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>女性の健康課題と支援 (3): 思春期・青年期</td> <td>中谷</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>女性の健康課題と支援 (4): プレコンセプション</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>女性の健康課題と支援 (5): マタニティヘルス</td> <td>中谷</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>女性の健康課題と支援 (6): 更年期・老年期</td> <td>中谷</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>女性の健康課題と支援 (7): メンタルヘルス</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>女性の健康課題と支援 (8): 周産期の死、グリーフケア</td> <td>井上</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これからの母性看護に向けた看護職の役割と課題: クリティーク (ブレゼンテーション)</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>子どもの発達過程と発達課題、理論、研究の動向</td> <td>高橋</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>子どもの健康課題と支援 (1): 乳児期・幼児期</td> <td>高橋</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>子どもの健康課題と支援 (2): 学童期・病児、障がい児への支援</td> <td>高橋</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これからの小児看護に向けた看護職の役割と課題: クリティーク (ブレゼンテーション)</td> <td>高橋</td> </tr> </tbody> </table> <p>事前: 10 について初回講義内で課題を提示します。12-13 は子どもの発達過程について、事前に復習し まとめておいてください。 事後: 授業内での質問応答やディスカッションでの学びについて、授業後に整理し学習を深めること。</p>	回数	内容		1	女性のライフサイクルにおける発達と健康課題、理論、研究の動向	井上	2	女性の健康課題と支援 (1): ヘルスポモーションとリプロダクティブヘルス/ライオン	井上	3	女性の健康課題と支援 (2): セクシュアリティとジェンダー	井上	4	女性の健康課題と支援 (3): 思春期・青年期	中谷	5	女性の健康課題と支援 (4): プレコンセプション	井上	6	女性の健康課題と支援 (5): マタニティヘルス	中谷	7	女性の健康課題と支援 (6): 更年期・老年期	中谷	8	女性の健康課題と支援 (7): メンタルヘルス	井上	9	女性の健康課題と支援 (8): 周産期の死、グリーフケア	井上	10	これからの母性看護に向けた看護職の役割と課題: クリティーク (ブレゼンテーション)	全員	11	子どもの発達過程と発達課題、理論、研究の動向	高橋	12	子どもの健康課題と支援 (1): 乳児期・幼児期	高橋	13	子どもの健康課題と支援 (2): 学童期・病児、障がい児への支援	高橋	14	これからの小児看護に向けた看護職の役割と課題: クリティーク (ブレゼンテーション)	高橋
回数	内容																																													
1	女性のライフサイクルにおける発達と健康課題、理論、研究の動向	井上																																												
2	女性の健康課題と支援 (1): ヘルスポモーションとリプロダクティブヘルス/ライオン	井上																																												
3	女性の健康課題と支援 (2): セクシュアリティとジェンダー	井上																																												
4	女性の健康課題と支援 (3): 思春期・青年期	中谷																																												
5	女性の健康課題と支援 (4): プレコンセプション	井上																																												
6	女性の健康課題と支援 (5): マタニティヘルス	中谷																																												
7	女性の健康課題と支援 (6): 更年期・老年期	中谷																																												
8	女性の健康課題と支援 (7): メンタルヘルス	井上																																												
9	女性の健康課題と支援 (8): 周産期の死、グリーフケア	井上																																												
10	これからの母性看護に向けた看護職の役割と課題: クリティーク (ブレゼンテーション)	全員																																												
11	子どもの発達過程と発達課題、理論、研究の動向	高橋																																												
12	子どもの健康課題と支援 (1): 乳児期・幼児期	高橋																																												
13	子どもの健康課題と支援 (2): 学童期・病児、障がい児への支援	高橋																																												
14	これからの小児看護に向けた看護職の役割と課題: クリティーク (ブレゼンテーション)	高橋																																												
講義のため に必要 な自 己学習 (事 前・事後)	指定なし																																													
テキスト	指定なし																																													
参考文献	<p>日本産婦人科学会・日本産婦人科医学会 (2023), 産婦人科診療ガイドライン産科編 2023 岡明 (2020), 小児の医療倫理 ケーススタディ, メディカルサイエンスインターナショナル 二宮啓子, 今野美紀編集, 小児看護学 I, 南江堂 (2025)</p>																																													

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論 I	学期	春学期
担当教員	○教授 岡安誠子 教授 川瀬淑子 准教授 高橋梢子	選択/必修	選択
科目コード	I7070115	授業形態	講義・演習
授業の概要	看護基礎教育、臨床で教育の役割を担う看護者が、教育・実成領域において系統的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また医療提供体制の変化に伴い、より自律して判断し実践できる看護職の養成のニーズに応えていくために看護教育の課題を検討し、問題解決に向け考察する。		
到達目標と DP との関連	① 看護教育の歴史の変遷を学修し、今日の看護教育の問題点や課題について考察できる。 DP1 ② 教育活動の展開を支える理論等の学修を活かし、教育活動をデザインできる。 DP1		
回数	内容	担当	
1	【講義】 ガイダンス・看護教育学の意義と目的	岡安	
2	【講義】 看護教育制度（看護基礎教育・卒後教育）と関連法規	岡安	
3	【講義】 カリキュラム開発	岡安	
4	【演習】 授業展開・教授活動に活用される理論 (1) プレゼンテーション	岡安	
5	【演習】 授業展開・教授活動に活用される理論 (2) プレゼンテーション	岡安	
6	【講義】 継続教育における現状と課題	岡安	
7	【講義】 インストラクショナル・デザイン理論 (1)	岡安	
8	【講義】 インストラクショナル・デザイン理論 (2)	岡安	
9	【講義・演習】 アクティブ・ラーニング	川瀬	
10	【講義・演習】 ワークショップ・デザイン	高橋	
11	【演習】 授業デザイン (オリエンテーション)：準備	岡安・川瀬・高橋	
12	【演習】 授業デザイン：実施【集中】	岡安・川瀬・高橋	
13	【演習】 授業デザイン：実施【集中】	岡安・川瀬・高橋	
14	【演習】 成果発表・リフレクション【集中】	岡安・川瀬・高橋	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	・積極的に参考文献などを用い学習してください。 ・学習した知識を自己の学習経験あるいは理職等での教育活動と結びつけて知識の統合化を図り、活用できる知識へと変容させるよう心がけてください。		
テキスト	適宜、授業内で提示する。		
参考文献	Diane M. Billings, Judith A. Halstead, 佐々木 幾美, 奥宮 暁子, 小林 美子監訳 (2021)：看護を教授すること 原著第6版 大学教員のためのガイド, 医歯薬出版 杉森みどり, 舟島なをみ (2024)：看護教育学 第8版, 医学書院 グレッグ美鈴, 池西悦子 (2024)：看護教育学 第3版, 南江堂 適宜、授業内で紹介する。		
評価方法	【レポート】30% (最終レポート：その他に概要を記載) 【演習の成果】30% (第11回～第14回の授業デザイン・ワークショップ) 【プレゼンテーション】30% (第4回、第5回のプレゼンテーション) 【授業への参加】10% (授業へのコメントメント、問題発見および解決への努力への行動) ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法(資料)等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。		
その他	・授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 ・原則、授業は「遠隔授業」とするが、授業デザイン・ワークショップは対面授業とする。		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	NP 論	学期	春学期
担当教員	○ 講師 横山 淳美 非常勤講師 木村 千尋、筑井 菜々子、竹下 治男	選択/必修	必修
科目コード	I7070163	授業形態	講義・演習
授業の概要	本科目は、日本における診療看護師 (NP) の教育や活動を修得する。諸外国の Nurse Practitioner の歴史や役割を理解し、日本の NP に求められる能力、役割、責任に関する知識を修得する。		
到達目標と 対応 DP	到達目標 1. 日本の診療看護師 (NP) の現状と課題について理解することができる。 2. 日本の高度実践看護師としてのプライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) の役割と機能及びその展望について考えることができる。		
回数	内容	担当教員	
1・2	診療看護師 (NP) の教育と診療看護師 (NP) のコンピテンシー	横山 淳美	
3・4	諸外国と日本における Nurse Practitioner の裁量範囲(責任に関する知識と理論)：多大学院との合同授業	木村 千尋	
5-11	高度実践看護とは：グループワーク演習を含む：多大学院との合同授業 ・DNP (Doctor of Nursing) による看護 ・高度実践看護師のトランジション ・診療看護師 (NP) の役割の探求：現場への導入の実際 ・高度実践看護師周麻酔科看護師	Mari Kowaki エクランド 源 権子 筑井 菜々子 赤沼 裕子	
12-15	プライマリ・ケアにおける Nurse practitioner の活動：多大学院との合同授業	横山 淳美 森本 彩沙 (相模講師) 中山 法子 島田 珠美	
16・17	死生学(看取りを含む)	竹下 治男	
18	診療看護師 (NP) の現状と課題	横山 淳美	
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	・課題作成にあたり、積極的に文献検索や情報収集をすること。 ・グループワークに積極的に参加すること。 ・各自の予習内容をグループ内で検討し、積極的に内容をとりまとめ発表すること。 ・課題には、図書館やインターネットを活用し事前学習を行い、自分の考えをまとめておくこと。		
テキスト	Ann B. Hamric (著), Charlene M. Hanson (著), 中村美鈴 他 監訳 (2025) . 高度実践看護一統的アプローチ 第3版, へるす出版		
参考文献	適宜、授業内で紹介する。		
評価方法	授業目標の到達度による評価を行う(授業態度40%、プレゼンテーション30%、レポート作成30%)		
その他	【受講のあり方】 ・本科目は、原則遠隔授業です。 ・本科目は、プライマリ・ケア看護学実習の先修科目であり、NP 資格試験の受験要件科目です。 ・課題には、図書館やインターネットを活用し事前学習を行い、自分の考えをまとめておくこと。グループワークに積極的に参加し、各自の予習内容をグループ内で検討・発表すること。		

科目分類	専門科目	対象学年	1													
授業科目	統合医療安全・特定行為実践特論 (放送大学大学院 単位互換科目) 特定行為研修共通科目名：「医療安全学」【特定行為実践】	学期	春学期													
担当教員	石井邦子、木澤晃代、山本武志、船橋純子、後信、江村正、大塚理子、栗原博之、土智晋幸、船木祝、吉村学	選択/必修	必修													
科目コード	I7070136 授業形態 講義・演習・実習 (放送大学：オンライン)	単位数	1 (33.6 時間)													
授業の概要	看護師が適切に特定行為を遂行するために、自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につけることを目指します。看護師の特定行為研修制度の対応科目の心とつながり、2019年4月の看令改正に対応し、「医療安全学特論」と「特定行為実践特論」を統合し、指定の以下の内容を含むものとする。特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程 (理論、演習) を学ぶ中で以下の内容を統合して学びます。 1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療安全、ケアの質保証 (Quality Care Assurance) を学ぶ。 2. 特定行為実践を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践 (Inter Professional Work (IPW)) を学ぶ。 ① チーム医療の理論 ② チーム医療の事例検討 ③ コンサルテーションの方法 ④ 多職種協働の課題 3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ。 ① 特定行為関連法規 ② 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実習後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ。 ① 手順書の作成演習 ② 手順書の評価と改良															
授業の目標	多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ必要な特定行為を安全に実践する能力を身につける。 ・ 問題解決に向けて多職種と効果的に協働する能力を身につける。 ・ 自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につける。															
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業のテーマ</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法 (時間数)</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特定行為関連法規と実践過程の構造</td> <td>1. 特定行為実践のための関連法規について学ぶ。 ・ 特定行為研修制度創設までの経緯 ・ 特定行為研修制度創設に関連する法的整理 ・ 特定行為および指定研修機関に関する規程 2. 特定行為を活用した実践過程の構造を学ぶ。 ・ 特定行為を活用する看護師の役割、機能 ・ 様々な場での特定行為の活用 ・ 施設での連携の在り方と活動方法の検討</td> <td>講義 (2.7)</td> <td>石井邦子 木澤晃代</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医療の質と安全</td> <td>1. 医療の質と安全：その原理・原則について 医療は患者とその治療・ケアに携わる医療者の存在によって成立する。両者の意思決定は完璧ではないし誤りもある。医療は社会分業によって成り立っており、医療行為には多くの医療専門職が関わっている。安全な医療を提供するには、errorが起こりやすい医療の本質を理解することが非常に重要である。 2. 医療の質評価と安全管理 医療機関における質改善活動は職種別かつ小集団での活動が主たるものであった。しかし、近年では、QI (医療の質評価) やビッグデータを活用した医療の質管理及び安全管理の職種横断的、病院全体での取り組みがなまりつつある。第4回は医療の質評価の方法論とその実践について学ぶ。</td> <td>講義 (3.0)</td> <td>山本武志 船橋純子 グスタフ・橋本理生</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業のテーマ	授業内容	授業方法 (時間数)	担当教員	1	特定行為関連法規と実践過程の構造	1. 特定行為実践のための関連法規について学ぶ。 ・ 特定行為研修制度創設までの経緯 ・ 特定行為研修制度創設に関連する法的整理 ・ 特定行為および指定研修機関に関する規程 2. 特定行為を活用した実践過程の構造を学ぶ。 ・ 特定行為を活用する看護師の役割、機能 ・ 様々な場での特定行為の活用 ・ 施設での連携の在り方と活動方法の検討	講義 (2.7)	石井邦子 木澤晃代	2	医療の質と安全	1. 医療の質と安全：その原理・原則について 医療は患者とその治療・ケアに携わる医療者の存在によって成立する。両者の意思決定は完璧ではないし誤りもある。医療は社会分業によって成り立っており、医療行為には多くの医療専門職が関わっている。安全な医療を提供するには、errorが起こりやすい医療の本質を理解することが非常に重要である。 2. 医療の質評価と安全管理 医療機関における質改善活動は職種別かつ小集団での活動が主たるものであった。しかし、近年では、QI (医療の質評価) やビッグデータを活用した医療の質管理及び安全管理の職種横断的、病院全体での取り組みがなまりつつある。第4回は医療の質評価の方法論とその実践について学ぶ。	講義 (3.0)	山本武志 船橋純子 グスタフ・橋本理生
回数	授業のテーマ	授業内容	授業方法 (時間数)	担当教員												
1	特定行為関連法規と実践過程の構造	1. 特定行為実践のための関連法規について学ぶ。 ・ 特定行為研修制度創設までの経緯 ・ 特定行為研修制度創設に関連する法的整理 ・ 特定行為および指定研修機関に関する規程 2. 特定行為を活用した実践過程の構造を学ぶ。 ・ 特定行為を活用する看護師の役割、機能 ・ 様々な場での特定行為の活用 ・ 施設での連携の在り方と活動方法の検討	講義 (2.7)	石井邦子 木澤晃代												
2	医療の質と安全	1. 医療の質と安全：その原理・原則について 医療は患者とその治療・ケアに携わる医療者の存在によって成立する。両者の意思決定は完璧ではないし誤りもある。医療は社会分業によって成り立っており、医療行為には多くの医療専門職が関わっている。安全な医療を提供するには、errorが起こりやすい医療の本質を理解することが非常に重要である。 2. 医療の質評価と安全管理 医療機関における質改善活動は職種別かつ小集団での活動が主たるものであった。しかし、近年では、QI (医療の質評価) やビッグデータを活用した医療の質管理及び安全管理の職種横断的、病院全体での取り組みがなまりつつある。第4回は医療の質評価の方法論とその実践について学ぶ。	講義 (3.0)	山本武志 船橋純子 グスタフ・橋本理生												

3	3 医療安全の組織展開 医療施設における医療安全は、組織的な管理の対象と位置づけられ、トップダウンだけでなく様々なレベルでの取り組みが推進されることが期待される。また、表面的なイメージの発信ではなく、医師が市民社会に認知され、信頼されるための情報提供や公開もまた医療専門職集団の職務である。	根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実習後、手順書を評価し見直すプロセスについて学ぶ。 ・ 手順書の位置づけ ・ 手順書の作成例と作成演習 ・ 手順書の評価と改良	4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実習後、手順書を評価し見直すプロセスについて学ぶ。 ・ 手順書の位置づけ ・ 手順書の作成演習 ・ 手順書の評価と改良	講義 (1.4) 演習 (3.8)	江村正
4	アセスメント、仮設検証、意思決定の理論と演習	特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ。 ・ 特定行為実践の活用に必要な思考と実践 ・ 活動成果の検証 ・ 活動する上での課題と対応	1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証を学ぶ。 ① 医療倫理 ② 医療管理 ③ 医療安全 ④ ケアの質保証	講義 (1.6) 演習 (3.8)	木澤晃代
5	医療現場での倫理と患者参加・インフォームド・コンセントの理論と演習	1. 患者から見た医療安全・医療事故 医療の主体は患者である。しかし、医療者の強固な拒絶や医療行為は患者からは見えにくく理解しづらい部分がある。また、患者には患者の医療者とは異なる観点や推論が存在する (Insider perspective) ため、それを共有・理解することが医療専門職に求められる。医療行為においてもその安全を確保するために患者が担うことのできる役割がある。 2. 医療安全と倫理 患者の安全を守ることは医療を提供する上で第一義とすべきである。しかし、患者やその家族の希望を優先しながら、一定のリスクを負わずに医療現場において、倫理原則の中心主義との関係について、倫理原則の観点から、また医療の現場から考える。 3. インフォームド・コンセントと看護師の役割について学ぶ。 ・ 患者の権利とインフォームド・コンセント ・ インフォームド・コンセントにおける看護師の役割と機能 ・ インフォームド・コンセントの事例演習	1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証を学ぶ。 ① 医療倫理 ② 医療管理 ③ 医療安全 ④ ケアの質保証	講義 (4.7) 演習 (3.8)	山本武志 船木祝 石井邦子
6	多職種協働実践：コンサルテーション・チーム医療の原理	1. 多職種協働実践 1 チーム医療の理論と事例検討 チーム医療に必要な IPPE と IPW の関連及び IPW の基本的な考え方と多職種協働実践の事例検討をするために、問題解決のための IPW の構造について学ぶ。 ・ チーム医療から IPPE 及び IPW への流れ ・ IPW の構造と分析方法 2. 多職種協働実践 2 多職種協働実践	2. 特定行為実践を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践 (Inter Professional Work (IPW)) (他職種との事例検討) の演習を含む) を学ぶ。 ① チーム医療の理	講義 (3.8)	大塚理子 吉村学

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	総合臨床生理学・終末論 (放送大学大学院 単位互換科目) 特定行為研修共通科目名:「臨床生理学」[疾病・臨床生理学]	学期	春学期
担当教員	東本崇幸、山崎一人、 小川薫、小川真、柳野衛二、清水一雄、戸叶隆司、平原 佐斗司、中井卓人、 奈倉道明、山田京志	選択/必修	必修
科目コード	17070137 授業形態 講義・演習 (放送大学: オンライン)	単位数	2 (69.2時間)
授業の概要	臨床解剖学および臨床生理学、さらには臨床病理学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断できるよう必要な知識と技術を学ぶ。また、主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ。 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 脳血管障害/急性心筋梗塞/糖尿病/腎臓病/精神疾患 2. その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/腎臓泌尿器系/内分泌・代謝系・免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神科/感染症/運動器系/感覚器系/その他 3. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 4. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習		
授業の目標	看護師が適切に臨床実践するに際して、多様な臨床場面において、ケアを安全に実践するために、重要な病態の変化や必要となる治療の特性を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。 ・代表的な疾患に関する臓器の機能異常を説明できる。 ・代表的な疾患の病態や全身に及ぼす影響を説明できる。 ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントできる。 ・多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くことができる。		
授業の内容	回数 授業のテーマ 授業内容 担当教員	学ぶべき事項	
1	臨床病理学総論	疾患が発生する基本概念である細胞障害、組織障害と、これらを引き起こす病気の基本ルールである、「炎症」「腫瘍」「老化」「代謝障害」の原因と機序を学ぶ。	山崎一人
2	臨床解剖学および臨床生理学各論 (1):呼吸器・循環器系、酸素運搬と赤血球、腎臓	細胞での物質/エネルギー代謝に不可欠な酸素を取り入れ、生じた二酸化炭素を排出する呼吸器系、物質の運搬/回収を行う基盤である循環器系、老廃物の排泄を担当する腎臓について学ぶ。さらに酸素や不要物の運搬を担当する赤血球、血漿や酸塩基平衡の基礎も学ぶ。疾患が発生する基本概念である細胞障害、組織障害と、これらを引き起こす病気の基本ルールである、「炎症」「腫瘍」「老化」「代謝障害」の原因と機序を学ぶ。	小川真 東本崇幸
3	臨床解剖学および臨床生理学各論 (2):栄養の消化吸収と代謝およびその調節機構	食物摂取・栄養の消化と吸収を行う消化器系臓器 (口腔から肛門にいたる消化器・膵臓および肝臓) の構造と機能について学び、代謝に関与する内分泌系や全体の制御を行う自律神経系についても学ぶ。	小川真 東本崇幸
4	臨床解剖学および臨床生理学各論 (3):感覚器・中枢および末梢神経系	体外および体内からの刺激・情報を統合し、内部臓器系に加えて運動器の機能を統合・総括する中枢神経系の概要・老化に伴う変化などについて画像診断も踏まえて学び、中枢神経系・情報や中枢からの指令伝達を担当する末梢神経系についても学ぶ。	小川真 ゲスト: 高橋伸佳
5	臨床解剖学および臨床生理学各論 (4):皮膚・粘膜炎および運動器系、泌尿器・生殖系、血液成分と止血・凝固調節系	外部環境にさらされる皮膚・咽頭・喉頭・気道および泌尿器・生殖器系の構造と機能に関する。さらに骨・筋肉系の構造と機能について学び、合わせて損傷修復や回復に必要な止血・凝固調節系についても学ぶ。	小川真 東本崇幸
6	試験	オンライン上での試験	試験 (1.0)

の課題と看護師の役割 多職種協働実践の課題を踏まえ、特定行為研修を修了した看護師がIPWを促進させる方法について学ぶ。 ・多職種協働実践 (IPW) の課題 ・IPWを促進するための課題と看護師の役割 3 多職種協働実践3 コンサルテーションの方法 専門看護師が行っているコンサルテーションの実践例を通して、特定行為研修を修了した看護師が行うコンサルテーションのアプローチについて学ぶ。 ・コンサルテーションのアプローチ ・コンサルテーション時の留意点	② チーム医療の事例検討 ③ コンサルテーションの方法 ④ 多職種協働の課題	講義 (2.3) 演習 (2.5)	栗原卓之 後 信
7 病歴における医療安全	第6回までに医療安全に関する基本的な考え方や基礎知識について学んできた。第7回と第8回は医療施設での医療安全管理の実践について学ぶ。第7回は病室での医療安全の実践について、職場環境の整備、教育・研修、アクションプランやインシデントの分析、医療事故発生時の対応など、実例をまじえて紹介する。 2 医療安全確保のための政策展開 医療安全の推進は個々の医療専門職や医療施設での取り組みだけではなく、国家レベルでの政策展開が重要となる。診療報酬による政策誘導、医薬品・医療機器の標準化の推進、安全文化の根拠、保証制度の推進など、様々な取り組みについて学ぶ。 在宅での治療・療養は、施設での医療と異なり、空間的にまた設備や物品の使用に関する制限がある。またその管理も恒時的に家族や患者本人の関わりが重要となる。第8回は在宅医療の実例をもとに、その安全管理の考え方を学ぶ。	講義 (2.7)	土島智幸 山本武志
9 筆記試験 (オンライン上での試験)		試験 (1.0)	
実習	科目名: N P 活動見学実習(1.0)で実施		
参考図書・資料			
評価方法	成績評価と単位認定: 講義、演習の成績評価は、ディスカッション、レポートを含む演習(20%)、小テスト(40%)、および最終テスト(40%)の筆記試験における評価により行う。なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要がある。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。 実習の評価は観察評価で行います。		
その他	○履修上の留意点: この科目を履修するにあたっては「フィジカルアセスメント」「臨床推論」などの科目とあわせて履修することが望ましいです。受講にあたっては別途指定教科書と別途指定サイトでの自己学習を必須とします。受講にあたっては別途指定教材(図書)での自己学習を必須とします。 本学教員からのメッセージ ・ 本科目は、速履修授業です。 ・ 本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に初年度に履修した科目となっております。 ・ 本科目は、NP 活動見学実習とプライマリ・ケア看護学実習に必要な専修科目です。 ・ 本科目の受講における詳細は、放送大学ホームページをご覧ください。		

7	脳血管疾患	脳血管障害は脳血管の閉塞または破綻により発症する脳障害で、3大死因のひとつであり、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血があることを理解する。 脳血管、脳循環の特徴について学ぶ。 原因となる疾患、血栓、塞栓、脳動脈瘤、動脈瘤奇形、などの特徴について理解する。 手術やコイル・ステントを用いた血管内治療について学ぶ。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 神経系/その他	講義 (2.9)	小川 薫
8	糖尿病	糖尿病の原因と診断について学ぶ。 インスリン分泌機序と作用機序を理解する。 インスリン抵抗性と生活習慣病について学ぶ。 糖尿病の食事療法と運動療法を理解する。 糖尿病の薬物療法の特徴を学ぶ。 糖尿病の合併症について整理し、おのの病変の特徴を学ぶ。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 内分泌・代謝系/その他	講義 (2.8)	小川 薫
9	精神疾患 精神系疾患 神経系疾患	精神障害の診断と疾病分類を理解する。 精神疾患の臨床病態を理解する。 精神系疾患の臨床病態を理解する。 気分障害（感情障害）の診断と治療を学ぶ。 認知症の症状と病態について学ぶ。 中枢神経、末梢神経、など神経系の構造と働きを理解する。 運動器、感覚系、大脳皮質の3つに分けて、脳・神経系の症状を考える。 多岐にわたる神経障害を整理し、おのの病変の特徴を学ぶ。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 神経系/精神系/その他	講義 (3.4)	桐野衛二
10	循環器疾患 心筋梗塞	循環器疾患の主要な症状を学ぶ。 先天性、後天性心疾患の主要な病態について学ぶ。 血圧のメカニズムを学び、血圧の異常による疾患について学ぶ。 動脈、静脈などの血管の疾患について理解する。 心筋梗塞は冠動脈の血流障害（虚血）に因って発症する心筋壊死であり、3大死因のひとつで最近増加傾向にあることを理解する。 心臓の構造と機能を理解したうえで、心筋梗塞の症状、診断、合併症、薬物治療、原因となる疾患、診断、動脈硬化、血栓、などについて学ぶ。 手術やステントを用いた血管内治療について学ぶ。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/その他	講義 (4.3)	戸川隆司
11	消化器疾患 呼吸器疾患 感染症	消化器の構造と機能の概要を理解する。 消化器疾患の病状と病態生理を把握する。 肺の構造を理解し、呼吸機能の仕組みを学ぶ。 呼吸機能の障害による頻度の高い症状について理解する。 感染症の発生機序の概要を理解する。 主な疾病ごとに特徴的な症状があり、その診断基準、必要な検査、患者指導のポイントを学ぶ。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 呼吸器系/消化器系/感染症/その他	講義 (3.1)	小川 薫
12	免疫・膠原病 血液疾患 腎・泌尿器疾患	免疫システムを理解し、獲得免疫で中心的役割を担っているリンパ球の働きを理解する。 アレルギー疾患の発生機序の概要を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療の概論 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	講義 (4.8)	小川 薫

		免疫・膠原病系/血液系/腎・泌尿器系/その他	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 内分泌・代謝系/その他	講義 (2.9)	清水一雄
		代表的な自己免疫疾患である膠原病に含まれる病気のそれぞれ病態生理を理解する。 免疫不全症の種類と概要を説明できる。 貧血、感染、など血液疾患の主要な症状について学ぶ。 白血球疾患、赤血球疾患の臨床的特長を理解する。 腎臓の構造と機能の概要を理解する。 腎臓の病状と病態生理を把握する。 主な疾病ごとに特徴的な症状があり、その診断基準、必要な検査、患者指導のポイントを学ぶ。	内分泌の役割や、関連臓器の構造と機能の概要を理解する。 内分泌疾患の病状と病態生理を正確に把握する。 主な内分泌疾患について、その概要が述べられる。 主な疾病ごとに、特徴的な症状、診断基準、検査、患者指導のポイントが説明できる。 運動器・感覚器の構造と機能の概要を理解する。 運動器・感覚器疾患の病状と病態生理を把握する。 産婦人科疾患の病状と病態生理を把握する。 小児科疾患の臨床病態を理解する。 主な疾病ごとに特徴的な症状があり、その診断基準、必要な検査、患者指導のポイントを学ぶ。	運動器・感覚器の構造と機能の概要を理解する。 運動器・感覚器疾患の病状と病態生理を把握する。 産婦人科疾患の病状と病態生理を把握する。 小児科疾患の臨床病態を理解する。 主な疾病ごとに特徴的な症状があり、その診断基準、必要な検査、患者指導のポイントを学ぶ。	小川 薫 中井寛人 奈倉道明
			オンライン上での試験	試験 (1.0)	
			救急医療の定義、仕組み、救急医療システム、搬送システムについて理解する。 初期治療のフィジカルアセスメント、トリアージ、緊急度判定、重症度判定について学び、演習する。	救急医療の定義、仕組み、救急医療システム、搬送システムについて理解する。 初期治療のフィジカルアセスメント、トリアージ、緊急度判定、重症度判定について学び、演習する。	山田英志 ケスト; 川原 千香子
			在宅医療は障害者と家族が暮らす生活の場でおこなわれる。この在宅医療の特徴を踏まえ、在宅の視点となる本人、家族・親族のアセスメントを学び、訪問看護の概念について学び、演習する。	在宅医療は障害者と家族が暮らす生活の場でおこなわれる。この在宅医療の特徴を踏まえ、在宅の視点となる本人、家族・親族のアセスメントを学び、訪問看護の概念について学び、演習する。	平原 佐斗司
			オンライン上での試験	試験 (1.0)	
	テキスト 参考図書・資料 評価方法		成績評価と単位認定は、ディスカッション、レポートを含む演習(20%)、小テスト(40%)、および最終テスト(40%)の総合評価により行われ、なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要がある。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。	試験 (1.0)	
	その他		○履修上の留意点：本科目の履修にあたっては、「フィジカルアセスメント概論(16)」の同時履修を必要とする。 本学教員からのメッセージ ・本科目は、看護師の特定研修の共通科目に該当した科目となっております。 ・本科目は、看護師の特定研修が必要で、詳細は放送大学ホームページをご覧ください。 ・本科目は、NP活動見学実習とオンラインマイリ・ケア看護学実習に必要な必修科目です。	試験 (1.0)	

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	フィジカルアセスメント 特論 I (放送大学大学院 単位互換科目) 特定行為研修共通科目名:「フィジカルアセスメント」	学期	春学期
指導者	山内 豊明、三苫 里香	選択/必修	必修
科目コード	17070138	単位数	1 (37.5時間)
授業の概要	看護が適切に臨床実践するために不可欠な身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈について理論と技術を習得することを旨とします。看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、指定の以下の内容を学ぶものとします。 1. 身体診察基本手技の理論 2. 部位別身体診察手技と所見の理論 3. 身体診察の年齢による変化 4. 状況に応じた身体診察 小児/高齢者 救急医療/在宅医療	授業形態	講義 (放送大学・オンライン)
授業の目標	看護が適切に臨床実践するために際して、対象の身体的情報を的確に捉え、それらを臨床場面における推論に結びつけていく必要がある。本科目においては生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を変える看護活動への指針を与えることができるようになることにも、その根本にある生命体として「生きていく」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対応への連携を習得するための実践を学ぶ。このことを通じて、多様な臨床場面において重要なことになることを目指し、それらに不可欠な知識および技能の理論を学ぶ。このことを通じて、多様な臨床場面において重要な病態の兆候や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につけることを目標とする。	担当教員	山内 豊明 三苫 里香
授業内容	授業内容	学ばべき事項	授業方法 (時間)
1	フィジカルアセスメントの進め方 ・アセスメントの際の考え方のポイント ・アセスメントの組み立て方 ・アセスメントの要素と進め方	3. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 4. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	講義 (4.7)
2	バイタルサインの意義/急変の見抜き方 ・急変とは ・バイタルサインの意義 ・急変を見抜く ・急変を予測する	1. 身体診察基本手技の理論 2. 部位別身体診察手技と所見の理論 (全身状態とバイタルサイン) 4. 状況に応じた身体診察 (救急医療)	講義 (4.8)
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント ・聴診とは ・異常呼吸音の聴診 ・異常呼吸音聴診の実際 ・呼吸音聴診を完成させる	2. 部位別身体診察手技と所見の理論 (胸部)	講義 (4.8)
4	循環器系のフィジカルアセスメント ・循環の総合評価 ・心音の把握 ・心雑音のアセスメント	2. 部位別身体診察手技と所見の理論 (胸部/乳房/リンパ節)	講義 (4.7)
5	栄養・消化系・泌尿器系のフィジカルアセスメント ・脳神経の役割 ・腹部のフィジカルアセスメント方略 ・腹部のフィジカルアセスメント	2. 部位別身体診察手技と所見の理論 (腹部/泌尿器)	講義 (4.9)
6	中枢神経系のフィジカルアセスメント ・脳・神経系の分類 ・反応	2. 部位別身体診察手技と所見の理論 (頭頸部/神経系)	講義 (4.9)

7	意識レベルのアセスメント ・高次脳機能のアセスメント	4. 状況に応じた身体診察 (救急医療)	講義 (3.7)	山内 豊明 三苫 里香
8	脳神経系・感覚器系のフィジカルアセスメント ・脳神経のアセスメント ・筋力系 (感覚系) のアセスメント 運動器系のフィジカルアセスメント ・関節可動域の評価と応用 ・筋力のスクリーニング評価 ・MMT の評価方法の原理と応用 ・運動の調整	2. 部位別身体診察手技と所見の理論 (頭頸部/神経系)	講義 (5.0)	山内 豊明 三苫 里香
試験	オンライン上の最終試験 (最終レポート)	試験	試験 (1.5)	
実習	科目名: N/P活動見学実習 (3.0) で実施			
テキスト				
参考図書・資料				
評価方法	成績評価と単位認定は、各回の小テスト (50%) と最終レポート (50%) により行う。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。			
その他	○履修上の留意点・解剖学・生理学 (人体の構造と機能) に関する知識が不可欠な科目であり、それらについての詳細な事前学習を必須とします。さらには病態生理学についての知識も必須とするため、必要となる事前学習を行なった上で受講してください。受講後には基礎臨床場面と結びつけるための事後学習を進めてください。この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実践特論」「臨床推論」などの科目とあわせて履修することが望ましいです。 本学教員からのメッセージ ・ 本科目は、速開授業です。 ・ 本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっております。 ・ 本科目は、NP 活動見学実習とブライマリアケア看護学実習に必要な先修科目です。 ・ 本科目の受講における詳細は、放送大学ホームページをご覧ください。			

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	フィジカルアセスメント特論II	学期	秋学期
担当教員	○ 講師 横山 淳美、教授 山下 一也 非常勤講師 山崎 啓一、池内 寛紀	選択/必修	必修
科目コード	I70701.39	授業形態	講義・演習
授業の概要	<p>本科目は、看護師が特定行為を含むケアを円滑に遂行するために必要な身体情報の収集方法と所見の解釈を修得する。具体的には、複雑な健康問題を持つ対象の身体状況を系統的に審査し、正常から逸脱した状態かを判断する能力を学修する。また、視診・聴診・打診・触診などのフィジカルアセスメント技術を学修する。</p>		
到達目標	<p>到達目標</p> <p>対応 DP</p> <p>DP1 DP1・DP3 DP1・DP2</p>		
DP との関連	<p>1. フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識を理解することができる。</p> <p>2. 系統的にフィジカルイクザミネーションを実施することができる。</p> <p>3. 複雑な健康問題を持った対象の重要な病態の変化や疾患を、包括的にアセスメントするための情報収集の方法と所見の解釈のための技能を身につけることができる。</p>		
授業の内容	回数	内容	担当教員
	1・2	身体診察の基本手技、全身状態とバイタルサイン	山崎 啓一
	3・4	脳神経系・視覚・聴覚・他の感覚系・意識レベルの評価とその原因、緊急性の高い意識障害についてのフィジカルアセスメント (講義・演習)	山下 一也
	5・6	呼吸・循環のフィジカルアセスメント/超音波検査の活用 (講義・演習)	池内 寛紀 田向 宏和 (招致講義)
	7	腹部を中心としたフィジカルアセスメント/超音波検査の活用 (講義・演習)	大谷 順 (招致講義)
	8・9	プライマリケア領域で遭遇する事例を用いたフィジカルアセスメント演習 ・小児/高齢者に応じたフィジカルアセスメント ・在宅・高齢者施設症例のシミュレーション	山崎 啓一 横山 淳美
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>・ 授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。</p> <p>・ 授業に関連する教材を活用し、局所解剖を理解して上で各講義の臨んでください。</p> <p>・ 授業の前には十分なシミュレーション演習を各自で計画的に行って臨んでください。</p>		
テキスト	適宜、授業内で紹介する。		
参考文献	<p>・ Lynn S. Bickley (著)、福井次夫、井部俊子 他 監修 (2015)、ペイツ診察法 第2版、メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>・ Steven McGee (著)、徳田安春・平島 修・和足孝之 監修 (2019)、マクギーのフィジカル診断学 原著 第4版 診断と治療社</p> <p>・ 古谷伸之 (編) (2007)、診察と手技がみえる1 第2版、メディックメディア</p>		
評価方法	<p>・ 授業態度 (技術演習における観察評価・討議内容・事前学習を含む) 70%、課題レポート 30%</p> <p>本科目は、授業目標達成状況に応じて総合的に評価し、フィードバックは適宜担当教員より行う。</p> <p>【受講のあり方】</p>		
その他	<p>・ 本科目は、原則対面授業です。動きやすい服装で授業に臨んでください。</p> <p>・ 本科目は、ブライマリーケア看護学実習に必要な先修科目です。</p> <p>・ 本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目対応科目です。</p>		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	臨床推論 (放送大学大学院 単位互換科目) 特定行為研修共通科目名: 臨床推論	学期	春学期
担当教員	山内 豊明、三苫 里香	選択/必修	必修
科目コード	I70701.40	授業形態	講義・演習・実習 (放送大学: オンライン)
授業の概要	<p>看護前か特定行為を行う場合に必要とされる実践能力の基礎となる知識・技能の向上を図るために、臨床診断学、臨床検査学、症候学について学びます。看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、指定の内容を含むものとします。</p>		
授業の目標	<p>看護前が適切に臨床実践するに際して、対象の身体的情報を的確に捉え、それらを臨床場面における推論に結びつけていく必要がある。本科目においては看護前が適切に臨床実践するに際して、多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くための基本的な能力を身につけることを目標とする。</p> <p>・ 臨床推論の基本的な考え方について説明できる</p> <p>・ 症例に関する情報の収集・分析ができる</p> <p>・ 得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出できる</p>		
授業の内容	回数	授業のアーサーマ	授業内容
	1	臨床推論とは、臨床推論 (症候学を含む) の理論	科目全体の導入として、「臨床推論」とはどのようなものかを考える。臨床推論の進め方、各種理論について学び、その中で、症候学や診断仮説について学ぶ。また、EBM、生涯学習行動について学ぶ。
	2	医療面接の理論	医療面接の理論の実践について学ぶ。医療面接は診療でもっとも重要なステップであり、患者満足度も直結する。講義受講と実演視聴を通じて医療面接のポイントをしっかりと学ぶ。
	3	各種臨床検査の理論～検査データのみかた～血液ガス、水分、電解質	臨床検査における臨床推論の理論について考える。とくに、血液ガス、水分、電解質に関するデータについて、その意味と応用について考える。
	4	各種臨床検査の理論～検査データのみかた～血液化学、血糖検査、血清学検査、内分泌データ、腫瘍マーカー、パニック値	臨床検査における臨床推論の理論について考える。とくに、血液化学、血糖検査、血清学的検査、内分泌データ、腫瘍マーカー、パニック値について、その意味と応用について考える。
	5	画像診断の理論～画像のみかた	画像検査の理論と実践について学ぶ。各検査法における画像の成り立ちを理解して、得られた画像検査結果の解釈の基本的な考え方をも学ぶ。
	6	心電図検査の理論～心電図の原理	心電図検査の理論と実践について学ぶ。心電図の原理を理解して、得られた結果の解釈の基本的な考え方をも学ぶ。
	7	心電図検査の理論	心電図検査の理論と実践について学ぶ。
		学ぶべき事項	1. 診療のプロセス 2. 臨床推論 (症候学を含む) の理論 4. 各種臨床検査の理論 (尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査) 6. 臨床推論の理論 3. 医療面接の理論 4. 各種臨床検査の理論 (血液検査) 4. 各種臨床検査の理論 (血液検査/尿検査) 5. 画像検査の理論 (放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査) 4. 各種臨床検査の理論 (心電図)
		授業方法 (時間)	講義 (5.4) 講義 (5.4) 講義 (5.4) 講義 (5.1) 講義 (5.5) 講義 (5.0) 講義
		担当教員	山内 豊明 三苫 里香 山内 豊明 三苫 里香 山内 豊明 三苫 里香 山内 豊明 三苫 里香

論～心電図各部 所見のみかた	論(心電図) 論(心電図) 論(心電図)	(5.0)	山内 豊明 三苫 里香
心電図検査の理 論～不整脈のみ かた	心電図検査の理論と実用につ いて学ぶ。心電図の原理の理 論に基づき、心電図の時系列 による解釈の基本についても 学ぶ。	講義 (5.0)	
試験	オンライン上の最終試験 (最終レポート)	試験 (1.5)	
実習	科目名：NP 活動見学実習(1.0)で実施		
テキスト			
参考図書・資料			
評価方法	成績評価と単位認定は、各回の小テスト(50%)と最終レポート(50%)により行う。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかつた場合の再試験制度はありません。		
その他	○履修上の留意点：解剖学・生理学(人体の構造と機能)に関する知識が不可欠な科目であり、それらにつ いての詳細な事前学習を必須とします。さらには病態生理学についての知識も必須とするため、必要となる 事前学習を行なった上で受講してください。受講後には実習臨床場面と結びつけるための事後学習を進めて ください。この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実習特論」「フィジカルアセスメント 特論」「統合臨床病態生理学・疾病概論」「臨床薬理学特論」などの科目とあわせて履修することが望ましい です。 本学教員からのメッセージ ・ 本科目は、速習授業です。 ・ 本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっております。 ・ 本科目は、NP 活動見学実習とブライマリー・ケア看護学実習に必要な必修科目です。 ・ 本科目の受講における詳細玉、放送大学ホームページをご覧ください。		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	臨床薬理学特論Ⅰ(放送大学大学院 単位互換科目) 特定行為研修共通科目名：「臨床薬理学」	学期	春学期
担当教員	柳田俊彦	選択必修	必修
科目コード	17070141	単位数	1 (48時間)
授業の概要	薬理学・薬理学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リス クマネジメント等、臨床における薬物の理論と実用について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢 による特性、個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。看護師の特定行為研修制度の対応科目の ひとつであり、指定の以下の内容を含むものとする。 1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3. 主要薬物の相互作用の理論と演習 4. 主要薬物の安全管理と処方上の理論と演習 ※年齢による特性(小児/高齢者)を含む		
授業の目標	・薬理学・薬理学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を理解できる。 ・薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。 ・各種疾病の病態生理や病状を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の使用方法を検討で きる。 ・主要薬物の安全管理と処方上の理論を理解できる。		
授業の内容	回数 授業のテーマ	授業方法 (時間)	担当教員
1	薬理学総論 医薬品と、その適性な使用の 根拠となる薬理学の基礎知 識を深め、薬物治療の基本概 念を学ぶ。 ・医薬品の分類と法律、開発 から臨床応用まで ・作用原理について(薬力学 と薬物動態学) ・好ましくなく副作用(有害 作用)と薬物相互作用	講義 (4.0) 演習 (4.5)	柳田俊彦 ゲスト： 武田泰生
2	薬理学各論(1) 末梢神経、中枢 神経に作用する 薬物	講義 (3.6)	柳田俊彦 ゲスト： 上園保仁
3	薬理学各論(2) 抗炎症薬、抗ア ルベール薬、抗ア ブスリン薬、消化器 系に作用する 薬物	講義 (3.5)	柳田俊彦 ゲスト： 磯濱 洋一郎
4	薬理学各論(3) 心血管系、血液 系に作用する薬 物	講義 (3.7) 演習 (4.5)	柳田俊彦 ゲスト： 武田泰生
5	試験	試験 (1.0)	
6	薬理学各論(4) 内分泌系、代謝 系に作用する薬 物	講義 (3.5)	柳田俊彦 ゲスト： 武田泰生

			作用とはどのようなものか、薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係について学ぶ。		武田泰生
7	薬理学各論(5) 感染症に使用する薬物、消毒薬	1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論	1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論	講義 (3.5)	柳田俊彦 ゲスト: 赤瀬智子
8	薬理学各論(6) 抗がん薬、緩和ケア、漢方薬	1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論	1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論	講義 (3.8)	柳田俊彦 ゲスト: 上園保仁
9	主要薬物の安全管理と処方論	4. 主要薬物の安全管理と処方論 とはどのようなものか、年齢による特性(小児/高齢者)や妊娠・出産・授乳期の特性も含めて、医療安全、高リスク患者について学ぶ。さらに、医薬品をめぐる問題として、誤った使用に起因する事故の回避や副作用の回避、疑義照会などについて学ぶ。	4. 主要薬物の安全管理と処方論 とはどのようなものか、年齢による特性(小児/高齢者)や妊娠・出産・授乳期の特性も含めて、医療安全、高リスク患者について学ぶ。さらに、医薬品をめぐる問題として、誤った使用に起因する事故の回避や副作用の回避、疑義照会などについて学ぶ。	講義 (3.9) 演習 (4.5)	柳田俊彦 ゲスト: 武田泰生
10	試験	オンライン上での試験	オンライン上での試験	試験 (1.0)	
テキスト					
参考図書・参考資料					
評価方法	成績評価と単位認定は、ディスカッション、レポートを含む演習(20%)、小テスト(40%)、および最終テスト(40%)の評価により行う。なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要がある。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。				
その他	○履修上の留意点: 本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっている。この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実習特論」「臨床推論」「フィジカルアセスメント特論」「統合臨床病態生理学・疾病概論」などの科目とあわせて履修することが望ましい。 本学教員からのメッセージ ・ 本科目は、遠隔形式の授業です。 ・ 本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっています。 ・ 本科目は、NP 活動見学実習とフライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。 ・ 本科目の受講における詳細は、放送大学ホームページをご覧ください。				

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	臨床薬理学特論II	学期	春学期
担当教員	○ 講師 横山 淳美 非常勤講師 矢野貴久、石原真之、遠藤進一、後藤貴樹、曾田重人、玉木宏樹、直良浩司	選択/必修	必修
科目コード	I7070142	授業形態	講義
授業の概要	本科目は、慢性疾患を中心とした疾患の治療に用いる薬物についての作用機序、体内動態(血中濃度)、代謝経路、副作用、適応疾患、年齢依存性などの基本的事項を理解し、安全管理の視点での処方にあたっての留意点、年齢や病態による薬物動態の変動、および薬物相互作用について学ぶ。薬物療法を受ける対象者に対する実践的な観察能力、判断能力を高めることを目指す。	単位数	1
到達目標とDPとの関連	到達目標 1. 特定行為に係る薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。 2. 各種疾病の病態生理や病状を考慮し、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の使用方法を検討できる。 3. 主要薬物の安全管理の視点から処方時の留意点を理解できる。	対応DP	DP1 DP1・DP2 DP1・DP3
回数	内容	担当教員	
1	薬理学の概要、薬物の作用機序と作用機序薬物動態、相互作用	直良浩司	
2	薬害と有害作用、処方の概要と薬の投与設計医薬品の関与する医療事故の現状	玉木宏樹	
3	添付文書・医薬品インタビューフォームの見方		
4	インスリン製剤の種類と臨床薬理及び副作用	後藤貴樹	
5	高カ roller 輸液の種類と臨床薬理及び副作用と評価	遠藤進一	
6	脱水症に対する輸液補正に必要な輸液の種類と臨床薬理		
7	抗菌薬の種類と臨床薬理及び抗菌薬の副作用	矢野貴久	
8	感染別疾患がある者を使用する抗菌薬以外の薬利とその副作用	石原真之	
9	抗けいれん剤・抗精神薬・抗不安薬の種類と臨床薬理及び副作用	曾田重人	
10	筆記試験	横山淳美	
講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)	・ 1コマあたり、100分以上の事前・事後の学習が必要であること。 ・ 各自の授業に関連する教材を活用し、局所解剖や病態の事前学習が必要であること。 ・ 授業進度に応じて得た課題は、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の自己学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。		
テキスト	特定のテキストは指定しない。配布資料を使用する		
参考文献	・ 臨床薬理学第4版(日本臨床薬理学会編) 医学書院 ・ 病名とくすり2020 基礎と実践 Expert's Guide(薬局2020年3月増刊号) 南山堂 ・ 糖尿病治療ガイド2024(日本糖尿病学会編) 文光堂		
評価方法	筆記試験70%、授業態度30%(事前学習も含む)		
その他	【受講のあり方】 ・ 授業は、原則対面授業です。 ・ 本科目は、NP 資格試験受験に必要な科目です。 ・ 本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目です。 ・ 本科目は、フライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。 各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。		

科目分類	専門科目	対象学年	1	
授業科目	特定行為共通科目 救急演習 (放送大学大学院 単位互換科目) 特定行為研修共通科目名:「臨床推論」【フィジカルアセスメント】「医療安全学/特定行為実践」	学期	春学期	
指導者	山内豊明、北村 聖、栗原博之、土島智幸、橋本迪生、三笠里香、山本武志	選択/必修	必修	
科目コード	I7070143 演習 (放送大学:オンライン)	単位数	1 (33.3 時間)	
授業の概要	看護師の特定行為研修制度の対応科目である「医療安全学特論」又は「統合医療安全・特定行為実践特論」 「臨床推論」【フィジカルアセスメント特論】の演習をとおして、実践能力の基礎となる知識・技能の向上を図る。演習には、指定の以下の内容を含むものとする。 1. 医療安全に関する理論・原則、医療安全の推進に関わる制度・システム、医療施設における組織的な取組みや実践例、患者との関わりについて、事例検討をとおして実践につながる能力をつける。 2. 臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について、以下の演習をとおして実践につながる能力を身につける。 ・臨床推論 (症候学を含む) 演習 ・医療面接演習 ・各種臨床検査演習 ・画像検査演習 ・臨床疫学演習 3. 看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かすことのできない、身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論に基づき、以下の演習をとおして技能の習得を目指す。 ・身体診察基本手技演習 ・部位別身体診察手技と所見演習 ・医療安全の原理・原則を理解し、実践につながる可能性があることのできる ・医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解する ・医療事故事例を分析し、対策を検討することができる ・臨床推論の基本的な考え方について説明できる ・症例に関する情報の収集・分析ができる ・得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出できる ・生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を支える看護活動への指針を与えることができる。 ・生命体として「生きている」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対応への連携を着実に果たせる医療者としての責務を果たすことができる。 ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。			
授業の目標				
授業内容	回数 1 臨床推論・医療面接演習 医療面接の動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。良い点、改善すべき点などを議論する。 2 身体診察基本手技演習 身体診察基本手技の動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	学ぶべき事項 1. 臨床推論 2. 臨床推論 (症候学を含む) 演習 3. 医療面接の演習	授業方法 (時間) 演習 (3.5)	担当教員 北村 聖

	救急医療/在宅医療				
3	部位別身体診察手技と所見演習 指定のシミュレーション教材を用いて自己演習をした後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	各種臨床検査演習 各種臨床検査の結果を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	部位別身体診察手技と所見演習 2. 部位別身体診察手技と全身状態とバイタルサイン/胸部/腹部/神経系	演習 (4.5)	山内豊明 三笠里香
4	各種臨床検査演習 各種臨床検査の結果を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	各種臨床検査の動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	臨床推論 4. 各種臨床検査の演習/心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査	演習 (3.5)	北村 聖
5	画像検査演習 各種画像検査の動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	各種画像検査の動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	臨床推論 5. 画像検査の演習 放射線の影響/単純エングス線検査/超音波検査/CT/MRI/その他画像検査	演習 (3.5)	北村 聖
6	臨床疫学演習 EBM (evidence-based medicine) によって臨床判断を行う動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	臨床疫学演習 EBM (evidence-based medicine) によって臨床判断を行う動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	臨床推論 6. 臨床疫学の演習	演習 (3.5)	北村 聖
7	医療安全・ケアの質保証の事例検討 医療事故事例、警備事例を取り上げ、その原因や対策を具体的に検討することにより、医療安全に関わる知識、方法論を習得する。	医療安全・ケアの質保証の事例検討 医療事故事例、警備事例を取り上げ、その原因や対策を具体的に検討することにより、医療安全に関わる知識、方法論を習得する。	医療安全学 6. 医療安全の事例検討 8. ケアの質保証の事例検討	演習 (4.5)	橋本迪生 栗原博之
8	医療倫理・医療管理の事例検討 医療安全のための組織的な取り組みとして TeamsTPPS を取り上げる。また、具体的な事例の検討・分析に基づき、医療安全にかかわるマネジメントに携わる知識・態度を身につける。	医療倫理・医療管理の事例検討 医療安全のための組織的な取り組みとして TeamsTPPS を取り上げる。また、具体的な事例の検討・分析に基づき、医療安全にかかわるマネジメントに携わる知識・態度を身につける。	医療安全学 2. 医療倫理の事例検討 4. 医療管理の事例検討	演習 (4.5)	山本武志 土島智幸
9	筆記試験 (オンライン上で) の試験: 臨床推論、フィジカルアセスメント、医療安全	筆記試験 (オンライン上で) の試験: 臨床推論、フィジカルアセスメント、医療安全	【指定教材 (図書)】『フィジカルアセスメント ガイドブック』目と手と耳でここまでわかる』 (山内豊明/医学書院; 第2版(2011/12/9)/2,640円(税込)/単行本224頁/ISBN978-4-260-01384-0)	試験 (1.0)	
参考図書	・資料				
評価方法	Web 教材ではイヤホンを用いて聴取音聴取の演習を行います。その後、生体に対して実際の聴診を演習する際には聴診器が必要となります。聴取音聴取のためには、ある程度の品質を備えた聴診器が不可欠です。定価は15,000~20,000円程度のものが相応しいと考えます (販売価格は時期により変動します)。 【指定サイト】 授業内で提示します。	成績評価と単位認定: 成績評価と単位認定は、演習 (デバイスカンパニオン、レポート、シミュレーションによる演習) の評価により行う。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかつた場合の再試験制度はありません。 ○履修上の留意点: この科目を履修するにあたっては「医療安全学特論」又は「統合医療安全・特定行為実践特論」 「臨床推論」【フィジカルアセスメント特論】などの科目とあわせて履修することが望ましい。 受講にあたっては、指定教材と指定サイトでの学習が必須です。 本学教員からのメッセージ			
その他	・ 本科目は、遠隔形式の授業です。 ・ 本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっています。 ・ 本科目は、NP 活動見学実習とブライマリーケア看護学実習に必要な先修科目です。 ・ 本科目の受講における詳細は、放送大学ホームページをご覧ください。				

科目分類	専門科目	対象学年	2	
授業科目	ブライマリ・ケア看護学演習Ⅰ： ・呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連 ・血糖コントロールに係る薬剤投与関連	学期	春学期	
担当教員	○ 講師 横山 淳美 非常勤講師 磯和 理貴、田邊 翔太、並河 哲志、橋本 圭司、遠田 健一	選択	必修	
科目コード	I7070144	授業形態	講義・演習・実習 単位数 1(26 時間)	
授業の概要	本科目は、看護の対象(成人を含む高齢者・家族・地域社会)に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を習得するために、シミュレーショントレーニングを行う。 【呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連】 安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と知識、技術、態度を学修する。 【血糖コントロールに係る薬剤投与関連】 患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を学修する。			
到達目標とDPとの関連	【呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連】 1. 多様な臨床現場において気管カニューレの交換を行うための知識、技術、態度の基礎 DP1 2. 多様な臨床現場において、医師から手順書による指示を受け、気管カニューレ交換の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身に付けることができる。 【血糖コントロールに係る薬剤投与関連】 3. 多様な臨床現場においてインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解することができる。 4. 多様な臨床現場において、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、インスリン投与量調整の実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身に付けることができる。	対応DP DP1 DP1・DP2 DP1 DP1・DP2		
授業の内容	回数	内容	授業方法(時間)	担当教員
	1~4	長期呼吸療法にかかわるもの ・ 気管切開に関する局所解剖 ・ 気管切開を要する主要疾患の病態生理 ・ 気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメント ・ 気管切開の目的 ・ 気管切開に伴うリスク(有害事象とその対策等) 気管カニューレの交換 ・ 気管カニューレの適応と禁忌 ・ 気管カニューレの構造と選択 ・ 気管カニューレの交換の手法 ・ 4. 気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応 ・ 長期呼吸療法における気管カニューレ交換の事例を作成、病態に応じた気管カニューレ交換の判断、全身状態の評価と交換後のケアとその報告についてグループワークをする。 ・ 手順書作成 ・ 治療ガイドライン・文献購読	講義 演習 (3.5) 講義 演習 (3.5)	磯和 理貴 田邊 翔太 横山 淳美
	6	OSCE(Objective Structured Clinical Examination)	実技試験 (1.5)	橋本 圭司
	7	筆記試験	試験 (1.0)	横山 淳美
	8-16	・ 血糖コントロールに係る薬剤投与関連 ・ 糖尿病とインスリン療法に関する局所解剖 ・ 糖尿病とインスリン療法に関する病態生理 ・ 糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメント ・ インスリン療法の目的	講義 (5.0)	並河 哲志 横山 淳美

	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病とインスリン療法に関する検査(インスリン療法導入基準を含む) 各種インスリン製剤の種類と臨床薬理 各種インスリン製剤の適応と使用方法 各種インスリン製剤の副作用 			
	<ul style="list-style-type: none"> インスリンの投与量の調整 病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 病態に応じたインスリンの投与量の調整のリスク(有害事象とその対策等) 外来でのインスリン療法と入院の適応 インスリン療法に関する患者への説明 糖尿病ケトアシドーシス、糖尿病高浸透圧症候群、重篤な合併症、シックデイなど患者の病態の特性に応じたインスリン投与量の調整の判断基準と具体的方法、およびそのリスクについて、ケアとその報告についてそれぞれグループワークをする。 低血糖と治療変更時のインスリン投与量の調整への対応を中心とした事例を作成、病態に応じたインスリン投与量の調整の判断基準とその具体的方法、およびそのリスクについて、ケアとその報告についてグループワークをする。 手順書作成 診療ガイドライン・文献購読 	講義 演習 (10.0)		並河 哲志 遠田 健一 横山 淳美 中山 法子 (招致講義) 多大学院 合同授業
	17	筆記試験	試験 (1.5)	横山 淳美
	<ul style="list-style-type: none"> 講義に向けて、図書館やインターネットを活用し、配布資料の事前学習と情報収集を行い、自分の考えをまとめてください。 文献検索・情報収集を積極的に行うこと。 グループ内で学習内容を検討し、取りまとめて発表すること。 			
	適宜、授業内で紹介する。			
	<ul style="list-style-type: none"> Harrison 著者、福井次夫 監修(2017)：ハリソン内科学 第5版、メディカルサイエンスインタナショナル 独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)監修(2018)：呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連、メディカ出版、2018。 日本嚥食期医療協会編集(2023)：看護師特定行為研修テキスト-区分別科目編1-、株式会社メデイス 日本嚥食期医療協会編集(2023)：看護師特定行為研修テキスト-区分別科目編2-、株式会社メデイス 各疾患診療ガイドライン 			
	【呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連】 :50% <ul style="list-style-type: none"> レポート20% (手順書作成を含む)、技術試験20%、授業態度20%、筆記試験40% OSCE 評価者：外部 橋本 圭司 医師(医療法人徳洲会 出雲徳洲会病院) 内部 横山 淳美 【血糖コントロールに係る薬剤投与関連】 :50% <ul style="list-style-type: none"> レポート20% (手順書作成含む)、授業態度30%、筆記試験50% 			
	その他			
	【受講のあり方】 <ul style="list-style-type: none"> 本科目は原則対面授業です。 本科目は、ブライマリ・ケア看護学実習の先修科目であり、NP 資格試験の受験要件科目です。 本科目は、看護師特定行為研修の区分別科目に対応しています。 局所解剖を理解した上で各講義に臨んでください。 OSCE 前に計画的にシミュレーション演習を行ってください。 ディスカッションがあるため、自分の意見を持って授業に臨んでください。 			

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	ブライマリ・ケア看護学演習Ⅱ：ろう孔管理関連	学期	春学期
担当教員	○ 横山 淳美、非常勤講師 安食 春輝、藤代 浩史、吉野 千城、西谷 有子	選択/必修	必修
科目コード	I7070145	授業形態	講義・演習・実習
授業の概要	<p>単位数 1 (25時間)</p> <p>本科目は、看護の対象（成人を含む高齢者・家族・地域社会）に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を習得するために、シミュレーショントレーニングを行う。具体的には以下の内容を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ろう孔造設に関連する病態からの確切的判断するための根拠と方法 ・胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識及び方法 ・膀胱ろうカテーテルを安全に交換・管理するための基礎的な知識及び方法 		
到達目標とDPとの関連	到達目標 1. 多様な臨床場面において胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換を実施するための知識、技術及び態度の基礎を身につけることができる。 2. 多様な臨床場面において膀胱ろうカテーテルの管理を行うための知識、技術及び態度の基礎を身につけることができる。 3. 多様な臨床場面において、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につけることができる。	対応DP DP1 DP1 DP1・DP2	
授業の内容	回数 内容	授業方法 (時間)	担当教員
	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換 /膀胱ろうカテーテルの交換 1. 胃ろう、腸ろうに関する局所解剖 2. 胃ろう、腸ろうを要する主要疾患の病態生理 3. 胃ろう、腸ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. カテーテル留置と患者のQOL 5. カテーテルの感染管理 6. カテーテル留置に必要なスキニングケア 7. 胃ろう及び腸ろうの目的 8. 胃ろう及び腸ろうの適応と禁忌 9. 胃ろう及び腸ろうに伴うリスク (有害事象とその対策等) 10. 栄養に関する評価 11. 胃ろう造設の意思決定ガイドライン 12. 胃ろう及び腸ろう造設術の種類 13. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの種類と特徴 14. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の時期 15. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の方法 16. 胃ろう・腸ろう管理関連に関する演習 ろう孔管理への対応を中心とした事例を作成、病態に応じた胃ろう・腸ろう及び胃ろうボタンの交換への判断基準、交換時のリスク評価(有害事象とその対応など)、交換後のケアと報告について 17. 手順書作成 18. 診療ガイドライン・文献購読 19. 消化器診療におけるチーム医療の実践 20. 胃ろう・腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換方法演習	講義 (9.0)	藤代 浩史 吉野 千城 横山 淳美
	7~11	講義 演習 (7.5)	藤代 浩史 横山 淳美 西谷 有子

12~14	膀胱ろうカテーテルの交換 1. 膀胱ろうの目的 2. 膀胱ろうの適応と禁忌 3. 膀胱ろうに伴うリスク (有害事象とその対策等) 4. 膀胱ろう造設術 5. 膀胱ろうカテーテルの種類と特徴 6. 膀胱ろうカテーテルの交換の時期 7. 膀胱ろうカテーテルの交換の方法	講義 演習 (5.5)	吉野 千城 横山 淳美
15	OSCE (Objective Structured Clinical Examination)	実技試験 (1.6)	安食 春輝
16	筆記試験	試験 (1.5)	横山 淳美
講義のため に必要 な自己学 習(事前・事後 学習)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前ご局所解剖を確認し、各回の内容を予習してから臨むこと。 ・授業後は配布資料や文献を用いて復習し、不明点は次回までに解決しておくこと。 ・グループワークに向けて、事前に文献検索・情報収集を積極的に行い、自分の考えをまとめておくこと。 ・OSCE 前に計画的にシミュレーション演習を繰り返し行い、手技を定着させること。 		
テキスト	適宜、授業内で紹介する。		
参考文献	・Harrison 著者、福井次夫 監修 (2017) : ハリソン内科学 第5版、メディカルサイエンスインスタンナショナル ・日本老年期医療協会 編集 (2023) : 看護師特定行為研修テキスト-区分別科目編1、株式会社メデイス ・日本老年期医療協会 編集 (2023) : 看護師特定行為研修テキスト-区分別科目編2、株式会社メデイス ・各疾患診療ガイドライン		
評価方法	筆記試験30%、レポート20% (事例レポート、手順書作成を含む)、授業態度20% (事前学習 参加態度 等)、技術試験 30% OSCE 評価者:外部 安食 春輝 医師 (あさひまクリニック院長) 内部 横山 淳美		
その他	【受講のあり方】 ・本科目は原則対面授業です。 ・ブライマリ・ケア看護学実習の先修科目であり、NP 資格試験の受験要件科目です。 ・看護師特定行為研修の区分別科目に対応しています。 ・ディスカッションがあるため、自分の意見を持って授業に臨んでください。 ・局所解剖を理解した上で各講義に臨んでください。 ・OSCE 前に計画的にシミュレーション演習を行ってください。		

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	ブライマリー・ケア看護学演習Ⅲ： ・ 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・ 栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	学期	春学期
担当教員	○ 講師 横山 淳美 非常勤講師 池内寛記、宇賀田 圭、大谷 裕、山崎 啓一	選択 必修	必修
科目コード	I7070146	授業形態	講義・演習・実習
授業の概要	本科目は、看護の対象(成人を含む高齢者・家族・地域社会)に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門知識と技術を習得するために、シミュレーショントレーニングを行う。 【栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連】：安全に栄養及び水分管理に係る薬剤投与を実施するための臨床判断と知識・技術を学修する。 【栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連】 ：安全に栄養に係るカテーテル管理を実施するための臨床判断と知識・技術・態度の基礎を学修する。	単位数	1 (26 時間)
到達目標と DPとの関連	到達目標 【栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連】 1. 多様な臨床場面において栄養及び水分管理を実施するための知識・技術・態度の基礎を身につけること 2. 多様な臨床場面において、医師または歯科医師からの指示を受け、栄養及び水分管理を実施できる。 【栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連】 3. 多様な臨床場面において慢性創傷の管理を実施するための知識・技術・態度の基礎を身につけることができる。 4. 多様な臨床場面において、医師または歯科医師からの指示を受け、栄養に係るカテーテル管理の実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践力を身につけることができる。	対応 DP	DP1 DP1・DP2 DP1 DP1・DP2
授業の内容	回数	内容	授業方法 (時間)
	1-3	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・ 循環動態に関する局所解剖 ・ 循環動態に関する主要症候 ・ 脱水や低栄養状態に関する主要症候 ・ 輸液療法目的の種類 ・ 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 ・ 輸液時に必要な検査	講義(5.5)
	4-6	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：特設点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 ・ 低栄養状態に関する局所解剖 ・ 低栄養状態の原因と病態生理 ・ 低栄養状態に関するフィジカルアセスメント ・ 低栄養に関する検査 ・ 高カロリー輸液の適応と使用方法 ・ 高カロリー輸液の判断基準(ペーパーベースシミュレーションを含む) ・ 低栄養状態の判断と高カロリー輸液のリスク(有害事象とその対策等) ・ 高カロリー輸液に関する栄養学 ・ 低栄養の程度に応じた補液の選択・実施・評価；高カロリー輸液投与における事例を作成、病態に応じた輸液の判断基準、投与時のリスク評価(有害事象とその対応など)、投与後のケアと報告について；ペーパーベースシミュレーション演習 ・ 手順書作成 ・ 診療ガイドライン・文獻購読	講義 演習 (4.5)
	7-9	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：脱水症状に対する輸液による補正 ・ 脱水症状に関する局所解剖 ・ 脱水症状の原因と病態生理 ・ 脱水症状に関するフィジカルアセスメント	講義 演習 (4.5)

	・ 脱水症状に関する検査 ・ 脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法 ・ 脱水症状に対する輸液による補正の副作用 ・ 脱水症生に対する輸液による補正の判断基準(ペーパーベースシミュレーションを含む)			横山淳美 山崎啓一 池内寛記 横山淳美
10	・ 脱水症状の程度と輸液による補正のリスク(有害事象とその対策等) ・ 脱水の程度に応じた輸液の選択・実施・評価；脱水症状による補正における事例を作成、病態に応じた輸液の判断基準、投与時のリスク評価(有害事象とその対応など)、投与後のケアと報告について；ペーパーベースシミュレーション演習 ・ 手順書作成 ・ 診療ガイドライン・文獻購読	栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖 ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理 ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの目的 ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌 ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入 ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ オリエンテーション(演習・手順書作成)	試験(1.5) 講義 (2.5)	横山淳美 山崎啓一 池内寛記 横山淳美
13-15	・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ オリエンテーション(演習・手順書作成)	栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連；末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入 ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌 ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ オリエンテーション(演習・手順書作成)	講義 演習 (5.0)	池内寛記 横山淳美
16	・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ オリエンテーション(演習・手順書作成)	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ オリエンテーション(演習・手順書作成)	試験(1.0) 実技試験 (1.5)	横山淳美
17	・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・ オリエンテーション(演習・手順書作成)	OSCE Objective Structured Clinical Examination) ・ 授業前には局所解剖・病態生理を確認し、各回の内容を予習しておくこと。 ・ 授業後は配布資料や文獻を用いて復習し、不明点を整理しておくこと。 ・ グループワークに向けて文献検索・情報収集を積極的に行い、自分の考えをまとめおくこと。 ・ 授業進度に応じて課題が課されるため、与えられた課題提出に向けて図書館やインターネットを活用し、事前学習を行うこと。		
テキスト	適宜、授業内で紹介する。			
参考文献	・ Harrison 著者、福井秋夫 監修(2017)：ハリソン内科学 第5版、メディカルサイエンスインスタンションナル ・ 独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)監修(2019)：栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、メディカ出版 ・ 日本老年性期医療協会 編集(2023)：看護師特定行為研修テキスト-区分別科目編1-、株式会社メデイス ・ 日本老年性期医療協会 編集(2023)：看護師特定行為研修テキスト-区分別科目編2-、株式会社メデイス ・ 各疾患診療ガイドライン			
評価方法	・ 栄養及び水分管理にかかる薬剤投与関連栄養に係るカテーテル管理関連:50% ・ 筆記試験(60%)、レポート20%、(手順書作成を含む)授業態度20%(事前学習、参加態度等) ・ 筆記試験60%、レポート10%(手順書作成を含む)、授業態度10% ・ 栄養に係るカテーテル管理関連:50% ・ 筆記試験20%、OSCE 評価者：外部 大谷 裕 医師(医療法人徳洲会出雲徳洲会病院) 内部 横山淳美			
その他	【受講のあり方】 ・ 本科目は原則対面授業です。 ・ 本科目は、ブライマリー・ケア看護学実習の先修科目であり、NP 資格試験の受験要件科目です。 ・ 本科目は、看護師特定行為研修の区分別科目に対応しています。 ・ 局所解剖を理解した上で各講義を履修してください。 ・ 各授業内にディカスセッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・ OSCE の実施前には十分なシミュレーション演習を各自計画的に行ってください。			

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	ブライマリ・ケア看護学演習Ⅳ：創傷管理関連	学期	春学期
担当教員	○ 講師 横山 淳美 非常勤講師 池野屋真太郎、東 耕一郎、小原 友子、辻野 佳雄、西村 恭子	選択 /必修	必修
科目コード	I7070147	授業形態	講義・演習・実習 単位数 2(8時間)
授業の概要	本科目は、看護の対象（成人を含む高齢者・家族・地域社会）に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を習得するために、シミュレーショントレーニングを行う。具体的には、安全に慢性創傷の管理を実施するための臨床判断と知識・技術・態度の基礎を学ぶ。		
到達目標とDPとの関連	到達目標 1. 多様な臨床場面において慢性創傷の管理を実施するための知識・技術・態度の基礎を身につけることができる 2. 多様な臨床場面において、慢性創傷の予防、悪化予防の実施、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な身体能力を身につけることができる。	対応DP DP1 DP1・DP2	
授業の内容	回数 1～7 内容 ・ 創傷管理関連 ・ 皮膚、皮下組織(骨を含む)に関する局所解剖 ・ 主要な基礎疾患の管理 ・ 全身・局所のフィジカルアセスメント ・ 慢性創傷の種類と病態 ・ 病傷の種類、アセスメント・評価 ・ 治療のアセスメントとモニタリング(創傷治癒過程、TIME 理論等) ・ リスクアセスメント ・ 褥瘡及び創傷治癒と栄養管理 ・ 褥瘡及び創傷治癒と栄養管理、体圧分散、排泄管理 ・ DESIGN-R に基づいた治療指針 ・ 褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム ・ 感染のアセスメント ・ 褥瘡の治療のステーション別局所療法 ・ 下肢創傷のアセスメント ・ 下肢創傷の病態別治療 ・ 創部別開創のアセスメントと治療 8～17 ・ 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 ・ 褥瘡及び慢性創傷における血流のない壊死組織の除去の目的 ・ 褥瘡及び慢性創傷における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 ・ 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク(有言事象とその対策等) ・ DESIGN-R に準拠した壊死組織の除去の判断 ・ 全身状態の評価と除去の適正判断(タンパク量、感染リスク等) ・ 壊死組織と健康組織の境界判断 ・ 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法 ・ 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法 ・ 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去への対応を中心とした2事例以上作成し、病態に応じた血流のない壊死組織における DESIGN-R に準拠した除去の判断、全身状態	授業方法 (時間) 講義 (11.0)	担当教員 辻野 佳雄 池野屋真太郎 西村 恭子 小原 友子 横山 淳美

	の評価と除去の適正判断、ケアとその報告についてグループワークをする。 ・ 手順書作成 ・ 診療ガイドライン・文献検索		
	16 OSCE(Objective Structured Clinical Examination)	実技試験 (1.5)	東 耕一郎
	17 筆記試験	試験 (1.5)	横山 淳美
講義のため に必要な 自己学習 (事前・ 事後学習)	・ 授業前に皮膚・皮下組織の局所解剖を確認し、各回の内容を予習しておくこと。 ・ 授業後は配布資料や文献を用いて復習し、不明点を整理しておくこと。 ・ グループワークに向けて文献検索・情報収集を積極的に行い、自分の考えをまとめておくこと。 ・ 授業進度に応じて課題が課されるため、図書館やインターネットを活用し、事前学習と情報収集を行うこと。		
テキスト	適宜、授業内で紹介する。		
参考文献	・ Harrison 著者, 福井次夫 監修 (2017) : ハリゾン内科学 第5版, メディカルサイエンスインターナショナル ・ 独立行政法人地域医療機能推進機構 (IHO) 監修 (2019) : 創傷管理関連, メディカ出版 ・ 日本慢性期医療協会 編集 (2023) : 看護師特定行為研修テキスト-区分別科目編1-, 株式会社メデイス ・ 各疾患診療ガイドライン		
評価方法	・ レポート30% (手順書作成を含む)、技術試験30%、筆記試験40% OSCE 評価者: 外部 東 耕一郎 医師(医療法人徳洲会 出雲徳洲会病院)、内部 横山 淳美		
その他	【受講のあり方】 ・ 本科目は原則対面授業です。 ・ 本科目は、ブライマリ・ケア看護学実習の先修科目であり、NP 資格試験の受験要件科目です。 ・ 本科目は、看護師特定行為研修の区分別科目に対応しています。 ・ 局所解剖を理解した上で各講義に臨んでください。 ・ 各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・ OSCE の実施前には十分なシミュレーション演習を各自計画的に行ってください。		

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	プライマリ・ケア看護学演習V：感染に係る薬剤投与関連	学期	春学期
担当教員	○ 講師 横山 淳美 非常勤講師 中村 嗣、板持 卓弥、妹尾 千賀子	選択必修	必修
科目コード	17070148 授業形態	単位数	2(29 時間)
授業の概要	本科目は、看護の対象(成人を含む高齢者・家族・地域社会)に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を習得するために、シミュレーショントレーニングを行う。具体的には、感染徴候時に、身体所見からの予備的検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨床薬剤の投与を行う実践的知識と技術を学習する。		
到達目標とDPとの関連	到達目標 1. 多様な臨床場面における感染症時の主要疾患・症状、検査、適応、臨床判断について身につけることができる。 2. 多様な臨床場面において、医師から手順書による指示を受け、感染徴候時に使用する薬剤の実施における可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につけることができる。	対応 DP	DP1 DP1・DP2
授業の内容	回数 内容 1-9 感染に係る薬剤投与関連 ・ 感染症の病態生理 ・ 感染症の主要症候と主要疾患 ・ 感染症の診断方法 ・ 主要感染症の診断方法 ・ 主要疾患のフィジカルアセスメント 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与 ・ 抗生剤の種類と臨床薬理 ・ 各種抗生剤の適応と使用方法 ・ 各種抗生剤の副作用 ・ 感染兆候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理 ・ 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法 ・ 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用 ・ 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤の判断基準(感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスク(有害事象とその対策)) 10-17 抗生剤の具体的な使用方法・抗生剤に関するケーススタディ：抗生剤選択のためには、多くの要因を吟味して決定する。そのプロセスにおいてはケーススタディを通して学習する。 ・ 感染症時のアセスメント：血管カテーテル関連感染、尿路カテーテル関連感染、医療関連肺炎、手術部位感染、Clostridium difficile 関連の代表的な事例を2 事例選択し、その事例に基づき、病歴聴取、身体診察、感染のアセスメント、起因微生物の予想と検索、抗生剤の選択、効果判定、抗生剤の変更の必要性の判断、投与終了後の評価について、投与後のケアと報告についてグループワークをする。 ・ 手順書作成 ・ 診療ガイドライン・文献講読	授業方法 (時間) 講義 (14.0) 講義 演習 (13.5)	担当教員 中村 嗣 中村 嗣 妹尾千賀子 板持 卓弥 横山 淳美
講義のため に必要な自 己学習(事 前・事後学 修)	18 筆記試験	試験 (1.5)	横山 淳美
	・ グループワークに向けて文献検索・情報収集を積極的に行い、グループ内で予習内容を検討・取りまとめ発表できるように準備すること。 ・ 授業時間外学習として、課題に向けて図書館やインターネットを活用し、配布資料の事前学習と情報収集を行い、自分の考えをまとめおくこと。 ・ 局所解剖を理解した上で各講義に臨んでください。		

テキスト	適宜、授業内で紹介する。
参考文献	・ 独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)監修(2018)：感染に係る薬剤投与関連、メデイカ出版。 ・ 各種診療ガイドライン
評価方法	レポート 20% (事例レポート、手順書)、授業態度 20% (事前学習、参加態度 等)、筆記試験 60%
その他	【受講のあり方】 ・ 本科目は原則対面授業です。 ・ 本科目は、プライマリ・ケア看護学実習の先修科目であり、NP 資格試験の受験要件科目です。 ・ 本科目は、看護師特定行為研修の区分別科目に対応しています。 ・ デイカスカッションがあるため、自分の意見を持って授業に臨んでください。 ・ 局所解剖を理解した上で各講義に臨んでください。

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	ブライマリー・ケア看護学演習VI：精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	学期	春学期
担当教員	○ 講師 横山 淳美、教授 山下 一也 非常勤講師 小林 孝文	選択/必修	必修
科目コード	I7070149	授業形態	講義・演習
到達目標とDPとの関連	<p>本科目は、看護の対象(成人を含む高齢者・家族・地域社会)に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を修得するために、シミュレーショントレーニングを行う。チーム医療の中で安全に精神及び神経症状に係る薬剤管理の臨床判断と技術を学修する。具体的には、薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん剤、抗精神病薬、抗不安薬)投与に関する判断に必要なアセスメントとケアを学修する。</p> <p>到達目標 1. 多様な臨床場面において精神・心理状態にかかわる薬剤投与を実施するための知識、技術及び態度の基礎を身につけることができる。 2. 多様な臨床場面において、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につけることができる。</p>	単位数	1 (26 時間)
授業の内容	<p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神・神経系の局所解剖 神経学的主要症候 精神学的主要症候 主要な神経疾患と病態生理 主要な精神疾患と病態生理 主要な神経系のフィジカルアセスメント 主要な精神疾患の面接所見 神経学的検査 心理・精神機能検査 精神・神経系の臨床薬理(副作用、耐性)と依存性を含む) <p>抗けいれん剤の臨時投与</p> <ul style="list-style-type: none"> けいれんの原因・病態生理 けいれんの症状・診断 各種抗けいれん剤の適応と使用方法 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパー・シミュレーションを含む) 抗けいれん剤の投与のリスク(有害事象とその対策等) 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(シミュレーションを含む) 抗けいれん剤の投与のリスク(有害事象とその対策等) <p>抗精神病薬の臨時投与</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合失調症の原因・病態生理 統合失調症の症状・診断 各種抗精神病薬の適応と使用方法 病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準(ペーパー・シミュレーションを含む) 抗精神病薬の投与のリスク(有害事象とその対策等) 病態に応じた抗精神病薬の投与の判断基準(シミュレーションを含む) 抗精神病薬の投与のリスク(有害事象とその対策等) 	担当教員	山下 一也 小林 孝文

<p>抗不安薬の臨時投与</p> <ul style="list-style-type: none"> 不安障害の原因・病態生理 不安障害の症状・診断 各種抗不安薬の適応と使用方法 病態に応じた抗不安薬の投与とその判断基準(ペーパー・シミュレーションを含む) 抗不安薬の投与のリスク(有害事象とその対策等) 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準(シミュレーションを含む) 抗不安薬の投与のリスク(有害事象とその対策等) 	<p>抗けいれん剤の臨時投与に関する演習</p> <ul style="list-style-type: none"> てんかんの重症状態、予測された経路への対応を中心とした事例を作成、病態に応じた抗けいれん剤投与の判断基準、抗けいれん剤投与のリスク評価(有害事象とその対応等)、抗けいれん剤の臨時投与後のケアと報告についてグループワークをする。 手順書作成 疾患診療ガイドライン・文献購読 <p>抗精神病薬の臨時投与に関する演習</p> <ul style="list-style-type: none"> 予測された抗精神病薬投与への対応を中心とした事例を作成、病態に応じた抗精神病薬投与の判断基準、抗精神病薬投与のリスク評価(有害事象とその対応等)、抗精神病薬の臨時投与後のケアと報告についてグループワークをする。 手順書作成 疾患診療ガイドライン・文献購読 <p>抗不安薬の臨時投与に関する演習</p> <ul style="list-style-type: none"> 予測された抗不安薬への対応を中心とした事例を作成、病態に応じた抗不安薬投与の判断基準、抗不安薬投与のリスク評価(有害事象とその対応等)、抗不安薬の臨時投与後のケアと報告についてグループワークをする。 手順書作成 疾患診療ガイドライン・文献購読 	<p>山下 一也 小林 孝文 横山 淳美</p>
18	筆記試験	試験 (1.5)
講義のため に必要な自 己学修(事 前・事後学 修)	<ul style="list-style-type: none"> 課題作成にあたり、文献検索・情報収集を積極的に行うこと。 各自の学習内容をグループ内で検討し、積極的に内容を取りまもめて発表できるよう準備すること。 授業進度に応じて課題が課されるため、図書館やインターネットを活用し、配布資料の事前学習を行い自分の考えをまとめておくこと。 授業に関連する教材を活用し、局所解剖を理解した上で各講義に臨んでください。 	
テキスト	適宜、授業内で紹介する。	
参考文献	Harrison(著)、福井次矢(監修)(2017)：ハリソン内科学 第5版、メディカルサイエンスインスターナショナル	
評価方法	筆記試験 60%、レポート 20% (手順書作成を含む)、授業態度 20% (事前学習、参加態度等)	
その他	<p>【受講のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本科目は原則対面授業です。 本科目は、ブライマリー・ケア看護学実習の先修科目であり、NP 資格試験の受験要件科目です。 本科目は、看護師特定行為研修の区分科目に対応しています。 各授業にディスタンスの時間を確保し、自分の意見をもって授業に臨んでください。 授業に関連する教材を活用し、局所解剖を理解した上で各講義に臨んでください。 	

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	プライマリ・ケア看護学実習	学期	秋学期
担当教員	○ 講師 横山淳美 (実習先指導医、診療看護師(NP)の詳細は別紙参照)	選択/必修	必修
科目コード	I7070151	授業形態	14 (630 時間)
実習の概要	<p>本科目は、慢性疾患をもちながら地域で暮らす療養者に対して、多職種と連携しながら自律的にケアを提供できる実践力を養うことをねらいとする。プライマリ・ケア領域における診療看護師(NP)の役割を理解し、診療看護師(NP)に必要な能力(7 コンピテンシー)を統合・習得する。</p>		
到達目標	<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす療養者の初期および継続診療を包括的に健康アセスメント(特定行為を含む)ができる。 2. 地域で暮らす療養者の初期および継続診療を看護的治療マネジメント(特定行為を含む)ができる。 3. 地域で暮らす療養者とその家族の健康レベルに応じた健康増進の支援ができる。 4. 組織における医療の質・安全管理体制を理解し、診療看護師(NP)の役割と行動を考察することができる。 5. 倫理観を持ち合わせた診療看護師(NP)の実践を行うことができる。 		
到達目標とDPとの関連	<p>対応 DP DP1 DP1・DP2 DP2 DP3 DP2・DP4</p>		
実習の計画	<p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性・慢性症状を持つ患者に対して、医療面接・身体診察を実施し、臨床推論を用いて医学的な診断を行い、診断に基づいた治療計画と疾病予防計画を作成する。 2. 受け持ち患者事例を通して、1 について指導者から評価を受け、5 症例以上ケースレポートを作成する。 3. 在宅・施設などで実施することの多い特定行為(8 区分2 行為)を実施の判断から実施、報告までの一連のプロセスを行い、指導者から評価を受けるとともに症例レポートを作成する。 4. 積極的にケースカンファレンスなどに参加し、多職種連携・協働における診療看護師(NP)実践のレポートを作成する。 5. 倫理的意思決定を行う事例における診療看護師(NP)実践のレポートを1 例以上作成する。 6. 実習の学びから得た診療看護師(NP)の役割について考察し、実習報告会で報告する。 <p>【実習施設】：雲南市立病院 地域ケア科/同外科、公立邑智病院 内科(総合診療科) 島根県立こころの医療センター、国立病院機構浜田医療センターなど</p> <p>【実習期間】：実習日程は目標達成状況と実習施設の状況により適宜検討する。 ※詳細は実習要項参照</p> <p>【実習の知識・技術(身体診察の流れ等)を再確認して実習に臨むこと。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内のカンファレンスや勉強会には積極的に参加すること。 ・実習内では、少なくとも3 症例は領域内毎で発表をすること。 ・ケースレポートは5 症例以上提出すること。 		
講義のために必要な自己学習(事前・事後学習)	<p>講義で使用したテキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Lynn S. Bickey (著), 福井次矢・井部俊子 他 監修 (2015) . ペイツ診察法 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル ・ Steven McGee (著), 徳田安春・平島 修・和足孝之 監修 (2019) . マクギーのフィジカル診断学, 原書 第4版, 診断と治療社 ・ 疾患診療ガイドライン <p>実習目標の到達度による評価を行う (実習記録30%、ケースレポート20%、参加観察評価50%/出席日数も含む)</p>		
テキスト	<p>講義で使用したテキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Lynn S. Bickey (著), 福井次矢・井部俊子 他 監修 (2015) . ペイツ診察法 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル ・ Steven McGee (著), 徳田安春・平島 修・和足孝之 監修 (2019) . マクギーのフィジカル診断学, 原書 第4版, 診断と治療社 ・ 疾患診療ガイドライン 		
参考文献	<p>・ Lynn S. Bickey (著), 福井次矢・井部俊子 他 監修 (2015) . ペイツ診察法 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>・ Steven McGee (著), 徳田安春・平島 修・和足孝之 監修 (2019) . マクギーのフィジカル診断学, 原書 第4版, 診断と治療社</p>		
評価方法	<p>実習目標の到達度による評価を行う (実習記録30%、ケースレポート20%、参加観察評価50%/出席日数も含む)</p>		
その他	<p>本科目は原則全日数出席することとする。 【担当教員からのメッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、NP 資格試験受験に必要な科目です。 ・ 本科目は、特定行為研修における実習に含まれます。 ・ 本科目は、プライマリ・ケア看護学実習の先修科目です。 ・ 臨床推論(1 時間)、フィジカルアセスメント(3 時間)、医療安全学・特定行為実践(12 時間)が含まれます。 <p>【単位認定】：本科目は特定行為研修も含まため、単位認定には実習評価の60%以上の得点に加え、特定行為研修における所定の区分を全て修得することとする。</p> <p>【担当教員からのメッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の知識・技術を再確認(身体診察の流れ等)し、実習に臨んでください。 ・ 本科目は、NP 資格試験受験に必要な科目です。 ・ 本科目は、特定行為研修における実習も含まれています。 		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	NP 活動見学実習	学期	春学期
担当教員	○ 講師 横山淳美 (実習先指導医、診療看護師(NP)の詳細は別紙参照)	選択/必修	必修
科目コード	I7070150	授業形態	1 (40 時間)
実習の概要	<p>本科目は、プライマリ・ケア領域の診療看護師(NP)の診療活動に同行し、診療の実際を体験することで、地域医療のニーズや診療看護師(NP)の役割を理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療看護師(NP)の実践を見学することで、看護学に基づいた実践を説明することができ、 2. 診療看護師(NP)の実践を見学することで、多職種協働実践を説明することができる。 3. 診療看護師(NP)の実践を見学することで、施設における医療安全の管理体制を理解し、構築方法を説明することができる。 4. 地域医療における診療看護師(NP)の役割を説明することができる。 5. 診療看護師(NP)としての能力を習得していく今後の自己の課題を明確にすることができる。 		
到達目標とDPとの関連	<p>対応 DP DP1 DP3 DP3 DP4 DP4</p>		
実習の計画	<p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療看護師(NP)の実践を見学し、看護学に基づいた実践を理解する。 ・ チーム医療及び多職種協働のための姿勢とコミュニケーション方法を学び、自己の今後の実践のあり方について理解する。 ・ 診療看護師(NP)活動における医療安全の管理体制を理解する。 ・ 患者を受け持ち、1 事例のケースレポートを作成する。 ・ 実習の学びから得た診療看護師(NP)の役割について考察し、実習報告会で報告する。 <p>【実習施設】：公立邑智病院 内科(総合診療科)、国立病院機構浜田医療センター</p> <p>【実習期間】：実習日程は概ね1 週間程度とする。 ※ 詳細は実習要項参照</p>		
実習のために必要な自己学習(事前・事後学習)	<p>実習内容に関する課題には、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の知識・技術を再確認し、実習に臨むこと。 ・ 実習後は当日の気づきを記録し、症例報告会の発表に向けて内容を整理すること。 		
テキスト	<p>講義で使用したテキスト</p>		
参考文献	<p>・ Lynn S. Bickey (著), 福井次矢・井部俊子 他 監修 (2015) . ペイツ診察法 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>・ Steven McGee (著), 徳田安春・平島 修・和足孝之 監修 (2019) . マクギーのフィジカル診断学, 原書 第4版, 診断と治療社</p>		
評価方法	<p>実習目標の到達度による評価を行う (実習記録30%、プレゼンテーション20%、参加観察評価50%)</p>		
その他	<p>本科目は原則全日数出席することとする。 【担当教員からのメッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、NP 資格試験受験に必要な科目です。 ・ 本科目は、特定行為研修における実習に含まれます。 ・ 本科目は、プライマリ・ケア看護学実習の先修科目です。 ・ 臨床推論(1 時間)、フィジカルアセスメント(3 時間)、医療安全学・特定行為実践(12 時間)が含まれます。 		

NP活動見学表習、プライマリ・ケア看護学実習 実習施設における指導者一覧

NP活動見学表習、プライマリ・ケア看護学実習 実習施設における指導者一覧	実習施設	実習施設指導者名	特定行為区分	特定行為名(共通科目名)
NP活動見学表習	公立邑智病院 雲南市立病院 浜田医療センター	日高美晴(公立邑智病院) 梶神卓弥(公立邑智病院) 大田真穂子(公立邑智病院) 大谷順(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	共通科目	臨床推論
		日高美晴(公立邑智病院) 梶神卓弥(公立邑智病院) 大田真穂子(公立邑智病院) 大谷順(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	共通科目	フィジカルアセスメント
NP活動見学表習	公立邑智病院 雲南市立病院 社会医療法人仁寿会 加藤病院 公立邑智病院	日高美晴(公立邑智病院) 梶神卓弥(公立邑智病院) 大田真穂子(公立邑智病院) 大谷順(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	呼吸器(長期間呼吸療法に係るもの)関連	医療安全学/特定行為実践
		日高美晴(公立邑智病院) 梶神卓弥(公立邑智病院) 大田真穂子(公立邑智病院) 大谷順(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	呼吸器(長期間呼吸療法に係るもの)関連	気管カニューレの交換
プライマリケア看護学実習	雲南市立病院 社会医療法人仁寿会 加藤病院 公立邑智病院 肥野クリニック	大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうカテーテルの交換
		大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	ろう孔管理関連	膀胱ろうカテーテルの交換
プライマリケア看護学実習	雲南市立病院 公立邑智病院	大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	栄養に係るケア・ケア管理(未精留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	膀胱ろうカテーテルの交換
		大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	栄養に係るケア・ケア管理(未精留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	未精留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入
プライマリケア看護学実習	雲南市立病院 社会医療法人仁寿会 加藤病院 公立邑智病院 出雲市総合医療センター	大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	創傷管理関連	褥瘡 又は慢性創傷の治療における血圧の測定・観察の指法
		大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	創傷管理関連	

※令和8年3月1日現在(人事異動等により、指導者が変更になることがあります)

NP活動見学表習、プライマリ・ケア看護学実習 実習施設における指導者一覧

NP活動見学表習、プライマリ・ケア看護学実習 実習施設における指導者一覧	実習施設	実習施設指導者名	特定行為区分	特定行為名(共通科目名)
NP活動見学表習	雲南市立病院 社会医療法人仁寿会 加藤病院 公立邑智病院 出雲市総合医療センター	大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	特低点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
		大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	脱水症状に対する輸液による補正
NP活動見学表習	雲南市立病院 社会医療法人仁寿会 加藤病院 公立邑智病院 浜田医療センター	大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	感染症に係る薬剤投与関連	感染症がある者に対する薬剤の臨時の投与
		大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	感染症に係る薬剤投与関連	
NP活動見学表習	雲南市立病院 社会医療法人仁寿会 加藤病院 公立邑智病院	大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整
		大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	
NP活動見学表習	雲南市立病院 社会医療法人仁寿会 加藤病院 公立邑智病院	大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	精神疾患に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時の投与
		大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	精神疾患に係る薬剤投与関連	抗精神薬の臨時の投与
NP活動見学表習	雲南市立病院 社会医療法人仁寿会 加藤病院 公立邑智病院	大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	小児科に係る薬剤投与関連	抗不安薬の臨時の投与
		大田真穂子(雲南市立病院) 百留亮治(雲南市立病院) 象谷ひとみ(雲南市立病院) 木村千尋(雲南市立病院) 本田香(雲南市立病院) 西倉希(雲南市立病院) 菅原正(雲南市立病院) 明石晋太郎(浜田医療センター)	小児科に係る薬剤投与関連	

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	プライマリ・ケア看護学探求セミナー	学期	秋学期
担当教員	○ 講師 西本 亜希子、講師 横山 淳美	選択/必修	必修
科目コード	I7070152	授業形態	演習
単位数	1		
授業の概要	プライマリ・ケア看護学実習において診療を担当した症例を振り返り、診療看護師(NP)に求められる7つの能力を意識して、症例におけるエビデンスを示したレポートにまとめ、診療看護師(NP)の役割について理解を深める。		
到達目標とDPとの関連	1. 臨床実践看護領域において研究疑問に関連する国内外の先行研究を文献検討することができる。(DP4) 2. 実習時の担当症例を振り返り、エビデンスを踏まえて分析し、診療看護師(NP)の役割について理解を深めることができる。(DP1, 2, 3) 3. 実習での経験や振り返りを通し、診療看護師(NP)としての自己の課題を明確化できる。(DP4)		
授業の内容	1. 臨床実践看護領域における課題をテーマとした英語論文抄読を行う。 2. プライマリ・ケア看護学実習において診療を担当した症例の振り返りやエビデンスを踏まえて分析した結果から、診療看護師(NP)の役割について考察する。 3. 担当症例の振り返りおよび発表時の討論から、実践で活用できる自己の課題を明らかにする。		
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	・ 1回あたり、100分以上の事前・事後学習を行うこと。 授業時間外学習(予習・復習)の助言 ・ 英語論文抄読時には、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめる。 ・ 診療看護師(NP)やNurse Practitioner に関する国内外の学術文献の精読ならびに学会・セミナー等への参加を通じて、最新のエビデンスや新たな知見を獲得する。		
テキスト	適宜、文献や図書を紹介する。		
参考図書・文献			
評価方法	・ [プレゼンテーション] 70% (学習課題に沿ったプレゼンテーション) ・ [レポート・学習成果物] 15% ・ [受講態度] 15% (授業への取り組み姿勢、ディスカッションへの貢献度)		
その他	学生へのメッセージ ・ 本科目は、原則対面授業です。 ・ 各授業内にディスカッションの時間を持つため、自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・ 各自の授業に関連する資料を活用し、積極的に授業に臨んでください。		

科目分類	専門科目	対象学年	1・2
授業科目	課題研究	学期	通年
担当教員	○ 主指導教員、修士課程専任教員	選択/必修	必修
科目コード	I7070119	授業形態	演習
単位数	4		
授業の概要	専門領域の現場で起きている現象を科学的根拠に基づいて分析し、論理的に探究する能力を養う。実践に即したテーマについて研究を行い課題研究にまとめ、論文作成、発表会を通じて成果を論文にまとめる力、プレゼンテーション力を養う。一連の研究過程を通して看護学・助産学の発展や深化に寄与する研究能力を育成する。		
到達目標とDPとの関連	1) 「基礎科目」「専門科目」の学修を基盤に研究課題を特定し、研究計画書作成、研究倫理審査承認後研究を行うことができる。(助産DP4、診療看護師DP4) 2) データ収集・分析し、結論を導き出すプロセスを理解し、実践できる。(助産DP4、診療看護師DP4) 3) 中間発表会において研究経過における成果や内容について発表し、問題点、課題解決の方法について検討し、課題研究論文にまとめることができる。(助産DP4、診療看護師DP4) 4) 複数の指導教員のもと、論理的思考を習得し、多面的な視点から研究する姿勢を身につけることができる。(助産DP1、2、3、4、診療看護師DP1、2、3、4)		
回数	回数	内容	
1～14回	学生により進度は異なるが目安として以下のように取り組む。 1. フォーワード開拓：専門領域の現場の現象から研究課題を特定し、課題解決のための研究計画を立案し、実施体制を整える。文献レビューを通して研究課題を絞り込み、その背景や研究課題を明らかにする。 2. 研究計画の実施：研究倫理審査委員会の承認後研究計画に基づいてデータ収集を行う。		
15～28回	3. データ分析の実施：指導教員の指導を継続的に受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高める。 4. 分析結果の考察・検討：分析結果を踏まえて考察し、計画発表会の準備をする。計画発表会では研究目的・方法・データ収集・分析結果についてディスカッションを行い、助言指導を受けながら、課題研究論文の作成につなげる。 5. 研究論文の作成：計画発表会での質疑、指摘等を踏まえながら、一連の研究過程の成果をまとめて課題研究論文を作成する。 6. 研究論文の発表：公開発表会で成果を発表する。 7. 研究論文の修正・完成：発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。		
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	事前：各回の指導内容に応じて、文献検索・文献レビュー、研究計画の修正、倫理申請準備、データ収集・分析の予習等を行い、次回指導で確認すべき点を整理しておくこと。 事後：指導に基づき、必要文献の追加や見直しを行うこと。		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜文献・図書を紹介する		
評価方法	[成果物(研究計画書・論文)] 70% [プレゼンテーション] 20%		

	<p>[プレゼンテーションに対する質疑応答・修正] 10%</p> <p>修士論文(課題研究論文)の可否は審査基準に沿って評価する。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 授業実施方法：原則、対面形式で行う(ただし、状況に応じて遠隔授業)。 • 本科目は、各学生の主研究指導教員と副研究指導教員が担当する。

博 士 後 期 課 程

博士後期課程

科目区分		開講年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
基盤科目	看護研究特論Ⅰ	1春	2		教授	大塚 美樹
					非常勤講師	瀬戸 和希
	看護研究特論Ⅱ	1春	2		非常勤講師	田中 美恵子
					非常勤講師	石橋 照子
	看護教育学研究	2春	2		教授	岡安 誠子
					教授	川瀬 淑子
					非常勤講師	舟島 なをみ
	地元創成看護学特論Ⅱ	1春		2	非常勤講師	吾郷 美奈恵
					非常勤講師	中本 稔
					非常勤講師	片岡 大輔
非常勤講師					加藤 節司	
保健医療福祉政策論Ⅱ	2春		2	非常勤講師	宮本 恭子	
健康栄養特論Ⅱ	2春		2	非常勤講師	籠橋 有紀子	
				非常勤講師	原田 永勝	
				非常勤講師	直良 博之	
小計(6科目)		—	6	6	—	—
専門科目	看護教育学特論Ⅲ	1通		2	教授	岡安 誠子
					教授	川瀬 淑子
	精神看護学特論Ⅲ	1通		2	教授	大森 眞澄
					非常勤講師	石橋 照子
	成人・老年看護学特論Ⅲ	1通		2	教授	大塚 美樹
					准教授	佐藤 美紀子
	地域看護学特論Ⅲ	1通		2	教授	小田 美紀子
教授					山口 扶弥	
母性・小児看護学特論Ⅲ	1通		2	教授	井上 千晶	
				准教授	中谷 陽子	
小計(5科目)		—	0		—	—
科 研 目 究	後期特別研究	1・2・3通	6		主副指導教員	
合計(11科目)		—	12	16	—	—

修了要件及び履修方法

- ・本課程研究科に3年以上在学すること。
- ・指導教員の指導下に博士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。
- ・履修方法
 - ①基盤科目から5科目10単位以上(必修科目3科目6単位を含む)
 - ②専門科目から1科目2単位以上
 - ③研究科目から1科目6単位
- 合計18単位以上を修得すること。

授業科目の概要（看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	看護研究特論Ⅰ	健康レベルや医療費適正化を目指したビッグデータの利活用、看護ケアの評価について探求することができるよう、量的研究方法について学び、研究プロセス、多様な分析手法を理解し、実際の研究活動や論文作成に応用できる能力を培う。また、研究成果を産出する過程において必要となる倫理的知識・技術・態度を理解する。	
	看護研究特論Ⅱ	看護現象における諸課題を解釈的スタンスから探究することができるよう、質的研究法について学び、研究プロセス、主要方法論や重要概念を理解し、実際の研究活動や論文作成に応用できる能力を培う。また、研究成果を産出する過程において必要となる倫理的知識・技術・態度を理解する。	
	看護教育学研究	我が国の看護教育の歴史や諸外国の看護教育の現状を概観し、看護学教育の課題や将来について理解を深める。 また、看護教育学の教育方法として、参画型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法について探求する。 さらに、質の高い看護の提供を実現に向けて展開される看護職者・看護学生の生涯学習支援のための教育活動や研究活動を探究する方法として、先行研究を検討することにより看護学教育研究に必要な方法論を理解する。 そして、看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度を検討する。	
	地元創成看護学特論Ⅱ	島根県や県内基礎自治体の健康づくり施策を理解し、高齢多死社会や地方における中山間地域問題、農山村における産業の自立、新たなコミュニティのあり方など、社会科学、行政などの視点から地元創成を実現する看護について探求する。また、「地元」住民との連携強化や広域・政策担当者との連携強化について検討し、健康危機下における地元創成看護について考察する。	
	保健医療福祉政策論Ⅱ	保健医療福祉行政の全体像を把握するとともに、法令や制度の本質的な意味づけを理解し、地域づくりを推進するしくみと機能について探求する。また、医療の提供体制や保健医療福祉の歴史的背景や現状と課題について学び、国際比較や島根県の状況を通して考察する。その上で、各専門職の多職種連携や資格制度、地域包括ケアのあり方について検討する。	
	健康栄養特論Ⅱ	基礎栄養学と食品機能学の観点から学び、健康寿命の更なる延伸に向けた栄養や食品について探求する。基礎栄養学では、デオキシリボ核酸 (Deoxyribonucleic acid (DNA)) を増幅するための核酸検出法すなわちポリメラーゼ連鎖反応 (Polymerase chain reaction (PCR)) の理論と実際について理解する。食品機能学では、食品の機能性やその評価法や医療・介護の現場で使用される製品について学び、咀嚼や嚥下機能に合わせた望ましいテクスチャーとなるようにデザインされた製品等について検討する。	
専門科目	母性・小児看護学特論Ⅲ	母性看護学ならびに小児看護学で用いられる基本となる概念や理論を通して対象を理解し看護専門職として多様な視点で母性看護ならびに小児看護を展望する。胎児期から老年期にわたるライフサイクル全般の女性と発達段階にある子どもの健康に関して関心のある領域の学術的な国内外の研究論文から健康課題を多角的に分析し、母性看護学ならびに小児看護学の看護実践や看護研究に必要な科学的思考を身につけ、母性看護ならびに小児看護の質の向上に寄与するための看護実践方法を探究する。	
	精神看護学特論Ⅲ	精神看護学に関連する研究を行うために必要な専門性を向上させ、自身の研究課題に関連する研究の背景、目的、進捗状況についての的確に説明できるようになることを目的とする。 精神看護学を中心に、これと密接に関連する精神保健・医療・福祉に関するテーマなどを含めて学術論文を講読し、その内容について相互に討論することによって、講義の理解をより一層深める。学生は自身の研究課題との関連や立ち位置を精査し、研究設計につなげる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	成人・老年看護学特論Ⅲ	成人期または老年期にある患者や家族の体験、倫理的問題、患者の身体的・心理的な特徴を踏まえた看護実践など、看護学に関する国内および国外の広範囲な文献検討を行う。そして、成人期または老年期にある患者と家族の看護実践における課題を理解する。また、看護実践における課題の解決に向けた成人看護学、老年看護学に関連する諸理論や概念、看護実践について多角的に探究する。	
	地域看護学特論Ⅲ	健康問題は国内外問わず、社会のあり方や環境の変化などにより大きく影響を受ける。その内容は複雑多岐にわたり、解決方法は保健・医療分野にとどまらず複合的な視点が求められる。そのような状況において顕在もしくは潜在する健康問題とその要因について、保健統計的手法を基にした関連を特定する方法を学ぶ。また、地域特性を理解した上で、個人・家族、集団（グループ）及び地域を対象とする支援と地域ケアシステムについて、最新のエビデンスを多角的に分析しながら探究する。	
	看護教育学特論Ⅲ	看護基礎教育および継続教育等の看護教育、及び看護の対象者への教育に関するテーマを探求するため、自らの課題に関連する看護学および教育学における諸理論について概観する。それらを通して、諸理論の分析、社会的背景を踏まえた看護教育を取り巻く現状分析、国内外の文献レビューなどを通して自らの関心課題に照らし情報を分析・整理しながら探求を深める。具体的には、自らの課題探求に求められる探求テーマを設定し、文献レビューなどを通じた自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションおよびレポート作成によって探求を進める。	
研究科目	後期特別研究	保健・医療・福祉の今日的課題を踏まえ、看護ケアの質の向上と改革を導くために必要な看護実践及び看護学教育という観点から、実践の根拠となりうる研究成果の産出を試みる。具体的には履修する専門科目の分野において、個々の興味・関心に従い蓄積した学修成果を活用しながら研究課題の焦点化をはかり、研究方法を決定し、研究計画書を作成する。研究計画に基づきデータを収集し、まとめた結果を分析・考察し、新たな知見を提示する。最終的成果として学位論文を作成し、発表、審査を受ける。これらの一連の研究過程を通し、研究者として自律して研究活動を行い、専門的な業務に従事するために必要な研究能力と看護専門職としての研究的態度を修得する。	

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 大塚美樹 非常勤講師 瀬戸和希	選択/必修	必修
科目コード	I7080000	授業形態	講義・演習
授業の概要	量的研究の特徴とプロセス、デザイン、主要なデータ分析方法を理解し、実際の研究活動や論文作成に活用できる能力を培う。	単位数	2
到達目標とDPとの関連	1. 量的研究の特徴とプロセスを理解できる (DP1)。 2. 統計の基本について理解し、量的研究のデザインとさまざまな分析方法について理解できる (DP1)。 3. 文献クリティティクにより量的研究の論文作成方法を探究できる (DP1)。		
回数	内容		
1	量的研究の特徴とプロセス	(大塚)	
2	記述統計とデータの種類の、統計の基本	(大塚)	
3	量的研究デザインとデータ分析1：単変量解析	(大塚)	
4	量的研究デザインとデータ分析2：多変量解析	(大塚)	
5	論文クリティティク：学生プレゼンテーション	(大塚)	
6	論文クリティティク：学生プレゼンテーション	(大塚)	
7	データ分析1：分散分析	(瀬戸)	
8	データ分析2：数量化理論	(瀬戸)	
9	データ分析3：深層学習、生成系AI	(瀬戸)	
10	データ分析実践演習	(瀬戸)	
11	論文クリティティク：学生プレゼンテーション	(大塚)	
12	論文クリティティク：学生プレゼンテーション	(大塚)	
13	論文クリティティク：学生プレゼンテーション	(大塚)	
14	論文クリティティク：学生プレゼンテーション	(大塚)	
授業の内容	プレゼンテーション、ディスカッションを行い、学びの理解を深める。		
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	【事前学修】 論文クリティティクは、論文を選定し、資料を作成する。 【事後学修】 授業内容を復習し、研究のプロセス、デザイン、主要なデータ分析の理解を深める。 指定しない。		
テキスト	・D.F. ポーリット&C.T. ベック、監訳：近藤潤子、看護研究 原理と方法、医学書院 ・バーンス&グローブ、監訳：黒田優子他、看護研究入門、エルゼビアジャパン ・牧本清子他、研究手法別のチェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティティク、日本看護協会出版会 授業の中で、適宜紹介する		
参考文献	課題 (プレゼンテーション：40%、資料30%)、授業での取り組み (質疑応答：30%) で評価する。 質問がある場合は、学内電子メールで連絡をいただければ即時対応いたします。		
その他			

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究特論Ⅱ	学期	春学期
担当教員	○非常勤講師 田中美恵子 非常勤講師 石橋照子	選択/必修	必修
科目コード	I7080001	授業形態	演習・講義
授業の概要	看護現象における諸問題を解釈的スタンスから探究することができるよう、質的研究法について学び、主要な方法論や重要概念を理解し、実際の研究活動や論文作成に応用できる能力を培う。また、研究成果を産出する過程において必要となる倫理的知識・技術・態度を理解する。	単位数	2
到達目標とDPとの関連	1. 質的研究の主要な方法論、重要概念、研究プロセスを理解し、説明できる。 2. 質的研究方法論を、実際の研究活動や論文作成に応用できる。 3. 研究プロセスにおいて必要な倫理的知識・技術・態度を身に付けて倫理的な研究実践ができる。		
回数	内容		
1	第1章 質的研究の特徴と目的		
2	第2章 質的研究の研究プロセス		
3	第3章 質的研究における倫理的諸課題		
4	第5章 面接法		
5	第6章 参加観察法		
6	第10章 グラウンデッド・セオリー・アプローチ；ストラウス-コービンモデルと修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA)		田中
7	M-GTA データ分析演習、方法論的特性の理解①		
8			
9	M-GTA データ分析演習、方法論的特性の理解②		
10			
11	第9章 エスノグラフィー：記述民俗学の特徴		
12	第11章 現象学的研究方法：基礎となる哲学の理解 (現象学・解釈学)		
13	第12章 アクシオンリサーチ		
14	第13章 ナラティブリサーチ		
講義のため必要な自己学修(事前・事後学修)	【事前学修】 田中：テキストの該当章について当日プレゼンできるよう、パワーポイント等を使いまとめてきてください。適宜参考文献を参照してください。 石橋：どなたかにインタビューデータやテキストを提出していただきます。データを事前配布しますので、分析焦点者・分析テーマに沿ってデータを読み、概念を見出し、分析ワークシートに、概念名・定義、ヴァリエーションを記載してきてください。 【事後学修】講義資料をもとに学習内容の復習を行う。		
テキスト	ホロウェイ・ウァーナー、野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門 第2版、医学書院、2006、3,780円 ・ウヴェ・フリック、小田博志監訳：新版質的研究入門、春秋社、2011。 ・N.K. デンジン、Y.S. リンカン編、平山満義監訳：質的研究ハンドブック、第1巻、第2巻、第3巻、北大路書房、2006。 ・操華子、森岡崇約：質的研究の基礎 グラウンデッドセオリー開発の技法と手順、第2版、医学書院、2004。 ・木下康仁著：グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践、弘文堂、2003 ・Riessman, C.K. 大久保功子、宮坂道夫監訳：人間科学のためのナラティブ研究法、クオリアイケア、2014。 ・Spradley, J.P. 田中美恵子・麻原きよみ監訳：参加観察法入門、医学書院、2010。		
参考文献			

評価方法	発表準備資料30%、参加度20%、レポート50%による総合評価とする。
その他	

科目区分	基礎科目	対象学年	2
授業科目	看護教育学研究	学期	春学期
担当教員	非常勤講師 舟島なをみ ○岡安誠子 川瀬淑子	選択/必修	必修
科目コード	I7080002 授業形態 講義・演習	単位数	2

授業の概要	わが国の看護教育の歴史や諸外国の看護教育の現状を概観し、看護教育学の課題や将来についての理解を深める。 また、看護教育学の教育方法として、参加型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法について探求する。 さらに、質の高い看護の提供を実現するために展開される看護職者・看護学生の生涯学習支援のための教育活動や研究活動を探究する方法として先行研究を検討し、看護教育学研究に必要な方法論を理解する。そして、看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度を検討する。		
	到達目標とDPとの関連	1. わが国の看護教育の歴史や諸外国の看護教育の現状について理解し、課題を考察できる。DP2 2. 看護教育学の教育方法として、自己教育力の育成方法を理解できる。DP2 3. 看護教育学研究に必要な方法論を理解できる。DP2 4. 看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度について説明できる。DP2	
授業計画	回数	内容	担当
	1	文献クリティーク・ディスカッション：国内外の看護教育学研究の現状や課題①	岡安・川瀬
	2		
	3	文献クリティーク・ディスカッション：国内外の看護教育学研究の現状や課題②	岡安・川瀬
	4		
	5	文献クリティーク・ディスカッション：国内外の看護教育学研究の概観	岡安・川瀬
	6	看護教育学の定義・理念と看護教育学研究 [集中]	舟島
	7	看護教育学研究の動向と看護教育学研究の課題、研究者による貢献 [集中]	舟島
	8	研究における倫理的問題と看護学教員の倫理的行動に関する研究、研究における倫理的配慮 [集中]	舟島
	9	看護教育学研究の体系 [集中]	舟島
	10	看護教育学における先行研究分析一方法論と研究の実際 [集中]	舟島
	11	看護教育学における先行研究分析一方法論と研究の実際 [集中]	舟島
	12	看護教育学における理論開発に必要な研究方法論 [集中]	舟島
	13	看護における理論検証一方法論と研究の実際 [集中]	舟島
14	まとめ	舟島	
講義のために必要な自己学習(事前・事後学修)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の教育活動など踏まえ、文献クリティークの文献を国内外から選定してください。 ・舟島先生の集中講義は、事前にテキストに目を通してください。 ・授業後は、新たに学んだ用語などを調べ、研究者としての確実な知識としてください。 		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・舟島なをみ:看護教育学研究 発見・創造・証明の過程 第3版、医学書院 ・杉本みどり, 舟島なをみ:看護教育学 第8版、医学書院、2024. ・舟島なをみ監修:看護実践・教育のための測定用具ファイルー開発過程から活用の実際までー、第4版、医学書院、2024. ・舟島なをみ監修:看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて 第2版、医学書院、2020. 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> レポート70%、授業への参加30% 		
評価方法	終了後レポートの課題「看護教育学研究を通して学んだこと」 一連の学習を踏まえ、看護教育学の学習としての位置づけ、および意義、特徴とともに看護教育学を学ぶ上で今後取り組んでみたい研究について論述する。		
その他	・原則、授業は「遠隔授業」とする。		

科目区分	基礎科目	対象学年	1
授業科目	地元創成看護学特論Ⅱ	学期	春学期
担当教員	非常勤講師 ○吾郷奈奈恵、中本 稔、片岡大輔、加藤節司	選択/必修	選択
科目コード	I7080006	授業形態	演習
		単位数	2

評価方法	以下の内容から総合的に評価する。 【取組】み150%（毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッションの姿勢や内容） 【レポート】150%（地元創成を実現する看護について）
その他	9、11～14回の5コマは、学生が個々に設定したテーマに基づきプレゼンし、ディスカッションします。

授業の概要	島根県や県内基礎自治体の健康づくり施策を理解し、高齢多死社会や地方における中山間地域問題、農村における産業の自立、新たなコミュニティのあり方など、社会科学、行政などの視点から地元創成を実現する看護について探求する。また、「地元」住民との連携強化や広域・政策担当者との連携強化について検討し、健康危機下における地元創成看護について考察する。																																													
到達目標とDPとの関連	<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 島根県や県内基礎自治体の健康づくり施策を理解し、地方都市や中山間地域・離島における地域ケアシステムの実現と課題について検討できる。 2. 「地元」住民との連携強化や広域・政策担当者との連携強化について検討し、健康危機下における地元創成看護について提案できる。 <p>社会科学、行政などの視点から地元創成を実現する看護について探求する。</p>																																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【ディスカッション】 地元創成看護とは</td> <td>吾郷</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【ディスカッション】 島根の健康指標と政策・施策・対策（事業）</td> <td>吾郷</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【講義】 島根県地域医療構想と各種計画</td> <td>片岡</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【講義】 市町村における地域包括ケアシステム</td> <td>片岡</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>【講義】 島根の地域づくり・健康づくり</td> <td>中本</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>【講義】 健康危機管理と公衆衛生</td> <td>中本</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>【講義】 中山間地域における地域医療</td> <td>加藤</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>【講義】 中山間地域における社会的包摂と持続可能性</td> <td>加藤</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>【ディスカッション】 テーマとフィールド、現状と必要性（課題）、期待する効果</td> <td>吾郷</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>【講義】 “健康づくり”と看護の役割</td> <td>吾郷</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>【ディスカッション】 地元創成を実現する看護：住民との連携強化</td> <td>吾郷</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td>吾郷</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>【ディスカッション】 地元創成を実現する看護：広域・政策担当者との連携強化</td> <td>吾郷</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td>吾郷</td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	担当	1	【ディスカッション】 地元創成看護とは	吾郷	2	【ディスカッション】 島根の健康指標と政策・施策・対策（事業）	吾郷	3	【講義】 島根県地域医療構想と各種計画	片岡	4	【講義】 市町村における地域包括ケアシステム	片岡	5	【講義】 島根の地域づくり・健康づくり	中本	6	【講義】 健康危機管理と公衆衛生	中本	7	【講義】 中山間地域における地域医療	加藤	8	【講義】 中山間地域における社会的包摂と持続可能性	加藤	9	【ディスカッション】 テーマとフィールド、現状と必要性（課題）、期待する効果	吾郷	10	【講義】 “健康づくり”と看護の役割	吾郷	11	【ディスカッション】 地元創成を実現する看護：住民との連携強化	吾郷	12		吾郷	13	【ディスカッション】 地元創成を実現する看護：広域・政策担当者との連携強化	吾郷	14		吾郷
回数	内容	担当																																												
1	【ディスカッション】 地元創成看護とは	吾郷																																												
2	【ディスカッション】 島根の健康指標と政策・施策・対策（事業）	吾郷																																												
3	【講義】 島根県地域医療構想と各種計画	片岡																																												
4	【講義】 市町村における地域包括ケアシステム	片岡																																												
5	【講義】 島根の地域づくり・健康づくり	中本																																												
6	【講義】 健康危機管理と公衆衛生	中本																																												
7	【講義】 中山間地域における地域医療	加藤																																												
8	【講義】 中山間地域における社会的包摂と持続可能性	加藤																																												
9	【ディスカッション】 テーマとフィールド、現状と必要性（課題）、期待する効果	吾郷																																												
10	【講義】 “健康づくり”と看護の役割	吾郷																																												
11	【ディスカッション】 地元創成を実現する看護：住民との連携強化	吾郷																																												
12		吾郷																																												
13	【ディスカッション】 地元創成を実現する看護：広域・政策担当者との連携強化	吾郷																																												
14		吾郷																																												
講義のために必要な自己学習（事前・事後）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容について関心を持ち、自分の考えを持って質問できるように準備して参加すること。 ・各自のテーマに関するデータや文献などを十分に検討すること。 ・他の学生のテーマに関するデータや文献などを確認し、ディスカッションできるように準備して受講すること。 																																													
テキスト	指定しない。																																													
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・提言「地元創成」の実現に向けた看護学と社会との協働の推進、日本学術会議 https://www.sci.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t292-8.pdf ・地元創成看護学を知る、医学会新聞 https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archi/ve/y2022/3491_01 ・島根創成計画 https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/seisaku/koho/photo/227html/2.html ・島根県医療費適正化計画（R6～R11） https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryo/seido/ityouniteki/seika/iryouniteki/seikakeikaku/iryouniteki/seikakeikaku.html ・島根県保険者協議会医療費分析事業報告書 https://www.shimane-kokuh.or.jp/files/original/2025090816023643946371756.pdf ・創造的地域社会：中国山地に学ぶ超高齢社会の自立（松永桂子，新評論，2012） <p>その他、必要に応じて紹介する。</p>																																													

科目区分	基礎科目	対象学年	2
授業科目	保健医療福祉政策論Ⅱ	学期	春学期
担当教員	非常勤講師 宮本 恭子	選択/必修	選択
科目コード	I7080004	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の概要	保健福祉・医療の提供体制のあり方について理解し、保健福祉・医療の制度・政策の現状と課題について歴史的背景や国際比較、島根県の状況を通して考察する。その上で、縮小社会における社会保障制度のあり方を展望する。
到達目標とDPとの関連	1. 日本および諸外国における保健医療福祉政策の基本的な制度・仕組みを理解する。 2. 保健医療福祉分野における現代的課題（少子高齢化、医療費問題、地域包括ケアなど）を説明できる。 3. 関連する法律・制度・政策の背景や目的を理解し、整理して説明できる。 4. 統計資料や政策文書を読み取り、根拠に基づいて考察できる。 5. 保健医療福祉政策について、自分の意見を論理的に表現できる。 6. 看護職として、政策と実践の関係を踏まえた判断力を身につける。
回数	内容
1	日本経済と保健医療・介護・福祉政策の展開
2	国民経済と医療・介護制度
3	サービス産業としての医療・介護
4	社会保障と地域政策
5	少子高齢社会と地方創生
6	少子高齢社会と子育て支援
7	保健医療・介護政策の国際比較(ドイツ①)
8	保健医療・介護政策の国際比較(ドイツ②)
9	保健医療・介護政策の国際比較(オランダ①)
10	保健医療・介護政策の国際比較(オランダ②)
11	医療福祉介護分野における多職種連携
12	医療福祉介護分野における多職種連携(演習)
13	少子高齢社会における福祉政策-地域共生社会の実現
14	まとめ；レビュー論文としてまとめる
講義のために必要な自己学習(事前・事後)	事前学習(自己学習30分：基礎知識の理解、現代社会の課題を理解する) 事後学習(自己学習30分：資料の整理と確認)
テキスト	プリント及び資料を適宜配布する
参考文献	随時提示するが、基本的には自ら文献探索し熟読しておく
評価方法	学習態度30点、レポート70点
その他	授業形式(対面、オンライン)は受講生と相談の上検討します。

科目区分	基礎科目	対象学年	2
授業科目	健康栄養特論Ⅱ	学期	春学期
担当教員	○教授 籠橋有紀子 教授 原田永勝 教授 直良博之	選択/必修	選択
科目コード	I7080005	授業形態	講義・演習
		単位数	2

授業の概要	健康寿命の更なる延伸に向けた栄養や食品に関する演習を行う。 解剖組織学演習では、形態学的アプローチや手法、電子顕微鏡の原理や実習を学ぶ。また、基礎栄養学演習では、デオキシリボ核酸 (Deoxyribonucleic acid (DNA)) を増幅するための核酸抽出法やPCR法は分子生物学の研究のみならず、医学・生理学・分子生物学などの研究にも広く応用されており、コロナウイルス検出など、医療における感染症分野での病原体診断に大きく貢献している。食品機能学演習では、食品の機能性やその評価法について学ぶ。また、食品の機能の一つである物理的特性 (テクスチャー) を活用した医療・介護の現場で使用される製品について紹介し、咀嚼や嚥下機能に合わせた望ましいテクスチャーとなるようにデザインされた製品等について解説する。	
到達目標とDPとの関連	1) 人体の構造を細胞・組織レベルで学び、病変や加齢による変化について理解することができる (DP3) 2) ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) の理論を学び、感染症診断や分子遺伝学における PCR 法の役割を理解し、栄養学研究や公衆衛生への応用について考察できる。 (DP3、DP5) 3) 食品の持つ生体調節機能や嚥下調整食・介護食等の物理特性を学び、ライフステージや身体機能に合わせた最適な食品設計について理解することができる。 (DP3、DP5) 4) 科学的エビデンスに基づく栄養学的アプローチを通じて健康状態や身体機能に応じた最適な栄養管理および食品の提供について理解することができる。 (DP5)	
回数	内容	担当
1	形態学的アプローチ	直良
2	形態学の手法	直良
3	電子顕微鏡の原理と実際	直良
4	PCR法の原理と実践；食品に付着した微生物DNAの増幅	原田
5	PCR法の原理と実践；DNAの電気泳動－原理と実際－	原田
6	PCR法の原理と実践；DNAの検出法	原田
7	遺伝子変異と一塩基多型 (後約遺伝子仮説)	原田
8	PCR法の応用；PCR法によるヒトDNAの増幅	原田
9	PCR法の応用；PCR法を利用したヒト一塩基多型の検出	原田
10	PCR法の応用；ヒト遺伝子型の判定と栄養管理への応用	原田
11	食品の機能の概要 (一次機能・二次機能・三次機能)	籠橋
12	食品の機能性評価；官能評価の方法論	籠橋
13	食品の機能性評価；理化学分析の方法論	籠橋
14	食品の物理的特性 (テクスチャー) の理論と実際 (活用とデザイン)	籠橋
講義のために必要な自己学習(事前・事後)	事前学習：演習では関連資料を予習すること。 事後学習：学んだ内容を復習すること。理解を深めるために関連する事例について調べ学習を行うことが望ましい。	
テキスト	特定のテキストは指定しない。適宜プリントを配布する。	
参考文献	必要に応じて紹介する。	
評価方法	授業への積極性や討論の論点を把握と対応力で総合的に評価する。	
その他	・集中講義として実施する。	

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論III	学期	通年
担当教員	○教授 岡安誠子 教授 川瀬淑子	選択/必修	選択
科目コード	I7080106	授業形態	演習

授業の概要	自らの探究課題に関わる看護学および教育学の諸理論や概念について広く理解するとともに、文献検討を経て更に理解を深め、その過程で明確にした課題を記述する。	
到達目標とDPとの関連	1. 自らの探究課題について、自らの動機や価値について明確に説明できる。DP1・DP2 2. 探究課題の背景について実践や予備調査などから理解を深め、看護学への貢献、意義について説明できる。DP1・DP2 3. 探究課題に関する諸理論や概念について、類似理論や概念との違いについて説明できる。DP1・DP2 4. 探究課題について、諸理論や概念の理解、文献検討を経て明確化し論理的に記述できる。DP1・DP2 5. 探究課題に基づき適切な研究デザインを選択し、研究の質を高めるための方法について考察し記述できる。DP1・DP2	
回数	内容	担当
1	研究への動機および自己の価値	岡安・川瀬
2	探究課題に求められる前提の明確化	岡安・川瀬
3	看護学および教育学の場に関する現状や動向	岡安・川瀬
4	看護学および教育学の諸理論や概念の分析①	岡安・川瀬
5	看護学および教育学の諸理論や概念の分析②	岡安・川瀬
6	サマリー① 諸理論・概念と現状分析による探究課題と意義	岡安・川瀬
7	文献クリティックとディスカッション①	岡安・川瀬
8	文献クリティックとディスカッション②	岡安・川瀬
9	文献クリティックとディスカッション③	岡安・川瀬
10	文献クリティックとディスカッション④	岡安・川瀬
11	サマリー② 研究方法論と先行研究を踏まえた探究方針	岡安・川瀬
12	文献クリティックとディスカッション⑤方法論	岡安・川瀬
13	文献クリティックとディスカッション⑥方法論	岡安・川瀬
14	研究課題と研究枠組みの明確化	岡安・川瀬
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	・教員の助言等を基に課題を自ら設定し、帰納的・演繹的推論を活用し、探究の目的を意識して必要性を加味し、知識を拡張・深化させるよう心がけてください。	
テキスト	テキストは使用しない	
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する	
評価方法	授業参加度 10%、プレゼンテーション 20%、成果物(研究計画書案) 70%で評価する。 プレゼンテーションとディスカッションを通して、学習を進める。 ・ 探究課題に基づき、文献を精読し、資料を作成しプレゼンテーションを行う。 ・ サマリリーの回は、それまで得た知見を統合し、研究課題に即した分析を加え発表する。 ・ ディスカッションやフィードバックにおける質問や指摘について、適宜整理し検討する。 研究の進捗や課題等によって、スケジュールは調整する。	
その他		

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論III	学期	通年
担当教員	○教授 大森眞澄 非常勤講師 石橋照子	選択/必修	選択
科目コード	I7080102	授業形態	演習

授業の概要	学生は、精神看護学に関連する研究を行うために必要な専門性を向上させ、自身の研究課題に関連する研究の背景、目的、進捗状況についての確に説明できるようにすることを目的とする。 精神看護学を中心に、これと密接に関連する精神保健・医療・福祉に関するテーマなどを含めて学術論文を精読し、その内容について相互に討論することによって、講義の理解をより一層深める。学生は自身の研究課題との関連や立ち位置を精査し、研究設計につなげる。	
到達目標とDPとの関連	1. 看護実践上の研究課題を把握し、述べることができる。DP-④ 2. 自身の研究課題に関連した論文を検討し、発表できるDP-④ 3. 研究課題と関連分野の概念枠組みを説明することができるDP-④	
回数	内容	担当
1	精神保健福祉の制度と体制の変遷	大森
2	精神保健福祉および精神医療における最近のトピックス	大森
3	海外の精神保健福祉および精神医療の現状	大森
4	国内の精神保健福祉および精神医療の現状	大森
5	精神医療に関連する法律と今後の課題	大森
6	精神障がい者の人権擁護、倫理	大森
7	精神保健福祉および精神医療の課題分析	大森
8	領域ゼミ 授業テーマの中から学生が自身の研究課題に関連したテーマを選び10本程度の論文をクリティックし、プレゼンをする。参加者で質疑を行い、研究を行うために必要な専門性を向上させる。	大森
9	ストレス、危機に関する理論	石橋
10	ストレングスモデル	石橋
11	リカバリーという考え方	石橋
12	セルフケア理論	石橋
13	実践活動について概観	石橋
14	領域ゼミ (精神看護学領域専攻の前・後期課程の学生および教員) 授業テーマの中から学生が自身の研究課題に関連したテーマを選び10本程度の論文をクリティックしプレゼンをする。参加者で質疑を行い、研究を行うために必要な専門性を向上させる。	大森
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	精神障害者の支援に必要な理論を用いて、事例を展開するための資料を作成する(6時間) 自身の研究課題に関連した原著論文10編のクリティックをする(6時間)	
テキスト	特に指定しない	
参考文献	適宜指示する	
評価方法	プレゼンテーション25%、参加度25%、レポート50%	
その他	講義、学生によるプレゼンテーション、ディスカッション、合同検討会への参加を通して学びます。ディスカッションすることによって、論理的な考察と各観的な視点を養ってください。その上で精神看護学特論の学修内容と自身の研究課題との関連や立ち位置を精査し、研究設計につなげてください。文献クリティックの内容を本学の研究紀要に投稿し、査読を受けるプロセスを経験しましょう。	

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	成人・老年看護学特論Ⅲ	学期	通年
担当教員	○教授 大谷美樹 准教授 佐藤美紀子	選択/必修	選択
科目コード	17080106	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要	成人期または老年期にある患者と家族に関する国内・外の文献検討を通して、成人期または老年期にある患者と家族の看護実践における課題を理解し、その解決に向けた諸理論や概念、看護実践について多角的に探究する。
到達目標とDPとの関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献検討を通して、成人・老年期にある患者と家族の研究動向を理解できる (DP1)。 2. 成人・老年期にある患者と家族の看護実践における課題を理解できる (DP1)。 3. 成人・老年期にある患者と家族の看護実践における課題解決に向けた諸理論や概念、看護実践を探究できる (DP1)。 4. 自己の研究課題および、その意義を明らかにできる (DP1, 3)。
回数	内容
1	国内における成人・老年期にある患者と家族に関する文献検討 (1)
2	国内における成人・老年期にある患者と家族に関する文献検討 (2)
3	国内における成人・老年期にある患者と家族に関する文献検討 (3)
4	国外における成人・老年期にある患者と家族に関する文献検討 (1)
5	国外における成人・老年期にある患者と家族に関する文献検討 (2)
6	国外における成人・老年期にある患者と家族に関する文献検討 (3)
7	成人・老年期にある患者と家族の看護実践における課題の探求 (1)
8	成人・老年期にある患者と家族の看護実践における課題の探求 (2)
9	成人・老年期にある患者と家族の看護実践における課題の探求 (3)
10	成人・老年期にある患者と家族に関する諸理論や概念、看護実践の探求 (1)
11	成人・老年期にある患者と家族に関する諸理論や概念、看護実践の探求 (2)
12	成人・老年期にある患者と家族に関する諸理論や概念、看護実践の探求 (3)
13	研究課題および意義の明確化 (1)
14	研究課題および意義の明確化 (2)
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>【事前学修】</p> <p>課題に関する先行研究を選定し、資料を作成し、プレゼンテーションの準備をすること。</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業内容を振り返り、自己の研究課題の探究を行うこと。</p>
テキスト	特に指定しない
参考文献	授業の中で、適宜紹介する
評価方法	課題 (プレゼンテーション：40%、資料30%)、授業での取り組み (質疑応答：30%)
その他	質問がある場合は、学内電子メールで連絡をいただければ随時設定します。

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	地域看護学特論Ⅲ	学期	通年
担当教員	○教授 小田美紀子、教授 山口秋弥	選択/必修	選択
科目コード	17080107	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要	顕在もしくは潜在する健康問題とその要因について、統計的手法を基に関連を特定する方法を学び、地域特性を理解した上で、個人・家族、集団 (グループ) 及び地域を対象として支援と地域ケアシステムについて、最新のエビデンスを多角的に分析しながら探究する。	
到達目標とDPとの関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顕在もしくは潜在する健康問題について、統計的手法を基に関連を特定する方法を用いてその要因を追求できる (DP3)。 2. 地域の文化や習慣等を理解し、地域特性を明らかにする必要性や方法を追求するとともに地域ケアシステムについて探究できる (DP3, 4)。 3. 健康問題の解決に向けて、個人及び家族、グループ、地域を対象として、看護の社会的適用について考察できる (DP2)。 	
回数	内容	担当
1	地域看護における健康問題とその要因	小田
2	社会環境の変化に伴う健康問題とその要因	小田
3	乳幼児期における健康問題とその要因	小田
4	学校保健 (学童期・思春期) における健康問題とその要因	小田
5	青年期における健康問題とその要因	小田
6	産業保健 (成人期) における健康問題とその要因	小田
7	高齢期における健康問題とその要因	小田
8	健康に影響を及ぼす要因/課題レポートとプレゼンテーション	山口
9	統計的手法を基に関連を特定する方法とは	山口
10	統計的手法に関する事例/課題レポートとプレゼンテーション	山口
11	地域特性と個人・家族の支援	山口
12	地域特性と集団 (グループ) の支援	山口
13	地域特性と地域ケアシステム	山口
14	我が国における重要な健康問題/課題レポートとプレゼンテーション	山口
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	<p>【事前学修】</p> <p>毎回、内容に関する事前学修と該当する回については課題に関するレポートとプレゼンテーションの準備を行うこと。</p> <p>【事後学修】</p> <p>・授業内容の復習を行い、自己の研究課題の探究を行うこと。</p>	
テキスト	特に指定しない	
参考文献	授業の中で、適宜紹介する	
評価方法	課題レポートとプレゼンテーション (30%)、授業への積極性や討論の論点把握と対応力 (70%) で評価する。	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業日程や方法は、学生が担当教員と事前に調整し、主体的に取り組むこと。 ・講義と討論の演習形式で授業を進め、3つの課題レポートとプレゼンテーションを行う。 <p>この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップ等で理解して授業に臨むこと。</p>	

科目区分	専門科目	対象学年	1
授業科目	母性・小児看護学特論Ⅲ	学期	通年
担当教員	○井上千晶 中谷陽子	選択/必修	選択
科目コード	I7080108	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要	母性看護学ならびに小児看護学で用いられる基本となる概念や理論を通して対象を理解し、看護専門職として多様な視点で国内外の学術的な研究論文から健康課題を多角的に分析し、母性看護学ならびに小児看護学の質の向上に寄与するための看護実践について探究する。
到達目標とDPとの関連	1.国内外の研究から母性看護学ならびに小児看護学の研究の動向を概観できる。DP1、3 2.母性看護学ならびに小児看護学の質の向上に寄与するための学術的知見を踏まえて、関心のある領域の科学的根拠に基づく看護実践における課題を明らかにできる。DP1、3、4、5 3.自己の研究課題および研究に取り組む意義を明らかにし、看護実践を探究できる。
	DP1、4、5
	回数 内容
	1 文献検討(1)：母性看護学・小児看護学領域の関心のある領域に関する文献
	2 文献検討(2)：母性看護学・小児看護学領域の関心のある領域に関する文献
	3 文献検討(3)：母性看護学・小児看護学領域の関心のある領域に関する文献
	4 研究課題(1)：母性看護学・小児看護学に関する研究の動向と健康課題
	5 研究課題(2)：母性看護学・小児看護学に関する研究の動向と健康課題
	6 研究課題(3)：母性看護学・小児看護学に関する研究の動向と健康課題
授業計画	7 研究課題の明確化(検討会：プレゼンテーション)
	8 概念と理論(1)：関心のある領域の概念、理論、モデル
	9 概念と理論(2)：関心のある領域の概念、理論、モデル (プレゼンテーション)
	10 看護実践の探究(1)：関心のある領域に関する研究方法の概観
	11 看護実践の探究(2)：研究課題解決に適合するモデルの分析と評価
	12 看護実践の探究(3)：研究課題解決に適合するモデルの分析と評価
	13 看護実践の探究(4)：研究課題解決に適合するモデルの分析と評価
	14 まとめ(検討会：プレゼンテーション)
講義のために必要な自己学修(事前・事後学修)	ゼミ方式で行うので、各回プレゼンテーション、ディスカッションができるよう事前準備をしてください。事後は自己の研究課題や研究計画に活用できる形で整理しておきましょう。
テキスト	指定なし
参考文献	適宜提示する
評価方法	プレゼンテーション80% (発表50%、質疑・討論30%)、課題レポート20%で評価する。
その他	

科目分類	専門科目	対象学年	1～3
授業科目	後期特別研究	学期	通年
担当教員	○主研究指導教員、副研究指導教員	選択/必修	必修
科目コード	I7080200	授業形態	演習
授業の概要	看護学の発展に寄与する独自の研究課題を設定し、研究計画審査、論文予備審査、論文審査に合格し、公開論文発表会を得て博士論文が作成できる。	単位数	6
到達目標とDPとの関連	1.看護学の実践に寄与する独自の研究課題を設定できる (DP1、3、5)。 2.研究計画審査に合格後、研究計画書に基づき適切にデータ収集できる (DP1、5)。 3.収集したデータを適切に分析して結果にまとめ、考察することができる (DP1、5)。 4.公開論文発表会で研究成果を提示し、明確に説明できる (DP1、5)。		
	回数 内容		
	1年春学期		
	1～14	関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。 国内外の文献収集を行いながら、研究課題及び方法論の明確化を図る。	
	1年秋学期		
	15～	研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を作成する。	
	28	合同検討会で研究計画を発表する。	
	2年春学期		
	29～42	【研究計画書審査】 研究計画書審査を受け、合格する。 【研究倫理審査】 倫理審査委員会で審査を受け、承認を得る。	
授業の内容	2年秋学期		
	43～	研究計画書に基づき、データを収集する。	
	56	データ分析・分析の適切性を評価する。	
	3年春学期		
	57～70	博士論文を作成する。 合同検討会で研究報告を発表する。	
	3年秋学期		
	71～84	【博士論文予備審査】 審査委員会において博士論文の予備審査を受け、合格する。 【博士論文審査】 審査委員会において博士論文の審査を受け、合格する。 【公開論文発表会】 公開論文発表会において口頭発表を行う。	
講義のために必要な自己学修	この科目は、各学生の主研究指導教員と副研究指導教員が研究指導を担当する。 また、学生により進捗は異なり、指導教員に報告・相談しながら主体的に取り組むこと。		

(事前・事後学修)	
テキスト	特に指定しない。
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。
評価方法	以下の達成状況から総合的に評価する。博士論文審査基準に沿って評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成、研究計画審査、研究遂行、論文作成、博士論文予備審査、博士論文審査、公開論文発表会
その他	論文指導はゼミ形式の授業を基本に行う。

IV . 教 員 等 名 簿

教員等名簿
1. 専任教員

コース	教育分野	領域及び職名		氏名
研究者養成コース	基盤看護学	看護教育学領域	教授	岡安 誠子★
			教授	川瀬 淑子★
			准教授	高橋 梢子
			准教授	平井 由佳
	実践看護学	成人・老年看護学領域	教授	大塚 美樹★
			教授	奥山 真由美★
			准教授	佐藤 美紀子★
		母性・小児看護学領域	教授	井上 千晶★
			教授	高橋 恵美子
			准教授	中谷 陽子★
			講師	永井 真寿美
		広域看護学	精神看護学領域	教授
	教授			小田 美紀子★
	地域看護学領域		教授	山口 扶弥★
			准教授	小川 智子★
			講師	祝原 あゆみ
健康データサイエンス	教授		山下 一也★	
	准教授(兼務)		小川 智子★	
高度実践者養成コース	助産学領域	教授	井上 千晶★	
		准教授	中谷 陽子★	
		講師	永井 真寿美	
	診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域	准教授	松本 暁洋★	
		講師	横山 淳美	
		講師	西本 亜希子	

★は博士後期課程の専任教員も兼任

2. 非常勤講師

(所属については、作成時点から変更になる場合があります)

所 属	氏 名
島根県立大学看護栄養学部	籠橋 有紀子
島根県立大学看護栄養学部	澤 幸子
島根県立大学看護栄養学部	谷村 綾子
島根県立大学看護栄養学部	直良 博之
島根県立大学看護栄養学部	橋本 由里
島根県立大学看護栄養学部	原田 永勝
島根県立大学人間文化学部保育教育学科	藤原 映久
元島根県立大学大学院看護学研究科	吾郷 美奈恵
元島根県立大学大学院看護学研究科	石橋 照子
亀田医療大学	田中 美恵子
清泉大学	舟島 なをみ
島根大学医学部	竹下 治男
島根大学医学部	橋本 龍樹
島根大学医学部産科婦人科	金崎 春彦
元島根大学医学部産科婦人科	京 哲
島根大学医学部附属病院薬剤部	石原 慎之
島根大学医学部附属病院薬剤部	遠藤 進一
島根大学医学部附属病院薬剤部	後藤 貴樹
島根大学医学部附属病院薬剤部	曾田 重人
島根大学医学部附属病院薬剤部	玉木 宏樹
島根大学医学部附属病院薬剤部	矢野 貴久
元島根大学医学部附属病院薬剤部	直良 浩司
島根大学医学部附属病院	宇賀田 圭
島根大学医学部附属病院	吾郷 真子
島根大学医学部附属病院	荒木 もも子
島根大学医学部附属病院	竹田 美也子
島根大学医学部附属病院	原 百子
島根大学医学部附属病院	山本 慧
島根大学法学部	宮本 恭子
島根大学数理・データサイエンス教育研究センター	瀬戸 和希
元鳥取大学医学部保健学科看護学専攻	安藤 泰至
国際医療福祉大学薬学部大学院薬学研究科	西村 信弘
滋賀大学データサイエンス学部	江崎 剛史
千葉県立保健医療大学	市原 真穂
出雲医療看護専門学校	勝部 愛子
雲南市立病院	木村 千尋
公立邑智病院	板持 卓弥
公立邑智病院	間 奈々美
浜田市国保診療所連合体	邊田 健一

所 属	氏 名
島根県浜田保健所	中本 稔
島根県医療的ケア児支援センター	矢田 昭子
島根県健康福祉部医療政策課	遠藤 智弘
松江市・島根県共同設置松江保健所	片岡 大輔
島根県立こころの医療センター	小林 孝文
島根県立こころの医療センター	挾間 玄以
島根県立中央病院	磯和 理貴
島根県立中央病院	尾原 千尋
島根県立中央病院	小原 友子
島根県立中央病院	妹尾 千賀子
島根県立中央病院	辻野 佳雄
島根県立中央病院	中村 嗣
島根県立中央病院	並河 哲志
島根県立中央病院	西村 恭子
島根県立中央病院	藤代 浩史
島根県立中央病院	山崎 啓一
島根県立中央病院	山中 智恵
島根県立中央病院	吉野 千城
島根県立中央病院	岩成 治
元島根県立中央病院産婦人科	山上 育子
松江赤十字病院	池野屋 慎太郎
松江赤十字病院	田邊 翔太
出雲徳洲会病院	大谷 裕
出雲徳洲会病院	橋本 圭司
出雲徳洲会病院	東 耕一郎
島根県済生会江津総合病院	池内 寛記
あさひまちクリニック	安食 春輝
隠岐広域連合立隠岐病院	高村 浩美
社会医療法人仁寿会	加藤 節司
国立病院機構浜田医療センター	西谷 有子
ひやくどみクリニック	百留 美樹
比良助産院	比良 静代
地域医療振興協会 JADEC <small>OM</small> アカデミー	筑井 菜々子
合同会社 DATA MILL	大城 等
社会医療法人北晨会恵み野訪問看護ステーション「はあと」	樋口 秋緒
大田市政策アドバイザー	三浦 靖

3. 学生の生活に関する部署

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
学生生活委員会委員長	籠橋有紀子	キャンパスハラスメント相談員(教員)	林 健 司
寮 務 主 事(兼)	永井真寿美	キャンパスハラスメント相談員(教員)	荒井恵美子
学校医(内 科)(嘱託)	園 山 隆 之	キャンパスハラスメント相談員(職員)	河瀬 一 美
保健管理委員長	小田美紀子	キャンパスハラスメント相談員(職員)	齋 藤 伸 朗

V. オフィスアワー

オフィスアワー 一覧

所属	職名	氏名	オフィスアワー開設の時間帯など	場所
	教授	井上 千晶	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	312号室
		大谷 美樹	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	314号室
		大森 眞澄	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	306号室
		岡安 誠子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	316号室
		奥山 真由美	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	309号室
		小田 美紀子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	322号室
		川瀬 淑子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	324号室
		高橋 恵美子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	308号室
		山口 扶弥	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	310号室
	准教授	小川 智子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	301号室
		佐藤 美紀子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	300号室
		高橋 梢子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	315号室
		中谷 陽子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	307号室
		平井 由佳	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	318号室
		松本 暁洋	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	348号室
	講師	祝原 あゆみ	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	329号室
		永井 真寿美	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	321号室
		西本 亜希子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	330号室
		横山 淳美	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	302号室

※時間帯が明示されている場合であっても、あらかじめe-mail等で確認することが望ましい。

Ⅵ. フィールドワークの手引き

令和8年度 フィールドワークの手引き



島根県立大学看護学研究科

学外授業の留意事項等

第1 フィールド学習の心得

- 1 TPOに応じた**服装・身だしなみ**に留意する
- 2 学生としてふさわしい行動をとる
一般住民の方々、学習施設・機関のスタッフ等誰に対しても、気持ちのよい挨拶、丁寧で気遣いのある言葉遣いを心がける。
- 3 自分の行動に責任を持つ
 - (1) 集合場所には10分前に到着する。
 - (2) 欠席、遅刻、早退する場合は、事前に担当教員と指導者に連絡をする。
 - (3) 事前学習、準備をして臨む。
- 4 健康管理に努める

第2 事故報告について

大学を離れ、実習施設・機関や地域での学習になるので安全に留意し、人身事故や物品の破損などの防止に努める。万が一事故が発生したら、速やかに担当教員へ報告し指示を仰ぐ。

事故報告の意味は、対象者の安全を最優先することであり、同時に事故のプロセスを共有することである。報告が遅れることで原因が分からなくなり、また同じ事故を繰り返すことにもなりかねない。速やかな報告は、自分自身の安全を守ることにもつながるので、報告しそびれたり隠すことがあってはならない。

アクシデント、インシデント、ハラスメント・怪我（暴力等）、破損等が発生した場合は、以下の流れ図に従い、速やかに報告する。また、該当する報告書に記載し、情報を共有して再発防止に努める。

※アクシデントとは：医療に関わる場所で発生する人身事故一切を包含し、対象者だけでなく、医療従事者等に傷害が発生し「事故」になった場合をいう。

※インシデントとは、思いがけない出来事「偶発事象」で、ヒヤリとしたりハッと

た経験をいう。適切な処理が行われないと事故が起こる可能性が高い。

「事故等報告書」（事故等報告書：学生通則44条関係、様式第33号）、「ヒヤリ・ハット報告書」「ハラスメント・怪我（暴力等）等報告書」「破損等報告書」に記載する場合は、各報告書の種類や分類を確認すること。

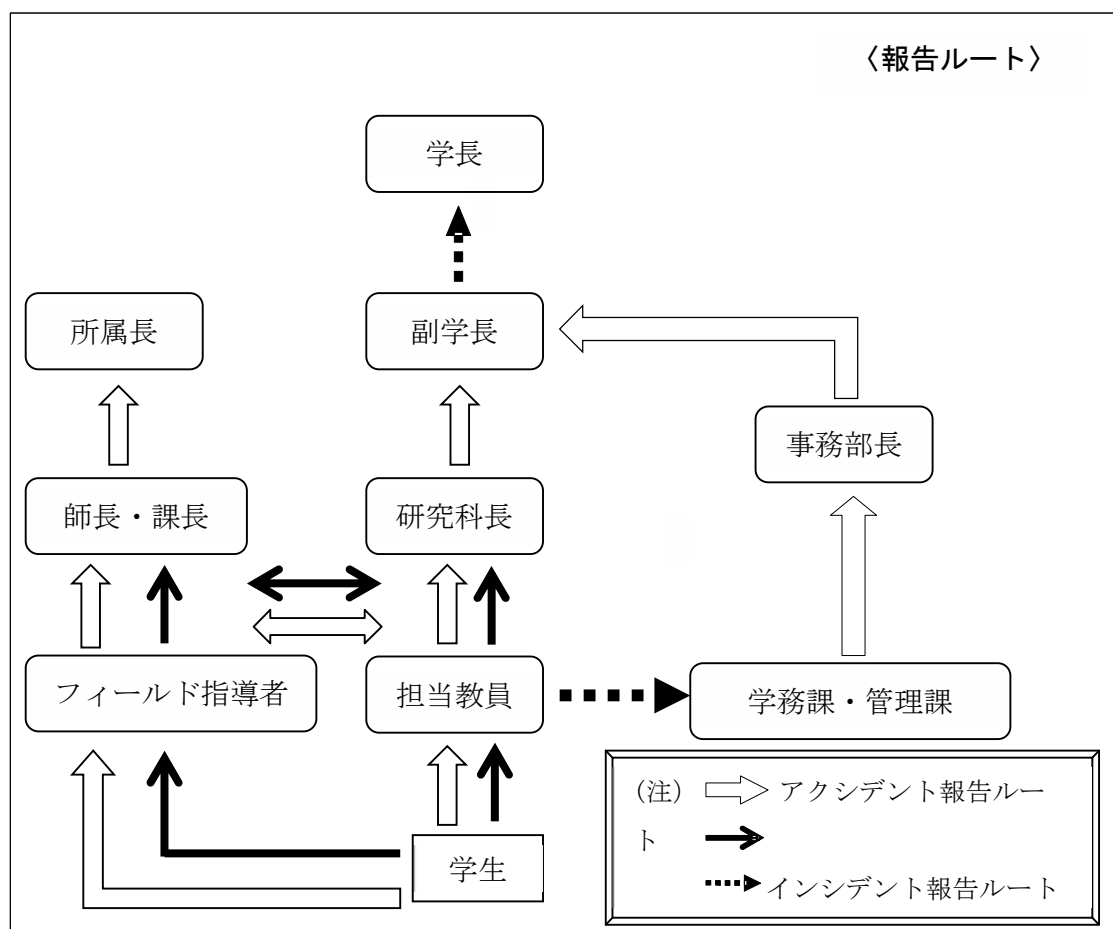
記載上の注意点

事実を正確に記述する。発生した正確な時間・場所・居合わせた人、対象者の反応や状況などを詳細に記述し憶測は避ける。他者を非難する内容は書かない。

1 学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）での対応

学生が、大学の教育研究活動中に生じた急激かつ偶然な外来の事故によって傷害を被った場合には、学研災の対象となる（普通保険約款第2条）。

なお、全てが保険でカバーされるわけではないので、注意をすること。



事故等報告書

年 月 日

島根県立大学学長 様

学研究科 年次生

学籍番号 _____

氏 名

又は

保証人

氏 名

下記のとおり報告します。

記

事故・災害等の種類		
発生日時		年 月 日 時頃
発生場所		
相手方	住 所	
	氏 名	
事故・災害等の概要		
事故・災害等の程度		
処理経過		

注1：様式に書ききれない場合は別紙に記載し、添付すること。

注2：実習上の事故の場合は裏面にも記載すること。

(裏面)

病名 _____	年齢 _____ 歳	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
入院・入所年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日		
種類 <input type="checkbox"/> 療養上の世話 ^{※1} <input type="checkbox"/> 転倒 <input type="checkbox"/> 転落 <input type="checkbox"/> 与薬 (内服・外用) <input type="checkbox"/> 注射・輸液 (チューブ類の管理) <input type="checkbox"/> 機械・機器 <input type="checkbox"/> 治療・処置・検査 <input type="checkbox"/> 患者観察 <input type="checkbox"/> 情報管理 (記録を含む) <input type="checkbox"/> 報告・連絡 <input type="checkbox"/> 説明・接遇 <input type="checkbox"/> その他 (※1) 療養上の世話とは、誤嚥・誤飲、食事 (誤嚥・誤飲を除く)、熱傷・凍傷、抑制、入浴、排泄等をさす		
事故の詳細な状況と対策 (今後このような事故を発生させないためにはどのようにしたらよいか)		

発生後の患者・利用者状況 (医師の所見も含めて)		

患者・利用者と家族に行った説明内容		

指導者の指導		
		氏名

学生への担当教員の指導と全体の処理経過の概要		
		氏名

* 様式に書ききれない場合は別紙に記載し、添付すること。

第3 保険制度について

1 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、(財)日本国際教育支援協会が全国の大学・短期大学の学生を対象にしているもので、正課中、学校行事中、課外活動中及び通学中の不慮の事故に対する災害補償制度です。

本学では、学生が安心して学生生活を送ることができるよう、入学と同時に全員加入することになっています。

加入：大学において、保険料を徴収し、一括加入をします。

保険料：1,790円（2年間）、2,650円（3年間）

支払保険金の種類と金額：

補償区分	正課中および学校行事中	大学施設内、課外活動中および通学中
死亡保険金	2,000万円	1,000万円
後遺障害保険金	120～3,000万円	60～1,500万円
医療保険金	治療日数1日以上	治療日数14日以上（通学中は4日以上）
入院加算金	1日につき4,000円（180日限度）	

接触感染予防保険金	臨地実習中、1事故につき15,000円（定額払い）
-----------	---------------------------

保険金が支払われる場合：

対象範囲	内容
正課中	講義、演習、実験・実習・実技による授業を受けている間のほか、次の場合も対象となります。 ア 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究又は学位論文研究に従事している間 イ 指導教員の指示に基づき、授業の準備若しくは後始末を行っている間又は授業を行う場所、大学の図書館等において研究活動を行っている間
学校行事中	大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間
大学施設内にいる間	授業の休憩中や昼休み中など、「正課中」「学校行事中」外で大学施設内にいる間。 (注) 寮にいる間、大学が禁じた時間若しくは場所にいる間又は大学が禁じた行為を行っている間は除きます。
課外活動中	大学施設内外で大学に届け出た課外活動を行っている間。 (注) 課外活動とは、大学の規程に則った所定の手続により大学が認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動又は体育活動を指します。 (注) 大学施設外で行う課外活動は、大学に届け出た活動に限られます。
通学中	大学の授業等、学校行事または課外活動への参加の目的をもって、合理的な経路及び方法（大学の禁じた方法を除きます。）により、住居と学校施設等との間を往復する間。
臨地実習中	臨地実習中に、針刺し事故等で感染症の病原体に予期せず接触し、感染症予防措置を行った場合。

保険金が支払われない場合：

次に該当する場合は、傷害等を負っても保険金の支払い対象外となります。

故意、犯罪行為、病気、地震・噴火・津波による事故、無資格運転・酒酔い運転、課外活動で危険度の高いスポーツ（スカイダイビング等）を行っている間、医学的他覚所見のない腰痛など。

保険金の請求：

請求用紙は、事務室（学務課）にありますので、事故が発生したときは、直ちに報告してください。

2 学研災付帯賠償責任保険（医学生教育研究賠償責任保険）

この保険は、1の学生教育研究災害障害保険に加入している場合に加入でき、正課、学校行事及びその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償するものです。

本学では、全員加入することとしています。

加入：大学において、保険料を徴収し、一括加入をします。

保険料：1,000円（2年間）、1,500円（3年間）

保険金が支払われる場合：

(1) 正課、学校行事及びその往復中（学校施設内での事故、課外活動中を除きます）に、次に掲げる事由により他人の身体に障害（障害に起因する死亡を含みます。以下同様。）を負わせ、又は他人の財物を損壊（滅失、破損若しくは汚損）させ、被保険者が法律上の損害賠償を負った場合。

- ・活動に伴い発生した偶然な事故
- ・活動に伴って提供した財物に起因する偶然な事故（飲食物に限ります。）
- ・活動の結果に起因する偶然な事故

(2) 正課、学校行事及びその往復中（学校施設内での事故、課外活動中を除く。）の活動ともなって占有、使用又は管理する受託物の偶然な事由による損壊、紛失または盗取（搾取を含む。）により、受託物に対し正当な権利を有する者に対し被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。

補償内容：対人賠償、対物賠償を合わせて1名1事故1億円限度

*免責金額 0円

保険金の請求：

請求用紙は、事務室（学務課）にありますので、事故が発生したときは、直ちに報告してください。

第4 災害発生時等における授業

1 授業の取扱いについて

1) 暴風警報等の発令による休講措置

松江地方気象台から出雲市に「暴風警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」、「特別警報」、「津波警報」又は「大津波警報」のいずれかが発令された場合は、次のとおり休講措置（対面及び遠隔授業のすべてに適用）を講じる。

- ・午前6時までに解除→平常どおり授業
- ・午前6時現在発令中→2時限目まで休講
- ・午前10時までに解除→3時限目から授業
- ・午前10時をすぎても解除されないときは終日休講

2) 自治体の発出する避難情報の発令による休講措置

出雲市が鳥巣地区（出雲キャンパス所在地）に「避難指示（警戒レベル4）」または「緊急安全確保（警戒レベル5）」を発令した場合は、（1）の取扱いを準用する（対面及び遠隔授業のすべてに適用）。

なお、通常キャンパスに通学する際の居所（自宅やアパート）に「警戒レベル4」（避難指示）または、「緊急安全確保（警戒レベル5）」が発令された場合（発令されている場合）は、速やかに危険な場所から避難等してください。避難等により対面授業を欠席した場合は、「風震水火災その他非常災害及び交通機関の事故等の場合」の公欠として取り扱いますので、後日欠席届を教務学生課窓口に提出してください。JRや一畑電車、バス等の運休証明書があれば欠席届に添付してください。

3) 地震発生時の休講措置

出雲市において「震度5強」以上の地震が発生した場合は、次のとおり休講措置を講じる。

- ・午後12時までに発生→翌日の授業を休講
- ・午前0時から授業開始前に発生→当日の授業を休講
- ・授業開始後に発生→直ちに休講

4) 休講措置に伴う補講

休講となった授業については、原則として補講を行うこととする。

5) 遠隔授業の場合

遠隔授業の実施の有無にかかわらず、出雲キャンパスでは上記の扱いとし、補講等については、後日調整を行う。

6) 学外臨地実習の取り扱い

午前6時現在で（1）（2）及び（3）に該当する場合は学外臨地実習を中止する。学外臨地実習中に（1）及び（2）に該当する事象が発生した場合、実習担当教員は、専攻領域長と協議しながら各実習施設の状況等により休講等の措置を決定し、専攻領域長はこのことについて、研究科長に報告する。

7) その他

当該事象が落ち着き以降の天候が回復する予報となった場合は、授業を再開することがある。その際は、対面授業だけではなく遠隔授業の手法も取り入れての授業実施を検討する。また、授業の再開については学内情報システム（学内メール含む）で行うので、少なくとも午前、午後、夜間には学内メールの確認を行うこと。

2 その他の緊急事態等

その他緊急事態が発生し、授業の実施に支障があると認められる場合の休講等の措置については、看護栄養学部については学部長が、別科助産学専攻については別科長が、大学院看護学研究科については研究科長がそれぞれ決定する。

3 休講措置の周知方法等

- 1) 学生及び教職員は、マスメディア等により警報発令状況等を確認するとともに、居住地の自

治体の判断等を踏まえ、自ら適切に対応すること。

- 2) 学務課は、掲示、Eメール、学生用ポータルサイト、学内放送等により速やかに学内に周知する。
- 3) 学務課は、休講となる授業の非常勤講師に対して、速やかに周知する。

第5 個人情報の取り扱い

学生は演習中に知り得た情報の守秘義務を遵守しなければならない。また、個人情報の漏洩は、違法行為であるとともに学則第 50 条が適用されることを認識し、実習先等から誓約書の提出を求められた際、実習先指定の様式がない場合は次に示す「個人情報に関する誓約書」を活用すること。

個人情報に関する誓約書

島根県立大学学長 様

私は、フィールド学習の協力機関が定める個人情報に関する諸規則と下記の事項を遵守することを誓います。

記

1. 学習中に知り得た全ての個人情報を学習中及び学習終了後においても守秘します。
2. 学習に必要な範囲を超えて個人情報を収集しません。
3. 記録物（メモ、レポート等の紙媒体及び電子媒体を含む。以下同じ。）や個人情報が記録された資料等はコピーをしません。ただし、学習記録をカンファレンスで使用する場合は、学内または協力施設にあるコピー機を使用し、終了後はすみやかにシュレッダーにかけて破棄します。
4. 記録物には、個人が特定される情報（住所、氏名、生年月日、電話番号、施設名、病棟名等）は記入せず、個人が特定できないよう匿名化して記載します。
5. 記録物はファイルに綴じて管理し、紛失、散逸、置き忘れ、盗難がないように細心の注意を払います。
6. 不要となった記録物は、内容が判別し得ない形で速やかに廃棄または消去します。
7. 記録の作成にパソコンを使用する場合は、入力情報が漏れないように、フィールド学習ハンドブック項に記載されている内容を厳守します。

年 月 日

島根県立大学看護学研究科

学籍番号

氏名

印

第6 緊急時の対応について

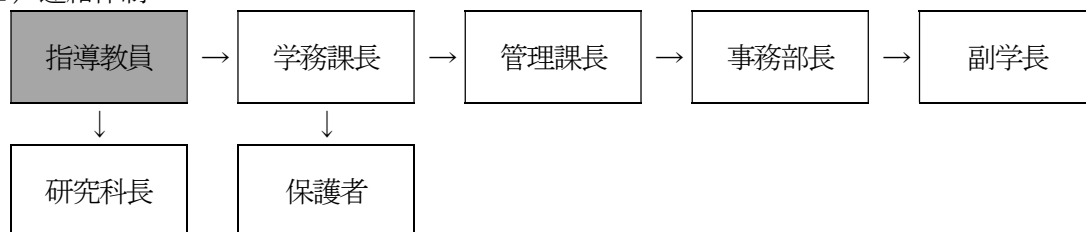
1 人身に関わる重大事故等緊急を要する場合

人身に関わる重大事故や地震・火災等の災害に遭遇した場合の連絡体制は以下のとおりとする。

(1) 対応手順

事故や災害に遭遇した場合は学生の安否を確認するとともに、フィールドワーク先と連携し、病院受診、避難所等の手配を行う。併せて、本学へ状況を報告し、指示に従う。

(2) 連絡体制



※出雲キャンパス緊急連絡用携帯：080-1633-2670（学務課長公用携帯）

〒693-8550

島根県出雲市西林木町 151 番地

TEL : 0853-20-0200(代)

FAX : 0853-20-0201



島根県立大学マスコット
キャラクター オロリン